

シ ラ バ ス

(年間授業計画)

電 気 工 学 科

平 成 29 年 度

神戸市立工業高等専門学校

目 次

I	本校の目的	1
1.	本校の使命	1
2.	本校の教育方針	1
3.	養成すべき人材像	1
4.	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）	1
II	本校の教育組織	3
III	授業科目の履修について	5
IV	試験についての注意事項	7
1.	受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）	7
2.	試験における不正行為	7
3.	追試験	8
4.	再評価	8
5.	防災警報および交通機関スト時の定期試験の取り扱い	9
V	感染症による学生の出席停止期間	10
VI	諸手続一覧	11
VII	行事予定表	12
VIII	概要・系統図	13
IX	授業科目一覧表	15
1.	一般科目	15
2.	専門科目	16
X	シラバス	18
1.	一般科目	18
2.	専門科目	20

I 本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 養成すべき人材像

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- | | |
|------------------------|---|
| (A1) <u>数</u> <u>学</u> | 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。 |
| (A2) <u>自 然 科 学</u> | 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。 |
| (A3) <u>情 報 技 術</u> | 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。 |
| (A4) <u>専 門 分 野</u> | 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。※各科の詳細は、Ⅷ概要・系統図に記載 |

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- | | |
|-------------------|--|
| (B1) <u>論理的説明</u> | 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。 |
| (B2) <u>質疑応答</u> | 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。 |
| (B3) <u>日常英語</u> | 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。 |
| (B4) <u>技術英語</u> | 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。 |

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける.

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して，得られた結果を的確に解析することができる.
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して，工学的基礎知識を応用し，かつ情報を収集して戦略を立て，解決できる.
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける.
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み，期日内に解決して報告書を書くことができる.

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける.

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる.
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し，多面的に物事を考えることができる.

Ⅱ 本校の教育組織

校長	山崎 聡一
----	-------

一般科目

国語	教授	土居 文人	国語	機械工学科1年B組担任
	准教授	石原 のり子	国語	電子工学科2年担任
	准教授	林田 定男	国語	教務副主事
社会	教授	高橋 秀実	政治経済・経済学	
	教授	手代木 陽	倫理	学生相談室長
	教授	町田 吉隆	歴史・世界史	一般科長
	教授	八百 俊介	地理・社会科学特講	機械工学科2年A組担任 / 2学年主任
	准教授	深見 貴成	歴史・日本史	学生副主事
数学	教授	八木 善彦	数学Ⅰ・数学Ⅱ	
	教授	児玉 宏児	数学Ⅰ・数学Ⅱ・応用数学Ⅰ・応用数学Ⅱ	総合情報センター長 / 図書館長
	教授	横山 卓司	数学Ⅱ・確率統計	
	教授	菅野 聡子	数学Ⅰ・確率統計	教務副主事
	准教授	吉村 弥子	数学Ⅰ・確率統計	電気工学科1年担任
	准教授	北村 知徳	数学Ⅰ・数学Ⅱ	応用化学科2年担任
	講師	谷口 公仁彦	数学Ⅰ・数学Ⅱ	機械工学科2年B組担任
	講師	山路 哲史	数学Ⅰ・数学Ⅱ	電子工学科1年担任
理科	教授	大多喜 重明	物理・応用物理	
	准教授	谷口 博	物理・応用物理	総合情報センター副センター長
	准教授	佐藤 洋俊	化学	総合情報センター副センター長
	講師	大塩 愛子	化学	
	講師	高見 健太郎	物理・応用物理	都市工学科2年担任
英語	教授	今村 一博	英語・英語演習	研究渉外副主事
	教授	今里 典子	英語・人文科学特講	
	教授	上垣 宗明	英語・英語演習	
	特任教授	前田 誠一郎	英語	学生相談員
	特任教授	柳生 成世	英語・英語演習	電気工学科3年担任
	准教授	Pileggi, Mark A.	英語演習・人文科学特講	国際協働研究センター副センター長
	講師	平野 洋平	英語・英語演習	
保健 体育	教授	寺田 雅裕	保健・体育	学生主事
	教授	小森田 敏	保健・体育	応用化学科1年担任 / 1学年主任
	特任教授	中川 一穂	保健・体育	
	准教授	春名 桂	保健・体育	学生副主事

専門科目

機械 工学科	教授	小林 滋	応用数学ⅠA・応用数学ⅠB・機械工学概論・機械工学実験	
	教授	赤対 秀明	流体工学・工業英語・機械工学実験・機械工学概論・設計製図	国際協働研究センター長
	教授	斉藤 茂	精密加工学・機械実習・機械工学実験・創造設計製作・加工学・機械工作法	機械工学科長
	教授	小林 洋二	線形システム理論・情報処理・情報基礎・設計製図・機械工学実験	国際協働研究センター副センター長
	教授	長 保浩	自動制御・応用数学Ⅱ・工業英語・機械工学実験	
	教授	西田 真之	材料力学・材料工学・機械工学実験	機械システム工学専攻主任
	教授	宮本 猛	設計製図・加工工学・機械工学実験・機械実習	地域協働研究センター長
	教授	福井 智史	応用機械設計・機械設計・機械工学実験・設計製図・機械実習	機械工学科3年C組担任
	教授	石崎 繁利	電子工学概論・電気・電子回路・機械実習・機械工学実験	機械工学科1年A組担任
	教授	尾崎 純一	機械力学Ⅰ・設計製図・機械実習・創造設計製作・工業力学	
	教授	和田 明浩	機械工学演習・材料力学・機械工学実験・機械実習	研究渉外副主事
	准教授	田口 秀文	電気工学・自動制御・制御機器・機械工学実験	
	准教授	三宅 修吾	工業熱力学・機械工学概論・機械工学実験・設計製図・情報基礎	機械工学科4年D組担任
	准教授	朝倉 義裕	情報処理・情報工学・機械力学Ⅱ・情報基礎・数値計算法・機械工学実験	機械工学科4年C組担任
	准教授	東 義隆	生産工学・生産システム・機械実習・機械工学実験・創造設計製作・設計製図	機械工学科5年D組担任
	准教授	早稲田 一嘉	情報基礎・材料力学特論・機械工学実験・材料工学・機械実習	地域協働研究副センター長
	准教授	熊野 智之	応用物理・設計製図・機械工学実験	
	准教授	橋本 英樹	工業熱力学・機械工学実験・エネルギー変換工学・機械実習・設計製図	機械工学科3年D組担任
	准教授	黒住 亮太	機械設計・機構学・設計製図・創造設計製作	
	准教授	鈴木 隆起	流体工学・工業力学・情報処理・機械工学実験	学生副主事
	准教授	清水 俊彦	計測工学・応用計測・ロボット工学・応用ロボット工学・機械工学実験・機械実習	機械工学科5年C組担任
	技術職員	寺脇 正夫		
	技術職員	山口 正博		
	技術職員	竹谷 吉旦		
	技術職員	水田 敦史		

電気 工学科	教授	森田 二朗	電気磁気学Ⅱ・Ⅲ・電気法規及び電気施設管理・電気製図Ⅰ・Ⅱ・電気数学Ⅱ 電気工学実験実習	電気工学科2年担任
	教授	津吉 彰	電気回路Ⅲ・電力工学Ⅰ・Ⅱ・電気数学Ⅰ・電気工学実験実習	
	教授	佐藤 徹哉	電子回路Ⅰ・Ⅱ・ディジタル電子回路・工業英語Ⅰ・電気工学実験実習	電気工学科長
	教授	道平 雅一	基礎電気工学・制御工学・電気工学実験実習	教務主事（研究担当） / 専攻科長
	教授	茂木 進一	電気回路Ⅱ・パワーエレクトロニクス・電気工学実験実習	
	准教授	赤松 浩	情報処理Ⅰ・Ⅱ・電気磁気学Ⅰ・放電現象・電気工学実験実習	電気工学科4年担任
	准教授	加藤 真嗣	電気機器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・電気回路Ⅰ・電気工学実験実習	電気電子工学専攻主任
	准教授	中村 佳敏	情報基礎・応用数学Ⅱ・通信工学Ⅰ・Ⅱ・電気工学実験実習	学生副主事
	准教授	南 政孝	電気計測・応用数学Ⅰ・電気工学実験実習	電気工学科5年担任
	技術職員	丁 翠芳		
	技術職員	下代 雅啓		

電子 工学科	教授	若林 茂	プログラミングⅠ・ソフトウェア工学・電子工学実験実習	教務主事（教育担当）
	教授	笠井 正三郎	制御工学Ⅱ・応用数学・電子工学実験実習	電子工学科長
	教授	荻原 昭文	電気回路Ⅰ・電気回路Ⅲ・光エレクトロニクス・電子工学実験実習	地域協働研究センター副センター長
	教授	橋本 好幸	電気磁気学Ⅰ・電気磁気学Ⅱ・電気回路Ⅰ・電子工学実験実習	電子工学科4年担任 / 4学年主任
	教授	戸崎 哲也	プログラミングⅡ・論理回路・電子工学実験実習	電子工学科5年担任 / 5学年主任
	教授	西 敏生	電子デバイス・半導体工学・電子工学実験実習	広報室長
	准教授	小矢 美晴	電子回路Ⅱ・通信方式・電子工学実験実習	
	准教授	藤本 健司	情報基礎・情報通信ネットワーク・電子工学実験実習	教務副主事
	准教授	長谷 芳樹	電子工学序論・電子回路Ⅰ・電子応用・電子工学実験実習	電子工学科3年担任
	准教授	尾山 匡浩	電気回路Ⅱ・画像処理・電子工学実験実習	総合情報センター副センター長
	技術職員	藤原 真由美		
	技術職員	曾我 亮介		

応用 化学科	教授	根津 豊彦	分析化学Ⅱ・環境化学・応用無機化学Ⅱ・基礎化学実験・応用化学実験Ⅰ	
	教授	大淵 真一	有機化学Ⅰ・有機合成化学・エネルギー工学・応用化学実験Ⅱ・Ⅲ	応用化学科長
	教授	九鬼 壽隆	情報基礎・応用物理Ⅰ・Ⅱ・物理化学Ⅱ・応用化学実験Ⅱ・Ⅲ	
	教授	渡辺 昭敏	情報基礎・応用物理Ⅰ・物理化学Ⅰ・Ⅱ応用化学実験Ⅱ	応用化学科3年担任 / 3学年主任
	教授	宮下 芳太郎	無機化学Ⅰ・Ⅱ・応用無機化学Ⅰ・安全管理学・基礎化学実験・応用化学実験Ⅰ	教務副主事
	准教授	久貝 潤一郎	化学工学Ⅰ・Ⅱ・情報基礎・化学工学量論・応用化学実験Ⅲ	応用化学科4年担任
	准教授	根本 忠将	高分子化学・化学英語・材料化学・応用化学実験Ⅱ・工学基礎演習	研究渉外副主事
	准教授	小泉 拓也	有機化学Ⅱ・有機合成化学・応用有機化学Ⅰ・Ⅱ・応用化学実験Ⅱ	応用化学専攻主任
	准教授	下村 憲司朗	生物化学Ⅰ・Ⅱ・生物工学・基礎化学実験・応用化学実験Ⅲ	
	准教授	安田 佳祐	分析化学Ⅰ・無機化学Ⅱ・材料化学・電気工学概論・応用化学実験Ⅰ・Ⅲ	学生副主事
	講師	増田 興司	化学工学Ⅰ・Ⅱ・情報基礎・情報処理Ⅰ・Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	応用化学科5年担任
	技術職員	谷口 綱子		
	技術職員	藤本 紗智子		

都市 工学科	教授	水越 睦視	都市工学概論・測量学・材料学・コンクリート工学・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科1年担任
	教授	鳥居 宣之	都市工学概論・土質力学Ⅰ・土質力学Ⅱ・土質力学Ⅲ・防災工学・都市工学実験実習 卒業研究	教務副主事
	教授	柿木 哲哉	都市工学概論・環境水工学Ⅱ・都市環境工学Ⅰ・都市環境工学Ⅱ・都市工学実験実習 卒業研究	都市工学科長
	教授	上中 宏二郎	都市工学概論・構造力学Ⅱ・構造力学Ⅳ・情報数値解析・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学専攻主任
	特任教授	酒造 敏廣	都市工学概論・構造力学Ⅰ・構造力学Ⅲ・橋梁工学・都市工学実験実習・卒業研究	
	准教授	高科 豊	都市工学概論・コンクリート工学・材料学・都市工学実験実習・卒業研究	
	准教授	野並 賢	都市工学概論・土質力学Ⅰ・応用数学Ⅱ・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科4年担任
	准教授	宇野 宏司	都市工学概論・水理学・環境水工学Ⅰ・環境生態・防災工学・都市工学実験実習 卒業研究	都市工学科3年担任
	准教授	小塚 みすず	都市工学概論・土木・建築設計製図Ⅰ・土木・建築設計製図Ⅱ・土木計画Ⅰ 都市交通計画学・都市工学実験実習・卒業研究	都市工学科5年担任
	准教授	高田 知紀	都市工学概論・情報基礎・測量学・都市情報工学・景観工学・都市工学実験実習 卒業研究	
	講師	田島 喜美恵	都市工学概論・CAD基礎・応用CAD・土木・建築設計製図Ⅳ・建築計画・景観工学 都市工学実験実習・卒業研究	
	技術職員	石田 靖		
	技術職員	日下部 信宏		

Ⅲ 授業科目の履修について

下記に「学生便覧」の「学業成績評価及び進級並びに卒業認定に関する規程」について抜粋した条文を掲載する。それ以外の条文についても学生諸君にとって修学上関係の深い諸規則なので、別途配布されている「学生便覧」を必読すること。

第1章 総則

第1条 この規程は、神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単位数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
 - (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
 - (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。
- なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

- 2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

- 2 追試験の成績は、その試験成績の原則80%で評価する。
- 3 感染症による出席停止の場合は、100%で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

- 2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。
1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験成績及び平素の成績をシラバスに記載され

た評価基準に基づき、総合して行う。

- 2 試験成績は、定期試験、中間試験、臨時試験により評価するものとする。
- 3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。
- 4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が2人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

- 2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。
- 3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。
- 4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次のとおりとする。

学業成績	評語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不可

IV 試験についての注意事項

1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）

- ① 中間試験は授業時間、定期試験は学校行事として扱うものとする。
- ② 試験教室では、監督者に指示された座席で受験すること。
机は原則として6列で（専門科棟の場合、ロッカーを移動するなどの措置を行っている場合7列も可）等間隔に真直ぐに並べ、特に指示のない場合は窓側の前から出席番号順に着席すること。
- ③ 試験開始後、30分以上遅刻してきた者は受験できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。尚、延着証明は遅刻を免除するためのものであり、試験に関して特別に扱うことはない。ただし、両主事判断により特別措置を講じることもある。
- ④ 教室での受験が物理的に不可能な場合、両主事の判断による別室受験を認めることもある。
- ⑤ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴムのほか、許可されたもの以外の使用は認めない。また、電卓など持ち込みを許可された物の貸し借りはしないこと。
- ⑥ 机の中には何も入れないこと。持ち物は、教室の前後に置くか、または机のフックに掛けておくこと。また下敷などを使用する場合には、あらかじめ監督者の許可を得ておくこと。
- ⑦ 試験中、いったん退室した者の再入室は認めない。試験が終了しても答案用紙の回収が済むまで教室への再入室はできない。
- ⑧ 廊下での試験の待機は他の受験者への迷惑となるので、他所（食堂・図書館等）を利用すること。
- ⑨ 授業中と同様、携帯電話等の電源はOFFにして、カバンに入れ、身に着けないこと。
- ⑩ 試験監督からの終了合図にしたがい、速やかに筆記用具を置くこと。
- ⑪ 答案用紙の回収は、最後尾の学生のみが行い、その他の学生は試験監督の指示があるまで絶対に席を立たず、静かに待機すること。

2. 試験における不正行為

[I] 以下の行為は不正行為（カンニング）とみなす。

- ① 予め机などに書き込んだり、またはカンニングペーパーなどを用意すること。また、それらを参照すること。
- ② 使用を許可されていないノート、テキスト、参考書、辞書などを参照すること。
- ③ 許可された場合を除き、電卓に式、数値などをあらかじめ記憶させておき、参照すること。
- ④ 答案を互いに交換すること。
- ⑤ 他人の答案を写し取ったり、写させたりすること。
- ⑥ 試験中に私語をすること。
- ⑦ 他人に受験を依頼すること。
- ⑧ 試験中不審な行為をし、監督の先生の指示にしたがわないこと。
- ⑨ 試験に関する資料などを記録した携帯電話などの電子媒体を身に着けること。また、それらを参照すること。

- ⑩ 以上に類する行為をすること。

[II] 不正行為をした場合には、以後の受験は認めない。

当該学生は監督者の指示を受けること。なお、当該試験期間の全試験科目は 0 点となる。更に、1 週間の家庭謹慎（初回）となる。

3. 追試験

- ① 中間・定期試験を病気・忌引など、やむを得ない理由で欠席した試験科目の追試験を希望する学生は、追試験受験願書（所定の用紙）にその欠席理由を証明する書類等を添え、事務室学生係に提出すること。教務主事が可否を決定する。
- ② 追試験が認められる理由は以下のような場合である。
- (イ) 病気・負傷（医師の診断書、薬袋等が必要）
 - (ロ) 忌引（三親等以内）
 - (ハ) 天災・交通機関等の障害（証明書を必要とする場合がある）
 - (ニ) 就職・編入学受験（証明する書類等が必要）
 - (ホ) 以上に相当する理由のある場合
- ③ 追試験許可者には、教科担当教官宛の「追試験実施依頼書」を発行する。
追試験の実施日・時間等については、教科担当教官から直接指示を受けること。ただし、非常勤講師の担当科目の場合はクラス担任から指示を受けること。
- ④ 追試験の成績は、その試験成績の原則 80%で評価する。ただし、以下の場合については追試験の成績は 100%で評価する。
- ア インフルエンザなど学校保健安全法施行規則第 18 条にかかげる第 1 種・第 2 種・第 3 種感染症による出席停止に伴う追試験（学生便覧 P.76「5. 感染症による学生の出席停止期間」参照）
 - イ 忌引（二親等以内）に伴う追試験
 - ウ 気象警報により、登校を自粛し、公欠を認められた学生を対象とした追試験
 - エ その他教務主事が妥当と認めた学生を対象とした追試験

4. 再評価

- ① 進級認定会議の結果、不合格となった科目の再評価を許可された学生は、不合格科目の再評価を受けることができる。なお選択科目については再試験の科目を指定することがある。
- ② 再評価で許可された学生が再評価を受けるためには、各自所定の申請を行う必要がある。前期修了科目の内、必修科目は後期に再評価を受けることができる。加えて、30 点未満の科目は、後期に 59 点上限とする「特別再評価」を受けることができる場合がある。
- ③ 学年末には、5 年生は再評価許可となった学生氏名、科目名をクラス担任が該当学生に連絡するので各自確認すること。試験実施期日・時間、場所等についても各自確認すること。
再評価合格による成績の評価は、60 点となる。

5. 防災警報および交通機関スト時の試験の取り扱い

『試験の場合の取り扱いは、通常の授業の場合と異なるので、注意すること。』

(1) 兵庫県の阪神または播磨南東部に暴風警報が発令されたとき

(2) 神戸市に大雨警報または洪水警報が発令されたとき

または JR 西日本（大阪－姫路間）、神戸市営地下鉄の「スト」の場合の処置は以下のとおりとする。

- ① 午前 7 時までに(1), (2)両方の警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、平常どおり午前 9 時から試験を実施する。
- ② 午前 10 時までに(1), (2)両方の警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、その日の試験を午後に移動して、午後 1 時より実施する。当日、午後に予定されている試験については、後日、連絡する。
- ③ 午前 10 時までに(1), (2)どちらかの警報が解除されない場合、またはストが解決しない場合は自宅学習日とする。また、その日の試験は試験最終日の次の日に（試験最終日が金曜日の場合は翌週の月曜日）移動して、試験期間を 1 日延長し、実施する。
- ④ 山陽電鉄、神戸電鉄、阪急電鉄、阪神電鉄のいずれかがストのときには、開始時間を午前 10 時からに移動して、実施する。（3 限目以降の試験は午後 1 時より行う。）
- ⑤ その他の交通機関がストの場合は、平常どおり午前 9 時から試験を実施する。
- ⑥ 試験中に警報が発令された場合には、教務主事の判断によって措置する。

なお、阪神または播磨南東部以外の暴風警報が発令された地域、あるいは神戸市以外の大雨警報または洪水警報が発令された市町に在住の学生は、登校を自粛すること。登校自粛した学生は公欠扱いとするので、後日担任を通じて「公用欠席届」および「追試験実施依頼書」を合わせて提出すること。

V 感染症による学生の出席停止期間

出席停止の期間の基準を以下の表に定めるが、学生が下記病気のため欠席したときは、出席停止届に医師の登校証明書を添付のうえ届け出るものとする。

病名		期間の基準
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）及び鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルス A 属インフルエンザ A ウイルスであってその血清亜型が H5N1 であるものに限る）以後「鳥インフルエンザ（H5N1）」という。	治癒するまで
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	下記欄外 ※ 参照
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症（感染性胃腸炎など）	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	その他の感染症 感染性胃腸炎（ノロ・ロタ・カンピロバクター・サルモネラなど）、溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、デング熱	

※発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで

（発症、解熱を 0 日とし、翌日から 1 日と数える）（発症日は、初診日とは限らない）

ただし、病状により学校医その他の医師において感染の恐れが無いと認められた場合は、その限りではない。（「登校証明書」に記載の登校許可日から登校可）「登校証明書」は、「病名」「発症日」「登校可能日」を医師が証明していれば、様式は問わない。

VI 諸手続一覧

種類	用紙の交付	提出先	時期
追試験受験願	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	病気・忌引等により中間・定期試験を受験できなかった場合
未修得科目再評価申請書	学生係	担任印受領後、担任へ提出	所定の期間
再履修免除申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目履修申請書	教務主事室	担任へ提出	所定の期間(4,5年生のみ)
選択科目追加履修申請書	学生係	担任及び科目担当教員印受領後、学生係へ提出	所定の期間
公用欠席届	学生係	担任印受領後、学生係へ提出	その都度
公用欠席届 (課外活動関係)	学生係	担任印受領後、学生主事室へ提出	その都度
出席停止届	学生係	担任へ提出	その都度
遅刻取消届	学生係	学生係へ提出	当日の昼休みから 17:00 まで

Ⅶ 行事予定表

前期	行 事	後期	行 事
4 月	入学式 始業式 身体計測 オリエンテーション(1 年) 春の学年学科行事 野外活動(1 年)	10 月	全校集会 秋の学年学科行事 高専祭
5 月	授業公開	11 月	研修旅行(4 年) 産金学官技術フォーラム
6 月	創立記念日(6 月 3 日) 前期中間試験 専攻科入試	12 月	後期中間試験 学生総会 冬季休業日(冬休み)
7 月	保護者会 編入試 近畿地区高専体育大会 前期定期試験	1 月	本科入試(推薦)
8 月	前期定期試験 夏季休業日(夏休み) 全国高専体育大会 オープンキャンパス	2 月	本科入試(学力) 後期定期試験 学力補充日
9 月	再評価および学力強化期間 スポーツ大会	3 月	学力補充日 終業式 卒業式・修了式 学年末休業日(春休み) 再評価および学力強化期間

VIII 概要・系統図

電気工学科(Department of Electrical Engineering)

1. 養成すべき人材像

数学、自然科学、情報処理技術、電磁気学、電気回路、実験等により基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち、柔軟な思考ができる実践的技術者を養成する。

2. 教育の特徴

電気工学は、現代社会の基盤となる電気エネルギーとそれにより構築された高度産業システムを支える学問分野である。その応用分野は、電子レンジやIHなどの家電民生機器応用、電気自動車や新幹線などの輸送システム応用、エネルギーの伝送、変換などの電力応用、太陽光発電や風力発電などの新エネルギー応用など非常に幅広いものとなっている。電気工学科のカリキュラムは、これら幅広い知識を5年間で系統的に習得するために、(1)材料、電子デバイス系科目(2)電気エネルギー、電気機器系科目(3)コンピュータ、計測、制御、通信系科目、を専門3本柱とし、これに一般科目、実験実習、学外実習、卒業研究をバランス良く配置したのになっており、電気主任技術者の資格認定基準をも満たしたカリキュラムとなっている。研究テーマは、「環境」「エネルギー」「パワーエレクトロニクス」「ライフサイエンス」「ナノテクノロジー」「ものづくり」「情報通信」など多彩であり、現代社会のあらゆる分野で活躍できる実践的で独創的な研究開発能力を有するエンジニアの育成を目指している。

3. 学習・教育目標

①電気電子工学分野に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・電界および磁界に関する諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- ・電気回路や電子回路の解析ができ、基本的な回路を組み活用できる。
- ・コンピュータリテラシーと基本的なプログラミング技術を身に付け、活用できる。

②電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・電気電子材料における原子集合としての諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる。
- ・電気電子材料の特性を理解し、電気電子素子を活用できる。

③計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
- ・計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
- ・制御システムを解析でき、基本的なシステムを組み活用できる。

④エネルギー、電気機器、設備に関する基礎知識を身に付け、活用できる。

- ・電気エネルギーの発生と輸送のしくみを理解し、環境や信頼性を考慮した電気設備の基礎知識を身に付ける。
- ・電気機器や電力変換装置の仕組みを理解し、用途に応じて適切な機器を使用できる。

1年	2年	3年	4年	5年
一般科目				
	電気電子系基礎科目		電気エネルギー・電気機器系科目	
		材料・電子デバイス系科目		
		コンピュータ・計測・制御・通信系科目		
	電気工学実験実習			
			卒業研究	
			学外実習	

電気工学科の教育課程の体系と科目系統図(12年度入学生用)									
卒業時に身に付くべき学力や資質・能力	卒業科目			卒業科目			卒業科目		
	本科1年	本科2年	本科3年	前期	後期	本科4年	前期	後期	本科5年
(A-1) 数学	数学Ⅱ	数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-2) 自然科学	数学Ⅰ	数学Ⅰ	数学Ⅰ	数学Ⅰ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-3) 情報技術	物理	物理	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4) 電気電子基礎	化学	化学	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4-ED1) 電気電子基礎	情報基礎	情報基礎	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4-ED2) 物性・デバイス	基礎電気工学	基礎電気工学	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4-ED3) 計測・制御	電気回路Ⅰ	電気回路Ⅰ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4-ED4) 情報・通信	電気回路Ⅱ	電気回路Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(A-4-ED5) 機器・エレクトロニクス	電気回路Ⅲ	電気回路Ⅲ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(B-1) 論理的説明	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(B-2) 質疑	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(B-3) 日常英語	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(B-4) 技術英語	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(C-1) 応用・解析	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(C-2) 複合・解決	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(C-3) 体力・教養	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(C-4) 協働・報告書	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(D-1) 倫理	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	
(D-2) 異文化	英語	英語	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	電気数学Ⅱ	電気数学Ⅱ	応用数学Ⅰ・Ⅱ	

備考 セは選択科目 ★☆は並行開講科目で選択必修(各1科目) 科目

IX 授業科目一覧

1. 一般科目

各学科共通

	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	9	3	3	2	1		
	倫理	2		2				
	政治・経済	2			2			
	歴史	4	2	2				
	地理	2	2					
	数学Ⅰ	14	6	4	4			
	数学Ⅱ	4	2	2				
	確率統計	1				1		
	物理	6	2	2	2			
	化学	5(4)	3(4)	2(0)				
	生物	1(2)		1(2)				
	保健・体育	9	2	2	2	2	1	
	芸術	1	1					
	英語	12	4	4	4			
	英語演習	5			1	2	2	
	修得単位計	77	27(28)	24(23)	17	6	3	
選択科目	国際コミュニケーション	2				2		複数言語から一言語を選択
	哲学	2						
	日本史	2						
	世界史	2						
	社会科学特講	2						
	人文科学特講	2						
	経済学	2						
	開設単位計	14				2	12	
	修得単位計	4				2	2	
	一般科目開設単位計	91	27(28)	24(23)	17	8	15	
	一般科目修得単位計	81	27(28)	24(23)	17	8	5	

(注) ()内は、応用化学科の実施単位数である。

2. 専門科目

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用数学Ⅰ	2				2		
応用数学Ⅱ	2				2		
電気数学Ⅰ	1		1				
電気数学Ⅱ	1			1			
応用物理	2				2		
情報基礎	2	2					
情報処理Ⅰ	2		2				
情報処理Ⅱ	1			1			
電気磁気学Ⅰ	2			2			
電気磁気学Ⅱ	2				2		
電気計測	2			2			
電子工学	2			2			
工業英語Ⅰ	1			1			
半導体工学	2				2		
電気回路Ⅰ	2		2				
電気回路Ⅱ	2			2			
電気回路Ⅲ	2				2		
電気製図Ⅰ	1	1					
電気製図Ⅱ	1		1				
基礎電気工学	2	2					
デジタル電子回路	2		2				
計算機工学	2			2			
電子回路Ⅰ	2				2		
電子回路Ⅱ	2					2	
制御工学	2				2		
数値解析	2				2		
電気材料	2					2	
電力工学Ⅰ	2			2			
電力工学Ⅱ	2					2	

必修科目

	電気機器Ⅰ	1				1	
	電気機器Ⅱ	2				2	
	電気機器Ⅲ	1					1
	パワーエレクトロニクス	1					1
	電気工学実験実習	13		3	4	4	2
	卒業研究	9					9
	修得単位計	79	5	11	19	25	19
選択科目	放電現象	2				2	
	電気法規及び電気施設管理	2				2	
	学外実習	1				1	
	通信工学Ⅰ	2					2
	通信工学Ⅱ	2					2
	電気磁気学Ⅲ	2					2
	工業英語Ⅱ	2					2
	ロボット入門 ※	1			1		
	ロボット要素技術 ※	1				1	
	ロボット応用実践 ※	1					1
	開設単位計	16			1	6	9
	修得単位計	7 以上			3・4 年で 2 以上 3・4・5 年で 7 以上		
専門科目開設単位合計		95	5	11	20	31	28
専門科目修得単位合計		86 以上	5	11	19 以上	27 以上	
					3・4・5 年で 70 以上		
一般科目修得単位合計		81	27	24	17	8	5
一般科目との合計修得単位		167 以上	32	35	36 以上	35 以上	
					3・4・5 年で 100 以上		

(注)※を付した科目は成長産業技術者教育プログラム(ロボット分野)履修生用科目である。

X. シラバス

1. 一般科目一覧

■国語

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	国語	土居 文人 教授	3	通年	E-1
2年	必修	国語	野村 繁樹 非常勤講師	3	通年	E-3
3年	必修	国語	林田 定男 准教授	2	通年	E-5
4年	必修	国語	鎌田 智恵 非常勤講師	1	前期	E-7

■人文社会

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	歴史	町田 吉隆 教授	2	通年	E-9
1年	必修	地理	八百 俊介 教授	2	通年	E-11
2年	必修	倫理	手代木 陽 教授	2	通年	E-13
2年	必修	歴史	深見 貴成 准教授	2	通年	E-15
3年	必修	政治・経済	高橋 秀実 教授	2	通年	E-17

■数学

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	数学I	吉村 弥子 准教授	6	通年	E-19
1年	必修	数学II	横山 卓司 教授	2	通年	E-21
2年	必修	数学I	北村 知徳 准教授	4	通年	E-23
2年	必修	数学II	谷口 公仁彦 講師	2	通年	E-25
3年	必修	数学I	児玉 宏児 教授	4	通年	E-27
4年	必修	確率統計	菅野 聡子 教授	1	後期	E-29

■理科

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	物理	谷口 博 准教授	2	通年	E-31
1年	必修	化学	大塩 愛子 講師	3	通年	E-33
2年	必修	物理	高見 健太郎 講師	2	通年	E-35
2年	必修	化学	佐藤 洋俊 准教授	2	通年	E-37
2年	必修	生物	森 寿代 非常勤講師	1	後期	E-39
3年	必修	物理	大多喜 重明 教授	2	通年	E-41

■英語

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	英語	今村 一博 教授	4	通年	E-43
2年	必修	英語	前田 誠一郎 特任教授	4	通年	E-45
3年	必修	英語	柳生 成世 特任教授	4	通年	E-47
3年	必修	英語演習	Pileggi, Mark Andrew 准教授	1	後期	E-49
4年	必修	英語演習	(前期)Pileggi Mark Andrew 准教授 (後期)John Miller 非常勤講師, 平野 洋平 講師	2	通年	E-51

5年	必修	英語演習	(前期)上垣 宗明 教授, Miller 非常勤講師 (後期)Pileggi, Mark 准教授	2	通年	E-53
----	----	------	--	---	----	------

■国際コミュニケーション

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	国際コミュニケーション(ドイツ語)	本田 敏雄 非常勤講師	2	通年	E-55
4年	選択	国際コミュニケーション(中国語)	田島 大輔 非常勤講師	2	通年	E-57
4年	選択	国際コミュニケーション(韓国語)	高 秀美 非常勤講師	2	通年	E-59

■保健・体育

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授	2	通年	E-61
2年	必修	保健・体育	春名 桂 准教授	2	通年	E-63
3年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授	2	通年	E-65
4年	必修	保健・体育	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授	2	通年	E-67
5年	必修	保健・体育	中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授	1	前期	E-69

■芸術

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	芸術	大倉 恭子 非常勤講師	1	前期	E-71

■5年選択科目

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	哲学	稲岡 大志 非常勤講師	2	通年	E-73
5年	選択	日本史	深見 貴成 准教授	2	通年	E-75
5年	選択	世界史	町田 吉隆 教授	2	通年	E-77
5年	選択	社会科学特講	八百 俊介 教授	2	通年	E-79
5年	選択	人文科学特講(英会話)	ピレッジ 准教授	2	通年	E-81
5年	選択	人文科学特講(手話言語学)	今里 典子 教授	2	通年	E-83
5年	選択	経済学	高橋 秀実 教授	2	通年	E-85

2. 専門科目一覧

■1年

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	情報基礎	中村 佳敬 准教授	2	通年	E-87
1年	必修	電気製図I	土井 直祐 非常勤講師	1	後期	E-89
1年	必修	基礎電気工学	道平 雅一 教授、茂木 進一 教授、 南 政孝 准教授	2	通年	E-91

■2年

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
2年	必修	電気数学I	津吉 彰 教授	1	後期	E-93
2年	必修	情報処理I	赤松 浩 准教授	2	通年	E-95
2年	必修	電気回路I	加藤 真嗣 准教授	2	通年	E-97
2年	必修	電気製図II	森田 二郎 教授	1	前期	E-99
2年	必修	デジタル電子回路	佐藤 徹哉 教授	2	通年	E-101
2年	必修	電気工学実験実習	森田 二郎 教授、中村 佳敬 准教 授、徳田 将敏 非常勤講師	3	通年	E-103

■3年

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
3年	必修	電気数学II	森田 二郎 教授	1	後期	E-105
3年	必修	情報処理II	赤松 浩 准教授	1	前期	E-107
3年	必修	電気磁気学I	赤松 浩 准教授	2	通年	E-109
3年	必修	電気計測	南 政孝 准教授、道平 雅一 教授、 茂木 進一 教授	2	通年	E-111
3年	必修	電子工学	井上 靖朗 非常勤講師	2	通年	E-113
3年	必修	工業英語I	佐藤 徹哉 教授	1	前期	E-115
3年	必修	電気回路II	茂木 進一 教授	2	通年	E-117
3年	必修	計算機工学	松田 忠重 非常勤講師	2	通年	E-119
3年	必修	電力工学I	津吉 彰 教授	2	通年	E-121
3年	必修	電気工学実験実習	南 政孝 准教授、茂木 進一 教授、 松田 忠重 非常勤講師、徳田 将敏 非常勤講師	4	通年	E-123

■4年

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	必修	応用数学I	南 政孝 准教授	2	通年	E-125
4年	必修	応用数学II	中村 佳敬 准教授	2	通年	E-127
4年	必修	応用物理	大多喜 重明 教授	2	通年	E-129
4年	必修	電気磁気学II	森田 二郎 教授	2	通年	E-131
4年	必修	半導体工学	井上 靖朗 非常勤講師	2	通年	E-133
4年	必修	電気回路III	津吉 彰 教授	2	通年	E-135
4年	必修	電子回路I	佐藤 徹哉 教授	2	通年	E-137
4年	必修	制御工学	道平 雅一 教授、茂木 進一 教授、 南 政孝 准教授	2	通年	E-139
4年	必修	数値解析	山浦 剛 非常勤講師	2	通年	E-141
4年	必修	電気機器I	加藤 真嗣 准教授	1	前期	E-143
4年	必修	電気機器II	加藤 真嗣 准教授	2	後期	E-145

4年	必修	電気工学実験実習	茂木 進一 教授, 中村 佳敬 准教授, 森田 二郎 教授, 津吉 彰 教授, 佐藤 徹哉 教授, 道平 雅一 教授, 赤松 浩 准教授, 加藤 真嗣 准教授, 南 政孝 准教授	4	通年	E-147
4年	選択	放電現象	赤松 浩 准教授	2	後期	E-149
4年	選択	電気法規及び電気施設管理	森田 二郎 教授	2	前期	E-151
4年	選択	学外実習	赤松 浩 准教授	1	通年	E-153

■5年

学年	選択／ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	必修	電子回路II	佐藤 徹哉 教授	2	通年	E-155
5年	必修	電気材料	松田 忠重 非常勤講師	2	通年	E-157
5年	必修	電気機器III	加藤 真嗣 准教授	1	前期	E-159
5年	必修	電力工学II	(前期) 田所 通博 非常勤講師、(後期) 津吉 彰 教授	2	通年	E-161
5年	必修	パワーエレクトロニクス	茂木 進一 教授、道平 雅一 教授、南 政孝 准教授	1	前期	E-163
5年	必修	電気工学実験実習	津吉 彰 教授, 道平 雅一 教授, 赤松 浩 准教授, 加藤 真嗣 准教授	2	前期	E-165
5年	必修	卒業研究	講義科目担当教員	9	通年	E-167
5年	選択	工業英語II	木津 久美子 非常勤講師	2	前期	E-169
5年	選択	通信工学I	中村 佳敬 准教授	2	前期	E-171
5年	選択	通信工学II	中村 佳敬 准教授	2	後期	E-173
5年	選択	電気磁気学III	森田 二郎 教授	2	前期	E-175

科 目	国語 (Japanese Language and Literature)			
担当教員	土居 文人 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・3単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B1(100%)			
授業の概要と方針	一般教養としての国語の基礎的学習を行う。現代文は、エッセイ、小説、詩の読解法と鑑賞法を学習する。また漢字の学習、グループワークによる文書の作成を通じて、日本語表現のトレーニングを行う。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の学習および古典文学作品の現代語訳を通じて、日本語と日本文化についての理解を深める。また、「論語」の読解を通じて、古代中国の思想を学習する。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】エッセイ、小説、詩の基本的読解方法、鑑賞方法を習得し、その方法によってエッセイ、小説、詩を読解・鑑賞できる。			エッセイ、小説、詩を的確に読解・鑑賞できているか、中間試験と定期試験で評価する。
2	【B1】文意の明快な文章を書くための知識と方法を習得し、文意の明快な文章を書ける。			明快な文章を書くための知識と方法が身についているか、中間試験と定期試験で評価する。
3	【B1】日本古代語に関する知識を習得し、日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。			古代日本語に関する知識が身についているか、日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか、中間試験と定期試験で評価する。
4	【B1】古代日本の文化、古代中国の思想に関する知識を習得し、それを説明できる。			古代日本の文化、古代中国の思想について理解できているか、中間試験と定期試験で評価する。
5	【B1】実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。			実用的な漢字表現の知識について、中間試験と定期試験で評価する。
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験100% として評価する。中間試験、定期試験の平均値を試験成績とする。100点満点で、60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	2年「国語」。			
履修上の注意事項	なし。			

授業計画(国語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	エッセイとは何か・エッセイ(随筆)の通読・漢字の練習／古文入門	(現代文)エッセイの原義を説明する。教科書のエッセイ(随筆)を通読する。漢字プリントを配布,解答する(以後,2週に1回程度これを実施する)。(古文)古文を学ぶ意義について説明する。
2	エッセイ(随筆)の読解／古代日本語概説	(現代文)教科書の随筆的エッセイ(随筆)を読解する。(古文)古代日本語の特徴について概説する。
3	エッセイ(随筆)の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書の随筆の読解。(古文)奈良時代末期成立の「万葉集」を読む。
4	エッセイ(随筆)の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書の随筆の読解。(古文)「万葉集」を読む。
5	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)詩の作成法と解釈法について学ぶ。(古文)「万葉集」を読む。
6	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)レトリックについて学ぶ。(古文)「万葉集」を読む。
7	詩の解釈と鑑賞／古代の和歌を読む	(現代文)教科書の詩を読解する。(古文)「万葉集」を読む。
8	中間試験	前期中間試験を実施する。
9	中間試験の解答,詩の解釈と鑑賞／古代の物語を読む	(現代文)中間試験の解答,教科書の詩を読解する。(古文)現存する日本最古の物語である「竹取物語」を読む。
10	詩の解釈と鑑賞／古代の物語を読む	(現代文)教科書の詩を読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
11	小説入門／古代の物語を読む	(現代文)教科書の小説を通読,読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
12	小説の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書の小説を読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
13	小説の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書の小説を読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
14	小説の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書の小説を読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
15	小説の読解／古代の物語を読む	(現代文)教科書の小説を読解する。(古文)「竹取物語」を読む。
16	定期試験の解答,俳句入門／古代の紀行を読む	(現代文)定期試験の解答,俳句に関する基本的知識を学ぶ。(古文)「土佐日記」を読む。
17	俳句の解釈と鑑賞／古代の紀行を読む	(現代文)教科書の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)「土佐日記」を読む。
18	俳句の解釈と鑑賞／古代の紀行を読む	(現代文)教科書の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)「土佐日記」を読む。
19	俳句の解釈と鑑賞／古代の紀行を読む	(現代文)教科書の俳句を解釈・鑑賞する。(古文)「土佐日記」を読む。
20	エッセイ(評論)の読解／古代の短歌を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を通読,読解する。(古文)平安時代前期の和歌集「古今和歌集」を読む。
21	エッセイ(評論)の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「古今和歌集」を読む。
22	エッセイ(評論)の読解／古代の和歌を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「古今和歌集」を読む。
23	中間試験	後期中間試験を実施する。
24	中間試験の解答,エッセイ(評論)の読解／漢文入門	(現代文)中間試験の解答,教科書のエッセイ(評論)を通読,読解する。(古文)漢文入門。漢文を学ぶ意義について解説する。
25	エッセイの読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読み,古代日本の文化に大きく影響した,古代中国の思想と文化に触れる。
26	エッセイの読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読む。
27	エッセイ(評論)の読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読む。
28	エッセイ(評論)の読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読む。
29	エッセイ(評論)の読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読む。
30	エッセイ(評論)の読解／「論語」を読む	(現代文)教科書のエッセイ(評論)を読解する。(古文)「論語」を読む。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	国語 (Japanese Language and Literature)			
担当教員	野村 繁樹 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・3単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B1(100%)			
授業の概要と方針	前年度に引き続き、国語総合の教科書を中心に、読解・理解・表現の領域において国語の基礎的・基本的な能力の養成に努めるとともに、語彙力の一層の充実と読解能力の深化と発展を目指して指導する。それを通して、言語文化に対する関心を深めるとともに、現実に即した言語感覚を磨くことを目指して授業を展開していく。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【B1】多くの語彙を身につけ、適切に使い分けができる。			使用頻度の高い常用漢字を、読み・書くことができるか、教材に用いられた言葉の意味を理解し正しく使うことができるかを、中間試験・定期試験および課題・レポート等で評価する。
2	【B1】目的に応じて文章を正確に理解する能力を養う。			評論・随想の筆者の主張が正確に把握できているか、小説に登場する人物の心理や生き方を正確に理解できているかを、中間試験・定期試験および課題・レポート等で評価する。
3	【B1】様々な表現技法を理解できるようにする。			詩・漢詩・短歌・俳句に関する表現上のきまりなどが身につく、作者の心情や作り上げた世界を正確に鑑賞できるかどうか、中間試験・定期試験および課題・レポート等で評価する。
4	【B1】古文・漢文などの内容を理解し、作者の主張が読み取れるようにする。			古語や漢語の意味が理解でき、文脈に沿って作者の主張が理解できているかどうか、中間試験・定期試験および課題・レポート等で評価する。
5	【B1】日本文化や伝統に対する理解を、深めるようにする。			古文・漢文の作品の歴史的背景や文学史的位置づけを理解し、本文の読解を通して、古人のものの考え方や価値観を理解できたかを、中間試験・定期試験および課題・レポート等で評価する。
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験90% レポート10% として評価する。試験90%,課題・レポート10%.100点満点で 60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年国語,3年国語.			
履修上の注意事項	なし.			

授業計画(国語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	評論を読む./古文入門.	評論「美意識は資源である」を全文通読する.漢字・語句・語彙等の学習する./『宇治拾遺物語』の「検非違使忠明」を通読する.作品の文学史的意義等について学習する.
2	評論を読む./古文入門.	評論「美意識は資源である」を精読(1)する./『宇治拾遺物語』の「検非違使忠明」を精読(1)する.
3	評論を読む./古文入門.	評論「美意識は資源である」を精読(2)する./『宇治拾遺物語』の「検非違使忠明」を精読(2)する.
4	評論を読む./平家物語を読む.	評論「美意識は資源である」を精読(3)する./『平家物語』の「能登殿最期」を通読する.作品の文学史的意義等について学習する.
5	評論を読む./平家物語を読む.	評論「ネットとリアルのあいだ」を全文通読する.漢字・語句・語彙等の学習をする./『平家物語』の「能登殿最期」を精読(1)する.
6	評論を読む./平家物語を読む.	評論「ネットとリアルのあいだ」を精読(1)する./『平家物語』の「能登殿最期」を精読(2)する.
7	評論を読む./平家物語を読む.	評論「ネットとリアルのあいだ」を精読(2)する./『平家物語』の「能登殿最期」を精読(3)する.
8	中間試験	前期中間試験を実施する.
9	前期中間試験の解説をする./小説を読む./徒然草を読む.	「羅生門」を全文通読する.作者および作品の文学史的意義等について学習する./『徒然草』の「花は盛りに」を通読する.作品の文学史的意義等を学習する.
10	小説を読む./徒然草を読む.	小説「羅生門」を精読(1)する./『徒然草』の「ある人,弓を射ることを習ふに」を精読(1)する.
11	小説を読む./徒然草を読む.	小説「羅生門」を精読(2)する./『徒然草』の「ある人,弓を射ることを習ふに」を精読(2)する.
12	小説を読む./伊勢物語を読む.	小説「羅生門」を精読(3)する./『徒然草』の「ある人,弓を射ることを習ふに」を精読(3)する.
13	小説を読む./伊勢物語を読む.	小説「羅生門」を精読(4)する./『伊勢物語』の「東下り」を通読する.作品の文学史的意義等を学習する.
14	随想を読む./伊勢物語を読む.	小説「羅生門」を精読(5)する./『伊勢物語』の「東下り」を精読(1)する.
15	随想を読む./伊勢物語を読む.	小説「羅生門」を精読(6)する./『伊勢物語』の「東下り」を精読(2)する.
16	前期定期試験の解説をする./評論を読む./土佐日記を読む.	評論「水の東西」を全文通読する.漢字・語句・語彙等の学習をする./『土佐日記』の「門出」を通読する.この物語の背景等について学習する.
17	評論を読む./土佐日記を読む.	評論「水の東西」を精読(1)する./『土佐日記』の「門出」を精読(1)する.
18	評論を読む./土佐日記を読む.	評論「水の東西」を精読(2)する./『土佐日記』の「門出」を精読(2)する.
19	プリント教材/漢詩を読む.	プリント教材を使用して文章を読解する./漢詩「送元二使安西」を通読する.作品の文学史的意義等について学習する.
20	プリント教材/漢詩を読む.	プリント教材を使用して文章を読解する./漢詩「送元二使安西」を精読する.
21	プリント教材/漢詩を読む.	プリント教材を使用して文章を読解する./プリント教材を使用して文章を読解する.
22	プリント教材/漢詩を読む.	プリント教材を使用して文章を読解する./プリント教材を使用して文章を読解する.
23	中間試験	後期中間試験を実施する.
24	後期中間試験の解説をする./評論を読む./和歌を鑑賞する.	評論「マンモスの歩いた道」を通読する.漢字・語句・語彙等の学習をする./「古今和歌集」を読む.作品の文学史的意義等を学習する.
25	評論を読む./和歌を鑑賞する.	評論「マンモスの歩いた道」を精読(1)する./「新古今和歌集」を読む.作品の文学史的意義等を学習する.
26	評論を読む./「(漢文編)十八史略」を読む.	評論「マンモスの歩いた道」を精読(2)する./「臥薪嘗胆」を通読する.作品の文学史的意義等を学習する.
27	評論を読む./十八史略を読む.	評論「マンモスの歩いた道」を精読(3)する./「臥薪嘗胆」を精読(1)する.
28	小説を読む./紀行文を読む.	評論「世界中がハンバーガー」を通読する.漢字・語句・語彙等の学習をする./『奥の細道』の「立石寺」を通読する.作品の文学史的意義等について学習する.
29	小説を読む./紀行文を読む.	評論「世界中がハンバーガー」を精読(1)する./『奥の細道』の「立石寺」を精読(1)する.
30	小説を読む./紀行文を読む.	評論「世界中がハンバーガー」を精読(2)する./『奥の細道』の「立石寺」を精読(2)する.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	林田 定男 准教授		
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	文学・国語学・言語学の知識をもとに,実践的な文章能力を養成する.文章の構成を把握して精確に読解する能力を培い,かつ,自分の見解を明確に文章化する能力を習得することを目的とする.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】文章の内容を精確に把握する実践的能力を修得する.		提示された文章の内容を精確に把握できるか,定期試験で評価する.
2	【B1】自分の意見を明記したわかりやすい論説文を書くための基礎的能力を修得する.		提示されたテーマに対して,論理的で明快な文章を書くことができるか,レポートおよび定期試験で評価する.
3	【B1】実用的な漢字能力(2級～準2級程度)および語彙力を身につける.		実用的な漢字能力,語彙力が身についているか,レポートおよび定期試験で評価する.
4	【B1】日本語および文学に対する関心を持ち,その特性を理解して説明することができる国際的教養を身につける.		日本語学および文学に対する理解度をレポートおよび定期試験で評価する.
5	【 】		
6	【 】		
7	【 】		
8	【 】		
9	【 】		
10	【 】		
総合評価	成績は,試験50% レポート50% として評価する.到達目標1～4についての試験50%(定期試験2回の平均),到達目標2～4に関するレポート50%として評価.100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	第1,2,4学年「国語」		
履修上の注意事項	レポートの評価点には,その完成に至るまでの活動の評価点を含む.		

授業計画(国語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
2	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
3	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
4	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
5	評論の読解	教科書所収の随想を精読する。
6	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
7	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
8	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
9	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
10	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
11	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
12	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
13	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
14	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
15	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
16	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
17	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
18	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
19	詩の解釈と鑑賞	教科書所収の詩を解釈・鑑賞する。
20	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
21	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
22	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
23	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
24	評論の読解	教科書所収の評論を精読する。
25	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
26	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
27	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
28	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
29	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
30	小説の読解	教科書所収の小説を精読する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	鎌田 智恵 非常勤講師		
対象学年等	電気工学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	本授業では、日本語によるコミュニケーション能力の向上を目的とする。とくに、学校生活におけるレポート、卒業研究等と、就職活動時や社会に出てからのビジネス文書等の作成に必要な、論理的文章を書く技術を身につけることに重きをおく。そのうえで、口頭発表における資料作成と実際の発表、その聞き取り等、理系に不可欠なコミュニケーション能力の伸長を目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B1】文章表現の基礎を習得する。		話しことばと書きことばの違い、原稿用紙の使い方、文章表現・構成の注意点が身についているか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
2	【B1】論理的文章の基礎を習得する。		文体が統一された論理的文章が書けるか、定期試験、中間試験およびレポート、提出物により評価する。
3	【B1】論説文の書き方を習得する。		資料・文献等の根拠に基づき、自己の意見を筋道を立てて述べることができるか、中間試験、定期試験、レポートにより評価する。
4	【B1】就職活動やビジネスの場で求められる文書の書き方を習得する。		日常生活やビジネスの場に適したことば遣いが理解できているか、定期試験と中間試験により評価する。
5	【B1】日常生活やビジネスの場における正しいことば遣いを習得する。		適切なことばを用いた口頭での自己表現ができるか、演習発表により評価する。
6	【B1】口頭発表資料の作成方法を習得する。		わかりやすく、興味を持てる口頭発表資料が作成できるか、提出された演習発表資料と定期試験により評価する。
7	【B1】口頭発表における自己表現の方法を習得する。		わかりやすく、興味を持てる口頭発表のための知識・技術が習得できたか、授業中の演習発表、提出された演習発表資料および定期試験により評価する。
8	【 】		
9	【 】		
10	【 】		
総合評価	成績は、試験85% レポート7% 提出物(説明文)3% 演習発表(口頭発表)5% として評価する。到達目標1～4に関する中間試験、到達目標1～4,6,7に関する定期試験の平均値を85%、到達目標1,2に関する提出物3%、到達目標1～3に関するレポート7%、到達目標5～7に関する演習発表5%として評価。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	三年「国語」		
履修上の注意事項	※教科書は、必ず購入すること。初回の授業で確認する		

授業計画(国語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入	授業の目的・成績評価の方法・授業計画についてガイダンスを行う(注意:初回から教科書を用いるので必ず持参すること)。また、原稿用紙の使い方などについて学ぶ。
2	説明文と論説文の違いの説明,文章表現の基礎(1)	事実の記述と意見の記述の違い,説明文と論説文の違いについて学ぶ。また、文章表現の注意点について確認し,問題を解く。
3	文章表現の基礎(2),説明文の説明	文章表現の注意点について確認し,問題を解く。また、説明文を書く際の注意点について学ぶ。
4	説明文を書く	説明文を書き,提出する。
5	説明文の返却・講評,論説文の基礎(1)	第4回に提出された説明文について,返却・講評する。そののち,論説文を書く際の注意点について学ぶ。
6	論説文の基礎(2),材料の集め方,引用の方法	論説文を書く際の注意点について学ぶ。また、資料・文献の集め方と,引用・出典表記の方法について学ぶ。
7	論説文を書く	論説文の書き出し・文末表現等について学ぶ。そののち,レポートテーマを提示し,実際に書き始める。
8	中間試験	話しことばと書きことばの違い,原稿用紙の使い方,文章表現・構成の注意点,文体が統一された論理的な文章,日常生活やビジネスの場に適したことば遣いについて理解でき,身に付いているか,確認する。
9	要約する	要約の作成について学び,実践する。
10	エントリーシート・大学編入志望動機書を書く,レポートの提出	エントリーシート・大学編入志望動機書の実例に触れ,一部を書いてみる。そののち,第7回に課したレポート(論説文)を提出する。
11	口頭発表資料の作成,口頭発表の方法	わかりやすく,興味の持てる口頭発表資料の作り方と,口頭発表時の注意点について学ぶ。
12	口頭発表資料の実例と模範発表,発表資料の作成	口頭発表資料の実例に触れ,講師による模範発表を行う。そののち,第13回の演習発表に向けて発表テーマを提示し,実際に資料を作成し始める。
13	演習発表	グループワークで口頭発表をし,相互評価する。なお,時間内に相互評価表と各自発表資料の提出を求める。
14	ビジネス文書	手紙文・ビジネスメール・ビジネス文書の書き方を学ぶ。
15	レポートの返却・講評	第10週に提出されたレポートの返却・講評する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	歴史 (History)			
担当教員	町田 吉隆 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	日本の歴史を時代と地域の視点から学ぶ。そこから各時代の社会の特色を探ることを目標とする。古代, 中世, 近世, 近代という時代区分の意味をその社会の特性から捉える作業が必要になる。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】古代, 中世, 近世, 近代の各時代を, 地域と社会の変容に関連させながら理解することができる。			日本の各時代について地域と社会の変容に関する理解を中間試験および定期試験で評価する。
2	【C3】具体的な史料や歴史叙述に基づいて, 歴史的イベントや事象の内容と因果関係を説明することができる。			授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を, 中間試験および定期試験で評価する。
3	【C3】歴史的イベントや事象の内容と因果関係を, 正確かつ丁寧に解説, 表現することができる。			授業で扱った歴史的イベントや事象の内容と因果関係についての理解を, 歴史プリントおよびノート検査で評価する。
4	【C3】史跡や文化財および近代化遺産について, 実地に調査して, その作成過程を説明することができる。			各自が興味を持つテーマにしたがって, 史跡や文化財および近代化遺産について, 実地に調査して, 作成するレポートの内容で評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は, 試験70% レポート14% 歴史プリント、ノート16% として評価する。到達目標1, 2, 3については中間および定期試験4回の平均点で評価する。また到達目標3については歴史プリント作成およびノート検査で評価する。到達目標4についてはレポートで評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	歴史(2年)・日本史(5年)・世界史(5年)			
履修上の注意事項	中学校までで学んだ知識に基づく内容だが, 教科書を授業前に読んでおくことを期待する。授業に参加する姿勢の乏しい者については個別に注意する。			

授業計画(歴史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入ー日本の歴史を学ぶ意味とは何か	日本列島の自然環境と地域の特徴がその歴史に関連していることを事例に基づいて確認する。
2	日本の歴史における東と西	日本列島における地域的な相違を歴史的に考える。
3	日本の古代(1)	現在の中部地方,関東地方,東北地方に相当する「東国」の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
4	日本の古代(2)	日本列島の東西における縄文文化の相違点から,文化の多様性を理解する。
5	日本の古代(3)	関東地方への稲作文化の伝播の様相から,ヒトの移動と文化の変容について理解する。
6	日本の古代(4)	ヤマト政権の支配のしくみを,地方の有力豪族と東アジア世界との関連から理解する。
7	日本の古代(5)	律令国家における地方行政のしくみと在地有力者としての「武士」の出現に関連させて理解する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説する。約1万年前から12世紀までの日本社会の動きを,「東国」という地域を通して理解する。
10	日本の中世(1)	現在の瀬戸内地方,中国地方,九州地方の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
11	日本の中世(2)	瀬戸内地方に現れた「海の武士団」を鎌倉幕府の支配のしくみと関連させて理解する。
12	日本の中世(3)	元寇襲来前後の社会の変容を理解する。
13	日本の中世(4)	元寇襲来後の西日本の地域社会の動揺を東アジアの動きと関連させて理解する。
14	日本の中世(5)	15世紀の東アジアの動きと関連させて室町時代の政治と社会を理解する。
15	日本の中世(6)	15世紀後半の「応仁の乱」以降の社会を九州地方,中国地方の戦国大名を例として理解する。
16	時間と暦(1)	日本を含む世界の人々が「時間」をどのようにとらえ,生活の中でいかしてきたかを理解する。
17	時間と暦(2)	前近代社会の「季節」のとらえ方を人々の生活と関連させて理解する。
18	日本の近世(1)	現在の近畿地方の自然環境と歴史について,既習事項を確認する。
19	日本の近世(2)	織豊政権が近畿地方に統治の中心を置いた理由を経済的側面から理解する。
20	日本の近世(3)	江戸時代前半の近畿地方の経済的隆盛と文化の発達の特徴を,幕藩体制下の地域社会のしくみと関連させて理解する。
21	日本の近世(4)	18世紀の上方文化と町人社会の様相を,歴史上の人物の例から理解する。
22	日本の近世(5)	日本の地域社会が江戸時代の後半に大きく動揺した理由を,経済的,社会的な要因と関連させて理解する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説する。13世紀から19世紀前半までの日本社会の動きを,地域社会の視点から理解する。
25	日本の近代(1)	19世紀後半から20世紀前半までの日本の歴史について,既習事項を確認し,概略とその特質を理解する。
26	日本の近代(2)	14世紀から19世紀半ばまでの琉球の歴史を,日本列島の他地域の事象と関連させて理解する。
27	日本の近代(3)	14世紀から19世紀半ばまでの蝦夷地の歴史を,日本列島の他地域の事象と関連させて理解する。
28	日本の近代(4)	北海道の開発が日本の「近代化」のモデルケースであったことを,政策と人口の移動の面から理解する。
29	日本の近代(5)	沖縄文化を日本列島の明治,大正の知識人はどのように理解したかを,沖縄の人々の視点と関連させて理解する。
30	日本の近代(6)	第二次世界大戦における「沖縄戦」の実相と戦後の沖縄の歴史から,日本の「近代化」の性格を考える。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	地理 (Geography)			
担当教員	八百 俊介 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	はじめに,地形図から地形・地域の歴史等の情報を読み取る手法を学習する.次に気候の形成要因を学んだ上で,植生・土壌・農業等と気候との連関を学習する.さらに,人口構成の変化・地域的差異の要因,工業の立地要因を学習し,都市の内部構造,形成要因と諸問題を交通との関係を含めて学習する.基本的な地理的情報を各種資料から検索する.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】気候の形成要因を理解し,植生・土壌・農業等との連関を捉えることができる.気候・植生・土壌・農業等の分布等を判別することができる			気候の形成要因を理解し,植生・土壌・農業等との連関を捉えることができるか,気候・植生・土壌・農業等の分布等を判別することができるか定期試験で評価する
2	【C3】工業の立地条件が理解できる			工業の立地条件が理解できるかを中間試験で評価する
3	【C3】人口変化・人口構成の形成要因が理解でき,地域特性が推察できる			人口変化・人口構成の形成要因が理解できているか,データから地域特性が推察できるか中間試験で評価する
4	【C3】都市の内部構造とその形成要因,都市問題と交通の関係が理解できる			都市の内部構造とその形成要因が理解できているか,データから地区・都市特性が判別できるか,交通と地域の関係が理解できるか定期試験で評価する
5	【C3】地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができる			地形図など資料から地誌情報を検索・判読することができるか中間試験およびレポートで評価する
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.100点を満点とし,60点以上を合格とする.試験成績は中間試験,定期試験の平均点とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	なし			
履修上の注意事項				

授業計画(地理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	地形図の判読1	地形図から地形を判読する
2	地形図の判読2	第1週目に同じ
3	地形図の判読3	第1週目に同じ
4	地形図の利用1	地形図から村落など歴史を読み取る方法を学習する
5	地形図の利用2	第4週目に同じ
6	地形図の利用3	第4週目に同じ
7	地形図の読図4	第4週目に同じ
8	中間試験	第1週目から第7週目の範囲で試験を行なう
9	気候要素と特性1	気候の形成要因を学習し,データから気候特性を読み取り,地点を特定する手法を学習する
10	気候要素と特性2	第9週目に同じ
11	気候と土壌・植生1	気候ごとの土壌・植生の特徴と形成要因を学習する
12	気候と土壌・植生2	第11週目に同じ
13	自然と農業1	自然条件を背景とした農業の分布・成立を学習する
14	自然と農業2	第13週目に同じ
15	自然と農業3	第13週目に同じ
16	人口の変化と要因1	人口変化の社会的・経済的要因を学習する
17	人口の変化と要因2	第16週目に同じ
18	人口構成と地域1	人口構成と地域特性の関係を学習する
19	人口構成と地域2	第18週目に同じ
20	工業立地1	工業立地の類型を学習する
21	工業立地2	第20週目に同じ
22	工業立地3	第20週目に同じ
23	中間試験	第16週目から第22週目の範囲で試験を行なう
24	都市の内部構造1	都市の内部構造とその形成要因を学習する
25	都市の内部構造2	第24週目に同じ
26	都市の内部構造3	第24週目に同じ
27	都市の変化と都市問題1	都市の成長と都市問題について学習する
28	都市の変化と都市問題2	第27週目に同じ
29	都市と交通1	交通と都市の関係について学習する
30	都市と交通2	第29週目に同じ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	倫理 (Ethics)			
担当教員	手代木 陽 教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(20%), D1(80%)			
授業の概要と方針	現代社会において私たちはいかに生きるべきであろうか.人間として「よく生きる」ことを先人たちの思想や現代社会の問題を通して学び,自らの生き方を考える姿勢を身につける.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】青年期の特徴を理解し,自らの問題として考えることができる.			青年期の特徴についての理解度を前期中間試験で評価し,自らの問題として考えることができるかをレポート課題で評価する.
2	【C3】「思想の源流」と言われる先人の倫理思想を正しく理解できる.			ギリシャの思想の理解度を前期中間試験で,キリスト教,イスラーム,仏教の理解度を前期定期試験で評価する.
3	【C3】現代社会の前提となった近代の倫理思想を正しく理解できる.			近代における人間の尊厳,科学革命と自然観,民主社会の思想の理解度を後期中間試験で評価する.
4	【C3】現代社会における倫理的問題を正しく理解できる.			高齢社会,グローバル化,情報社会,生命倫理,環境倫理の問題についての理解度を後期定期試験で評価する.
5	【D1】現代社会における倫理的問題について自分の意見を矛盾なく展開できる.			高齢社会,グローバル化,情報社会,生命倫理,環境倫理の問題について自分の意見を矛盾なく展開できるかを後期定期試験の作文問題とレポート課題で評価する.
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.レポート評価には授業の課題,自主課題のレポート評価とノートの評価が含まれる.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	哲学			
履修上の注意事項	なし			

授業計画(倫理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	「倫理」とは	「倫理」という言葉の意味を漢字の成り立ちから考える。1年間の授業の概要,評価方法について説明し,最近のニュースの中から倫理的問題を取り上げる。
2	青年期の課題と自己形成(1)	青年期の特徴,青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立,パーソナリティと性格,欲求と適応などの問題を解説する。
3	青年期の課題と自己形成(2)	青年期に特有の恋愛や性の問題について考える。セクシュアル・ハラスメントなどの社会問題も取り上げる。
4	人間としての自覚	人間の歴史の最初期において人間の生き方を導いた「思想の源流」について解説する。
5	ギリシャの思想(1)	初期自然哲学の形成,ソフィスト,ソクラテスの思想について解説する。
6	ギリシャの思想(2)	ソクラテスの死の意義について考える。国法を尊重するとはどういうことか,憲法9条の問題を通して現代のわれわれの問題として考える。
7	ギリシャの思想(3)	プラトン,アリストテレスの思想について解説する。
8	前期中間試験	青年期の課題と自己形成,ギリシャの思想の範囲で試験を実施する。
9	キリスト教(1)	新約聖書から「放蕩息子の物語」を取り上げ,信仰するとはどういうことか考える。
10	キリスト教(2)	旧約聖書とユダヤ教の思想について解説する。
11	キリスト教(3)	新約聖書とイエスの思想について解説する。
12	イスラーム(1)	イスラームの成立史と信仰の特徴について解説する。
13	イスラーム(2)	国際社会におけるイスラームの位置づけについて解説する。
14	仏教(1)	仏教の成立史とゴータマ＝シッダッタの思想について解説する。
15	仏教(2)	日本仏教の展開について解説する。
16	現代の特質と倫理的課題	科学技術の進歩によって生じた現代の諸問題は技術的解決のみならず,社会的合意が必要な倫理的問題でもあることを解説する。
17	人間の尊厳(1)	「人間の尊厳」とは何かを,その思想的源泉であるルネサンスまで遡って考える。
18	人間の尊厳(2)	人間の尊厳を「人格」に見出したカントの思想を解説し,自由とは何かを考える。
19	人間の尊厳(3)	再生医療と人間の尊厳の問題について考える。
20	近代の科学革命と自然観	近代科学の自然観と合理論,経験論の思想について解説する。
21	自由で平等な社会の実現(1)	すべての人間の平等を目指す民主社会の思想的源泉を17-18世紀の社会契約説に遡って解説する。
22	自由で平等な社会の実現(2)	ヘーゲルの人倫と18-19世紀の功利主義の展開について解説する。
23	後期中間試験	人間の尊厳,近代の科学革命と自然観,自由で平等な社会の実現の範囲で試験を実施する。
24	現代の諸課題と倫理(1)	高齢社会の問題を現代の家族の変容との関係において解説する。
25	現代の諸課題と倫理(2)	グローバル化が進む世界の現状を解説し,国際支援や異文化理解について考える。
26	現代の諸課題と倫理(3)	ネットワーク社会と情報モラルの問題を解説する。
27	現代の諸課題と倫理(4)	生命倫理について概説し,生殖補助医療技術の倫理的問題について考える。
28	現代の諸課題と倫理(5)	臓器移植,終末期医療の倫理的問題について考える。
29	現代の諸課題と倫理(6)	環境倫理について概説し,市場社会システムで地球温暖化問題を解決できるか考える。
30	現代の諸課題と倫理(7)	原発の廃炉の問題を通して未来世代に対する現代世代の責任について考える。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	歴史 (History)			
担当教員	深見 貴成 准教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	現代の日本社会に生きる人間にとって,他の社会とのコミュニケーションは必要不可欠であり,その基礎となるのが基本的な歴史知識である.本授業では,近代社会の成立から現代に至るまでの世界の歴史を「市民革命」「帝国主義」「戦争」を中心として学んでいく.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】18世紀から現在までの世界の歴史の流れを理解できる.			中間試験および定期試験で評価する.
2	【C3】基本的な世界の歴史的事項を理解する.			中間試験および定期試験とレポート・提出物で評価する.
3	【C3】18世紀から現代までの世界の社会問題や文化に関して理解できる.			中間試験および定期試験で評価する.
4	【C3】現代の社会における事柄を世界の歴史に関連させて思考できる.			レポート・提出物で評価する.
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験70% レポート・提出物30% として評価する.到達目標1・2・3については,中間および定期試験4回の平均点で評価する.また到達目標2については,レポート・提出物でも評価する.到達目標4については,レポート・提出物で評価する.これらを総合して,100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	歴史(1年),日本史(5年),世界史(5年)			
履修上の注意事項	教科書をよく読み,内容を理解できるようにすること.			

授業計画(歴史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入—近代社会とは	古代から市民革命が起こるまでの世界の歴史を概観し、世界地理の基本を学ぶ。
2	産業革命とアメリカ独立革命(1)	イギリスで起こった産業革命の影響と、アメリカ独立革命の意義について理解する。
3	産業革命とアメリカ独立革命(2)	第2週に同じ。
4	フランス革命とナポレオン(1)	アンジャン＝レジームとは何かを理解し、フランス革命の意義について理解する。
5	フランス革命とナポレオン(2)	フランス革命の経緯とナポレオンの動向について理解する。
6	ウィーン体制とその崩壊	二月革命と七月革命の意義について知る。また、イタリアとドイツの統一の経緯を理解し、近代国家とは何かを考える。
7	アメリカ合衆国の発展	アメリカの領土拡大の意義と南北戦争の経緯について理解し、現代のアメリカとの関係を考える。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答とまとめ	中間試験の内容について解説し、近代国家(国民国家)の成立の意義について学ぶ。
10	オスマン帝国とムガル帝国	オスマン帝国とヨーロッパ諸国の関係について理解する。またイギリスのインドの植民地化の経緯を知り、植民地とは何かを理解する。
11	清朝の動揺	アヘン戦争以降の清朝のヨーロッパとの関係および国内の改革について理解する。
12	帝国主義の展開と植民地(1)	ヨーロッパ諸国の動向と植民地化の拡大について理解する。特にアジアとアフリカの植民地化について考える。
13	帝国主義の展開と植民地(2)	第12週に同じ。
14	アジア諸国の改革(1)	清朝の滅亡と辛亥革命の経緯について理解する。また、アジア各地での民族運動について考える。
15	アジア諸国の改革(2)	第14週に同じ。
16	第一次世界大戦(1)	なぜ第一次世界大戦が起こったのか、その経緯を理解する。また、ロシア革命の経緯と意義について考える。
17	第一次世界大戦(2)	第16週に同じ。
18	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(1)	国際協調の時代としての1920年代をヨーロッパ・アジアを中心にして学ぶ。また、各地域の民族運動について理解する。
19	ヴェルサイユ体制とワシントン体制(2)	第18週に同じ。
20	世界恐慌とファシズム(1)	世界恐慌が世界に与えた影響について考える。また、ファシズム諸国の動向が意味するものを理解する。
21	世界恐慌とファシズム(2)	第20週に同じ。
22	第二次世界大戦	第二次世界大戦の世界史的意義について考え、現代社会とのつながり ¹⁾ を考える。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	冷戦の構造(1)	アメリカとソ連だけではなく、世界史上における冷戦の意味とその構造について理解する。またアジア諸国の戦後の動向について知る。
25	冷戦の構造(2)	第24週に同じ。
26	第三世界の自立	冷戦構造と第三世界との関係について理解する。また各地の戦争・紛争の経緯とその意味を考える。
27	ベトナム戦争	ベトナム戦争が起こる経緯と世界に与えた意味について考える。特に日本社会に与えた影響についても考える。
28	冷戦の解消(1)	ソ連の消滅の意義について理解する。また、1990年代以降の世界の動き、特にアメリカの動向について考える。
29	冷戦の解消(2)	第28週に同じ。
30	まとめ—歴史を学ぶことは何か	これまで学んできた世界の歴史と現代社会とのつながり ¹⁾ について理解し、今後の世界について考える。また、歴史を学ぶことがどのような意味を持つのかを考える。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	政治・経済 (Political Science and Economics)			
担当教員	高橋 秀実 教授			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	歴史的転換期としての現代世界及び日本の政治・経済を理解するため,政治・経済・国際関係の諸事象を多角的な視点から分析し,その構造や潮流を把握して,広い視野から判断しうる見識と考察力を養成する.前期は国際政治を中心に政治分野を,後期は経済分野を扱う.国際政治や経済の時事問題を随時導入する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】第二次世界大戦・冷戦・核問題などを通じて戦争と平和の問題を理解する.南北問題・人口問題・民族問題など現代世界の諸課題を理解する.国際連合の組織・機能,国際機関や国際条約を理解する.			国際政治の理解度を,試験・レポート・提出物により評価する.
2	【C3】リベラルデモクラシーの原理,日本国憲法の成立過程,日本国憲法の3原則(国民主権・基本的人権・平和主義),政治制度を理解する.			リベラルデモクラシー・日本国憲法の理解度を,試験・レポート・提出物により評価する.
3	【C3】資本主義経済の特徴,市場メカニズム,金融・財政,労働問題など現代経済のしくみを理解する.			現代経済のしくみの理解度を,試験・レポート・提出物により評価する.
4	【C3】資本主義成立期から敗戦・戦後復興・高度経済成長・石油危機・貿易不均衡・バブル経済・バブル崩壊を経て現在に至るまでの,日本経済の歩みを理解する.			日本経済の理解度を,試験・レポート・提出物により評価する.
5	【C3】グローバリゼーションと地域経済統合が進展する世界経済を理解する.			世界経済の理解度を,試験・レポート・提出物により評価する.
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験75% レポート・提出物25% で総合評価する.試験成績は前後期の平均点とする.100点満点の60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	経済学(5年選択)			
履修上の注意事項	なし			

授業計画(政治・経済)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	政治序論:現代世界の課題	20世紀,戦後の時代を多面的に検証し,転換期としての冷戦後,21世紀の世界の諸課題を考察するという前期政治編の方針を概観する。
2	国際社会と主権国家	近代国家のあり方・要素を分析し,国際社会を動かす政治・経済的利害関係,民族・宗教など文化的要因などを考察する。
3	20世紀の政治潮流	第二次世界大戦と東西冷戦を,ファシズム・ Kommunismus・リベラルデモクラシーなど政治思想・国家体制の側面から分析し考察する。
4	戦後の東西冷戦	戦後の東西冷戦の政治過程を概観する。
5	冷戦終結と冷戦後の国際社会	冷戦終結の政治過程とその歴史的意義を分析し考察する。
6	国際連合の組織と機能	国際連合の成立過程,総会・安全保障理事会を中心とした国連の組織,PKOなど平和維持機能を理解する。
7	リベラルデモクラシーの原理と制度	市民革命・人権宣言により確立したリベラルデモクラシーの原理と制度を理解する,国民主権と議院内閣制・選挙など諸制度を理解する。
8	日本国憲法の成立過程	敗戦後の日本国憲法成立に至る政治過程を分析し,日本国憲法を大日本帝国憲法と比較し考察する。
9	日本国憲法と基本的人権	基本的人権を自由権と社会権という視点から考察する。
10	日本国憲法前文・第9条の平和主義	日本国憲法前文・第9条の条文を通じて日本の平和主義を考察する。
11	日本国憲法の平和主義と戦後日本の歩み	憲法の理想と現実の戦後日本の歩みとの相克を考察する。
12	世界平和と核問題	広島・長崎原爆,戦後米ソ核対立,核抑止の国際条約締結の歩み,大量破壊兵器の危機的現実を考察する。
13	南北問題	先進工業国と発展途上国の経済格差の現状や原因,国際社会の対応,近年の変化を分析する。
14	人口問題	世界人口の推移と現状,問題点を,南北問題と関連させて考察する..
15	総括:21世紀の国際社会と日本	政治編の総括として,21世紀の国際社会の潮流と諸課題,及び日本のあり方を考察し総括する。
16	経済序論:商品経済・貨幣経済・生産と消費	商品としての財・サービスの生産,企業と消費者・労働者,貨幣の機能など,資本主義経済の特徴を基礎から分析し考察する。
17	市場メカニズム	自由競争市場で商品の需給関係が価格変動で自動調整されるという,産業革命期のアダムスミスが解明した市場メカニズムの原理を考察する。
18	自由競争から独占資本主義へ	産業革命期の自由競争期から独占資本主義への転換,独占(寡占)の形態を分析する。
19	世界恐慌とケインズ・修正資本主義	1930年代の世界恐慌・デフレスパイラル,欧州先進国のブロック経済化,米国のニューディール政策とその基盤たるケインズ理論,修正資本主義を理解する。
20	形成期の日本資本主義	富国強兵・殖産興業の下に国家主導で形成された成立期の日本資本主義の特徴を,後進的農村,劣悪な労働条件,植民地進出,など多面的に分析し考察する。
21	戦後の経済復興と高度経済成長	敗戦後の経済民主化改革と経済復興,1950・60年代の著しい工業発展・高度経済成長を可能にした諸要因を多面的に分析し考察する。
22	オイルショックと貿易不均衡	1970年代オイルショックによる高度成長の終結,日本企業の技術革新,輸出拡大,80年代日米貿易不均衡・貿易摩擦を分析する。
23	バブル経済とバブル崩壊デフレ	1985年プラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済,90年代株価・地価暴落によるバブル崩壊と金融システム不安を伴う平成不況へと至った過程及び原因を考察する。
24	技術革新と産業構造	日本経済の歩みを通じて産業構造の変化を分析し,技術革新と産業構造の連関を考察する。
25	国際経済と貿易	IMF・GATT体制の中で加工貿易によって発展を遂げた日本経済を理解する,生産拠点の海外移転,世界市場の一体化(グローバルイゼーション)の潮流を考察する。
26	労働・雇用問題	憲法と労働基準法に規定された労働の権利を理解する,日本の雇用制度の特徴,1990年代以降の変化の潮流を考察する。
27	財政の機能としくみ・財政政策	財政の機能とそのしくみ,予算(歳入・歳出)の現状,国債累積で財政破綻に瀕している現状を考察する,財政政策を考察する。
28	税制	直接税と間接税という租税の種類を,所得税と消費税を中心として税制と機能を考察する。
29	金融の機能としくみ・金融政策	金融の機能とシステム,日本銀行による金融政策を理解する,バブル崩壊後の金融の潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題	世界経済の現状と課題及び日本経済の現状と課題を考察し,全授業の総括とする。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する,前後期にレポート課題を課す,政治経済時事テーマを随時導入する関係上,予定テーマの内容と順序は随時変更可能性あり。	

科 目	数学I (Mathematics I)			
担当教員	吉村 弥子 准教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・6単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	高等専門学校における数学の基礎となる事柄を丁寧に講義する。さらに、演習を行うことにより、内容の定着と応用力の養成をはかる。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A1】実数,複素数,整式や分数式の計算ができる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
2	【A1】方程式・不等式を解いたり,利用したりできる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
3	【A1】簡単な等式・不等式の証明ができる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
4	【A1】2次関数や分数関数などのグラフを理解し応用できる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
5	【A1】指数法則,指数関数を理解し,計算および応用ができる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
6	【A1】対数の定義,対数関数を理解し,計算および応用ができる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
7	【A1】三角比・三角関数に関する定理,公式を理解し活用できる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
8	【A1】数列とその和に関する事項および数学的帰納法の考え方を理解できる。			中間試験・定期試験,レポート,小テストで評価する。
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験85% レポート5% 小テスト10% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。演習・レポートは授業中や夏休み前など,適宜課す。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年の数学II,2年の数学I・数学II			
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・数列についてはプリント配布またはチャートを利用する。・レポートは,夏期休業前,冬季休業前などに適宜課す。・4月のオリエンテーションの中で,入学前に課した課題についての実力テストを実施する。このテストの結果は1年数学Iの成績とは関係ない。			

授業計画(数学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	等式, 不等式, 実数とその性質	等式, 不等式の性質や実数とその性質, 絶対値について解説し, 演習を行う。
2	平方根, 複素数	平方根の定義と性質を解説し, 演習を行う。また, 分母の有理化とその方法, 複素数の定義および計算方法について解説し, 演習を行う。
3	整式の計算	整式の加法・減法・方法と展開公式について解説し, 文字式の計算に関する演習を行う。また, 因数分解について解説し, 演習を行う。
4	整式の除法	整式の除法, 剰余の定理と因数定理について解説し, 演習を行う。
5	分数式, 2次方程式の解法	分数式の性質・計算について解説し, 演習を行う。また, 因数分解や解の公式など2次方程式の様々な解法や判別式について解説し, 演習を行う。
6	2次方程式の解と2次式の因数分解, いろいろな方程式	2次方程式の解を使った2次式の因数分解や, 高次方程式・連立方程式他いろいろな方程式について解説し, 演習を行う。
7	演習	1～6週の総合演習を行う。
8	中間試験	1～7週の範囲で中間試験を行う。
9	恒等式と等式の証明	恒等式の性質や扱い方・等式の証明について解説し, 演習を行う。
10	不等式の証明, 2次関数とそのグラフ	不等式の証明について解説し, 演習を行う。また, 2次関数とそのグラフについて解説し, 演習を行う。
11	2次関数の最大値・最小値, 2次関数と2次方程式	2次関数の最大値・最小値について, また, 2次関数のグラフと2次方程式の解や判別式などの関係について解説し, 演習を行う。
12	いろいろな2次関数のグラフ, 2次関数と2次不等式	いろいろな2次関数のグラフや2次関数の決定について, また, 2次関数と2次不等式について解説し, 演習を行う。
13	関数とグラフ(1)	関数とグラフについて, また, グラフの移動について解説し, 演習を行う。さらに, べき関数・分数関数について解説し, 演習を行う。
14	関数とグラフ(2)	無理関数・合成関数と逆関数について解説し, 演習を行う。
15	演習	14週までの範囲の総合演習を行う。
16	累乗根, 指数の拡張, 指数関数	累乗根と指数の拡張から拡張された指数法則について解説し, それから指数関数を定義し, それらの解説と演習を行う。
17	指数方程式・不等式, 対数の定義	指数関数とグラフ, さらに指数方程式・指数不等式について解説し, 演習を行う。また, 対数を定義してその基本性質について解説し, 演習を行う。
18	対数の法則, 対数関数と対数方程式・不等式	対数の計算法則や底の返還公式について解説し, 演習を行う。また対数関数を定義し, そのグラフや対数方程式・対数不等式について解説し, 演習を行う。
19	三角関数(1)	一般角から正弦と余弦を定義して解説し, 演習を行う。そして弧度法を導入し, 正弦関数・余弦関数のグラフについて解説し, 演習を行う。
20	三角関数(2)	正接を定義して解説し, 演習を行う。また, 三角関数の基本公式について解説し, その応用を含めて演習を行う。
21	三角関数と方程式・不等式	三角関数を含む方程式や不等式について解説し, 演習を行う。
22	演習	21週までの範囲の総合演習を行う。
23	中間試験	16～22週の範囲で中間試験を行う。
24	三角関数の加法定理	三角関数の加法定理とそれから導かれる公式について解説し, 演習を行う。
25	三角関数の合成, 三角形と三角関数	三角関数の合成について解説し, 演習を行う。また, 三角形と三角関数の関係(三角比)について解説し, 演習を行う。
26	正弦定理と余弦定理	三角形における正弦定理と余弦定理について, また, 三角形の面積について解説し, 演習を行う。
27	数列, 等差数列とその和	数列とその一般項について解説し, それから最も基本的な数列のひとつである等差数列とその和について解説し, 演習を行う。
28	等比数列とその和, いろいろな数列の和	等比数列とその和について解説し, 演習を行う。また, 総和の記号を使い, いろいろな数列の和について解説し, 演習を行う。
29	数列の漸化式, 数学的帰納法	数列の漸化式・数学的帰納法について解説し, 演習を行う。
30	演習	29週までの範囲の総合演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	数学II (Mathematics II)			
担当教員	横山 卓司 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	前期は,場合の数と確率の基本事項を学習し,後期は,命題および図形と方程式の基本事項を学習する.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】集合の概念を理解し応用できる.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
2	【A1】順列と組合せを使って場合の数の計算ができる.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
3	【A1】二項定理が使える.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
4	【A1】さまざまな確率の計算ができる.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
5	【A1】命題の考え方を理解し,証明ができる.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
6	【A1】座標平面上で,点と直線,2次曲線,領域などの扱い方を理解できる.			中間試験・定期試験, レポートで評価する.
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.演習・レポートは授業中や夏休み前など,適宜課す.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年の数学I,2年の数学I・数学II			
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある.・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない.			

授業計画(数学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	集合	集合の概念について学習する。
2	集合の要素の個数	集合の要素の個数とその計算について学習する。
3	場合の数	和の法則, 積の法則について学習する。
4	順列(1)	順列の計算とその応用について学習する。
5	順列(2)	円順列や重複順列について学習する。
6	組合せ	組合せの計算とその応用について学習する。
7	演習	順列と組合せに関する総合的な演習を行う。
8	中間試験	1～7週の範囲で中間試験を行う。
9	二項定理	二項定理と二項展開について学習する。
10	事象と確率	事象と確率の概念について学習する。
11	確率の基本性質	和事象・積事象・余事象の概念と確率の関連について学習する。また, 確率の計算について学習する。
12	独立な試行と確率	独立な試行の確率の計算とその応用について学習する。
13	反復試行の確率	反復試行の確率の計算とその応用について学習する。
14	期待値	期待値の計算とその応用について学習する。
15	演習	確率に関する総合的な演習を行う。
16	命題と条件	命題の考え方と必要条件・十分条件について学習する。
17	命題と証明	命題の逆・裏・対偶と証明方法について学習する。
18	演習	命題と証明に関する総合的な演習を行う。
19	2点間の距離と内分点	2点間の距離の公式, 内分点, 三角形の重心について学習する。
20	直線の方程式	座標平面上の直線の方程式, 2直線の平行・垂直条件について学習する。
21	演習	座標平面上の点や直線に関する総合的な演習を行う。
22	円	座標平面上の円について学習する。
23	中間試験	16～22週の範囲で中間試験を行う。
24	楕円	座標平面上の楕円について学習する。
25	双曲線	座標平面上の双曲線について学習する。
26	放物線	座標平面上の放物線について学習する。
27	2次曲線と直線	座標平面上の2次曲線と直線の共有点について学習する。
28	演習	座標平面上の2次曲線に関する総合的な演習を行う。
29	不等式の表す領域	不等式の表す領域について学習する。
30	演習	不等式の表す領域に関する総合的な演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	数学I (Mathematics I)			
担当教員	北村 知徳 准教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	理工学系の基礎となる微分・積分学を講義する。概念の理解に重点を置き、豊富な演習を通じて運用能力を高める。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A1】関数の極限・連続性などの概念を理解し、いろいろな関数の極限と導関数を計算できる。			中間試験・定期試験、演習、レポートで評価する
2	【A1】様々な関数の微分係数・導関数・第2次導関数を計算でき、グラフの概形、関数の極値・最大最小、接線・法線、速度・加速度などに応用できる。			中間試験・定期試験、演習、レポートで評価する
3	【A1】不定積分・定積分の定義および性質を理解し、様々な関数の不定積分・定積分を計算できる。			中間試験・定期試験、演習、レポートで評価する
4	【A1】定積分を使って、面積、体積、曲線の長さなどを計算できる。			中間試験・定期試験、演習、レポートで評価する
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験70% 演習・レポート28% 実力試験2% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年の数学I・数学II			
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には、発展的な話題を扱うこともある。・レポートは夏季休業前・冬季休業前等、適宜課す。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・4月の最初の授業時に、1年時の数学の内容に関する実力試験を実施する。・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する。			

授業計画(数学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	関数の極限	まず,これまでに扱った関数とその性質について復習する.関数の収束を理解し,極限値の計算練習を行う.無限大の概念を学ぶ.
2	微分係数,導関数	平均変化率,微分係数の定義を学ぶ.微分係数と曲線の接線の傾きの関係を理解する.関数の微分可能性を理解する.導関数の定義を学び,定義に従って関数を微分する.
3	導関数の性質	導関数のさまざまな性質と計算公式を学び,計算練習を行う.
4	三角関数の導関数	三角関数の導関数を定義より導き,公式化する.
5	指数関数の導関数	e (ネピアの数) の定義を学び,指数関数の導関数を計算する.自然対数について学ぶ.
6	合成関数の導関数,対数関数の導関数	合成関数の微分公式を学び,計算練習を行う.対数関数の導関数を計算する.対数微分法について学ぶ.
7	逆三角関数とその導関数	逆三角関数を定義し,その導関数を計算する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	関数の連続,接線と法線	関数の連続性を理解する.連続関数についての中間値の定理を用いて,方程式の解の存在を証明する.接線・法線の方程式を求める.
10	平均値の定理, 関数の増減と極値	平均値の定理を理解する.関数の導関数と増減の関連を理解する.増減表を利用して,関数の極値を求め,関数のグラフの概形をかく.
11	関数の最大・最小	関数の最大・最小を求め,応用問題を解く.不等式の証明を行う.
12	不定形の極限	ロピタルの定理を理解し,不定形の極限の極限値を計算する.漸近線を持つ関数のグラフをかく.
13	高次導関数,曲線の凹凸	第 n 次導関数の定義を学ぶ.第2次導関数の符号と曲線の凹凸の関係を理解し,グラフの概形に生かす.
14	媒介変数表示と微分法	曲線の媒介変数表示について学ぶ.媒介変数表示された関数の導関数を計算し,曲線の接線の方程式を求める.
15	速度と加速度	速度と加速度について理解し,計算練習を行う.
16	不定積分	不定積分の定義を学ぶ.不定積分の公式を作り,計算練習を行う.
17	定積分,定積分と不定積分の関係	定積分の定義を理解する.定義に従って関数を定積分する.定積分の性質を学ぶ.定積分と不定積分の関係を学び,微分積分法の基本定理を理解する.
18	定積分の計算	不定積分を利用した定積分の計算方法を学び,計算練習を行う.曲線で囲まれた図形の面積を定積分を利用して計算する.
19	いろいろな不定積分の公式	いろいろな不定積分の公式について学び,計算練習をする.
20	置換積分法・部分積分法	置換積分法および部分積分法について学ぶ.
21	置換積分法・部分積分法の応用	置換積分法および部分積分法を利用して,やや複雑な積分の計算を行う.
22	いろいろな関数の積分	分数関数・無理関数・三角関数の積分について計算練習と公式の整理を行う.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	図形の面積,曲線の長さ	曲線で囲まれた図形の面積を定積分で計算する.曲線の長さを定積分で計算する.
25	立体の体積	立体の体積を定積分で計算する.
26	演習	図形の面積・曲線の長さ・立体の体積の計算練習をする.
27	媒介変数表示による図形	媒介変数表示による曲線で作られる図形の面積,曲線の長さ,回転体の体積を計算する.
28	極座標による図形	極座標について学ぶ.極座標による図形の方程式を学び,図形の面積や曲線の長さを計算する.
29	広義積分	広義積分を学び,計算練習を行う.
30	変化率と積分	速度・加速度および変化率と微分・積分の関係を理解し,具体的な問題に応用する.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	数学II (Mathematics II)			
担当教員	谷口 公仁彦 講師			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	工学,自然科学,社会学など幅広い分野で利用される線形代数学の基礎について講義し,演習を行う.発展的な事項も適宜補う予定である.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】ベクトルの意味およびその性質を理解し,基本的な計算ができる.			中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
2	【A1】ベクトルの考え方を利用して,平面や空間の図形を扱える.			中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
3	【A1】複素数と複素数平面について理解し,実際に計算ができる.			中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
4	【A1】行列およびその演算方法を理解し,基本的な計算ができる.			中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
5	【A1】線形変換を理解し,2次元における線形変換の基本的な計算ができる.			中間試験・定期試験,レポート等で評価する.
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験85% レポート等15% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年の数学I,数学II			
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない.・複素数と複素数平面についてはプリントを配布する.・行列と線形変換については軽めに扱う.			

授業計画(数学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	平面ベクトル	ベクトルの基本的な概念・用語などを導入する。ベクトルの和・差・スカラー倍とこれらの演算に関する基本的な性質を学ぶ。
2	平面ベクトルの成分	ベクトルの成分表示を学ぶ。
3	平面ベクトルの内積	ベクトルの内積について学ぶ。
4	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行条件・垂直条件を学ぶ。
5	平面ベクトルの図形への応用(1)	ベクトルの観点から内分点、直線などの扱い方を学ぶ。
6	平面ベクトルの図形への応用(2)	法線ベクトル、円のベクトル方程式などの扱い方を学ぶ。
7	演習	平面ベクトルについての総合演習を行う。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	空間座標	空間座標の基本的な扱い方と用語について学ぶ。
10	空間ベクトル	空間ベクトルとその成分について学ぶ。
11	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積について学ぶ。
12	空間内の直線の方程式	空間内の直線とその方程式について学ぶ。
13	空間内の平面の方程式	空間内の平面とその方程式について学ぶ。
14	空間内の球面の方程式	空間内の球面とその方程式について学ぶ。
15	演習	空間ベクトルについての総合演習を行う。
16	複素数	複素数とその演算について学ぶ。
17	複素数平面	複素数平面と極形式について学ぶ。
18	ド・モアブルの定理とオイラーの公式	ド・モアブルの定理とオイラーの公式について学ぶ。
19	図形への応用	複素数の図形への応用について学ぶ。
20	演習	複素数についての総合演習を行う。
21	行列の定義	行列の概念と用語などが導入される。
22	行列の和・差、スカラー倍、行列の積	行列の基本的な演算について学ぶ。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	転置行列	転置行列について学ぶ。
25	逆行列	逆行列について学ぶ。
26	線形変換の定義	線形変換の概念と点の変換について学ぶ。
27	線形変換の性質	線形変換による直線の像について学ぶ。
28	合成変換と逆変換	線形変換の合成と、逆変換について学ぶ。
29	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換について学ぶ。
30	演習	行列と線形変換についての総合演習を行う。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	数学I (Mathematics I)			
担当教員	児玉 宏児 教授			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	理工学系の基礎となるテイラー展開,偏微分,重積分,微分方程式について講義する.概念の理解に重点をおき,基本問題,応用問題の演習で基礎を固め,さらに応用力をつけて運用能力を高める.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】ロピタルの定理,テイラーの定理などを使って,関数の極限值,近似値などの計算ができる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
2	【A1】分数関数,三角関数などの様々な関数の不定積分を求めることができる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
3	【A1】定積分を使って,面積,体積,曲線の長さが計算できる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
4	【A1】偏導関数の計算ができ,偏導関数を応用し,極値や条件付き極値を求めることができる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
5	【A1】重積分の計算ができる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
6	【A1】微分方程式とその解について理解し,1階微分方程式,2階微分方程式が解ける.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% レポート25% 学習到達度試験3% 実力試験2% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均とする. 100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	1,2年の数学I,数学II			
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある.・レポートは夏季休業前・冬季休業前等,適宜課す.・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない.・4月の最初の授業時に2年時までの数学の内容に関する実力試験を実施し,点数を成績に加味する.・前年度の学年末休業前に課された課題の成績をレポートの成績に加味する.			

授業計画(数学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	曲線の媒介変数方程式, 極座標と曲線	媒介変数で表示された曲線の概形を調べる方法を学習する。
2	陰関数の微分法	陰関数の微分法について理解し, 計算をする。
3	不定形の極限值	ロピタルの定理を用いて不定形の極限を求める。
4	テイラーの定理	テイラー展開, マクローリン展開を使って関数の近似式を求める。
5	有理関数の不定積分	有理関数の不定積分を求める。
6	三角関数の有理式の不定積分	三角関数の有理式の不定積分を求める。
7	無理関数の不定積分	無理関数の不定積分を求める。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	面積	定積分を使って図形の面積を計算する。
10	曲線の長さ	定積分を使って曲線の長さを計算する。
11	体積	定積分を使って立体の体積を計算する。
12	広義積分	広義積分について理解し, 広義積分を計算する。
13	2変数関数	2変数関数の概念を理解し, 極限值や連続性を調べる。
14	偏導関数, 合成関数の偏導関数	偏導関数について理解し, 様々な偏導関数の計算をする。
15	全微分と接平面	全微分と接平面について理解し, 接平面の方程式を求める。
16	2変数関数の極大・極小	偏導関数を使って極値の計算をする。
17	陰関数定理	陰関数定理について理解し, 極値や特異点を求める。
18	条件付き極大・極小	条件付きの関数の極値について理解し, 極値を求める。
19	2重積分	2重積分について理解し, 計算をする。
20	積分の順序変更	積分順序の変更を理解し, 計算をする。
21	変数変換	変数変換により2重積分の計算をする。
22	体積	2重積分を使って体積を求める。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	微分方程式と解	微分方程式と一般解, 特殊解, 特異解について理解する。
25	変数分離形	変数分離形の微分方程式を解く。
26	同次形	同次形の微分方程式を解く。
27	線形微分方程式	線形微分方程式を解く。
28	2階微分方程式	2階微分方程式を1階微分方程式に直して解く。
29	定数係数2階同次線形微分方程式	定数係数2階同次線形微分方程式を解く。
30	定数係数2階非同次線形微分方程式	定数係数2階非同次線形微分方程式を解く。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	確率統計 (Probability and Statistics)			
担当教員	菅野 聡子 教授			
対象学年等	電気工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	1年次に学んだ確率の基礎を踏まえて,確率や統計の考え方を必要とする場面に直面したとき,必要な基礎的知識を講義する.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】データを解析するときの統計の考え方を理解する.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
2	【A1】確率変数と確率分布の概念を理解する.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
3	【A1】二項分布,正規分布を理解し,具体例の確率などを計算できる.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
4	【A1】推定・検定の考え方を理解し,具体例を扱える.			中間試験・定期試験,レポートで行う.
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	1年数学I,II,2年数学I,II,3年数学I			
履修上の注意事項	・授業中に電卓が必要な場合がある.・時間に余裕がある場合には,発展的な話題を扱うこともある.・レポートは冬季休業前等,適宜課す.・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない.			

授業計画(確率統計)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	1次元のデータと代表値	1次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.平均などの代表値について学習する.
2	散布度	1次元のデータにおける散布度(分散,標準偏差)の意味を理解し,その計算方法を学習する.
3	2次元のデータ	2次元のデータの整理とそれに関する基礎的な用語を学習する.共分散と相関係数について学習する.
4	回帰直線	回帰直線の方程式を学習する.
5	確率変数と確率分布	確率変数,確率分布の基本的な概念や性質を学習する.
6	二項分布,ポアソン分布	二項分布,ポアソン分布の考え方と計算方法を学習する.
7	連続型確率分布	連続型確率分布と確率密度関数の概念を学習する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	正規分布	正規分布の基礎を学習し,関連した確率の計算方法を学習する.また,二項分布の正規分布による近似について学習する.
10	母集団と標本	母集団と標本の関係,さらに標本平均の分布と中心極限定理について学習する.
11	母数の推定(1)	点推定,区間推定の考え方,信頼係数や信頼区間について学習する.
12	母数の推定(2)	母平均と母比率の区間推定について学習する.
13	統計的検定(1)	仮説検定の考え方,用語について学習する.
14	統計的検定(2)	母平均と母比率の検定について学習する.
15	演習	推定・検定の演習を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	

科 目	物理 (Physics)			
担当教員	谷口 博 准教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	物理的な事物・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第一学年では、特に物理の基礎部分である力学を学ぶ。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】等加速度直線運動の「速度と時刻」、「位置と時刻」、「速度と変位」の関係式を理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
2	【A2】運動の第1法則、第2法則、第3法則を理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
3	【A2】運動量保存の法則を理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
4	【A2】力学的エネルギー保存の法則を理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
5	【A2】つり合いの条件を理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
6	【A2】圧力と浮力について理解し、活用できる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
7	【A2】測定値の取り扱いと計算方法を理解し、有効数字の桁数に注意して計算ができる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポート・小テストで、授業内容の理解度を評価する。
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験70% レポート25% 小テスト5% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	国語、数学I、数学II			
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには、数学の知識、考えの伝達(回答やレポートの記述)や考えの享受(文章理解)の能力も必要である。数学や国語もよく勉強すること。(iii)A4ノートを購入し毎回持参すること。(iv)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。			

授業計画(物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	物理学導入,測定値の計算方法	1・2・3年次の物理で学ぶ,力学,熱,波動,電磁気,原子を概観する.測定値の計算方法を学び,有効数字について理解する.
2	直線運動1(平均の速度・加速度)	直線運動での速度と加速度の平均値について考察する.
3	直線運動2($x-t$, $v-t$, $a-t$ グラフ)	位置と時刻,速度と時刻,加速度と時刻の関係をグラフを使って考察する.
4	直線運動3(瞬間の速度・加速度)	平均の速度と瞬間の速度について考察する.
5	直線運動4(まとめ)	等加速度直線運動を数式を用いて理解する.
6	運動の法則1(力,第一法則)	力の種類と動かし易さ・難さについて考察する.
7	運動の法則2(第二法則,第三法則)	力と加速度の関係(運動方程式),2つの物体の間にはたらく力の関係(作用反作用の法則)について考察する.
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
10	運動の法則3(まとめ)	慣性の法則,運動方程式,作用反作用の法則についてのまとめを行う.
11	いろいろな直線運動1(方程式作成)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
12	いろいろな直線運動2(自由落下)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
13	いろいろな直線運動3(摩擦と斜面)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用する.
14	運動量1(力積と運動量)	「力とその力がはたらいた時間の積」と「物体の質量と速度の積」について考察する.
15	運動量2(運動量保存の法則)	作用反作用の法則から運動量保存の法則を導出する.
16	力学的エネルギー1(仕事)	物理における仕事について理解する.
17	力学的エネルギー2(運動,位置)	仕事と運動・位置エネルギーについて考察する.
18	力学的エネルギー3(保存法則)	摩擦などが無い条件での運動エネルギーと位置エネルギーの関係について考察する.
19	力学的エネルギー4(まとめ)	力学的エネルギーについてのまとめを行う.
20	平面・空間運動1(ベクトルとスカラー)	大きさと向きを持つ量と大きさだけを持つ量について,その表記方法と数学的取り扱いを理解する.
21	平面・空間運動2(速度と運動量,力)	直線運動で学んだ速度や運動量などの知識を平面や空間運動の場合に拡張する.
22	平面・空間運動3(運動方程式,仕事)	平面運動での運動方程式と仕事について考察する.
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う.
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う.
25	いろいろな空間運動4(等速円運動)	等速円運動における速さや加速度について理解する.
26	いろいろな空間運動5(惑星の運動)	ケプラーの3法則と万有引力について考察する.
27	いろいろな空間運動6(単振動)	バネ振り子の運動について考察する.
28	剛体に働く力(モーメント,つりあい)	剛体に働く力のつりあいやモーメントを理解する.
29	流体に働く力(圧力,浮力)	圧力と浮力について考察する.
30	力学の復習	1年次に学習した力学について復習を行う.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	化学 (Chemistry)			
担当教員	大塩 愛子 講師			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・3単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	我々の生活は多くの化学物質に支えられている。しかし、化学物質は便利であると共に、有害で危険な影響を及ぼすものも存在する。専門的な研究では、この影響や特性に配慮しなければならない。その為には物質の基本となる化学の知識・視点が必要となる。本科目では、化学に対する基本的な考え方と応用力を養うため、身近な物質や専門的な器具・薬品を用いた学習を行い、学生自らが考える授業を展開する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】試薬・器具を適正に取り扱い、安全に実験を行うことができる。			試験・レポート・小テストで評価する。
2	【A2】実験から得られた結果を整理し、考察を行うことができる。			試験・レポート・小テストで評価する。
3	【A2】化学の基本法則を理解し、化学反応式を元に計算をすることができる。			試験・小テストで評価する。
4	【A2】化学的に探求する態度を身に付け、社会との繋がりを理解している。			試験・小テストで評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する。(レポートと小テストを合わせた30%には黒板発表も含む。)試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。また、指示に従わず危険な行為を行ったり、実験操作や計算、片づけを行わない者は減点する。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	物理, 数学			
履修上の注意事項	講義はHR教室と化学実験室(一般科棟B棟5階)を必要に応じて使い分けて行う。教室変更の際はその都度指示をする。問題集や化学図録は適宜使用するので、毎回持参すること。			

授業計画(化学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入,純物質と混合物	授業の概要・評価の方法の説明,身の回りには,様々な化学物質があふれていることを学ぶ。
2	混合物の分離と精製	混合物に様々な処理を行うことで,純物質を取り出すことができる。その手法について学ぶ。
3	元素と単体・化合物	物質が他の物質に変換されるとき,一定の規則性に従う。物理変化と化学変化の違いなどその規則性について学ぶ。
4	原子の構造	物質の単位である原子は,さらに小さい粒子から構成されていることを学ぶ。
5	電子配置と元素の周期律	原子核のまわりの電子は,いくつかの層にわかれて運動している。その構造について学ぶ。また,元素を元素原子番号順に並べると,周期律が見られる。この周期律について,様々な角度から議論を行う。
6	イオンの形成	陽イオン,陰イオンがどのように生成するのかを考え,イオンの表し方などを学ぶ。イオンの生成に関わるエネルギーについても考える。
7	化学結合(イオン結合・共有結合・金属結合)	化学結合には様々な様式がある。その構造や強弱について学ぶ。
8	中間試験(前期)	教科書,ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
9	中間試験解説,原子量・分子量・式量	原子・分子・イオンなどの非常に小さな粒子の質量の扱いについて学ぶ。
10	物質量の考え方	分子の個数を考えるとき,物質量という概念を導入する。その解説と利用法の習得を行う。反応式の係数から,反応する物質の量的関係を学ぶ。
11	物質量と気体の体積	反応式の係数および物質量と気体の体積の関係について学ぶ。
12	化学反応式の考え方(1)	化学反応式の作り方を学ぶ。
13	化学反応式の考え方(2)	化学反応式から反応比を考え,必要な物質量の計算法を学ぶ。
14	化学の基礎法則	これまでの内容を振り返りながら,化学の基礎的な法則を解説する。
15	物質の三態とその変化	物質の三態の違い,状態変化の呼び方,状態図について学ぶ。
16	ボイルの法則,シャルルの法則	物質の状態の一つである気体状態では,圧力・体積・温度に相関が見られる。気体の体積と圧力の関係(ボイルの法則),気体の体積と温度の関係(シャルルの法則)について学ぶ。
17	ボイル・シャルルの法則	ボイル・シャルルの法則を用いることで,一定量の気体の圧力・温度・体積の関係を計算によって求めることができる。その方法について学ぶ。
18	気体の状態方程式	気体の状態方程式を用いることで,分子量を導くことができることを学ぶ。
19	沸点上昇と凝固点降下	純粋な液体に,物質を溶かすことで沸点上昇,凝固点降下が起こる。これらの現象について学ぶ。
20	溶解・電解質	液体が他の物質を溶かして均一な混合物をつくることを溶解と呼ぶ。溶解のしくみについて学ぶ。
21	溶液と濃度	溶液濃度の表記法には様々なものがある。その種類と表記法について学ぶ。
22	酸と塩基の特徴	酸・塩基の定義にはいくつかあり,その種類と特徴を学ぶ。
23	中間試験(後期)	教科書,ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	中間試験解説,酸・塩基の反応	酸と塩基が反応すると塩に加えて水が生じる。この反応を中和と呼び,その特徴を学ぶ。
25	水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度からpHを決定する。これは酸性度の指標であり,その性質を学ぶ。
26	中和反応式と塩の分類	中和反応によって生じた塩にもそれぞれ特徴がある。これらの特徴を学ぶ。
27	中和滴定	中和滴定実験を通して,酸・塩基の濃度決定方法や実験手法について学ぶ。
28	酸化と還元	酸化・還元にもいくつかの定義法があり,その特徴と理論を学ぶ。
29	金属のイオン化傾向と金属の反応	金属原子には,その種類によってイオンになりやすさが異なる。その傾向を学ぶ。
30	イオン化傾向の応用	電池は元素のイオン化傾向を利用したものであり,その原理について学ぶ。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。各試験とも,電卓の持ち込みは可とする。	

科 目	物理 (Physics)			
担当教員	高見 健太郎 講師			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	物理的な事物・現象についての観察・考察などを通して、物理学的に探究する能力と態度を育てる。さらに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、それを活用する能力を育成する。第二学年では、熱力学、電磁気学、波動の基礎を学ぶ。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】温度と熱について理解し、活用ができる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
2	【A2】電磁気について理解し、活用ができる。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
3	【A2】波動の基本的な性質を理解し、活用できるようにする。			本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで、授業内容の理解度を評価する。
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	国語、数学I、数学II			
履修上の注意事項	(i)授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。(ii)物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。(iii)授業中における携帯電話やゲーム機の使用、ならびに授業妨害につながる言動を行った者は、原則として教室より退室させ欠席扱いとする。			

授業計画(物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	温度と熱	絶対温度, 熱, 内部エネルギーなどの概念を理解する。
2	熱量	熱力学に特有な熱量, 熱容量, 比熱の概念を理解する。
3	比熱の測定	物体間の熱量の出入りから, 比熱について考察する。
4	理想気体	理想気体について成り立つ, ボイルの法則, シャルルの法則, ボイル・シャルルの法則を確認し, 理想気体の状態方程式を理解する。
5	気体の分子運動論	力学の概念を用いて, 気体の分子運動論を理解する。
6	熱力学第一法則	熱力学第一法則を理解し, その応用を考える。
7	熱力学第二法則	熱力学第二法則を理解し, その応用を考える。
8	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
10	静電気力	電荷の性質や電荷の間に働く力を理解する。
11	電界と電位	電界・電気力線・電位などを考察する。さらにガウスの法則の使い方を理解する。
12	コンデンサー	コンデンサーの仕組みを理解し, その応用を考える。
13	直流	電流と電荷の速度の関係, オームの法則, 抵抗率について理解する。
14	キルヒホッフの法則	回路において起電力の代数和が電圧降下に等しいことを理解し, キルヒホッフの法則を適用して回路を流れる電流を考察する。
15	ジュール熱	抵抗によって発生するジュール熱について理解する。また, 電力と電力量の関係を考える。
16	半導体	珪素の結晶に不純物を混ぜることにより, P型・N型半導体ができることを理解する。その組み合わせとしてのダイオードとトランジスタの働きについて考察する。
17	電流がつくる磁界	電流が磁界をつくることを理解し, 直線電流・円形電流・ソレノイドの場合などについて考察する。
18	電流が磁界から受ける力	磁界, 磁束密度, 磁束の関係を理解し, 磁界中の電流が受ける力の大きさやその方向を考察する。
19	ローレンツ力	磁界中を運動する荷電粒子が受ける力であるローレンツ力を理解する。また, その応用を考える。
20	電磁誘導	導体を貫く磁束の変化によって生じる誘導起電力について理解する。また, 直流における自己誘導・相互誘導の現象を考察する。
21	交流	交流の性質を学び, 実行値, 誘導リアクタンス, 容量リアクタンス, インピーダンスの概念を理解する。
22	電気振動と電磁波	コイルとコンデンサーの組み合わせにより電気振動が起きることを理解する。さらに, それが電磁波の送受信に関連していることを理解する。
23	中間試験	習熟度をみるために中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
25	正弦波	周期, 角振動数, 振動数, 波長などの基本的な概念と, 波動の基本の形である正弦波の表式を理解し, 自在に変形できるようにする。
26	干渉と重ね合わせの原理	波動に特有な現象として, 干渉を起こし, 重ね合わせの原理により波の振幅が決定されることを理解する。
27	自由端・固定端反射	固定端と自由端でそれぞれで反射するときに, 位相がどうずれるかを理解する。また, それによって生じる合成波について考察する。
28	定常波	互いに逆向きで同じ波長の進行波から, 定常波が生じることを理解する。
29	ホイヘンスの原理	波動の伝播の仕方が, ホイヘンスの原理に従っていることを理解する。
30	波の干渉・回折・反射・屈折	波に特有な現象である, 干渉・回折・反射・屈折の現象を理解する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	化学 (Chemistry)			
担当教員	佐藤 洋俊 准教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	高学年の専門的な研究では様々な物質を扱うため,化学的視点が欠かせない.化学物質に関する情報を身につけ,特性を生かして研究に応用し,危険性を認識して安全に配慮しなければならない.本科目では身近な物質や専門的器具・薬品を使用し,実験題材を数多く利用して学習し,基本的な考え方を養いそれらを応用できるよう学生自ら考える授業を展開していく.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】試薬・溶液の特徴に注意し,器具を適正に使用して,安全に実験を行うことができる.			試験・実験レポート・小テストで評価する.
2	【A2】実験から得られた結果について考察し,化学反応の量的関係を理解できる.			試験・実験レポート・小テストで評価する.
3	【A2】化学の基本法則を理解し,化学反応式を元に計算をすることができる			試験・実験レポート・小テストで評価する.
4	【A2】有機化合物の構造式を書くことができる.また,化学物質と社会の関わりを理解できる.			試験・実験レポート・小テストで評価する.
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する.試験成績は,中間試験と定期試験の平均点とする.試験以外は,班・個人で提出するレポートや小テストを合わせて30%で評価する.指示に従わず危険な行為を行ったり,実験操作や計算,片づけを行わない者は減点する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	物理,数学			
履修上の注意事項	化学実験室(一般科棟5階B棟)において行う.開始時刻に遅れないこと.1年化学で学んだことが必要となるので,よく復習しておくこと.			

授業計画(化学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	反応熱	上昇温度と燃焼熱の関係について実験を通じて学ぶ。
2	熱化学方程式の応用,ヘスの法則	物質の最初と最後の状態が決まれば,反応経路にかかわらず,出入りする熱量の総和は一定である.実験を通じて学ぶ。
3	18族元素と水素	水素は宇宙に最も多く存在し,水などの化合物としても存在している.希ガスはその電子配置のため,化合物をつくりにくい.実験を通じて学ぶ。
4	17族元素(ハロゲン)	ハロゲンの単体は二原子分子で,酸化力が強い.塩素は反応性が大きく,刺激臭をもつ黄緑色の有毒な気体である.実験を通じて学ぶ。
5	16族元素(酸素,硫黄)とその化合物	硫酸は強い酸性を示し,金属と反応する硫黄の化合物である.酸素は地殻に最も多く存在し,酸素分子やオゾンの同素体がある.実験を通じて学ぶ。
6	リンと窒素,窒素化合物	窒素化合物のうち,アンモニアは無色,刺激臭の気体であり,水溶液は弱アルカリ性である.実験を通じて学ぶ。
7	アンモニアの実験	アンモニアを利用した実験を通じて,その性質を学ぶ。
8	中間試験(前期)	教科書,ノートの持ち込みは不可,計算機の持ち込みは事前に指示する。
9	アルミニウムの単体とイオン,鉛	アルミニウムイオンの性質を鉄(III)イオンと比較しながら,実験を通じて学ぶ。
10	炭素とケイ素	ダイヤモンドと黒鉛の違い,一酸化炭素と二酸化炭素の違いについて学ぶ。
11	アルカリ金属と2族元素	アルカリ金属は1価の陽イオンになりやすい.単体は密度が小さく,極めて反応性に富んでいる.マグネシウムは反応性に富む.その化合物は日常生活の中で活用されている.実験を通じて学ぶ。
12	鉄の化合物,銀の化合物	鉄はイオン化傾向が大きく,2種類のイオンが存在する.それぞれが特有の反応を示す.実験を通じて学ぶ。
13	銅とその化合物,金,白金	銅は電気及び熱伝導度が大きく,日常生活でよく利用されている.そのイオンは反応によって様々な色を呈する。
14	金属の反応	主な金属の反応式と量的関係について学ぶ。
15	金属イオンの分離	数種の金属イオンを含む水溶液から各金属イオンを分離し,確認する実験操作を行う。
16	金属イオンの分離(2)	未知試料溶液から各金属イオンを分離し,分離分析を行い,まとめる。
17	有機化合物	炭素を含む化合物を有機化合物という.構成元素は少なく,化合物の種類は非常に多い。
18	アルコール	アルコールはヒドロキシル基をもつ.数種のアルコールについて,性質を調べ,構造との関わりを考える.実験を通じて学ぶ。
19	アルコールの分解	アルコールは数度酸化された後,二酸化炭素と水に分解される.アルデヒドは分子中にアルデヒド基をもち,還元性がある.実験を通じて学ぶ。
20	ケトン・エステル化	酢酸などカルボキシル基をもつ化合物をカルボン酸という.カルボン酸とアルコールを縮合するとエステルが生成する.実験を通じて学ぶ。
21	炭化水素,分子モデルと構造異性体,化学式の決定	アルコールの構造,性質を元に炭化水素について考える.構造式の書き方を学び,異性体について考える。
22	構造異性体	分子式を基に構造異性体の構造式を書く方法を学ぶ。
23	中間試験(後期)	教科書,ノートの持ち込みは不可,計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	元素分析	元素分析計算を行い,組成式,分子式,構造式を導く方法を学ぶ。
25	立体異性体	シス・トランス異性体と光学異性体について学ぶ。
26	油脂とけん化	油脂は脂肪酸とグリセリンのエステルである.水酸化ナトリウムを用いてけん化実験を行う。
27	芳香族化合物	ベンゼン環をもつ化合物を芳香族化合物という.芳香族炭化水素にはベンゼンやトルエンなどがある.実験を通じて学ぶ。
28	芳香族化合物(2)	身近な芳香族化合物について学ぶ。
29	高分子化合物	高分子化合物が生活の中でどのように利用されているかを実験を通じて学ぶ。
30	身の回りの化学物質と人間との関わり	無機及び有機化合物などの化学物質が社会にどのように生かされてきたか,どのような害を及ぼすことがあるか学ぶ。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	生物 (Biology)			
担当教員	森 寿代 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・2年・後期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	本科目では,生命の単位である細胞の構造と機能,生命活動を維持するしくみ,生物が同じ種を残すしくみを学習する.生命科学の諸問題に関心をもち,理解するための一助となるよう,生物学の基礎的な素養を身につける.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】細胞の構造と細胞小器官の機能を理解する.			細胞の構造と細胞小器官の機能を理解できているか,試験で評価する.
2	【A2】細胞膜の構造と機能を理解する.			細胞膜の構造と機能を理解できているか,試験で評価する.
3	【A2】生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解する.			生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解できているか,試験で評価する.
4	【A2】減数分裂と連鎖と組換えによって配偶子に多様性が生じることを理解する.			減数分裂と連鎖と組換えによって配偶子に多様性が生じることを理解できているか,試験で評価する.
5	【A2】遺伝の法則と遺伝子間の相互作用について理解する.			遺伝の法則と遺伝子間の相互作用について理解できているか,試験で評価する.
6	【A2】DNAの構造とタンパク質合成の過程を理解する.			DNAの構造とタンパク質合成の過程を理解できているか,試験で評価する.
7	【A2】実験の目的を理解し,結果に対して授業内容を基に考察できる.			実験の目的を理解し,結果に対して授業内容を基に考察できているか,レポートで評価する.
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験80% レポート20% として評価する.試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	特になし			
履修上の注意事項	特になし			

授業計画(生物)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	細胞小器官のはたらき(1)	細胞を構成する細胞小器官のはたらきと構造,細胞小器官どうしのかかわり合いについて理解する。
2	細胞小器官のはたらき(2),細胞骨格	細胞を構成する細胞小器官のはたらきと構造,細胞小器官どうしのかかわり合いについて理解する。細胞骨格のはたらきについて理解する。
3	細胞膜のはたらき(1)	細胞膜のはたらきや構造,半透性と浸透圧について理解する。
4	細胞膜のはたらき(2)	選択的透過性や受動輸送および能動輸送のしくみ,イオンチャネル,イオンポンプのしくみについて理解する。
5	DNAと染色体	DNAの存在場所やDNAの構造を理解する。
6	DNAとタンパク質合成	タンパク質合成に伴う情報の流れを確認し,転写および翻訳のしくみについて理解する。
7	実験:薄層クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験	光合成色素を植物組織から抽出し,それがどのような色素群で構成されているかを調べる。
8	中間試験	中間試験をおこなう。
9	生殖の方法	生物によって異なる生殖の方法(無性生殖・有性生殖)を理解する。
10	減数分裂	減数分裂のしくみと減数分裂で生じる配偶子の遺伝的多様性について理解する。
11	遺伝子の連鎖と組換え	連鎖と組換えについて学習し,配偶子に多様性が生じることを理解する。組換え価から染色体地図が作成されるしくみについて理解する。
12	動物の配偶子形成と受精	減数分裂による精子と卵の形成と受精の過程,および卵割の過程について学ぶ。
13	遺伝の法則	メンデルの実験とメンデルの遺伝の法則について理解する。検定交雑について理解する。
14	遺伝子間の相互作用,性と遺伝	遺伝子のはたらきあいにより見られるいろいろな遺伝現象について理解する。複対立遺伝子について理解する。性決定の仕組みと,雌雄に共通する性染色体上の遺伝子による遺伝(伴性遺伝)について理解する。
15	演習	総合演習をおこなう。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	物理 (Physics)			
担当教員	大多喜 重明 教授			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	第二学年までに身につけた物理学の知識・思考方法をもとにして、音波・光波および初等的な原子物理を理解し、自ら考え応用し、探求する力を身につける。各分野の基礎的な事項をよく理解し、工学的な応用を視野に入れて、自ら探求する契機を提供する。授業は、国立高専到達度試験への対策を視野に入れ、問題演習(実験を含む)を交えて、テキストに従い行う。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】波動の基礎的な概念とともに、音波と光波の具体的な性質を理解する			中間・定期試験とレポートで評価する。
2	【A2】前期量子論と原子・原子核・素粒子物理の初等的な知識を、科学的な視点とともに理解する。			中間・定期試験とレポートで評価する。
3	【A2】全国高専到達度試験の対策を兼ね、基礎的な問題を自ら考え、解く力を身につける。また、基礎的な実験を通して、これまでに学んだ物理現象の説明と考察が出来るようになる。			中間・定期試験とレポート、小テストで評価する。
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験70% レポート25% 小テスト5% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。小テストには、到達度試験成績も含まれる。最終成績は、100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	国語、数学I、数学II、応用物理ほかの専門科目			
履修上の注意事項	授業計画とテキストに従い、必ず予習をすること。学んだことを定着させるため、必ず復習や問題演習等の自習学習を行うこと。物理を理解するためには数学的知識は必須となるので、数学をしっかりと勉強すること。また、考えの伝達・享受の能力も必要なので、国語も勉強すること。			

授業計画(物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	光の進み方{眼と光学機器}	シラバス説明後,光の進み方についての講義を行う。
2	直線上を伝わる波1{波の基本式,正弦波}	周期,角振動数,振動数,波長などの基本的な概念と,波動の基本の形である正弦波の表式を理解し,自在に変形できるようにする。
3	直線上を伝わる波2{重ね合わせの原理と反射波}	重ね合わせの原理,固定端反射,自由端反射について学ぶ。
4	平面・空間を伝わる波	波動の伝播の仕方が,ホイヘンスの原理に従っていることを理解し,イメージできるようにする。
5	音波1{音の発生,音の速さ,音の三要素}	音の発生と伝播および音の三要素について解説する。
6	音波2{うなり,共鳴}	これまでに学んだ波性質から,うなりと共鳴について考える。
7	音波3{ドップラー効果}	緊急車両がサイレンを鳴らして近づくときと遠ざかるときでは,音の高さが異なる,このことについて考える。
8	中間試験	1～7週の範囲で試験を行う。
9	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
10	光波1{反射と屈折,回折と干渉}	光波の反射と屈折,2本のスリットによる光の回折と干渉を考える。
11	光波2{薄膜による光の干渉}	シャボン玉に色が付くのはなぜか,薄膜による干渉を考える。
12	光波3{偏光,分散,散乱}	光は横波であるが,自然光は進行方向に垂直な面であらゆる方向に振動している。一つの方向に振動が偏った光をつくとどのようなことが起きるだろうか。また,夕日は赤く,空はなぜ青いのか,これらについて解説する。
13	原子と原子核1	原子の構造について,科学史的な視点をふまえて水素原子を例に解説する。
14	原子と原子核2	原子核と原子核崩壊,放射線について解説する。
15	原子と原子核3	核融合と核分裂,核エネルギーについて解説する。
16	演習:変位・速度・加速度	テーマ範囲を演習する。1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
17	演習:力の性質と運動方程式	テーマ範囲を演習する。1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
18	演習:力学的エネルギー・運動量	テーマ範囲を演習する。1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
19	演習:円運動・単振動・万有引力	テーマ範囲を演習する。1年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
20	演習:熱	テーマ範囲を演習する。2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
21	演習:波動	テーマ範囲を演習する。3年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
22	演習:電気	テーマ範囲を演習する。2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説を行う。
25	演習:磁気	テーマ範囲を演習する。2年生の該当範囲を復習し,過去問を調べておくこと。
26	演習:総まとめ	学習到達度試験の領域の問題演習をする。
27	演習:総まとめ	「光波」と「光学機器」の範囲を演習する。
28	放射線基礎	放射線と放射能の違い,放射線に関する単位,放射線の性質・種類,等の基礎知識ならびに,放射線防護の基本,自然放射線と人工放射線の違い,放射線被ばくと放射線汚染の違い,放射線量の測定方法について学ぶ。また,次週の実験の解説を行う。
29	放射線基礎実験	放射線に関する実験(放射線源の線量測定,霧箱実験)を行い,結果をレポートにまとめる。
30	素粒子	素粒子について,クォーク模型の概要を解説する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	英語 (English)			
担当教員	今村 一博 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)			
授業の概要と方針	4技能のバランスに配慮しながら,第1学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,授業に積極的に参加し,発表すること,英語音声を利用した演習を行うことが強く求められる.リーディングについては,英語多読を実施し,読解力を効率的に高める.また英検受験を推奨する.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】1年次レベルの語彙・表現を習得する.			1年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
2	【B3】1年次レベルの文法項目を習得する.			1年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
3	【B3】1年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.			1年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
4	【B3】1年次レベルの英語を聴いて正しく理解したり,リピートしたりできる.			1年次レベルの英語を聴いて正しく理解したり,リピートしたりできるかを,中間・定期試験または演習で評価する.
5	【B3】易しく長い英文を速く沢山読むことができる.			易しく長い英文をスラスラ速く沢山読むことができるかを,演習で評価する.課外で易しい英語を読んだ量を評価する.
6	【D2】英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.			異文化の諸事情について理解できているかを,演習で評価する.
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% 演習・レポート30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.授業中の演習が十分に行われない場合,原則として年間総合評価は不可となる.(自主的に英検を受験し合格した場合,評価の一部に入れる.)			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.			
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること.			

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	英語学習の心構え. 予習復習の仕方の説明, 力試し等
2	Lesson 1 Get Your Goal with English	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. SVC・SVO / 現在形・過去形 / 未来の表現
3	Lesson 1 Get Your Goal with English	第2週と同じ
4	Lesson 2 Around the World	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. SVOC / SVOO / 不定詞(名詞用法)
5	Lesson 2 Around the World	第4週と同じ.
6	Lesson 3 How Our Brain Works	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. 動名詞/ SVO(=that 節)/ 比較表現 / 不定詞(副詞用法)
7	Lesson 3 How Our Brain Works	第6週と同じ.
8	中間試験	それまでに学習したことについて試験を行う.
9	Lesson 4 My Cool Japan	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. 関係代名詞 / 不定詞(形容詞用法) / 現在完了形 / 受け身
10	Lesson 4 My Cool Japan	第9週と同じ.
11	Lesson 4 My Cool Japan	第9週と同じ.
12	Lesson 5 The History of Ice Cream	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. SVO + to不定詞 / 過去分詞の後置修飾 / It is ~ for - to do / 現在分詞の後置修飾
13	Lesson 5 The History of Ice Cream	第12週と同じ.
14	Lesson 5 The History of Ice Cream	第12週と同じ.
15	Lesson 6 The Hands	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. SVOO(=that 節) / 形式主語 It is ~ that... / 関係代名詞(主格・目的格) / 現在完了進行形
16	Lesson 6 The Hands	第15週と同じ.
17	Lesson 6 The Hands	第15週と同じ.
18	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. 過去完了形 / 関係代名詞 what / SVOC(=原形不定詞) / 助動詞の受け身
19	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	第18週と同じ.
20	Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	第18週と同じ.
21	Lesson 8 English or Kanji?	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. 分詞構文 / 関係副詞 when / 強調構文 It is ~ that... / SVOC(=過去分詞)
22	Lesson 8 English or Kanji?	第21週と同じ.
23	中間試験	それまでに学習したことについて試験を行う.
24	Lesson 8 English or Kanji?	第21週と同じ.
25	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. as if ~ / 仮定法過去 / 関係副詞 why / 仮定法過去完了
26	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	第25週と同じ.
27	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	第25週と同じ.
28	Lesson 10 Gratitude for Life	英文の伝えたいことを正確に把握し, それに対して自分の感想, 意見を持つ. 過去完了の受け身 / 関係副詞 how / 関係副詞 where / 同格 that
29	Lesson 10 Gratitude for Life	第28週と同じ.
30	Lesson 10 Gratitude for Life	第28週と同じ.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	英語 (English)			
担当教員	前田 誠一郎 特任教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)			
授業の概要と方針	1学年で学習した内容を確実にした上で,さらに4技能のバランスにも配慮しながら,高専での英語教育の基本と 第2学年として必要な英語力を総合的に身につける.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,また授業に積極的に参加し,発表することが求められる.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】2年次レベルの語彙・表現を習得する.			2年次レベルの語彙・表現を習得できているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
2	【B3】2年次レベルの文法項目を習得する.			2年次レベルの文法項目を理解しているかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
3	【B3】2年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.			2年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間・定期試験及び演習で評価する.
4	【D2】英文を通して,異文化に属する人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.			異文化の諸事情について知識が豊かになったかを,演習で評価する.
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% 課題,演習等30% として評価する.			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.			
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞書を持参すること.			

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction	シラバス解説,英語学習の心構え,予習復習の仕方等.
2	Lesson 1 Ambassador of World Peace	サクラの花は世界平和の親善大使.現在完了形(受け身と進行形)の復習/関係副詞の復習/It+seemなど+that節
3	Lesson 1 Ambassador of World Peace	第2週と同じ
4	Lesson 2 Dogs as Human Companions	人間の伴侶としてのイヌ.形式主語it(that節やto不定詞を指すもの)の復習/過去完了形の復習/分詞構文(現在分詞)の復習
5	Lesson 2 Dogs as Human Companions	第4週と同じ
6	Lesson 3 The Culture of Bowing	世界の中のおじぎの文化.S+V+C(=現在分詞)/The+比較級,the+比較級/仮定法過去の復習
7	Lesson 3 The Culture of Bowing	第6週と同じ
8	中間試験	これまでに学習内容の理解を問う.
9	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	植物でできた浮き島での暮らし.形式目的語it(to不定詞を指すもの)/過去完了進行形/関係代名詞whichの非制限用法/前置詞+関係代名詞
10	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	第9週と同じ
11	Lesson 4 The Floating Islands of Lake Titicaca	第9週と同じ
12	Lesson 5 Optical Illusion	錯覚・錯視の世界.同格を表すthat/関係代名詞whoの非制限用法/S+V+C(=過去分詞)/関係副詞where,whenの非制限用法
13	Lesson 5 Optical Illusion	第12週と同じ
14	Lesson 5 Optical Illusion	第12週と同じ
15	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	世界の高校生はどんな教科書で学んでいるのか.倒置構文/強調構文/S+V+O+C(=過去分詞)/S+V+C(=疑問詞節)
16	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	第15週と同じ
17	Lesson 6 English Textbooks from Around the World	第15週と同じ
18	Lesson 7 The Hayabusa Project	宇宙探査船「はやぶさ」の軌跡.分詞構文(過去分詞)/否定を表す形容詞・副詞/助動詞+完了形/未来進行形
19	Lesson 7 The Hayabusa Project	第18週と同じ
20	Lesson 7 The Hayabusa Project	第18週と同じ
21	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	サンタクロースの起源と変遷.wish+仮定法過去/分詞構文(完了形)/S+V+(O)+O(=whetherまたはif節)/形式目的語it(that節を指すもの)
22	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	第21週と同じ
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う.
24	Lesson 8 The Origin of Santa Claus	第21週と同じ
25	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	タイタニック号に乗船していた唯一の日本人.付帯状況を表すwith/to不定詞の完了形/さまざまな譲歩の表現/仮定法過去完了
26	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	第25週と同じ
27	Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic	第25週と同じ
28	Lesson 10 Agroforestry	「森をつくる農業」アグロフォレストリーとは.未来完了形/仮定法(if節に代わる語句や節をとこなうもの)/as if+仮定法/whichの非制限用法(前の節の内容全体を受けるもの)
29	Lesson 10 Agroforestry	第28週と同じ
30	Lesson 10 Agroforestry	第28週と同じ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	英語 (English)			
担当教員	柳生 成世 特任教授			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)			
授業の概要と方針	1,2学年で学習した内容を確実にした上で,さらに4技能のバランスにも配慮しながら,特にリーディング力の充実を図る.演習科目でもあるので,授業中に指示される方法で予習・復習を必ず行い,また授業に積極的に参加し,発表すること,英語音声を利用した練習を行うことが強く求められる.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】3年次レベルの語彙,表現を習得する.			3年次レベルの語彙,表現を習得できているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
2	【B3】3年次レベルの文法項目を習得する.			3年次レベルの文法項目を習得しているかを,中間,定期試験および演習で評価する.
3	【B3】さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できる.			さまざまなReading Skillを把握して,3年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを,中間,定期試験および演習で評価する.
4	【D2】英文を通して,外国の人々の文化,生活様式,物の見方が理解できる.			外国の諸事情について知識が豊かになったかを,中間,定期試験および演習で評価する.
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% レポート・演習等30% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.			
履修上の注意事項	電子辞書,または英和辞典を持参すること.			

授業計画(英語)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Prep. 1 & Prep. 2	Reading Strategy: フレーズリーディングと表現の言い換え
2	Prep. 3 & Prep. 4	Reading Strategy: 段落の構成, 時間的順序の展開パターン
3	Prep. 5 & Prep. 6	Reading Strategy, 例示・列挙の展開パターン, 意見・根拠の展開パターン
4	Lesson 1 Secrets of Lucky People	パラグラフと文の構造: スピーチ: スティーブ・ジョブズ氏の公演から, 「幸運な人」と呼ばれる人びとが知識と経験をうまく活用していることを読む。
5	Lesson 1 Secrets of Lucky People	第4週と同じ。
6	Lesson 2 The History of the Croissant	意見を述べる文を身につける: 説明文: クロワッサンの誕生にまつわるいくつかの伝説を読み, 身近なものに関する文化や歴史について, 興味を持つ。
7	Lesson 2 The History of the Croissant	第6週と同じ。
8	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
9	中間試験の解説 Prep. 7 & Prep. 8	後期中間試験の解答と解説. Reading Strategy: 比較・対照の展開パターン, 原因・結果の展開パターン
10	Lesson 3 Space Junk	因果関係を踏まえて意見を述べる: 説明文: 宇宙ごみの問題について, 宇宙ごみが生み出される理由や危険の種類, 解決策などを読む。
11	Lesson 3 Space Junk	第10週と同じ。
12	Lesson 3 Space Junk	第10週と同じ。
13	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	意見と根拠: 説明文: 犬にレインコートを着せることを例に, 動物の真の気持ちを人間は誤解しているという意見を読む。
14	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	第13週と同じ。
15	Lesson 4 Do We Know How Animals Really Feel?	第13週と同じ。
16	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	例示・列挙: 説明文: 脳とコンピュータをつなぐインターフェイスの仕組みと今後の展望を, 様々な活用例を通して理解する。
17	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	第16週と同じ。
18	Lesson 5 Interfaces Break Down Walls	第16週と同じ。
19	Lesson 6 Is “Free” Trade the “Best” Trade?	比較・対照: 論説文: 世界の「自由」貿易について, 保護貿易との比較を通じて基本的な理解を得るとともに, その問題を考える。
20	Lesson 6 Is “Free” Trade the “Best” Trade?	第19週と同じ。
21	Lesson 6 Is “Free” Trade the “Best” Trade?	第19週と同じ。
22	L5とL6の復習・演習	既習部分の復習(音読等を含む)を行い, 定着を図る。
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
24	中間試験の解説とLesson 7 The Power of Friendship	後期中間試験の解答と解説. 論説文: 様々な調査結果から, 友情が健康に与える影響はもっと評価すべきという著者の主張を理解する。
25	Lesson 7 The Power of Friendship	論説文: 様々な調査結果から, 友情が健康に与える影響はもっと評価すべきという著者の主張を理解する。
26	Lesson 7 The Power of Friendship	第25週と同じ。
27	Lesson 8 What a Small World!	論説文: 人のネットワークをたどることで世界中の人びとに容易に結びつけるという理論について, 批判的に考察する。
28	Lesson 8 What a Small World!	第27週と同じ。
29	Reading 1 A Doctor, a Father, and His Son	登場人物の心理の変化を読み取る: 物語: 作家の大江健三郎氏が, 障害を抱えて生まれた息子の光さんと, ともに前に向かって生きようという勇気を得た, 広島島の医師の話を読む。
30	Reading 1 A Doctor, a Father, and His Son	第29週と同じ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。学生の状況から判断して, 進度等を変更することがある。	

科 目	英語演習 (The Practice of English)			
担当教員	Pileggi, Mark Andrew 准教授			
対象学年等	電気工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(80%), D2(20%)			
授業の概要と方針	This class is the first time for students to have English class focusing on communication skills of speaking and listening. TOEIC Bridge study tips will also be introduced for the first time in this class.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【B3】英語による基本的なコミュニケーションができる。			英語による基本的なコミュニケーションができるかどうかを演習で評価する。
2	【B3】さまざまなコミュニケーション場面の、英語話者の発音を聞き取ることができる。			授業中の質疑・応答を通して、学生のリスニング能力を評価する。
3	【B3】TOEIC試験対策の基礎を演習し、身につける。			TOEIC対策の基礎が身についているかどうかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
4	【D2】アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できる。			アメリカの文化的内容について英語で書かれたものを理解できるか、中間試験・定期試験、およびレポートで評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験60% 演習30% TOEIC Bridgeの取得10% として評価する。			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目は、これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する。			
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書を含む)を準備すること。			

授業計画(英語演習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the Course	Overview of the course — Assessment of students' English proficiency.
2	TOEIC Bridge Test Introduction	Basic info about the test, the different parts and the way to fill out the test sheet.
3	English Conversation and American Culture(1)	Self-introductions, Conversation Strategies - Rejoinders. American greeting styles and language.
4	TOEIC Bridge Tips(2)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
5	English Conversation and American Culture(2)	American trivia and information exchange. Conversation Strategies – Follow up Questions.
6	TOEIC Bridge Tips(3)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
7	English Conversation and American Culture(3)	Conversation strategies – Confirmation questions and review for midterm test.
8	中間試験	Midterm test and assessment.
9	TOEIC Bridge Tips(4)	Go over midterm. Continue introducing TOEIC Bridge Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
10	English Conversation and American Culture(4)	Discussion about family and travel. Conversation Strategies – Clarification Questions.
11	TOEIC Bridge Tips(5)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
12	English Conversation and American Culture(5)	Video about American lifestyle and holidays.
13	TOEIC Bridge Tips(6)	Introducing TOEIC Bridge test in sections with practice work and vocabulary lists.
14	English Conversation and American Culture(6)	Conversation Strategies – Keeping or killing the conversation
15	Final class review	Review of all test sections, vocabulary and prepare for final test.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。Midterm and final tests created from about 1/3 homework data, 1/3 TOEIC Bridge data, 1/3 Conversation Strategies data	

科 目	英語演習 (The Practice of English)			
担当教員	(前期)Pileggi Mark Andrew 准教授 (後期)John Miller 非常勤講師, 平野 洋平 講師			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(90%), B4(10%)			
授業の概要と方針	前期: Class alternates between English conversation skills and TOEIC test taking skills. American Culture and Global topics also introduced. 後期: クラスを2つに分け, 前半と後半で学生が入れ替わる. 外国人講師の授業では英語での自己表現技術を, 日本人教師による授業では, TOEIC問題の解法を学習する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【B4】TOEIC試験対策の基礎を演習し身につける.			TOEIC対策の基礎が身についているかどうかを, 中間試験・定期試験, 演習で評価する.
2	【B3】英語による基本的なコミュニケーションができる.			授業中の質疑・応答を通して, 各学生のコミュニケーション能力を評価する.
3	【B3】正しい英語の発音ができる.			授業中の質疑・応答を通して, 各学生が正しい発音ができるかどうかを評価する.
4	【B3】さまざまなコミュニケーション場面の, 英語話者の発話を聞き取ることができる.			授業中の質疑・応答を通して, 各学生のリスニング能力を評価する.
5	【B3】コミュニケーションに必要な英語の語彙, 文法を理解できる.			授業中に取り扱った重要語彙, 文法項目についての知識を中間試験・定期試験, 演習で評価する. 評価する.
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は, 試験60% 演習30% TOEIC Test10% として評価する. 前期は, 到達目標1,5を中間・定期試験40%, 演習5%で評価する. 後期は, 到達目標2~4を演習20%, 到達目標1,5を中間・定期試験20%, 演習5%で評価する. 到達目標1をTOEIC Test 10%で評価する. 100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.			
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること.			

授業計画(英語演習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency
2	English Conversation (1)	Introducing yourself; introducing others; checking information, exchanging personal information
3	English Conversation (2),TOEIC 演習(1)	Describing school and daily schedules, Unit 1 Restaurant
4	TOEIC 演習(2)	Unit 1 Restaurant and Unit 1 Quiz
5	English Conversation (3)	Talking about likes and dislikes
6	TOEIC 演習(3)	Unit 2 Entertainment
7	English Conversation (4), TOEIC 演習(4)	Talking and describing about families, Unit 2 Entertainment and Unit 2 Quiz
8	Midterm Test	Review and Assessment
9	English Conversation (5),TOEIC 演習(5)	Asking about and describing routines and exercise(1), Unit 3 Business
10	English Conversation (6)	Asking about and describing routines and exercise(2)
11	TOEIC 演習(6)	Unit 3 Business and Unit 3 Quiz
12	English Conversation (7)	Talking about past events
13	TOEIC 演習(7)	Unit 4 Office
14	TOEIC 演習(8) English Conversation (8)	TOEIC Unit 4 Office. Giving opinions about past experiences; talking about vacations
15	Conversation (9) (Review)	Creative English Conversation inspiring activities (Review for Midterm)
16	English Conversation (1)	Overview of the course - International Introductions
17	English Conversation (2)	Jobs and routines
18	English Conversation (3)	Describing routines using adverbs of frequency
19	English Conversation (4)	Shopping, numbers and prices
20	English Conversation (5)	Describing where classmates live using prepositions of space.
21	English Conversation (6)	Asking about life experiences (Have you ever...)
22	English Conversation (7)	Writing a postcard, simple past.
23	English Conversation (8)	Show and tell, passive tense.
24	TOEIC 演習(9)	後期授業におけるTOEIC学習の説明 及び Unit 5 Telephone
25	TOEIC 演習(10)	Unit 5 Telephone, Unit 6 Letter & E-mail
26	TOEIC 演習(11)	Unit 6 Letter & E-mail
27	TOEIC 演習(12)	Unit 7 Health
28	TOEIC 演習(13)	Unit 7 Health, Unit 8 Bank & Post Office
29	TOEIC 演習(14)	Unit 8 Bank & Post Office, Unit 9 New Products
30	TOEIC 演習(15)とまとめ	Unit 9 New Products 後期 TOEIC 学習内容のまとめ
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	英語演習 (The Practice of English)			
担当教員	(前期)上垣 宗明 教授, Miller 非常勤講師 (後期)Pileggi, Mark 准教授			
対象学年等	電気工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B3(70%), B4(30%)			
授業の概要と方針	前期は,クラスを2つに分け,少人数教育を実施する.授業計画の2回~8回と9回~15回がセットになっており,学生は入れ替わることになる.前期授業の半分は,英語で発信できる技術者を目指し,自分の考えを英語で発表するための技術の基本を学習する.前期授業の半分と後期の授業では,科学技術やその他のテーマを扱った英文とTOEICテストを演習形式で学習する.また,プレゼンテーション・コンテストに向けた演習も実施する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【B3】英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できる.			英語の論理展開を理解し,プレゼンテーション用原稿作成に利用できているかどうか,原稿チェック時に評価する.
2	【B3】プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を理解し実践できる.			プレゼンテーションのための態度や提示の基本的方法を実践できているかどうか,発表会で評価する.
3	【B4】科学技術やその他のテーマに関する英文を読み,正確に英文を読み取ることができる.			科学技術やその他のテーマに関する英文の読解力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
4	【B4】科学技術やその他のテーマに関する語彙を増加させる.			科学技術やその他のテーマに関する語彙力は,演習と中間試験および定期試験で評価する.
5	【B3】TOEICテストの演習を数多くこなすことにより,TOEICのスコアを向上させることができる.			TOEICテストに関しては,演習と中間試験および定期試験で評価する.
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	前期:到達目標1と2の原稿提出と発表会で15%,到達目標3~5の中間試験・定期試験35%で評価する.後期:到達目標3~5の中間試験・定期試験で35%,演習で5%,到達目標1と2の10%で評価する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目は,これ以外の英語科が開講するすべての科目に関連する.			
履修上の注意事項	電子辞書または英和・和英辞典を持参すること.また,指示された課題や,予習・復習を確実に行うこと.			

授業計画(英語演習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	教員紹介, 少人数授業のためのグループ分け, 授業の進め方・内容についてのガイダンスを行う。
2	プレゼンテーション分析(1)	この回から15回目までは2グループに分かれて, グループごとの授業。プレゼンテーションの実践例に触れ, 英文の構成, 表現, 図の提示, 発表態度などについて分析し理解する。
3	プレゼンテーション分析(2)	2回目と同じ。
4	原稿作成実践(1)	自分が発表したい題目を選び, プレゼンテーションのための原稿を作成する。その際, 2〜3回目で学習した内容を反映させるように指導する。
5	原稿作成実践(2)	書き言葉と話し言葉の差に注意を喚起し, 準備している原稿の英文を洗練させる。発表時の態度についても再度指導する。
6	発表会(1)	授業を受ける20名の学生のうち半数の10名が, 準備した原稿や図をもとにプレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
7	発表会(2)	前回と同様に残りの10名が, プレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
8	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
9	科学技術英語読解演習: テキストLesson 1 (1),(2)と TOEIC 演習(1)	科学技術英語読解演習(Numbers and Calculation)とTOEIC演習を行う。
10	科学技術英語読解演習: テキストLesson 1 (3),(4)と TOEIC 演習(2)	科学技術英語読解演習(Numbers and Calculation)とTOEIC演習を行う。
11	科学技術英語読解演習: テキストLesson 2 (1),(2),(3)と TOEIC 演習(3)	科学技術英語読解演習(Figures)とTOEIC演習を行う。
12	科学技術英語読解演習: テキストLesson 2 (4),(5)と TOEIC 演習(4)	科学技術英語読解演習(Figures)とTOEIC演習を行う。
13	科学技術英語読解演習: テキストLesson 3 (1),(2),(3)と TOEIC 演習(5)	科学技術英語読解演習(State of Substance)とTOEIC演習を行う。
14	科学技術英語読解演習: テキストLesson 4 (1),(2),(3)と TOEIC 演習(6)	科学技術英語読解演習(Graphs and Functions)とTOEIC演習を行う。
15	科学技術英語読解演習: テキストLesson 5 (1),(2)と TOEIC 演習(7)	科学技術英語読解演習(Human Body)とTOEIC演習を行う。これまでに学習してきた内容の復習と補充を行う。
16	前期試験の解答とプレゼンテーションの準備1	前期試験の解答と解説。プレゼンテーション・コンテストの説明。
17	プレゼンテーションの準備2	プレゼンテーションの原稿作成。
18	プレゼンテーションの発表会1	プレゼンテーションの発表会を実施する。
19	プレゼンテーションの発表会2	プレゼンテーションの発表会を実施し, 校内のコンテストに出場する代表を決定する。
20	科学技術英語読解演習: テキストLesson 5 (3),(4)と TOEIC 演習(8)	科学技術英語読解演習(Human Body)とTOEIC演習を行う。
21	科学技術英語読解演習: テキストLesson 6 (1),(2)と TOEIC 演習(9)	科学技術英語読解演習(Electricity)とTOEIC演習を行う。
22	科学技術英語読解演習: テキストLesson 6 (3),(4)と TOEIC 演習(10)	科学技術英語読解演習(Electricity)とTOEIC演習を行う。
23	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
24	中間試験の解答。科学技術英語読解演習: テキストLesson 7 (1)と TOEIC 演習(11)	中間試験の解答と解説。科学技術英語読解演習(Heat)とTOEIC演習を行う。
25	科学技術英語読解演習: テキストLesson 7 (2),(3)と TOEIC 演習(12)	科学技術英語読解演習(Heat)とTOEIC演習を行う。
26	科学技術英語読解演習: テキストLesson 8 (1),(2)と TOEIC 演習(13)	科学技術英語読解演習(Stars and Planets)とTOEIC演習を行う。
27	科学技術英語読解演習: テキストLesson 8 (3),(4)と TOEIC 演習(14)	科学技術英語読解演習(Stars and Planets)とTOEIC演習を行う。
28	科学技術英語読解演習: テキストLesson 9 (1),(2),(3)と TOEIC 演習(15)	科学技術英語読解演習(Ions)とTOEIC演習を行う。
29	科学技術英語読解演習: テキストLesson 10 (1),(2)と TOEIC 演習(16)	科学技術英語読解演習(Energy)とTOEIC演習を行う。
30	科学技術英語読解演習: テキストLesson 10 (3),(4)と TOEIC 演習(17)	科学技術英語読解演習(Energy)とTOEIC演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期の中間試験と定期試験については, 2つのグループに分けて授業を行うため, グループごとに実施する。	

科 目	国際コミュニケーション(ドイツ語) (German for International Communication)			
担当教員	本田 敏雄 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	D2(100%)			
授業の概要と方針	日常生活に必要な表現を学ぶことを通してドイツ語の初歩的知識と文法を習得する。中学3年, 高専3年間の英語の知識の蓄積を利用(動詞の3基本形の早期の導入)して授業をすることで, ここで学んだことが逆に英語学習へフィードバックされること, 又この複数外国語学習体験が, 将来的に仏語, 西語等に進んだ場合にも生かされることを目指す。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】ヨーロッパ諸言語の成立についての基礎知識を持つ。			年度末にレポートで評価する。
2	【D2】言語を文化として理解する。			年度末にレポートで評価する。
3	【D2】ドイツ語文法に関する基礎知識を持つ(他の外国語学習, 仏語, 西語等への応用も効くように)。			中間試験と定期試験で評価する。
4	【D2】ドイツ語の学習を通して日本語, 英語を相対化して見ることができるようになる。			年度末にレポートで評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は, 試験85% レポート15% として評価する。なお, 試験成績は, 中間試験と定期試験(+暗唱)の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	なし			
履修上の注意事項				

授業計画(国際コミュニケーション(ドイツ語))		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	アルファベートと発音(1) 語学学習について	短母音,複母音,重母音の発音外国語学習の意義(1)
2	アルファベートと発音(2)	子音の発音 英語と違い,原則として綴り通りに発音することへの注意を徹底する外国語学習の意義(2)日本語ですら,相対化して見ることができるように
3	挨拶 表現練習,基数詞	導入として,簡単な挨拶表現を覚え,使ってみる数詞の紹介,以降随時取り上げ,覚える
4	名前,住所,出身地	まず文章に触れて,抵抗なくしゃべれるようにする名前,出身地を自分のものに置き換えて伝える動詞の一人称,二人称形
5	年齢,趣味,職業,家族	自己紹介からの発展として,自分以外の家族の紹介を練習する動詞の三人称形を利用する
6	規則動詞の現在人称変化(1)	規則変化動詞の変化を覚える
7	規則動詞の現在人称変化(2)	規則変化動詞の変化を覚える
8	中間試験	第1回から第7回の範囲で中間試験を実施する
9	sein,haben,werdenの現在[過去,過去分詞]人称変化	ここまでの文法事項の整理大切な不規則動詞の変化を覚える
10	買い物(1)	名詞の性と格(1格/4格)不定冠詞,定冠詞の変化一覧表を練習する
11	聞き取り練習	ここまでのまとめの聞き取り練習をする
12	持ち物,所有の表現	名詞の性と格(2格/3格)3格支配の動詞
13	好みの表現	誰が,どこで,何をという疑問詞を学ぶ名詞の性に馴染む
14	不規則動詞,定冠詞類	定冠詞類の導入
15	不定冠詞類	不定冠詞類の一覧の導入
16	名詞の複数形,人称代名詞	名詞複数形の総まとめ人称代名詞の導入
17	プレゼントの表現(1)	前置詞句の入った多様な表現の紹介前置詞の格支配の導入
18	プレゼントの表現(2)	前置詞の格支配の学習と前置詞句の入った多様な表現の練習
19	外出の表現	どこで,どこへを伴う表現と応答
20	前置詞句(1)	前置詞の総まとめをする
21	前置詞句(2)	前置詞の総まとめをする
22	中間試験	第16回から第21回の内容で中間試験を実施する
23	希望,可能,許可,意志の表現	話法の助動詞の導入
24	色,月日	付加語的に使われる形容詞の導入年月日の表現と記法
25	形容詞の格変化(1)	形容詞の弱変化
26	形容詞の格変化(2)	形容詞の混合変化,強変化
27	比較表現,比較変化	形容詞の比較表現および変化を学ぶ
28	非人称代名詞・不定代名詞	多様な非人称表現の紹介
29	復習,総括(1)	ここまでの総まとめ(ドイツ語の基礎の導入部をやったにすぎない)ドイツ語の特徴のまとめ
30	復習,総括(2)	ここまでの学習を踏まえ外国語学習の意義を確認しておきたい
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.達成度の低い者には,暗唱を課する.	

科 目	国際コミュニケーション(中国語) (Chinese for International Communication)			
担当教員	田島 大輔 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	D2(100%)			
授業の概要と方針	現代中国語(標準語)の発音と基礎的文法を、発音・読解・作文の演習を通じて学習する。受講者の教授内容に対する理解をはかる評価対象として、各回講義内での演習、中間・期末試験に加え、随時課す課外の課題への取り組みも重視する。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を習得する。			現代中国語の発音とそのピンインによる表記法を講義中の演習(発音練習)、課題によって評価する。
2	【D2】現代中国語の漢字(簡体字)の中でも、比較的使用頻度の高いものの書き方を習得する。			現代中国語の漢字(簡体字)の書き方を講義中の演習(短文読解・作文)、課題によって評価する。
3	【D2】現代中国語の簡単な文法知識を習得する。			現代中国語の簡単な文法知識を講義中の演習(短文読解・作文)、課題、中間試験および定期試験によって評価する。
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験60% レポート10% 演習(発音、読解、作文)30% として評価する。試験は中間試験、定期試験の平均点を評価対象とする。レポート(課題)の内容は講義中に指定する(複数回)。演習は授業内での口頭試問(暗誦等)、筆記課題(小テスト)を課す(複数回)。試験・レポート・演習の評価を総合し、100点満点60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	ドイツ語, 韓国語			
履修上の注意事項	現代中国語の学習を通じ、中国の文化・社会に対する関心を深める。受講者には講義の予習・演習・復習への自主的な取り組みが求められる。			

授業計画(国際コミュニケーション(中国語))		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	講義概要の説明,発音練習(1)	本講義の方針・目標・内容・評価方法の説明,および同説明に関する質疑応答などの後,中国語の声調母音(単母音,複母音,n/ngを伴う母音)とアクセント(声調)の発声法,表記法(ピンイン)を学習する。
2	発音練習(2)	中国語の子音の発声法,表記法を学習する。現代中国(中華人民共和国)で公用文字とされている簡略字「簡体字」についても触れる。
3	「是」構文,人称代名詞,指示代名詞	述語動詞「是」(AはBである)を用いた構文,「わたし」「あなた」「それ」「これ」「そこ」「ここ」といった各種代名詞を学習する。
4	動詞述語文,所有を表す「有」構文,疑問文における助字「呢」	動詞を述語とする構文,「AはBを持つ」「AにはBがある／いる」等の意を表せる「有」を用いた構文,および文末に付せられ疑問の意を表す「呢」の用法を学習する。
5	形容詞述語文	形容詞を述語とする構文を学習する。
6	数字,日付時刻の発音・表記法,量詞	数字や日付時刻の発音と表記,および「量詞」(助数詞)の用法を学習する。
7	復習	前回講義までの学習内容について復習する。
8	中間試験	第2回から第7回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。
9	中間試験返却,口頭演習課題の発表	中間試験の問題解説の後,中国語短文暗誦課題の発表を行う。課題用短文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。
10	完了を表す「了」,所在を表す「在」,助動詞「想」	述語の後ろに置き「完了」を表す助詞「了」,人・ものが特定の場にあることを表す動詞「在」,および「～したい」の意を表す助動詞「想」の用法を学習する。
11	介詞「在」「离」「从」「到」「跟」「給」	「～で」「～から」「～まで」「～と」「～に」などの意を表す各種介詞の用法を学習する。
12	助動詞「得」,経験を表す「過」,「是～的」構文	「～しなければならない」の意を表す「得」,動詞の後ろに置かれ過去の経験を表す「過」,および強調構文「是～的」の用法を学習する。肯定形・否定形・疑問形・反復疑問文,量詞/助数詞を学ぶ。
13	助動詞「能」「会」,動詞の重ね方	助動詞「会」「能」の用法,同じ動詞を重ねる表現を学習する。
14	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
15	総合復習(予備回)	第14回での総合復習,その他についての復習,確認,質問に対する回答。
16	前期学習内容の復習	前期学習内容について,復習・確認を行う。
17	結果・程度を表す助詞「得」	形容詞・動詞の後に置かれ,結果・程度を表す補語を導く助詞「得」の用法を学習する。
18	動詞の進行を表す「在(～呢)」	「～しているところだ」の意を表す「在(～呢)」の用法を学ぶ。
19	「来」「去」を中心とする連動文	動詞「来(くる)」「去(いく)」を用いた事例を中心に,連動文を学習する。
20	「還是」を用いた選択疑問文,既習各種疑問文の復習	「還是」を用いた選択疑問文(AかBか)の構造を確認後,既習の疑問文についても復習を行う。
21	助詞「比」を用いた比較文	助詞「比」を用いた比較文(AはBにくらべて～)を学習する。
22	復習	第17回講義以降の学習内容について復習する。
23	中間試験	第17回から第21回までの講義での学習内容の習得状況を,筆記試験により確認する。
24	中間試験の解説	中間試験の問題,解答の確認を行い,内容について解説する。
25	「的」を用いた名詞の修飾	「的」を用いた動詞句・形容詞句による名詞の修飾を学習する。
26	1つの動詞が2つの目的語をとる文,主述句を目的語とする文	「AにBを～する」といったような,1つの動詞が2つの目的語をとる文,ならびに主語述語句を目的とする文の用法を学習する。
27	総合復習	中間試験以降の講義での学習内容について,復習・確認を行う。
28	口頭演習課題の発表	受講者が短文暗誦課題の発表を行う。同課題用作文は受講者の要望を汲んだ上で告知する。
29	自由口頭発表	通年の授業内最後の課題として,これまでの学習内容を踏まえ,受講者が自由な題目で中国語による口頭発表を行う。
30	総合復習(予備回)	第27回の総合復習その他について,復習,確認を行い,質問に回答する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。中間試験と定期試験の実施に加え,随時課題を課す(複数回を予定)。視聴覚教材による授業を行うこともある。	

科 目		国際コミュニケーション(韓国語) (Korean for International Communication)			
担当教員		高 秀美 非常勤講師			
対象学年等		電気工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		D2(100%)			
授業の概要と方針		韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する.文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する.韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し,語学能力を含む文化の理解を深める.			
		到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【D2】ハングル文字構成を理解し,日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける.				文字学習の段階では,小テストを少なくとも2週に1回で実施し,文字の習得状況を把握しながら,「書く」ことについては小テストおよび前期中間試験と定期試験,後期中間試験でも評価する.
2	【D2】簡単な挨拶や自己紹介からはじめ,学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する.				会話表現は,それぞれの表現を個別に発音やイントネーションを指導及びチェックを行い,後期においては会話について口頭での発表をもって,定期試験に代えて評価する
3	【D2】韓国・朝鮮の文化の理解を深め,コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける.				韓国語の基礎的な知識や会話学習と同時に会話の背景にある文化について解説を行い,その理解度を前期中間試験と定期試験,後期中間試験で評価する.
4	【 】				
5	【 】				
6	【 】				
7	【 】				
8	【 】				
9	【 】				
10	【 】				
総合評価		成績は,試験50% 小テスト20% 演習30% として評価する.成績において,演習30%(課題及び授業中の暗唱・発表など),小テスト20%とする理由は実際に初歩的なコミュニケーションができることを確かめるためである.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト					
参考書					
関連科目		ドイツ語,中国語			
履修上の注意事項		課題,小テストの準備をした上で,授業に参加することを強く望みます.			

授業計画(国際コミュニケーション(韓国語))		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業ガイダンス・文字と発音(1)基本母音	授業のガイダンスとともに、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音(2)子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音(3)子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音(4)二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音(5)子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1):韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(ハムニダ体)、～は(助詞)について学習する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答,第2課 お名前は何か	中間試験の内容について解説する。～です・ですかの(ヘヨ体)、～が(助詞)について学習する。
10	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。自己紹介の練習を行う。
11	Review 1,第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	第1課から第3課までの内容を復習する。～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+で)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字:日本語のいち、に、さんに相当する年,月,日,値段,電話番号,何人前,学年,階,回,号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第4課から第6課までの内容を復習,練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認し,質疑応答。
16	定期試験の解答とまとめ,復習及び数字の活用	定期試験の内容について解説する。韓国語初級で学習内容を再確認し,質疑応答。
17	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』『～ハムニダ体』,～と(助詞)について学習する。
18	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
19	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して,～くて,～であり,～が,～けれどについて学習する。
20	Review 3	第7課から第9課までの内容を復習,練習問題を通じて確認する。
21	文化項目(2):韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ。
22	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』,『～ヘヨ体』～と不可能の表現について学習する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ,第11課 公園で友達を待ちます。	中間試験の内容について解説する。用言の『です・ます形』,『～ヘヨ体』を復習し,縮約形の『～ヘヨ体』を学習する。
25	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字:日本語の一つ,二つに当たる数字,～歳,時間,個,名,枚,台などに使う,固有数字を学習する。
26	Review 4	第10課から第12課までの内容を復習,練習問題を通じて確認する。
27	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
28	第14課 韓国の映画は好きですか。	さまざまな尊敬の表現を学習する。
29	第15課 道を教えてください。	お願い表現,丁寧な命令形について学習する。
30	Review 5,まとめ	第13課から第15課までの内容を復習,練習問題を通じて確認する。これまで学習内容を再確認し,質疑応答。
備考	前期中間試験,前期定期試験および後期中間試験を実施する。後期定期試験に代えて,プレゼンテーション形式の課題と試験を授業中に行う。	

科 目	保健・体育 (Health and Physical Education)			
担当教員	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康、スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的としている。(前期種目: バドミントン, テニス, 水泳) (後期種目: 剣道, 卓球)			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】テニスの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方を学び、簡易ゲームができるようにする。			テニスの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
2	【C3】バドミントンの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方を学び、簡易ゲームができるようにする。			バドミントンの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。			水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を身につけ、試合のできる技能・態度を身につける。			剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を評価する。剣道の応用技能を身につけ相互試合により試合技能・態度を評価する。
5	【C3】卓球の基本ストローク、球の回転の理解と習得。シングルス、ダブルスの試合の理解と実践。			卓球の基本ストローク・球の回転の理解度を対人でラリーすることにより評価する。
6	【C3】毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習熟を図る。			健康増進・傷害予防・技能習熟に関して、毎時間の習熟度を(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
7	【C3】新体力テストを実施する事により、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。			新体力テストの得点を評価する。
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	前期は到達目標毎1=20%, 2=20%, 3=20%, 6=40%の割合で評価する。後期は4=40%, 5=10%, 6=40%, 7=10%の割合で評価し、前期と後期をそれぞれ50点ずつとし、100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	なし			
履修上の注意事項				

授業計画(保健・体育)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習	前期授業の内容説明および改訂増補版を利用し、p3～22「人間とスポーツ」に関する知識学習を行う。
2	テニス1	安全に留意し、正しい用具(ボール・ラケット・ネットの張り方)の使い方を覚える。壁打ちや対人ボレーを通して、様々なラケットコントロールの方法を学ぶ。また、ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
3	バドミントン1	安全に留意し、正しい用具(シャトル・支柱の運び方・ネットの張り方・ラケット)の使い方を覚える。対人パスを通して、様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また、ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
4	テニス2	対人パスを通して、前回の学習内容を定着させる。また、ストローク練習やサーブ練習を通して、ラリーが続くようにする。また、簡易ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。
5	バドミントン2	対人ラリーを通して、前回の学習内容を定着させる。また、シングルのリーグ戦を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
6	テニス3	自由練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、ダブルスのリーグ戦を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
7	バドミントン3	自由練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、ダブルスのリーグ戦を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
8	テニス4	自由練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、ダブルスのリーグ戦を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
9	バドミントン4	自由練習を通して、前回の学習内容を定着させる。また、ダブルスのリーグ戦を通して、ルールや運営方法を学ぶ。
10	テニス5	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。また、学習内容をスキルテストで評価する。
11	バドミントン5	正式ゲームを通して、ルールや運営方法を学ぶ。また、学習内容をスキルテストで評価する。
12	水泳1	水の特性を理解し、浮き方・沈み方などを学ぶ。また、泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び、基本泳法にチャレンジし、個人の能力に応じて、泳力を高める。
13	水泳2	水の特性を理解し、浮き方・沈み方などを学ぶ。また、泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び、基本泳法にチャレンジし、個人の能力に応じて、泳力を高める。
14	水泳3	水に関する事故とその原因を知り、自己防衛方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い、泳ぐことだけでなく、競い合う楽しみを味わう。
15	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
16	ガイダンス・知識学習	後期授業の内容説明および改訂増補版を利用し、p131～144「からだのところ」に関する知識学習を行う。
17	剣道1	剣道の基本理念・基本姿勢・構えなどを学ぶ。
18	剣道2	基本技能、足掻き・基本打突などを行う。
19	新体力テスト	反復横びく・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	剣道3	基本技能、踏み込み足動作での連続面打ち・左右面打ちなどを行う。
21	剣道4	基本技能、垂、小手、胴を着けて面、胴、小手を打突する。
22	剣道5	基本技能、垂、小手、胴を着けて打ち込み稽古を行う。
23	剣道6	応用技能、剣道具を着けて仕掛け技の稽古を行う。
24	剣道7	応用技能、剣道具を着けて応じ技の稽古を行う。
25	剣道8	互角稽古、試合練習を行う。
26	剣道9	基本・応用動作の試験を行う。
27	剣道10	剣道抜き勝負による試合の評価を行う。
28	卓球1	卓球の基本ストローク、球の回転の理解をする。
29	卓球2	フォアハンド・バックハンドの個人技能の練習を行う。
30	卓球3	シングルス・ダブルスのゲームを理解し、それらを評価する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科 目	保健・体育 (Health and Physical Education)				
担当教員	春名 桂 准教授				
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	C3(100%)				
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。【前期種目：ソフトボール、バレーボール、水泳】【後期種目：サッカー、バスケット、卓球】				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】ソフトボールの特性を理解し、打つ・守る・走る・投げる等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。				ソフトボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
2	【C3】バレーボールの特性を理解し、レシーブ・パス・スパイク・サービス等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。				バレーボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。				水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】サッカーの特性を理解し、シュート・ドリブル・パス・トラップなどのボールを扱った基本技能や、関係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。				サッカーの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
5	【C3】バスケットボールの特性を理解し、シュート・ドリブル・パスなどのボールを扱った基本技能や、関係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。				バスケットボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
6	【C3】卓球の特性及び、基本ストロークや球の回転を理解し、習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、シングルスやダブルスができるようにする。				卓球の基本ストロークなどの習得を目指し評価は行わない。
7	【C3】毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を修得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習熟を図る。				健康増進・傷害予防・技能習熟に関して、毎時間の習熟度を(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
8	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。				新体力テストの得点を評価する。
9	【】				
10	【】				
総合評価	前期は到達目標毎1～3＝20%ずつ、到達目標毎7＝40%の割合で評価し、後期は到達目標毎4～5＝25%ずつ、到達目標毎7＝40%、到達目標毎8＝10%の割合で評価する。前期と後期をそれぞれ50点ずつとし、100点満点で60点以上を合格とする。				
テキスト					
参考書					
関連科目	なし				
履修上の注意事項	卓球は評価しない。				

授業計画(保健・体育)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習	前期授業の内容説明および注意点,改訂増補版を利用しp23～40の運動の分析に関する知識学習を行う。
2	バレーボール1	安全に留意し,正しい用具(バレーボール・支柱の運び方・ネットの張り方)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
3	ソフトボール1	安全に留意し,正しい用具(バット・グローブ・ベース・ソフトボール・マスク)の使い方を覚える。キャッチボールを通して,様々なスローイング(ピッチングを含む)の方法を学ぶ。トスバッティングを通して,バットコントロール・ミート・捕球の方法を理解する。
4	バレーボール2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,スパイク練習やサーブ練習を通して,攻撃の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
5	ソフトボール2	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
6	バレーボール3	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,三段攻撃やルール,運営方法を学ぶ。
7	ソフトボール3	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
8	バレーボール4	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ローテーションを取り入れた正式ゲーム(6人制)を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
9	ソフトボール4	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
10	バレーボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
11	ソフトボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
12	水泳1	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
13	水泳2	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
14	水泳3	水に関する事故とその原因を知り,自己防衛方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い,泳ぐことだけでなく,競い合う楽しみを味わう。
15	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
16	ガイダンス・知識学習	後期授業の内容説明および注意点,増補版を利用しp145～170心と健康に関する知識学習を行う。
17	バスケットボール1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ゼッケン・タイマー)の使い方を覚える。ハンドリングを通して,様々なボールコントロール技能(キャッチング・ドリブル)の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,個人の技能を高める。
18	サッカー1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ゴールの持ち運び)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(インサイド・アウトサイド・ヘディング)及びトラッピングの方法を学ぶ。
19	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	バスケットボール2	対人練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
21	サッカー2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
22	バスケットボール3	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
23	サッカー3	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,対人技能及びルールや運営方法を学ぶ。
24	バスケットボール4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使ってのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
25	サッカー4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使ってのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
26	バスケットボール5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使ってのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
27	サッカー5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使ってのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
28	バスケットボール6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
29	サッカー6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
30	卓球1	卓球の基本ストローク,球の回転の理解をする。シングルス・ダブルスのゲームを理解する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科 目		保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員		寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授		
対象学年等		電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標		C3(100%)		
授業の概要と方針		各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。(前期共通種目:水泳 選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)(後期選択種目:バスケットボール,バドミントン,卓球,サッカー,テニス及びソフトテニス)		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し,基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として,総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解,習得できているかどうかを評価する。	
2	【C3】バレーボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
3	【C3】軟式野球及びソフトボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球及びソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
4	【C3】卓球のルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
5	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
6	【C3】テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
7	【C3】バスケットボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
8	【C3】サッカーの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
9	【C3】新体力テストを実施することにより,各自の体力を評価し,その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。	
10	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また,各種目の練習方法を学び,段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。	
総合評価		前期は到達目標毎1＝20%,到達目標毎2～6＝40%,到達目標毎10＝40%で評価する。後期は到達目標毎4～8＝50%,到達目標毎9＝10%,到達目標毎10＝40%で評価し,前期と後期をそれぞれ50点ずつとし,100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト				
参考書				
関連科目		特になし		
履修上の注意事項				

授業計画(保健・体育)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p41`62「スポーツトレーニングと体力」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習.正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
11	選択実技10	スキルテスト
12	水泳1	オリエンテーション.基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
13	水泳2	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
14	水泳3	基本的な4泳法(クロール,平泳ぎ,背泳,バタフライ)と水中運動の練習。
15	水泳4	着衣泳による自己防衛技能の練習.救急法の理解.泳法テスト。
16	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および改訂増補版を利用し,p171`213「大脳の仕組みと働き」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
17	選択実技1	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
18	選択実技2	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
19	選択実技3	基本技能の理解と練習.ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
20	選択実技4	基本技能の練習.正規ルールに準じたゲーム。
21	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
22	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
23	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
24	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
25	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
26	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
27	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
28	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習.集団戦術/戦略の理解.正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
29	選択実技13	スキルテスト。
30	選択実技14	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
備考	中間試験および定期試験は実施しない.中間試験および定期試験は実施しない.(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する.(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科 目	保健・体育 (Health and Physical Education)			
担当教員	寺田 雅裕 教授, 中川 一穂 特任教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。(前期共通種目:水泳 選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)(後期選択種目:バスケットボール,バドミントン,卓球,サッカー,テニス及びソフトテニス)			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し,基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として,総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解,習得できているかどうかを評価する。	
2	【C3】バレーボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
3	【C3】軟式野球及びソフトボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球及びソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
4	【C3】卓球のルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
5	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
6	【C3】テニス及びソフトテニスのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する。また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス及びソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
7	【C3】バスケットボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
8	【C3】サッカーの特性を理解し,ルールや審判法を習得する。また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによりゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する。	
9	【C3】新体力テストを実施することにより,各自の体力を評価し,その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストの得点を評価する。	
10	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また,各種目の練習方法を学び,段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。	
総合評価	前期は到達目標毎1＝20%,到達目標毎2～6＝40%,到達目標毎10＝40%で評価する。後期は到達目標毎4～8＝50%,到達目標毎9＝10%,到達目標毎10＝40%で評価し,前期と後期をそれぞれ50点ずつとし,100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	特になし			
履修上の注意事項				

授業計画(保健・体育)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および増補版を利用し、p55・98「文化とスポーツ」に関する知識学習、種目選択、種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習、正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
11	選択実技10	スキルテスト
12	水泳1	オリエンテーション、基本的な4泳法(クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライ)と水中運動の練習。
13	水泳2	基本的な4泳法(クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライ)と水中運動の練習。
14	水泳3	基本的な4泳法(クロール、平泳ぎ、背泳、バタフライ)と水中運動の練習。
15	水泳4	着衣泳による自己防衛技能の練習、救急法の理解、泳法テスト。
16	ガイダンス・知識学習・種目選択	授業の内容説明および増補版を利用し、p206・228「社会福祉」に関する知識学習、種目選択、種目別オリエンテーションを行う。
17	選択実技1	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
18	選択実技2	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
19	選択実技3	基本技能の理解と練習、ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
20	選択実技4	基本技能の練習、正規ルールに準じたゲーム。
21	選択実技5	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
22	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
23	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
24	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
25	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
26	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
27	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
28	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習、集団戦術/戦略の理解、正規ルールに準じたゲーム(トーナメント、リーグ戦など)。
29	選択実技13	スキルテスト。
30	選択実技14	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して、改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては、定期試験中には行わず、授業内で行う。	

科 目	保健・体育 (Health and Physical Education)				
担当教員	中川 一穂 特任教授, 寺田 雅裕 教授, 小森田 敏 教授, 春名 桂 准教授				
対象学年等	電気工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	C3(100%)				
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって,積極的に運動を実施する習慣を育て,生涯体育につながる能力を養う.また,健全な社会生活を営む能力や態度を養い,健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする.種目選択制で行う.(選択種目:バレーボール,バドミントン,卓球,軟式野球及びソフトボール,テニス及びソフトテニス)				
	到達目標		達成度		
1	【C3】バレーボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する.また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする.			バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する.	
2	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する.また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする.			バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する.	
3	【C3】卓球のルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する.また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする.			卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する.	
4	【C3】軟式野球/ソフトボールの特性を理解し,ルールや審判法を習得する.また,基本的な個人技能・集団戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする.			軟式野球/ソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する.	
5	【C3】テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び,基本動作であるラケット操作を習得する.また,基本的な戦術・戦略を学び,正規ルールによるゲームができるようにする.			テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解,習得できているかどうかを評価する.	
6	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより,継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する.また,各種目の練習方法を学び,段階的な技能習得を図る.			健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する.	
7	【C3】新体力テストを実施することにより,各自の体力を評価し,その結果を分析して不足している能力の向上を図る.			新体力テストの得点を評価しない.	
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価	到達目標毎1～5＝60%,到達目標毎6＝40%で評価する. 100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	特になし				
履修上の注意事項	新体力テストの点数を評価しない.				

授業計画(保健・体育)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・知識学習・種目選択	前期授業の内容説明および増補版を利用し,p99・120「スポーツの文化史」に関する知識学習,種目選択,種目別オリエンテーションを行う。
2	選択実技1	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
3	選択実技2	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
4	選択実技3	基本技能の理解と練習,ミニゲームによるルール・ゲームの理解。
5	選択実技4	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
6	選択実技5	基本技能の練習,正規ルールに準じたゲーム。
7	選択実技6	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
8	選択実技7	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
9	選択実技8	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
10	選択実技9	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
11	選択実技10	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
12	選択実技11	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
13	選択実技12	より高度な技能(応用技能)の理解と練習,集団戦術/戦略の理解,正規ルールに準じたゲーム(トーナメント,リーグ戦など)。
14	選択実技13	スキルテスト
15	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・50m走・ハンドボール投げ・身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。(適正な時期に実施する。)
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない。中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,改訂増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科 目	芸術 (Art)			
担当教員	大倉 恭子 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・1年・前期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(100%)			
授業の概要と方針	歌唱の指導,又は個人別テスト,その時の個人指導によって,変声直後又は稀にいる変声途中の者を出来るだけ良い状態へと導きたい.カノン作曲によって既習した理論の確認と,正しく楽譜を書くことを体験させたい.生涯学習と言う観点からも,できる限り流行に左右されない曲を体験させたい.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】基本的な楽譜の見方,書き方を知る.			歌唱のテスト,小テスト演習及びカノンの作品の採点時に評価する.
2	【C3】リズム,メロディーを理解しながら歌う.			歌唱のテスト時にその正確さを評価する.
3	【C3】諸外国の曲を歌うことによってその国の音楽,言語に触れる.			歌唱のテスト時に発音を評価する.
4	【C3】カノンの作曲を通して楽典を理解し,確認する.			カノンの作品の採点時に評価する.
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	歌唱テスト50% カノン30% 授業中に実施する小テスト演習20% この三つの項目の合計点が60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	無し			
履修上の注意事項	半期の授業の間に1回の歌唱のテストを行う.実技,演習が中心の教科なので出席,授業態度も重要視する.			

授業計画(芸術)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	説明,歌唱	授業を進めるための説明 翼をください・校歌の譜読み,歌詞唱.
2	歌唱,楽典	既習曲 世界に一つだけの花,楽典(音符・休符・記譜)その他の曲
3	歌唱,楽典	既習曲 Caro mio ben譜読み,カントリーロード,夏の思い出,楽典(音階・和音)
4	歌唱,楽典	既習曲 Caro mio ben歌詞唱(イタリア語の説明)楽典(音程)
5	歌唱,カノン作曲	既習曲 その他の曲,カノングレードI作曲(カノン作曲の為の説明,演習)
6	歌唱,カノン作曲	既習曲 O' sole mio譜読み,歌詞唱 カノンGI(演習と個人指導)
7	歌唱, カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導),オーラリー(合唱)
8	歌唱, カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導),その他の曲(合唱)
9	歌唱, カノン作曲	既習曲 カノンGI(演習と個人指導)
10	歌唱,カノン作曲	既習曲 ,カノンGI作曲(演習と個人指導)
11	歌唱テスト,カノンGI提出	Caro mio ben歌唱テスト(個人別テスト・他の者はカノンGIを提出,小テストの準備)
12	歌唱テスト	Caro mio ben歌唱テスト(個人別テスト・他の者はカ小テストの準備).テスト終了後,必要のある者に再試験.
13	歌唱,カノンGI小テスト	既習曲,カノンGIに関する小テスト
14	歌唱, カノン作曲	既習曲
15	音楽観賞	音楽観賞(バッハヘルベルのカノン,その他バロック音楽の鑑賞と解説)
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.歌唱テスト,カノンGIの提出,授業中に実施する小テストを以て試験の代わりとする.	

科 目	哲学 (Philosophy)		
担当教員	稲岡 大志 非常勤講師		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)	JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	哲学と呼ばれる知的営みは、現在から2500年ほど前、ギリシアにおいて始まった。以来、存在とは何か、心とは何か、知識とは何か、といった根本的な問題を哲学者は問い続けている。授業では、哲学者がどのような問題にどのように取り組みどのような答えを提示したのかを学ぶことで、人類が長い時間をかけて取り組み続けている問題を知り、自分もそのような問題について考える喜びを感じ取ることを大きな狙いとする。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】言語や心や時間などにまつわる哲学的問題について、その要点を理解し、自分なりの哲学的思考ができるようになること。		言語や心や時間などにまつわる哲学的問題について、その要点を理解し、自分なりの哲学的思考ができるようになったかを小テスト、定期試験で評価する。
2	【D2】過去の哲学者がどのような問題にどのように取り組んだのかを知ること、哲学的方法論についての理解を深めること。		過去の哲学者の議論を理解し、哲学的方法論や哲学的思考についての理解を深めることができるようになったかを小テスト、定期試験で評価する。
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験80% 小テスト20% として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。小テストの評価の割合が大きいのは、哲学の基本的概念を正しく理解していることを確認する機会を小テストとして設けることで、より確実に授業内容が理解できるようにするためである。		
テキスト			
参考書			
関連科目	倫理		
履修上の注意事項	なし。		

授業計画(哲学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション 哲学を学ぶとはどういうことか?	哲学とはどのような学問なのかを具体例を挙げて講義することで、「哲学」という学問について,おおまかなイメージが得られるようする。
2	古代ギリシア哲学(1) ソクラテス以前の哲学者たち	ソクラテス以前の哲学者の哲学の要点を講義し,古代ギリシア特有の世界観や自然観を理解できるようにする。
3	古代ギリシア哲学(2) ソクラテス:対話としての哲学	プラトンの対話篇を読みながら,ソクラテス哲学の要点の一つである「哲学的問答法」についての理解を深める。
4	古代ギリシア哲学(3) プラトン:存在の根拠としてのイデア	プラトン哲学の要点を講義し,その後の哲学を学ぶのに不可欠な概念枠組みについての理解を深める。
5	古代ギリシア哲学(4) アリストテレス:機能としての心	アリストテレス哲学の要点を講義し,形而上学,自然学,生物学,倫理学などあらゆる領域にアンテナを伸ばすアリストテレス哲学のエッセンスを理解できるようにする。
6	中世スコラ哲学:神の存在を「証明」してみよう	中世スコラ哲学における「神の存在証明」の議論を講義し,「論理を用いて存在の問題を解くこと」という,哲学に特有の方法論についての理解を深める。
7	近代哲学(1) デカルト(1):「我思う,ゆえに,我あり」	デカルト哲学の「方法的懐疑」について講義し,伝統的に哲学において議論されるテーマである「懐疑論」についての理解を深める。
8	近代哲学(2) デカルト(2):心と身体はどう繋がっているのか?	いわゆる「心身問題」についてのデカルトの考えを学び,現在においても議論されている「心の哲学」への関心を養う。
9	近代哲学(3) スピノザ:私たちは世界の一部である?	神=自然=世界というスピノザ独自の存在論についての理解を深める。
10	近代哲学(4) ライブニッツ:なぜこの世界に悪があるのか?	この世界は最善世界であるというライブニッツの最善世界説について講義し,現代でも議論される可能世界論や悪の問題についての関心と理解を深める。
11	イギリス経験論(1) ロック:人は人を信頼することができるだろうか?	ロックの社会契約説について講義し,社会的秩序はいかにして可能か?という問題への理解を深める。
12	イギリス経験論(2) パークリ:見えない木は存在するだろうか?	パークリの経験論について講義し,知覚の哲学の入門的内容についての理解を深める。
13	ドイツ観念論(1) カント(1):私たちは何を知ることができるか,何を知ることができないのか?	カントの名著『純粋理性批判』が何を問おうとしているのか,についての理解を深める。
14	ドイツ観念論(2) カント(2):時間や空間は存在しない?	カントのいわゆるアンチノミーについて講義し,時空間の存在論への関心と理解を深める。
15	ドイツ観念論(3) カント(3):客観的認識はいかにして可能か?	カントの超越論的観念論について講義し,『純粋理性批判』という書の到達点についての理解を深める。
16	前期のまとめ	前期の授業内容を振り返ることで,受講生の理解内容を可能な限りで整理する。
17	ドイツ観念論(4) ヘーゲル:精神と自然はどちらが偉い?	ヘーゲルのカント批判や独自の観念論について講義し,理解を深める。
18	生の哲学(1) ベルグソン:アキレスはなぜ亀を追い越すことができる?	いわゆる「ゼノンのパラドクス」を取り上げて,ベルグソン独自の時空間論を講義し,理解を深める。
19	生の哲学(2) ニーチェ:誰が神を殺したのか?	ニーチェのよく知られた「神は死んだ」という文言の背景にある主張を講義し,理解を深める。
20	現象学(1) フッサール(1):科学は厳密ではない!	フッサールが現象学を創始する背景である科学主義批判について講義し,理解を深める。
21	現象学(2) フッサール(2):他人が心を持つとどうやたらわかるのか?	いわゆる「他我問題」へのフッサール現象学のアプローチについて講義し,理解を深める。
22	現象学(3) ハイデガー(1):「ある」とはどういうことを言っているのか?	ハイデガーの形而上学批判である「存在忘却の歴史」について講義し,それまでの授業内容を振り返りつつ,ハイデガーの西洋哲学史批判についての理解を深める。
23	現象学(4) ハイデガー(2):私たち人間はどのような存在であるのか?	ハイデガーの名著『存在と時間』の概要について講義し,その要点の理解を深める。
24	言語論的転回(1) フレーゲ:論理学の革命	フレーゲの論理学が伝統的論理学をどう革新したのかを講義し,その要点の理解を深める。
25	言語論的転回(2) ラッセル:「現在の日本の大統領は男性である」という文は正しい?間違い?	ラッセルの記述理論について講義し,その要点の理解を深める。
26	言語論的転回(3) ウィトゲンシュタイン:哲学の問題は偽物の問題である	ウィトゲンシュタインの名著『論理哲学論考』について講義し,ウィトゲンシュタインが哲学の問題は擬似問題であると考えた理由についての理解を深める。
27	分析哲学(1) 言語なんてものは存在しない?	「言語などというものは存在しない」という言語哲学者 دونالد・デイヴィッドソンのテーゼを理解するために,寛容の原理や根源的解釈といった事項について講義する。
28	分析哲学(2)「この教室にドラゴンはいない」はなぜ正しい?	現代の分析的形而上学において議論されるtruthmaker理論について講義する。これにより,言語と世界の結びつきについての理解を深める。
29	フランス現代思想	構造としての言語や意識が人間の思考を規定しているという20世紀フランス哲学に特徴的な主張を講義し,その内容の理解を深める。
30	まとめ	これまでの授業内容を総括し,一年間学んだことを振り返ることで哲学を学んだ意義を受講生各自が感じ取れるようにする。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する.また,受講生の理解度や関心などに応じて授業内容を変更することがある。	

科 目	日本史 (Japanese History)			
担当教員	深見 貴成 准教授			
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	1990年代以降の日本社会は、戦後に作り上げてきた政治・経済体制があらゆる意味で再編を迫られた時期であり、その再編は今も続いていると言える。このような時代に日本の近現代史を学び、なぜ日本がこのような社会になったのかを知ることが非常に重要である。よって、日本の20世紀前半の動きを学び、現代社会の課題を克服する上での知識を養いたい。また同時に歴史資料の重要性についても学んでいく。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できる。			帝国主義の時代における日本社会の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
2	【C3】大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解する。			大正デモクラシーの時代の特徴と現代との共通性を理解できるか、定期試験によって評価する。
3	【C3】昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解する。			昭和恐慌の影響とその後のファシズムの時代の特徴を理解できるか、定期試験によって評価する。
4	【D2】近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考える。			近代日本における日本の植民地支配について理解し、アジア諸国と現代日本との関係を考えることができるか、定期試験によって評価する。
5	【D2】第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができる。			第二次世界大戦へとつながる国際政治史の中に日本を位置づけることができるか、定期試験によって評価する。
6	【C3】歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解する。			歴史資料の大切さを知り、身近にあることを確認する。また史料の内容を理解することができるか、定期試験および歴史資料に関するレポートによって評価する。
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする			
テキスト				
参考書				
関連科目	歴史(1年)・歴史(2年)・世界史(5年)			
履修上の注意事項	配布資料を毎時間持参すること。			

授業計画(日本史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入ー日本近現代史を学ぶ意義	日本近現代史を学ぶにあたって、その学習する意味をこれまでの研究史から考える。また歴史資料とは何か、そしてその大切さについて言及する。
2	日露戦後の日本社会の変化	明治維新後の日本の歩みの概略を確認し、日露戦争後の日本社会が再編成されていく状況を学ぶ。
3	第一次世界大戦と日本社会(1)	第一次世界大戦が日本に与えた影響と帝国主義の時代における日本の位置を知る。またアジア諸国と日本の関係について確認する。
4	第一次世界大戦と日本社会(2)	第3週に同じ。
5	社会問題の発生(1)	大戦景気とその後の不況が日本社会に与えた影響の中で、特に社会問題の発生とその対応を知る。
6	社会問題の発生(2)	第5週に同じ。
7	政党政治の成立とその意義(1)	原敬内閣が成立した背景と政党政治の始まりの意義を知る。また日本のデモクラシー状況を民衆運動の中から学習する。
8	政党政治の成立とその意義(2)	第二次護憲運動によって成立した政党内閣の意義を知る。また当時の思想状況についても学習し、その特徴を理解する。
9	政党政治の成立とその意義(3)	デモクラシー期以降の政党政治の状況を知る。
10	男子普通選挙法と治安維持法の制定の意味	1925年に成立した男子普通選挙法と治安維持法の意義を学習する。
11	昭和恐慌の衝撃(1)	昭和恐慌が日本社会に与えた影響について、地域社会の状況、国家の政策などからその特徴と意味を知る。
12	昭和恐慌の衝撃(2)	第11週に同じ。
13	満州事変と「満州国」(1)	満州事変が起こる背景とその後に成立した「満州国」について知る。
14	満州事変と「満州国」(2)	第13週に同じ。
15	小括ーデモクラシー期までの日本	これまでの歴史的経緯を振り返り、現代日本社会について考える。
16	植民地と日本	日本と植民地の関係を理解し、アジアにおいて日本がどのような位置にあったのかを知る。
17	植民地と日本(2)	第16週に同じ。
18	1930年代の日本の政治状況	1930年代の国際政治状況の中で日本がどのような位置にいて、外交政策を採ったのかを知る。
19	十五年戦争と日本	満州事変以後、日本がなぜ戦争へ突入したのかを理解する。
20	総力戦体制について考える(1)	「十五年戦争」期の日本社会を「総力戦体制」ととらえ、その特徴について考える。
21	総力戦体制について考える(2)	第20週に同じ。
22	民衆と戦争(1)	総力戦下において日本の民衆がどのように考え、行動していたのかを知る。
23	民衆と戦争(2)	第22週に同じ。
24	民衆と戦争(3)	第22週に同じ。
25	戦争をどうとらえるか	戦争、特にアジア・太平洋戦争についてふりかえり、現代における戦争と比較しながら現代の世界と日本を考える。
26	戦後改革と日本(1)	戦後の民主化を中心とする改革について、その特徴を学ぶ。特に日本国憲法の制定の意義について考える。また戦後の文化について学ぶ。
27	戦後改革と日本(2)	第26週に同じ。
28	戦後改革と日本(3)	第26週に同じ。
29	高度経済成長への展望	戦後改革を受けて、1960年代以降日本社会がどのように変化したのかを理解する。
30	まとめー「国民国家」としての近現代日本	「国民国家」としての日本近現代史を概観し、現代社会との共通点考える。また歴史資料の重要性について知る。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	世界史 (World History)			
担当教員	町田 吉隆 教授			
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	現代の人類社会が抱える「環境と社会」,「人種の偏見と文化的多様性」という問題を歴史的に考える.対象とする地域も時代も多岐にわたるが,テーマごとに通時的に扱う.したがって通史ではない.社会的・経済的・政治的・文化的な視点から世界史を捉えることを目的とする.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】人類が直面した諸課題,気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化を理解することができる.			人類が直面した諸課題,気候変動や感染症などによる歴史的環境の変化について理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
2	【C3】栽培植物と農業,牧畜と遊牧などの生業形態と歴史的事件・事象の関連性について理解できる.			栽培植物と農業,牧畜と遊牧などの生業形態と歴史的事件・事象の関連性について理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
3	【C3】奴隷制度,近代世界システム,資本主義,文化変容などの概念装置を用いて,人種の偏見の歴史的形成過程を理解することができる.			人種の偏見の歴史的形成過程を理解できているかどうかを,プリントと定期試験で評価する.
4	【D2】日本以外の世界の他地域について,その歴史的環境を理解した上で,当該地域における民族紛争,人種対立,異文化理解について具体的に問題点を説明することができる.			受講者が選んだ世界の特定地域について,歴史的環境を理解した上で,当該地域における民族・人種問題,異文化理解について,正確にかつわかりやすく説明できるかどうかを,レポートで評価する.
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験80% レポート10% プリント10% として評価する.到達目標1,2,3については授業中に作業するプリントおよび前期・後期の定期試験の平均点で評価する.到達目標4についてはレポート(具体的な作成手順は指示する)で評価する.これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	歴史(1年生),歴史(2年生),日本史(5年生)			
履修上の注意事項	その他の参考文献,視聴覚資料については授業中に紹介する.			

授業計画(世界史)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入	人類史における自然環境と歴史的環境について概観する。
2	気候の変動(1)	気候変動と農業生産の開始に関する仮説を説明し、人類による最初の環境改造がどのように行われたかを学ぶ。
3	気候の変動(2)	ヨーロッパとアジアで起こった民族移動期の様相を学び、気候変動との関わりから、「中世社会」の成立について考える。
4	気候の変動(3)	小氷期の到来と「17世紀の危機」の様相について学び、ヨーロッパ近代社会の成立について考える。
5	農業と人類史(1)	栽培植物の起源、伝播と文化圏の成立について学ぶ。
6	農業と人類史(2)	農産物の貢納と税制の発達、「食物」の商品化が人類史に与えた影響について考える。
7	農業と人類史(3)	現代社会における農産物生産について視聴覚教材を用いて考える。
8	演習	今までの講義内容をプリントで整理し、その内容を構造的に理解する。
9	砂糖と人類史(1)	イスラーム世界における砂糖生産と、その商品化について学ぶ。
10	砂糖と人類史(2)	アメリカ大陸における砂糖生産と奴隷制度の関係について学び、近代世界システムの中での「食物」の商品化について考える。
11	砂糖と人類史(3)	「コーヒーハウス」発達の歴史から、近代市民社会の特質について学ぶ。
12	砂糖と人類史(4)	商品化された嗜好品と結びついた砂糖が近代社会で果たした役割について考える。
13	感染症と人類史(1)	歴史的事象としてのペスト流行について学び、人類の歴史と感染症の関係について考える。
14	感染症と人類史(2)	天然痘の流行が人類史に与えた影響と、その克服の過程について学ぶ。
15	感染症と人類史(3)	結核やインフルエンザの流行と近代化の関係を学び、現代社会の課題について考える。
16	人種と民族(1)	人種とは何か、民族とは何か、いくつかの定義を紹介し、その定義を具体的に検証する。
17	人種と民族(2)	人種的偏見とは何か、そのタイプを理解し、歴史的な具体例について学ぶ。
18	人種間対立(1)	視聴覚教材を用いて、人種間の対立の実相を知る。
19	人種間対立(2)	人種間の摩擦、対立の背景となる社会的要因について考える。
20	鏡としてのカナダ(1)	アメリカ合衆国との歴史との比較を通じて、地域主義、分離主義が国民国家としてのカナダを揺るがしている問題を考える。
21	鏡としてのカナダ(2)	視聴覚教材を用いて、地域主義、民主主義と人種的偏見が複雑に関連していることを学ぶ。
22	鏡としてのカナダ(3)	日系カナダ人を含むエスニックグループの歴史を学び、カナダ社会における多文化主義成立の背景を理解する。
23	演習	今までの講義内容をプリントで整理し、その内容を構造的に理解する。
24	公民権運動とは何だったのか(1)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
25	公民権運動とは何だったのか(2)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
26	公民権運動とは何だったのか(3)	1960年代以降の公民権運動の発展と変容について学び、アメリカ合衆国社会が現在も持つ課題について理解する。
27	キング牧師とマルコムX(1)	M.L.キングとマルコムX、二人の足跡をたどり、両者の思想を比較して考察することを通じて、人種的偏見を克服する方法について考える。
28	キング牧師とマルコムX(2)	両者の思想的遍歴、その考え方の変容を手掛かりに、現在のアメリカ合衆国社会の抱える課題について理解する。
29	ラス・カサスの思想(1)	大航海時代に生きたラス・カサスの思想的遍歴を通じて、人種的偏見の人類史的な意味について理解する。
30	ラス・カサスの思想(2)	人類史の課題としての人種的偏見を克服する道について考える。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	社会科学特講 (Comprehensive Social Studies)				
担当教員	八百 俊介 教授				
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)	
授業の概要と方針	前期は,諸外国における貧困・異文化共生・資源獲得などの政治的・社会的問題の発生原因について地誌的視点を交えて学習する.後期は途上国の経済発展,世界規模での経済問題を学習し,日本と途上国の関わりについて検討する.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】貧困層をめぐる問題が社会的・経済的構造から理解できる				貧困層の発生原因,影響を歴史的過程,国内の社会的・経済的構造から理解できているか定期試験で評価する
2	【D2】異文化との軋轢の発生要因と対応が理解できる				異文化との軋轢の発生要因と対応が理解できているか定期試験で評価する
3	【C3】国際紛争・連携の要因としての資源問題が理解できる				国際紛争・連携の背景に資源確保・争奪が存在することが理解できているか定期試験で評価する
4	【C3】世界レベルでの経済活動の拡大過程と途上国の発展問題が理解できる				経済活動が拡大する過程や途上国の経済発展方法について理解できているか定期試験で評価する
5	【C3】途上国の発展に対する日本の取りうる援助方法を提示できる				途上国の発展に対する日本の取りうる援助方法が提示できるか定期試験で評価する
6	【】				
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は,試験100% として評価する.100点満点とし,60点以上を合格とする				
テキスト					
参考書					
関連科目	なし				
履修上の注意事項					

授業計画(社会科学特講)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	国際社会に対する視点	現在の国際社会が抱える問題について概観する
2	貧困問題1	先進国・途上国それぞれにおける貧困問題を社会的・経済的要因から学習する
3	貧困問題2	第2週目に同じ
4	貧困問題3	第2週目に同じ
5	外国人との共生1	国内の外国人増加の原因と迫害問題の原因について学習する
6	外国人との共生2	第5週目に同じ
7	外国人との共生3	第5週目に同じ
8	演習	第1週目から第7週目の範囲での演習を行う
9	民族・文化対立1	民族・文化を原因とする対立構造について学習する
10	民族・文化対立2	第9週目に同じ
11	資源確保と諸問題1	資源確保に関連する諸問題を考察する
12	資源確保と諸問題2	第11週目に同じ
13	資源確保と諸問題3	第11週目に同じ
14	資源確保と諸問題4	第11週目に同じ
15	まとめ	演習形式でのまとめ
16	経済の世界的枠組み1	国家間の経済活動の原初形態を学習する
17	経済の世界的枠組み2	第16週目に同じ
18	経済の世界的枠組み3	第16週目に同じ
19	世界経済の拡大1	経済活動の拡大原因と影響を学習する
20	世界経済の拡大2	第19週目に同じ
21	世界経済の拡大3	第19週目に同じ
22	世界経済の拡大4	第19週目に同じ
23	演習	第16週目から第22週目の範囲での演習を行う
24	途上国の経済発展1	新興国の発展原因について学習する
25	途上国の経済発展2	第24週目に同じ
26	途上国の経済発展3	第24週目に同じ
27	途上国の発展と援助1	途上国の発展に際し日本が取りうる援助策を検討する
28	途上国の発展と援助2	第27週目に同じ
29	途上国の発展と援助3	第27週目に同じ
30	まとめ	演習形式でのまとめ
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科 目		人文科学特講(英会話) (Human Science)			
担当教員		ピレッジ 准教授			
対象学年等		全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針		アメリカ文化を紹介し英会話技術向上の為バラエティーに富む活動を行う.様々な技術を活用し,グローバルシンキングを 培い,研究手段としての英語表現力向上も目指す			
	到 達 目 標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】アメリカの文化の諸相ををより良く理解し,新たな発想を表現できる.				アメリカの文化の諸相を理解し新たな発想を表現できるかを,中間試験・定期試験,演習で評価する.
2	【C3】グローバルシンキングをテクノロジーを通してより深く理解できる.				授業中の質疑・応答を通して,各学生のグローバルシンキングの理解度を評価する.
3	【C3】テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める.				テクノロジーを使って研究手段としての英語表現力を高める事ができたかを演習で評価する.
4	【D2】英会話力を上達させる.				英会話力を上達させることができたかどうかを,中間試験・定期試験,演習で評価する.
5	【】				
6	【】				
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価		成績は,試験30% プレゼンテーション15% 演習40% プロジェクト15% として評価する.			
テキスト					
参考書					
関連科目		本科目はこれ以外の英語科が開講する全ての科目に関連する.			
履修上の 注意事項		英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること.			

授業計画(人文科学特講(英会話))		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	Introduction to the course	Overview of the course - Assessment of students' English proficiency
2	English Conversation and American Culture (1)	Self introductions, American greeting styles and language
3	Technology and studying English (1)	Introduction of technology useful when studying English as a second language
4	Global thinking and technology (1)	Introduce global thinking, global topics, using technology.
5	English Conversation and American Culture (2)	Focus on conversation skill building and American culture. Introduce ESL Card games.
6	Technology and studying English (2)	Discuss using technology to develop self-study tools.
7	Global thinking and technology (2)	Discuss using technology and English to interact on a global scale. Social media and Online gaming.
8	中間試験	Midterm test and assessment
9	English Conversation and American Culture (3)	Introduce American Culture and Conversation techniques through video.
10	Technology and studying English (3)	Brainstorming on new ESL language game ideas and tools to make them
11	Global thinking and technology (3)	Use technology to find out how other countries' college students live.
12	English Conversation and American Culture (4)	Conversation skills for debate, opinions and refusals
13	Technology and studying English (4)	Start to develop ESL original language game in groups.
14	Global thinking and technology (4)	Using technology to help in the development of study tools and continuation of group project
15	Group presentation	ESL language game development process presented to other groups for ideas and self-assessment, Review for end of semester assessment.
16	English Conversation and American Culture (5)	Introduction of different American popular tourist destinations and travel English
17	Technology and studying English (5)	Group ESL Language game final edits check
18	Global thinking and technology (5)	Introduction of presentation techniques and TED talks video
19	English Conversation and American Culture (6)	Presentation English and body language
20	Technology and studying English (6)	Tech skills for creating interesting PowerPoint presentations
21	Global thinking and technology (6)	TED talks video for presentation creating inspiration
22	Group project final adjustments	Students introduce ESL game to other groups and learn to use each language tool
23	Group Project Evaluation	Instead of midterm test, Group project will be evaluated by the teacher and peers
24	English Conversation and American Culture (7)	Group presentation brainstorming and script writing - Pecha Kucha format
25	Technology and studying English (7)	Powerpoint editing and advanced techniques
26	Global thinking and technology (7)	TED talks video for presentation creating inspiration
27	English Conversation and American Culture (8)	Script editing and peer/group/self assessment explanation - Pecha Kucha format
28	Technology and studying English (8)	Final - Pecha Kucha presentation project tech editing
29	Final individual (Pecha Kucha) presentations (1)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
30	Final individual (Pecha Kucha) presentations (2)	Final - Pecha Kucha Powerpoint Presentations in English with peer - assessment
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	人文科学特講(手話言語学) (Human Science)			
担当教員	今里 典子 教授			
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)
授業の概要と方針	言語学の基礎的な概念や考え方を学んだ上で,日本手話(JSL)を対象に,言語とは何か,コミュニケーションとは何かを考察する.日本手話の構造を理解し,少数言語使用者である聾者への理解を深め,工学技術が福祉分野で貢献出来る可能性にも触れる.講義終了時には手話で基本的なコミュニケーションができる事も目指す.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来る.			日本手話が独立した言語である事を言語学の視点から説明出来るかを,定期試験・レポートで評価する.
2	【C3】手話話者である聾者について説明出来る.			手話話者である聾者について説明出来るかどうかを,定期試験・レポートで評価する.
3	【C3】工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来る.			工学技術が福祉分野に貢献する可能性について議論出来るかどうかを,定期試験・演習で評価する.
4	【D2】基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができる.			基本的な日本手話を使って簡単なコミュニケーションができるかどうかを,定期試験,演習で評価する.
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験40% レポート50% 演習10% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.手話の特性上,JSLの習得度合い等については,記述式のテストにはなじまないのので,評価方法については授業中に詳しく解説する.			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科目は該当無し.			
履修上の注意事項	授業では積極的に質問・発言する事が求められる.必ず基本的手話表現を習得する必要がある.また倫理上の問題にも留意する事が求められる.			

授業計画(人文科学特講(手話言語学))		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	イントロダクション	手話学習の注意事項説明, アンケートの実施. 手話単語と指文字の違いについて学習する.
2	世界の言語	世界に存在している様々な言語の現状について学習する. 指文字1+JSL語彙1
3	言語の定義	コミュニケーションの様々な手段のうち「言語」は他の手段とどのように異なり, いかに定義されるのかを学習する. 指文字2+JSL語彙2
4	ノンバーバルコミュニケーション	音声言語とともに現れうるノンバーバルコミュニケーション手段について学習する. 指文字3+JSL語彙3
5	音声学	音声言語における発声と聞こえのメカニズムを学習する. 指文字4+JSL語彙4
6	手話言語の発生	手話言語がどのように生まれたのかその発生のプロセスと, JSLの歴史を学ぶ. 指文字5+JSL語彙5
7	手話言語の習得	聾児の手話習得プロセスについて学習する. 指文字6+JSL語彙6
8	手話表現と指文字まとめ	ここまでで学習した手話表現と指文字について理解しているかどうか確認を行う.
9	手話言語の記述法	手話言語の記述法について学習する.+手話表現1
10	音韻論	ASLで見られる音韻ルールを紹介したうえで, JSLの音韻について学習する.+手話表現2
11	形態論	JSLがどのような形態の構造を持っているかを学習する.+手話表現3
12	統語論1	JSLの文法について学習する.(CL, 動詞分類, 語順)+手話表現4
13	統語論2	JSLの文法について学習する.(NMM, AUX)+手話表現5
14	手話表現まとめ1	前期に学んだ手話表現を復習する.
15	レポート講評会	レポートの講評を行い, それぞれが内容について改善し提出する.
16	レポート発表会1	レポートの内容をプレゼンテーションする.(前半)
17	レポート発表会2	レポートの内容をプレゼンテーションする.(後半)
18	意味論	JSLの意味について学習する.+手話表現6
19	語用論	JSLの語用について学習する.+手話表現7
20	手話失語	手話の失語について学習する.+手話表現8
21	聾文化	聾者の文化について学習する.+手話表現9
22	手話言語教育	世界と日本の手話教育について学習する.+手話表現10
23	手話表現まとめ2	後期に学習した手話表現について復習を行う.
24	情報保障1	情報保障の一般的な方法について学習する.+手話表現11
25	情報保障2	情報保障の技術について学習する.+手話表現12
26	情報保障3	情報保障と災害について学習する.+手話表現13
27	手話演習1	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う. 自分の意見を発表する練習.
28	手話演習2	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う. Q&Aの練習.
29	手話演習3	JSLを使用したコミュニケーションの演習を行う. グループトークの練習.
30	まとめ	ここまでで学んだ事を正しく説明できるかを確認する.
備考	後期定期試験を実施する. 後期定期試験を実施する.	

科 目	経済学 (Economics)				
担当教員	高橋 秀実 教授				
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		JABEE基準	(a),(b)	
授業の概要と方針	現代日本経済・世界経済の諸テーマを多面的に検証する。最新の経済テーマ・トピックスを採り入れ、時事経済記事・データを紹介し、経済動向を視野に入れつつ、現代経済の全体像を浮き彫りにする。転換期としての日本経済・世界経済の現状と課題を把握し、技術者として現代経済を広い視野から分析し判断しうる見識を養成する。				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C3】終身雇用・年功序列型雇用制度の変化、フリーター・非正規雇用の増大、失業率や雇用動向を最新データを用いて検証し、ワーキングプアなど現代の格差問題を考察する。				労働・雇用問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	【C3】少子化・高齢化の現況と原因を分析し、財政・税制・社会保障・経済成長に及ぼす影響や問題点を考察する。				少子化・高齢化問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	【C3】金融危機・財政危機が複合した現代の世界経済危機を考察する				日本及び世界経済の現況と課題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	【C3】貿易の現状と課題を考察する。グローバル化と地域経済統合が進展する世界経済において、自由貿易と保護貿易を比較考察し、TPPの問題点を検証する。				貿易についての理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	【D2】技術革新と産業構造の変化の関連を考察する。サービス化・ソフト化・グローバル化・IT化・少子高齢化、などの影響を考察する。				技術革新と産業構造の関連の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6	【C3】資源エネルギー問題、環境問題、と経済の関連を考察する。				資源エネルギー問題、環境問題、の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は、試験70% ,レポート・授業提出物30% で評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。				
テキスト					
参考書					
関連科目	政治経済(3年)				
履修上の注意事項	なし				

授業計画(経済学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
2	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
3	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
4	雇用・労働	完全失業率・有効求人倍率の概念,近年の失業率の推移など,雇用の現況を把握するための基礎知識を習得する。
5	雇用・労働	終身雇用制・年功序列型賃金・企業別労働組合など,戦後日本の雇用の特徴を検証し考察する。
6	雇用・労働	フリーターなど非正規雇用の増加の現状を分析し,雇用形態の多様化とその問題点を考察する。能力主義・成果主義賃金への転換など,雇用制度に関する現代的潮流を考察する。
7	日本のバブル経済:発生と崩壊	ブラザ合意以降の株価・地価高騰,バブル経済化,1990年代株価・地価暴落,バブル崩壊を分析する。
8	平成不況と金融危機	1990年代バブル崩壊後のデフレ経済,金融危機を招いた銀行の不良債権問題を分析し考察する。
9	IT革命とグローバリゼーション	1990年代以降世界経済の構造変化を生じさせた要因として,情報通信を基盤とする技術革新(IT革命)と,世界市場の一体化(グローバリゼーション)を考察する。
10	労働・雇用	賃金・労働時間・休暇など,労働基準法が規定する労働者の権利を検証する。女性の労働問題を考察する。
11	少子化・高齢化	日本の少子化・高齢化の現状を分析し考察する。
12	少子化・高齢化	晩婚化・未婚化及び経済的理由による出生率低下などの諸観点から,少子化の原因を分析し考察する。
13	少子化・高齢化	財政・税制・社会保障など様々な面に及ぼす少子化・高齢化の経済的影響を考察する。
14	格差問題	所得格差・ワーキングプアなど近年の格差拡大の現状を理解し,その原因を分析する。雇用形態の変化,高齢化など様々な要因から多面的に考察する。
15	前期総括	前期の授業内容を総括する。
16	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
17	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
18	財政	公共財の供給・所得の再分配・景気の調整など諸観点から,財政の機能を考察する。
19	租税	直接税と間接税の比較を中心に税制度を分析する。国債累積・財政破綻の現状を分析する。
20	社会保障	日本の社会保障制度の現状と問題点を分析し考察する。
21	資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について考察する。
22	資源・エネルギー問題	原子力発電の問題点と課題,新エネルギーの可能性について検証する。
23	環境問題	公害問題について考察する。
24	環境問題	地球環境問題について考察する。
25	貿易	日本の貿易の特徴を分析する。日本企業の生産海外移転・多国籍企業化を理解し,グローバリゼーションを考察する。
26	貿易	中国経済の現状を分析し,日中経済関係のあり方を考察する。
27	技術革新と産業構造	ペティ・クラークの法則が示す産業構造の変動を日本経済の歩みを通じて実証する。
28	技術革新と産業構造	戦後日本の技術革新の特徴を考察し,技術革新と産業構造の変遷の連関性を分析する。
29	技術革新の新しい潮流	情報通信革命,環境との調和,コンピュータ・ロボット・人工知能など,注目される技術革新の新しい潮流を考察する。
30	総括:世界経済・日本経済の現状と課題	全授業の総括として,世界経済・日本経済が置かれている現状と諸課題を考察する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。時事経済テーマを随時導入するため,上記予定テーマの内容と順序は変更可能性あり。	

科 目	情報基礎 (Fundamentals of Information Technology)				
担当教員	中村 佳敬 准教授				
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A3(100%)				
授業の概要と方針	本講義は,コンピュータを電子文房具として手軽に使うために必要となる基礎技術を身につけることを目的としている.授業では,コンピュータやネットワークの仕組みを理解しながら,キーボードの操作や文書入力,電子メールの操作,コマンドによる Linux の操作,Web ページの作成方法,WWW による情報収集と発信,アプリケーションソフトウェア(ワープロ,表計算,プレゼンテーション)の操作について演習をしながら学習していく.				
	到 達 目 標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A3】コンピュータや電子メールを利用する際のマナーを身につける.				コンピュータや電子メールを利用する際のマナーを身につけたかレポートと後期中間試験で評価する.
2	【A3】コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念が理解できる.				コンピュータおよびネットワークとセキュリティの基本的概念を理解したか後期中間試験で評価する.
3	【A3】コマンドを利用してLinuxの基本的な操作を行うことができる.				コマンドを利用して基本的な操作を行うことができるか後期中間試験で評価する.
4	【A3】タッチタイピングができる.				タイピングテスト結果で評価する.
5	【A3】インターネット上の倫理観を身につけながら情報を収集,加工,発信(HTMLによるWebページ作成)できる.				インターネットを通して情報を収集・加工・発信(HTMLによるWebページ作成)できるか,また倫理観が身についているかレポートと後期中間試験で評価する.
6	【A3】ワードプロセッサを使って文書作成ができる.				ワードプロセッサを使って文書作成ができるかレポートと後期中間試験で評価する.
7	【A3】表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理,グラフ作成ができる.				表計算ソフトウェアを使って簡単な計算およびデータ処理,グラフ作成ができるかレポートと後期中間試験で評価する.
8	【A3】プレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成することができる.				プレゼンテーションソフトウェアを使って簡単な作図およびスライドを作成できるかレポートで評価する.
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は,試験30% レポート60% タイピング10% として評価する.試験成績は,後期中間試験の点数とする.100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	情報処理I, II, 通信工学II				
履修上の注意事項	本科目は演習を通じて修得する科目である.そのため,総合情報センターの演習室開放を積極的に利用するのが望ましい.				

授業計画(情報基礎)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	演習システムと利用方法	演習室の利用方法,ログイン,ログオフ,利用上のマナーについて説明し,コンピュータの基本的構造について学習する。
2	タイピング練習,SNS利用について	キーボード配列について学び,タイピング練習を行う。ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を利用する上での注意点を学習する。
3	タイピング練習,メール送受信(1)	タイピング練習,電子メールのマナーおよび操作方法を学習する。
4	タイピング練習,メール送受信(2)	タイピング練習,メール送受信を行う。
5	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(1)	タイピング練習,エディタの使用法について学習する。
6	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(2)	タイピング練習,ファイルやディレクトリの基本操作を学習する。
7	タイピング練習,Linuxの基本コマンド(3)	タイピング練習,ファイルやディレクトリの基本操作を学習する。
8	復習	1～7週目までについての復習を行う。
9	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について学習する。
10	インターネットとセキュリティ	WWWの仕組みおよびセキュリティや倫理について学習する。
11	WWWを利用した情報検索	WWWを有効に利用するための検索手段について学習する。
12	ワードプロセッサの利用(1)	ワープロの基本的な操作(入力方法など)について学習する。
13	ワードプロセッサの利用(2)	ワープロの基本的な操作(書式設定など)について学習する。
14	ワードプロセッサの利用(3)	ワープロの基本的な操作(数式と図)について学習する。
15	表計算ソフトウェアの利用(1)	表計算ソフトの基本的な操作方法および関数の使い方について学習する。
16	表計算ソフトウェアの利用(2)	表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理(抽出,ソートなど)の方法について学習する。
17	表計算ソフトウェアの利用(3)	表計算ソフトを用いて基本的なグラフ作成方法について学習する。
18	演習	これまで学習した内容について演習を行う。
19	HTMLによるWebページ作成(1)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する。
20	HTMLによるWebページ作成(2)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する。
21	HTMLによるWebページ作成(3)	HTMLによるWebページ作成のための基本事項について学習する。
22	コンピュータの基礎	コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの一般的な知識について復習する。
23	中間試験	コンピュータおよびネットワークについて筆記試験を行う。
24	プレゼンテーションソフトウェアの利用(1)	プレゼンテーションについて学び,プレゼンテーションソフトウェアを利用して演習を行う。
25	プレゼンテーションソフトウェアの利用(2)	プレゼンテーションソフトウェアを利用して図形の描画,他のアプリケーションとの連携の演習を行う。
26	プレゼンテーションソフトウェアの利用(3)	的確で分かりやすいプレゼンテーション方法について学び,プレゼンテーションの準備を行う。
27	演習	これまで学習した内容について演習を行う。
28	演習	これまで学習した内容について演習を行う。
29	演習	これまで学習した内容について演習を行う。
30	演習	これまで学習した内容について演習を行う。
備考	後期中間試験を実施する。	

科 目	電気製図I (Electrical Drawing I)				
担当教員	土井 直祐 非常勤講師				
対象学年等	電気工学科・1年・後期・必修・1単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A4-E1(50%), A4-E4(50%)				
授業の概要と方針	製図基礎としての製図器具(特に,三角定規とコンパス)の使い方,JIS規格に基づく図法を学び,製図を通して基本的な事項について,図面を読み描き出来る能力を身につけさせる.又,図学的物の見方,表現の仕方の学習は空間的思考力,構成力を養うため重要である.この点に重点を置いた講義とする.投影法としては,JIS機械製図で規定され,又,国内外で多く使われている第三角法の描き方について重点的に学習する.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E1】製図に用いる線の区別と文字の書き方が理解できる.			線の種類と用途,線の引き方 及び 文字の形,大きさについて理解できているかを課題図で評価する.	
2	【A4-E1】三角定規とコンパスのみで,基本図は描ける事が理解できる.			三角定規とコンパスのみを使って,図面が描ける事が理解できているかを課題図と期末試験で評価する.	
3	【A4-E1】角・線分の等分が出来る.			角・線分の等分が,三角定規とコンパスのみを使って描ける事が理解できているかを課題図と期末試験で評価する.	
4	【A4-E1】 曲線(楕円,放物線,双曲線,三角関数)が描ける.			曲線(楕円,放物線,双曲線,三角関数)の描き方が理解できているかを課題図で評価する.	
5	【A4-E1】点・線・平面の投影図が描ける.			点・線・平面の投影図の描き方が理解できているかを課題図で評価する.	
6	【A4-E4】投影図の種類の中で,特に,第三角法による正投影図及び等角投影図の内容が理解できる.			投影図の種類 及び 第三角法による正投影図と等角投影図の内容が理解できているかを課題図で評価する.	
7	【A4-E4】第三角法による立体図の正投影図が描ける.			第三角法による立体図の正投影図の描き方が理解できているかを課題図で評価する.	
8	【A4-E4】斜方眼紙を利用して等角投影図が描ける.			斜方眼紙を使って,等角投影図の描き方が理解できているかを課題図で評価する.	
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は,試験30% 毎週の製図課題70% として評価する.到達目標2～8の課題製図70%(正確さ,丁寧さ,提出期限,授業への積極性を重視)の比率で評価する.毎回,製図課題を与え,提出期限内に提出させる.課題製図未提出は比率に応じて減点する.100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	この科目は2年生で学習する電気・電子回路などの「電気製図」の基礎となっている.				
履修上の注意事項	製図器具(三角定規,コンパス,雲形定規又は曲線定規,直線定規,テンプレート,製図用シャープペンシル,字消し板,消しゴムなど)は各自用意し持参のこと.製図用紙は,毎回支給する.				

授業計画(電気製図I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス・製図の基礎	授業の進め方(シラバス)について、説明する。製図基礎として、製図器具(特に、三角定規とコンパス)の使い方、製図に関する規格、図面欄(タイトル、図面番号、作成者、図面来歴など)の書き方などについて具体的に解説する。
2	製図に用いる線	線は図面を表すのに重要な要素であり、線の形と種類、太さの種類 及び 線の引き方などについて解説する。各種の線を引くことによって、三角定規とコンパスの使い方も練習する。課題:「製図の線」
3	製図に用いる文字	製図に用いる文字の種類は、ローマ字、数字、漢字、仮名、記号がある。JIS規格で規定された文字の形、文字の大きさ 及び 文字や記号を描くときの注意事項などについて解説する。課題:「製図に用いる文字」
4	平面図形(線分の等分・角の等分)	平面図形の描き方について概説した後、線・角のN等分の方法について解説する。課題:「線の2等分、線の3等分、角の2等分、直角の3等分」
5	平面図形(正五角形、正六角形)	一辺が与えられたとき 及び 対角寸法が与えられたときの多角形の描き方について解説する。課題:「一辺が与えられたときの正五角形、正六角形及び 対角寸法が与えられたときの正五角形、正六角形」
6	平面図形(楕円)	楕円の描き方の方法として、焦点法(長軸ABと2点の焦点F1、F2が与えられている)と副円法(長軸ABと短軸CDが与えられている)について概説した後、副円法による楕円の描き方について解説する。課題:副円法による「楕円」
7	平面図形(放物線)	放物線の描き方の方法として、頂点Aと焦点Fが与えられて描く方法と、頂点Aと放物線上の点P1とP2が与えられて描く方法(枠組法)について概説後、枠組法による放物線の描き方について解説する。課題:枠組法による「放物線」
8	平面図形(双曲線)	主軸A0Bおよび二つの頂点A0、Aと曲線上の一点Cが与えられた場合の双曲線の描き方について解説する。課題:主軸A0Bおよび二つの頂点A0、Aと曲線上の一点Cが与えられた「双曲線」
9	三角関数曲線	電気・電子技術において必要な三角関数曲線(正弦曲線、余弦曲線)の描き方について解説する。課題:「三角関数曲線(正弦曲線・余弦曲線)」
10	投影図(点と直線の投影)	まず、投影図の種類について概要を解説する。主投影図の配置は、JIS機械製図で規定されている「第三角法」の配置について解説する。多面体の隅の頂点と頂点を結んだ直線の見方と、主投影図の描き方について解説する。課題:「点と直線の投影」
11	投影図(平面の投影)	多面体の平面の各面は、視線との向きによって、視線に垂直な平面、視線に平行な平面、視線に斜めの平面があり、それぞれの平面図の見方、主投影図の描き方について解説する。課題:多面体の「平面の投影図」
12	立体物の正投影図(1)	正投影法による立体の表現として、第三角法の配置について具体的に説明した後、2回にわたって立体物の投影図を作成する。課題:「立体物の投影図(1)」
13	立体物の正投影図(2)	前回の続き課題:「立体物の投影図(2)」
14	立体物の等角投影図(1)	等角図の描き方について解説し、斜方眼紙を利用して、第三角法で書かれた投影図を等角図で描く練習をする。課題:「等角投影図(1)」(第三角法で描いた立体物の配置図を斜方眼紙に等角投影図を描く)
15	立体物の等角投影図(2)とキャビネット図	前回の続き課題:「等角投影図(2)」(第三角法で描いた立体物の配置図より、斜方眼紙に等角投影図を描く)と同じ立体図をキャビネット図でも描く。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する。試験には筆記用具以外に定規、コンパス必要。	

科 目	基礎電気工学 (Fundamentals of Electrical Engineering)			
担当教員	道平 雅一 教授、茂木 進一 教授、南 政孝 准教授			
対象学年等	電気工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	電気工学を学ぶ上で一番基礎となる語句、オームの法則、キルヒホッフの法則、諸定理、電力などを身近に見受けられる事象を引用し、基礎的な知識や計算力を十分付けるようにする。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】電位,電位差,電圧降下が理解できる			電位,電位差,電圧降下の理解度を前期中間試験で評価する
2	【A2】分流器,倍率器を理解し,テスターの理論を把握できる			分流器,倍率器の理解度を演習問題レポートと前期中間試験で評価する
3	【A2】いろいろな直流回路網の計算ができるようにキルヒホッフ,テブナンなど各種定理を理解できる			キルヒホッフ,テブナンなどの電気回路の基礎となる各種定理を理解し,諸計算ができるかを前期中間試験,前期定期試験及びレポートで評価する
4	【A2】Y-Δ変換を理解し,交流回路に関する諸問題に対応できる.			Y-Δの変換を理解しているか合成抵抗の計算や電流の計算を後期中間試験で評価する
5	【A2】ブリッジを理解し,2年生以降の実験の時の理論が理解できる			平衡なブリッジと不平衡なブリッジをレポート及び後期定期試験で評価する
6	【A2】抵抗,コンデンサ,コイルの役割,見方について理解できる			抵抗,コンデンサ,コイルの役割,見方について理解しているか後期定期試験で評価する
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.レポートの15%には,小テストの評価も含む.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	数学,電気回路			
履修上の注意事項	数学の基礎計算をしっかりと理解しておくこと.			

授業計画(基礎電気工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	基礎電気の概要とギリシャ文字の説明	基礎電気で学ぶこと,電気ではよく出てくるギリシャ文字の説明をする
2	オームの法則,抵抗の直列接続,並列接続	例題を通して合成抵抗の計算を説明する
3	抵抗の直並列接続	例題を通して合成抵抗の計算を説明する
4	抵抗の組合せ回路	例題を通して合成抵抗,電流の計算を説明する
5	電池の接続	電池の直並列接続の説明,演習を行なう
6	電流計と分流器	分流器の説明と演習問題
7	電圧計と倍率器電源の直列,並列接続	倍率器の説明と演習問題
8	中間試験	1週から7週までの範囲で理論を理解しているか計算問題を中心に試験する
9	中間試験の解答と電力と電力量	電力の最大,最小について説明する
10	ジュールの法則	ジュールの法則を説明し,演習問題をする
11	抵抗の温度係数と抵抗率	抵抗の温度係数や抵抗率を説明し演習問題をする
12	キルヒホッフの法則1	キルヒホッフの第1法則,第2法則の説明を行う.
13	キルヒホッフの法則2	演習問題を解くことでキルヒホッフの法則を理解させる
14	演習	演習問題を解くことでキルヒホッフの法則を理解させる
15	演習	定期試験までの範囲の計算問題を演習として解かせる
16	定期試験の解答と重ね合せの定理	重ねの定理を説明する
17	重ね合せの定理	重ねの定理を演習問題で理解させる
18	テブナンの定理1	テブナンの定理の説明をする
19	テブナンの定理2	テブナンの定理を演習問題を解きながら説明する
20	補償の定理	補償の定理を説明し演習させる
21	抵抗のY-Δ変換	抵抗のY-Δの変換を導き演習させる
22	抵抗のΔ-Y変換	Δ-Y変換を導き演習させる
23	中間試験	16週から22週までの範囲で計算問題で試験する
24	中間試験の解答と補足ーミルマン	補足ーミルマンの定理を説明し演習する
25	相反の定理	相反の定理を理解させ実際にそうなることを演習する
26	単位電流法	単位電流法で電流の計算より合成抵抗を計算させる
27	対称回路	対称回路により合成抵抗の計算をさせる
28	ブリッジ回路1	平衡,不平衡なブリッジ回路の説明をする
29	ブリッジ回路2(ダブルブリッジ)	ダブルブリッジを理解させ低抵抗の測定に役立たせる
30	演習,抵抗の見方	プリントにより抵抗の種類や見方を説明する
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	電気数学I (Electrical Mathematics I)			
担当教員	津吉 彰 教授			
対象学年等	電気工学科・2年・後期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A1(50%), A4-E1(50%)			
授業の概要と方針	電気工学科2,3年生で学習する専門科目において,特に重要で必要とされるであろう数学の応用力と計算力をつけることを目的とする.具体的には,三角関数,複素数,微分・積分に重点をおき,演習を中心とした講義を行なう.また,電気工学特有の表現や問題にも触れることで,電気工学において数学がどのような物理的意味を持つかを理解する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A1】加法定理を利用して,三角関数に関する定理や公式を導出できる.			加法定理を利用して,三角関数に関する定理や公式を正しく導出できることをレポート,小テストおよび後期中間試験,後期定期試験で評価する.
2	【A4-E1】三角関数の定理や公式を用いて,交流回路で生じる現象を三角関数で表現でき,諸問題を解くことができる.			交流回路に生ずる現象を三角関数で表現でき解くことができるかをレポートおよびレポートおよび後期中間試験,後期定期試験で評価する.
3	【A1】オイラーの公式,複素数の四則演算など複素数の基本を習得する.			オイラーの公式,複素数の四則演算などが理解しているかをレポート,小テストおよび後期中間試験,後期定期試験で評価する.
4	【A4-E1】交流回路で生じる諸問題を,複素数を用いて表現でき,解くことができる.			交流回路に生ずる諸問題を複素数で表現でき,これを解くことができるかをレポートおよび後期定期試験で評価する.
5	【A1】電気回路における最大最小条件の計算,および交流回路における平均値・実効値の計算ができる.			電気回路における最大最小条件の計算と,交流回路における平均値・実効値の計算ができることをレポートおよび後期定期試験で評価する.
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験70% レポート20% 小テスト10% として評価する.なお,試験成績は後期中間試験と後期定期試験の平均点とする.100点満点で60点以上を合格とする.試験については再試験の受験を認める場合がある.ただし,レポートの提出を受験の条件とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	数学,電気回路I,II			
履修上の注意事項	電気工学において必要な数学的知識を修得することを目的としているため,積極的に理解するように努力すること.自分の力で暗記すべき項目はしっかりと暗記し,計算すべき項目はしっかりと計算していくという心構えが必要である.			

授業計画(電気数学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	直流と交流の違い	直流と交流の違いについて説明し,電気分野で三角関数と複素数の重要性を認識できるようにする。
2	三角関数(1)	角度の表現方法,三角関数の定義および三角関数の基本公式について説明する。
3	三角関数(2)	加法定理を利用して,様々な公式を導出できるようにする。
4	三角関数(4)	三角関数を用いて,簡単な交流回路の計算を行う.その結果をグラフに描けるようにする。
5	三角関数(5)	三角関数を用いて,複雑な交流回路の計算を行う.その結果をグラフに描けるようにする。
6	複素数(1)	複素数の表現法(直交座標表示,極座標表示)とオイラーの公式について説明する。
7	複素数(2)	複素数の四則演算について説明する。
8	中間試験	1週目～7週目までの内容について,中間試験を行う。
9	中間試験の解答および解説	中間試験の解答および解説を行い,注意すべき点等を指摘する。
10	複素数(3)	第4週目に学んだ簡単な交流回路の計算を複素数を用いて解けるようにする。
11	複素数(4)	第5週目に学んだ簡単な交流回路の計算を複素数を用いて解けるようにする。
12	微分(1)	微分の物理的な意味を理解し,関数の極限,微分係数および導関数の計算を行う。
13	微分(2)	微分を用いて,電気回路における最大値・最小値を求める問題が解けるようにする。
14	積分(1)	積分の物理的な意味を理解し,基本的な計算を行う。
15	積分(2)	交流波形の平均値および実効値の計算できるようにする。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.後期定期試験60%以上の評価で合格とする場合がある。	

科 目	情報処理I (Information Processing I)			
担当教員	赤松 浩 准教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A3(100%)			
授業の概要と方針	C言語によるプログラミングに関する講義を行う。2年では、プログラムのしくみを学んだのち、変数、演算、条件分岐、繰り返し、配列、およびポインタに関する技法を講義する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A3】C言語のプログラミング、コンパイル、デバック、実行までの流れが行える。			C言語のプログラミング、コンパイル、デバック、実行までの流れが行えるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A3】main関数の仕組みが説明でき、画面へのデータの出力が行える。			main関数の仕組みが説明でき、画面へのデータの出力が行えるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
3	【A3】変数の種類が説明でき、変数への値の代入および参照が行える。			変数の種類が説明でき、変数への値の代入および参照が行えるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
4	【A3】四則演算のプログラミングが行える。			四則演算のプログラミングが行えるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
5	【A3】条件分岐の技法として、if文およびswitch文のプログラミングが行える。			条件分岐の技法として、if文およびswitch文のプログラミングが行えるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
6	【A3】繰り返しの技法として、for文およびwhile文のプログラミングが行える。			繰り返しの技法として、for文およびwhile文のプログラミングが行えるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
7	【A3】配列を利用したプログラミングが行える。			配列を利用したプログラミングが行えるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
8	【A3】ポインタを利用したプログラミングが行える。			ポインタを利用したプログラミングが行えるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
9	【A3】標準関数を利用したプログラミングが行える。			標準関数を利用したプログラミングが行えるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
10	【】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。			
テキスト				
参考書				
関連科目	E1:情報基礎,E3:情報処理II			
履修上の注意事項				

授業計画(情報処理I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	プログラミング導入	プログラミング言語は何か、C言語とは何かを理解し、プログラミングから実行までの流れを理解すること。
2	変数	変数の使い方を理解し、変数を用いたプログラムが作れるようになる。
3	画面への表示	画面への表示方法を理解し、プログラムが作れるようになる。
4	簡単な計算	プログラム中において、簡単な四則演算ができるようになる。
5	演習	授業計画1～4までの演習を行う。
6	演習	授業計画1～4までの演習を行う。
7	演習	授業計画1～4までの演習を行う。
8	中間試験	授業計画1～7までの試験を行う。
9	試験返却	試験の解答を行う。
10	キーボードからの読み込み	キーボードからの読み込みを用いたコードが書けるようになる。
11	if文	if文を用いた条件分岐のコードが書けるようになる。
12	switch文	switch文を用いた条件分岐のコードが書けるようになる。
13	for文	for文を用いた繰り返しのコードが書けるようになる。
14	while文	while文を用いた繰り返しのコードが書けるようになる。
15	演習	授業計画10～14までの演習を行う。
16	配列1	配列の基礎を理解し、配列を用いたコードが書けるようになる。
17	配列2	前回に引き続き、配列を用いたコードが書けるようになる。
18	配列3	文字配列を理解し、文字配列を用いたコードが書けるようになる。
19	配列4	前回に引き続き、文字配列を用いたコードが書けるようになる。
20	ポインタ1	変数のアドレスを理解し、ポインタを用いたコードが書けるようになる。
21	ポインタ2	前回に引き続き、ポインタを用いたコードが書けるようになる。
22	演習	授業計画16～21までの演習を行う。
23	中間試験	授業計画16～22までの試験を行う。
24	試験返却	試験の解答を行う。
25	ポインタ3	ポインタと配列の関係を理解し、これらを用いたコードが書けるようになる。
26	ポインタ4	ポインタ演算を理解し、これを用いたコードが書けるようになる。
27	標準関数1	文字を扱う標準関数を用いたコードが書けるようになる。
28	標準関数2	文字列を扱う標準関数を用いたコードが書けるようになる。
29	標準関数3	数学関数を用いたコードが書けるようになる。
30	演習	授業計画25～29までの演習
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電気回路I (Electric Circuit I)			
担当教員	加藤 真嗣 准教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A4-E1(100%)			
授業の概要と方針	直流回路を用いて回路計算に必要な知識を復習する。そして、交流回路の回路素子である抵抗、コイル、コンデンサの振る舞いについて学び理解し、これらの回路素子が混在する回路に対して、三角関数とフェーザ法を用いて電圧、電流、電力が確実に計算できるように演習を行う。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E1】直流回路において、各種の法則を用いて電圧、電流、電力の計算ができる。			様々な直流回路において、適切に法則を用いて、電圧、電流、電力が計算できるか、課題、小テストおよび前期中間試験で評価する。
2	【A4-E1】積分を用いて平均値および実効値の計算ができる。			様々な周期関数の波形について、平均値および実効値が計算できるか、課題、小テストおよび前期中間試験で評価する。
3	【A4-E1】三角関数を用いて抵抗、コイル、コンデンサで構成される交流回路の電圧、電流、電力の計算ができる。			三角関数を用いて抵抗、コイル、コンデンサで構成される様々な交流回路が計算できるか、課題、小テストおよび前期定期試験で評価する。
4	【A4-E1】種々の方法で複素数を表現できる。また、複素数の四則演算ができる。			複素数を直交座標や極座標で表現できる、複素数の四則演算ができるか、課題、小テストおよび後期中間試験で評価する。
5	【A4-E1】フェーザ法を用いて抵抗、コイル、コンデンサで構成される交流回路の電圧、電流、電力の計算ができる。			フェーザ法を用いて抵抗、コイル、コンデンサで構成される様々な交流回路が計算できるか、課題、小テストおよび後期中間試験で評価する。
6	【A4-E1】共振回路について現象を理解し、共振条件などを計算できる。			直列共振回路と並列共振回路の現象を理解し、共振条件などを計算できるか、課題、小テストおよび後期定期試験で評価する。
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート5% 小テスト10% として評価する。なお、試験成績は中間試験および定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	数学, 基礎電気工学, 電気数学I, 電気回路II, 電気磁気学I			
履修上の注意事項	三角関数を使った計算が多いため、必ず三角関数を復習しておくこと。また、課された課題(レポート)は必ず次回までに自力で解いて、授業の開始時に提出すること。			

授業計画(電気回路I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電気回路の構成[第1章]	電気回路を構成する電源(電圧源,電流源)と回路素子(抵抗,コイル,コンデンサ)について説明する。
2	キルヒホッフの法則の復習[第2章]	複雑な回路の電圧や電流を求める方法である「キルヒホッフの法則」について復習する。
3	直流電力の計算の復習[第2章]	電力とは何かを説明し,直流電力の計算法について復習する。
4	教科書の演習問題の解説[第2章]	第2章の演習問題(P.14～P.16)について解説する。したがって,事前に2.1から2.8までを解いておくこと。
5	小テストと直流回路の演習問題	直流回路の問題に関して小テスト(45分程度)を行う。残りの時間は直流回路の演習問題を解く。
6	交流電圧と交流電流[第3章]	時間的に大きさが変化する交流について説明する。
7	平均値と実効値[第3章]	交流では大きさを表すために振幅(最大値)以外に平均値と実効値があり,それらについて説明する。
8	中間試験	1週目～7週目までの内容について試験する。
9	試験問題の解説と位相[第3章]	試験問題の解説と,位相について説明する。
10	交流回路における抵抗(R)の振る舞い[第3章]	交流回路における抵抗の振る舞いについて説明する。
11	交流回路におけるコイル(L)の振る舞い[第3章]	コイルの概念と,交流回路におけるコイルの振る舞いについて説明する。
12	交流回路におけるコンデンサ(C)の振る舞い[第3章]	コンデンサの概念と,交流回路におけるコンデンサの振る舞いについて説明する。
13	RLC直列回路[第3章]	RLCを直列に接続した場合の回路について説明する。
14	例題の解説[第3章]	教科書(P.30～P.32)の例題について解説する。
15	教科書の演習問題の解説[第3章]	第3章の演習問題(P.32～P.33)について解説する。したがって,事前に3.1から3.8までを解いておくこと。
16	試験問題の解説と復習	試験問題の解説と,6週目～13週目までの内容について復習する。
17	複素数のベクトル表示と四則演算[第4章]	複素数をベクトルで表示する方法と,四則演算方法について説明する。
18	記号解析法を用いた交流電圧と交流電流の表示[第4章]	ベクトルを用いて交流電圧や交流電流を表現する方法について説明する。
19	記号解析法を用いた回路素子の表示[第4章]	回路素子(抵抗,コイル,コンデンサ)について,ベクトルを用いた場合の表現方法について説明する。
20	複素インピーダンスと複素アドミタンス[第4章]	複素インピーダンスと複素アドミタンスに加えて,合成した場合の計算方法について説明する。
21	記号解析法を用いた直列回路(RL,RC,RLC)の計算[第4章]	記号解析法を用いた直列回路の計算について説明する。
22	教科書の演習問題の解説[第4章]	第4章の演習問題(P.65～P.67)について解説する。したがって,事前に4.1から4.10までを解いておくこと。
23	中間試験	16週目～22週目までの内容について試験する。
24	試験問題の解説と電力のベクトル表示[第4章]	試験問題の解説と,ベクトルを用いた場合の電力の表現方法について説明する。
25	ベクトル軌跡[第4章]	複素インピーダンスや複素アドミタンスからベクトル軌跡(半円)が描けることを説明する。
26	共振回路	記号解析法を用いた共振回路の計算法について説明する。
27	相互誘導回路	2つ以上のコイルから構成される相互誘導回路について説明する。
28	逆回路と定抵抗回路	逆回路と定抵抗回路について説明する。
29	教科書の演習問題の解説[第4章]	第4章の演習問題(P.67～P.69)について解説する。したがって,事前に4.11から4.21までを解いておくこと。
30	復習	教科書の第1章～第4章まで演習問題も含めて復習する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電気製図II (Electrical Drawing II)			
担当教員	森田 二郎 教授			
対象学年等	電気工学科・2年・前期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A4-E1(50%), A4-E4(50%)			
授業の概要と方針	動作・機能を中心とした電気製図(配線図・接続図・系統図など)に必要な電気・計装関連規格による線、図、記号、及び文字記号を習得し、各規格の図記号・文字記号などを用いて基本的な実用図面を製図させる。文字記号・図記号と使用部品、回路図の意味を理解させながら図面の書き方を習得させる。さらに、第2種電気工事士の筆記試験および技能試験の単線図から複線図への変換方法を理解させながら、合格レベルに達するように習得させる。			
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】電気製図は機能、動作中心の図面であり、線・文字記号・図記号が基本である事が理解できる。			電気製図は機能、動作中心の図面であり、線・文字記号・図記号が基本である事が理解できているかを製図課題(提出物)と中間試験で評価する。中間試験では70%以上出来ることが望ましい。
2	【A4-E1】電気製図に必要な電気計装関連規格が理解できる。			電気製図に必要な、主な電気計装関連規格が理解できているかを製図課題(提出物)と中間試験で評価する。中間試験では70%以上出来ることが望ましい。
3	【A4-E1】電気用図記号と機器の名称が理解できる。			電気用図記号と機器の名称が理解できているかを製図課題(提出物)と中間試験で評価する。中間試験では70%以上出来ることが望ましい。
4	【A4-E4】計装用記号と計器の名称が理解できる。			計装用記号と計器の名称が理解できているかを製図課題(提出物)と中間試験で評価する。中間試験では70%以上出来ることが望ましい。
5	【A4-E4】第2種電気工事士の筆記試験の範囲部分が理解できる。			確認のために、過去問題10回分(500問)から30問を選んで、中間試験と定期試験で評価する。各試験では70%以上出来ることが望ましい。
6	【A4-E1】基本的な論理回路図記号と電磁リレー回路図の対比が理解できる。			基本的な論理回路図と電磁リレー回路図を対比して書くことができるかを製図課題(提出物)で評価する。
7	【A4-E1】屋内配線の図記号を理解できる。			基本的な屋内配線図に対して、コンセントの増設、スイッチの増設などを加えた屋内配線図が書くことができるかを製図課題(提出物)で評価する。
8	【A4-E4】第2種電気工事士の技能試験における単線図から複線図への変換が理解できる。			確認のために、過去問題10回分(10問)と基本回路10回分から4問を選んで、中間試験と定期試験で評価する。各試験では70%以上出来ることが望ましい。
9	【】			
10	【】			
総合評価	到達目標1～8の中間試験、定期試験50%、製図課題50%(正確さ、全体のバランス、丁寧さ、提出期限、製図態度)の比率で総合評価する。製図課題(提出物)は、正確さ、丁寧さを重視する。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気製図I			
履修上の注意事項	この科目は1年生の電気製図で学習した線の区分、製図用文字、製図法などを基礎としている。製図器具(三角定規、コンパス、雲形定規又は曲線定規、30cmものさし、テンプレート、製図用シャープペンシル、字消し板、消しゴムなど)は、各自用意し持参のこと。製図用紙は、毎回支給する。			

授業計画(電気製図II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	第二種電気工事士筆記試験の一般問題(1)	過去に出題された筆記試験一般問題30問が解けるように,理論部分の解説を行う。
2	第二種電気工事士筆記試験の一般問題(2)	過去に出題された筆記試験一般問題30問が解けるように,理論部分の解説を行う。
3	第二種電気工事士筆記試験の一般問題(3)	過去に出題された筆記試験一般問題30問が解けるように,電気設備技術基準およびその解釈に関係している部分の解説を行う。
4	第二種電気工事士筆記試験の配線図問題(1)	過去に出題された筆記試験配線図問題20問が解けるように,鑑別の名称と用途に関する部分の解説を行う。
5	第二種電気工事士筆記試験の配線図問題(2)	過去に出題された筆記試験配線図問題20問が解けるように,図記号,材料,工具の選別に関する解説を行う。
6	単線図から複線図への変換(1)	第2種電気工事士技能試験での公表問題13問に対して,単線図から複線図に変換できるように解説する。
7	単線図から複線図への変換(2)	第2種電気工事士技能試験での公表問題13問に対して,単線図から複線図に変換できるように解説する。
8	前期中間試験	過去10回分の第二種電気工事士筆記試験問題から100問を選択して出題する。
9	電気製図に必要な関連規格の概要および図面の描き方	動作,機能を中心とした電気製図とは,配線図・接続図・系統図等の図面であり,線・文字記号・図記号で表すことが出来る。図面は,書く側(作成者)から読む側(第3者)に正確に意思を伝達することである。そのためには,一定のルールが必要である。その為に制定された主な電気計装関連規格の概要について学習する。
10	電気用図記号(基本図記号)	電気用図記号は,機器の容量,寸法等に関係なく表すことが出来ることを図記号と機器名を対比して説明する。又,電気用図記号の図面上の表し方について解説する。
11	屋内配線図(1)	基本的な屋内配線図に対して,コンセント増設,スイッチ増設などを施した図面について解説する。
12	屋内配線図(2)	基本的な屋内配線図に対して,コンセント増設,スイッチ増設などを施した図面について解説する。
13	半導体図記号と技能試験対策	半導体図記号を描く,第二種電気工事士の技能試験対策を行う。
14	負帰還増幅回路	負帰還増幅回路を描く。
15	総合演習(復習)	これまでの学習内容について復習を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	ディジタル電子回路 (Logical Circuit)			
担当教員	佐藤 徹哉 教授			
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A3(100%)			
授業の概要と方針	マイクロコンピュータをはじめとするディジタル計算回路,ディジタル制御回路に用いるディジタル電子回路技術の基礎とそれらを応用した基本回路の理論設計について英文教科書を用いて講義する.身近なディジタル技術を英語で学ぶことを通じて技術英語の基礎も身につける.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A3】各進数の相互変換方法を理解する.			各進数相互変換,2進数の加減乗算,補数などが理解できているかを前期中間試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
2	【A3】論理代数の理論を理解する.			論理演算,真理値表,ベン図,ブール代数,ゲート回路などが理解できているかを前期中間試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
3	【A3】論理回路の設計方法を理解する.			加法標準形,乗算標準形,カルノー図,クワイン・マクラスキー法などが理解できているかを前期定期試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
4	【A3】ディジタルICに必要な基礎項目を理解する.			基本ゲート回路の構成,TTLとC-MOSについて,ICの持つ規格などが理解できているかを後期中間試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
5	【A3】組み合わせ回路,順序回路の考え方を理解する.			コンパレータ・エンコーダ・デコーダなどが理解できているかを後期中間試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
6	【A3】マルチプレクサ・デマルチプレクサ,加算回路,減算回路,RS-FF,JK-FFなどの考え方を理解する			加算回路,減算回路,RS-FF,JK-FFなどが理解できているかを後期定期試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
7	【A3】非同期式順序回路と同期式順序回路などの考え方を理解する			非同期式順序回路と同期式順序回路などが理解できているかを後期定期試験で評価する.試験問題も英文で出題する.
8	【A3】ディジタル情報分野における工学に関する基礎知識を英語で身につける.			定期試験問題を英文で出題し評価するとともに工業英語の小テストでも評価する.工業英語の小テストは工業英検試験結果での代替も可とする.
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験85% 小テスト15% として評価する.小テストは工業英語に関する試験を行って評価するが,併せて工業英検4級試験の受験を推奨し,その結果での代替も可とする.(合格:15点,不合格A:12点,不合格B:9点,不合格Cは代替不可)			
テキスト				
参考書				
関連科目	工業英語I,計算機工学,電子回路I,電子回路II			
履修上の注意事項	『授業計画と教科書の対応』に沿って『主要英単語一覧』も参考に予習を行い,Problem assignmentに記載の問題を解いて復習すること.英文教科書を用いてディジタル回路を学ぶメリット活かして,英語の専門用語や英文表現方法を身につけ,ディジタルICやマイコンの英文データシート読解等,計算機工学や実験でも役立つ基礎力を養うように心がけること.技術英語分野の力試しとして工業英検4級の受験を推奨する.			

授業計画(デジタル電子回路)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	2進数の加減乗算と相互変換I	「2進数の考え方」を学習し,2進数の加減乗算を学習する。
2	相互変換II	2進数->10進数変換,10進数->2進数変換,16進数->10進数変換を学習する。
3	相互変換III	10進数->16進数変換,16進数->2進数変換,2進数->16進数変換を学習する。
4	補数と負の数の表現	1の補数,2の補数と補数を用いた負の数の表現方法を学習する。
5	2進化10進数と論理代数	2進化10進数とAND,OR,NOT回路について論理式,真理値表,図記号について学習する。
6	ベン図とブール代数の諸定理I	ベン図の使い方とブール代数の諸定理を学習する。
7	ブール代数の諸定理II	ブール代数の諸定理を使って式の簡単化を行う。
8	中間試験	前期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
9	中間試験の復習	中間試験の解答および復習を行う。
10	ゲート回路	NAND,NOR,EX-OR,EX-NOR,バッファ回路の論理式,真理値表,図記号について学習する。
11	論理回路設計手順と加法標準形・乗法標準形	論理回路設計手順を学び,更に加法標準形・乗法標準形について学習する。
12	カルノー図	3変数と4変数のカルノー図を用いて論理式を簡単化する方法を学習する。
13	クワイン・マクラスキー法	3変数と4変数のクワイン・マクラスキー法を用いて論理式を簡単化する方法を学習する。
14	基本ゲート回路の構成	AND,OR,NOT回路についてダイオードを用いた実際の回路について学習する。更にトランジスタの比例領域,飽和領域について学習する。
15	復習	10~14回目の内容について復習を行う。
16	TTLとCMOS	TTLとCMOSのゲート回路について学習する。
17	74シリーズとファミリ	74シリーズのファミリについて学びCMOSの優れている点について学習する。更に型番が何を示しているか学習する。
18	ICの規格I	絶対最大定格,推奨動作条件,スイッチ特性,伝搬遅延時間を学習する。
19	ICの規格II	しきい値,ブルダウン抵抗,ファンアウト,オープンドレイン形,オープンコレクタ形について学習する。
20	コンパレータ	コンパレータは,入力データの大小関係を比較する回路であることを学習する。
21	エンコーダとデコーダ	エンコーダは10進数を2進数に変換する回路,デコーダは2進数を10進数に変換する回路であることを学習する
22	マルチプレクサとデマルチプレクサ	複数のデータから1つのデータを選択する場合にマルチプレクサが使われることについて学習する。デマルチプレクサは1つのデータを複数のデータ線のうちのいずれかに出力する回路であることを学習する。
23	中間試験	後期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
24	中間試験の復習	中間試験の解答と復習を行う。
25	加算回路I	半加算器は,2個の1ビットデータを加算する装置である。全加算器は,上位ビットへの桁上がり情報と,下位ビットからもたらされる桁上がり情報を受け取り加算する機能をもつ装置であることを学習する。
26	加算回路II	ノイマンの全加算器:実用されている全加算器を紹介する。並列加算器・直列加算器は,複数ビットどうしの加算を行う方法であることを学習する。
27	減算回路	半減算器は,2個の1ビットデータの減算をする装置である。全減算器は,上位ビットへ借り情報と,下位ビットからもたらされる借り情報を受け取り減算する機能をもつ装置である。加減算回路:加算器を使用して減算を行うことを学習する。
28	RS-FF	フリップフロップ(FF)の基本的な説明.RS-FFの特性方程式を理解する.RS-FFの動作確認をする.RS-FFの応用例を示す。
29	非同期式順序回路と同期式順序回路	非同期式順序回路と同期式順序回路とはどのようなものか理解する。ポジティブエッジ型,エッジトリガ型について学習する。
30	JK-FF	JK-FFの特性表,特性方程式とその回路を学習する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。試験問題も英文で出題する。	

科 目	電気工学実験実習 (Laboratory Work in Electrical Engineering)				
担当教員	森田 二郎 教授,中村 佳敬 准教授,徳田 将敏 非常勤講師				
対象学年等	電気工学科・2年・通年・必修・3単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A4-E1(30%), B1(10%), B2(10%), C4(30%), D1(20%)				
授業の概要と方針	基礎電気工学,情報基礎,情報処理Iなどの座学で学んだ理論を実験で確かめ,理解を深めさせると共に,電気量の測定方法や器具の取扱に習熟させる.また,座学で学ぶことのできない電線の接続実習や電源の製作実習では,2週連続の継続テーマでの実習とすることで,電気技術者としての知識,技能の向上を図る.実習は個人作業,実験は少人数に分けて行うことで理解の徹底を図る.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E1】実験を通じて基礎理論が理解できる.			1年生で履修した基礎電気工学の座学の知識の確認を実験報告書のレポート課題によって評価する.完成度8割を合格の目安とする.	
2	【D1】電圧計,電流計,電力計といった基本的な計測器の取扱方法を実験中で触ることで体得する.その他各種計測機器の取扱方法に関しても取扱説明書を読むことと実際に測定することで使い方を体得する.			各種計測機器の取り扱い方の評価に関し,実験中の活動を見ながら,積極性の度合いを点数化し,評価する.80点以上を合格の目安とする.	
3	【B1】計測技術の理論による理論値と実験で得た実験値のデータの比較方法を実験で体得する.			データ処理などを体験することで,理論値と実験値の誤差データ処理などをレポート課題の考察項目として評価する.完成度80%以上を合格の目安とする.	
4	【B2】製作実習,電線接続実習による電気技術者としてのセンス,技能を体得する.特に製作実習においては,基板をある程度自由に配置できるため,独創性を養うことも目標とする.			決められた時間内に正確に完成させられるか,独創性の部分がどこかを実習中に完成度の各チェック項目に対して評価する.完成度80%以上を合格の目安とする.電線接続実習は,技能試験と前期定期試験で評価する.	
5	【C4】期限内に実験実習報告書を提出できる.			各テーマ毎の報告書の提出状況で評価する.	
6	【】				
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は,レポート50% 学習態度(服装,記録方法の点検,技能試験など)50% として評価する.実験と実習に2つに分け,実習に関してはレポートは無く,評価は実験の半分とする.レポート提出期限は1週間とし,正当な理由がある場合に限り2週以内は受領する.遅れたレポートは50点満点換算評価点に対して,1日につき,3.3点の減点を行う.60点以上を合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	基礎電気工学,情報基礎,情報処理I(2年),情報処理II(3年)				
履修上の注意事項	履修上の注意事項:実習ではエッチング作業,半田付け,電工ナイフを使った作業などがあるので,汚れても良いような服装が必要.詳細は1週目のガイダンスで説明する.				

授業計画(電気工学実験実習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	全体説明会(実験実習ガイダンス)(M担当)	授業計画の全体説明(日程,成績評価方法などの説明も含む)
2	半田付けの実習(T,Y担当)	半田付けの基本となる実習を行う。(2班に分かれて,3週目の内容と週交代)
3	電線の接続1(M,G担当)	電気工事の基礎となる部分のビデオ学習ののち,電線接続実習を行う。(2班に分かれて,2週目の内容と週交代)
4	テストの製作1(T,Y担当)(第4週から第7週まで2班集体制で交代する)	学習教材用のテストの製作の前半部分を2週連続で行う。
5	テストの製作2(T,Y担当)(第4週から第7週まで2班集体制で交代する)	学習教材用のテストの製作の前半部分を2週連続で行う。
6	電線の接続実習2(M,G担当)(第4週から第7週まで2班集体制で交代する)	電気工事の基礎となる部分のビデオ学習ののち,電線接続実習を行う。(2週連続で行う。)
7	電線の接続実習3(M,G担当)(第4週から第7週まで2班集体制で交代する)	電線と電気器具との取り付け実習。(2週連続で行う。)
8	テストの製作3(T,Y担当)(第8週から第11週まで2班集体制で交代する)	学習教材用のテストの製作の後半部分を2週連続で行う。
9	テストの製作4(T,Y担当)(第8週から第11週まで2班集体制で交代する)	学習教材用のテストの製作の後半部分を2週連続で行う。
10	電線の接続実習4(M,G担当)(第8週から第11週まで2班集体制で交代する)	電気工事士の技能試験対策用ビデオで学習した後,配線図の解説と実習を行う。
11	電線の接続実習5(M,G担当)(第8週から第11週まで2班集体制で交代する)	過去に第2種電気工事士の試験で出題された問題の解答例を見ながら実習作業する。(2週連続で行う。)
12	実験実習予備日	警報などで授業がない場合に備え,第8週から第11週までの実験実習の予備日を設ける。予備日が必要でなかった場合は,実験実習の内容に関するビデオ教材学習を行う。
13	電線の接続実習6(M,G担当)(2班に分かれて,14 週目の内容と週交代)	過去に第2種電気工事士の試験で出題された問題を試験問題として出題した実習試験を行う。
14	プリント基板回路の製作実習1(T,Y担当)(2班に分かれて,13週目の内容と週交代)	電子ルーレットの回路パターンをPCBエディタで作成する,実験実習報告書での注意点の指摘と返却を行い,考察の書き方等について再度学習する。
15	実験実習予備日	警報などで授業がない場合に備え,実験実習の予備日を設ける。
16	実験実習報告書の書き方(N担当)	実験実習報告書の書き方に関して解説する。
17	後期の前半分実験実習のテーマ説明1(T,N,G担当)	後期前半分の実験実習5テーマの説明(後期からは4班集体制)
18	プリント基板回路の製作実習2(Y担当)	2週連続で行い,回路パターンを基板上にエッチングするなどの作成実習をする。
19	プリント基板回路の製作実習3(Y担当)	2週連続で行い,プリント基板上に部品を取り付け,直流安定化電源を完成し,性能確認をする。
20	単相回路の電力と力率改善実験(N担当)	力率とは何かを知るために単相電力計を使った電力測定を行い,力率改善のための方法を実験によって学習する。
21	トランジスタ特性測定と論理回路作成実験(N担当)	トランジスタ特性の測定を行い,論理回路をブレッドボード上で作製する。
22	熱電対の特性試験実験(G担当)	熱電対の使い方を理解し,温度に対する熱電位特性を実験によって理解する。
23	ダイオードの特性試験実験(G担当)	ダイオードの静特性を求める実験を行い,ダイオードの原理を理解する。
24	後期後半分の2テーマの説明(T,G担当)	後期の後半部分の2テーマのテーマ説明
25	実験実習予備日	実験実習予備日
26	報告書の講評(N,T,G担当)	報告書の書き方に関して,良い例と悪い例を出して講評を行う。
27	シーケンス制御の実験(T担当)	電磁リレーを使用した,三相誘導電動機の制御回路を作製することにより,三相誘導電動機の制御・電磁リレーの動作原理・回路図記号等の理解を深める。
28	整流・平滑回路の実験(T担当)	整流回路と平滑回路を組み,出力信号波(2週連続で行う。)形の観察を行う。
29	実験実習予備日	実験実習予備日
30	報告書の講評(T,G担当)	実験レポートの返却を行い,レポートの考察の書き方等について再度学習する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科 目	電気数学II (Electrical Mathematics II)		
担当教員	森田 二郎 教授		
対象学年等	電気工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(50%), A4-E1(50%)		
授業の概要と方針	電気工学の基礎工学である回路工学や電磁気学で使用する数学として,2年生の電気数学Iに加え,行列,微分方程式,ラプラス変換などについて学ぶ.数学としての分野を網羅することは時間的に困難であるので,電気工学で頻繁に使用する範囲に限定して学ぶ.		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】線形の2階までの微分方程式が解けるようになる.		電気工学科専門教科で扱う範囲の線形の2階までの微分方程式の問題を60%以上解ける.
2	【A4-E1】回路の過渡解析に必要な微分方程式が解けるようにラプラス変換の計算(ラプラス変換,逆変換)が出来るようになる.		ラプラス変換の計算(ラプラス変換,逆変換)問題を60%以上解ける.
3	【】		
4	【】		
5	【】		
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.授業時間中に2回の試験を追加し,中間試験,定期試験の合計4回の試験の成績で評価する.ただし,試験の重みは,1回目20%,中間試験25%,3回目25%,定期試験30%である.100満点で60点以上を合格とする.		
テキスト			
参考書			
関連科目	2年生電気数学I		
履修上の注意事項	プリントの問題の演習だけでなく,数学のテキストなども参照すること.		

授業計画(電気数学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	2階までの線形微分方程式(1)	1階および2階までの線形微分方程式に関して,余関数,特殊解の求め方を解説し,演習問題を解く。
2	2階までの線形微分方程式(2)	前週に続けて,演習問題を解いて,初期条件まで含まれた問題に関する完全解も求める。
3	2階までの線形微分方程式(3)	前週に続けて,演習問題を解いて,初期条件まで含まれた問題に関する完全解も求める。
4	2階までの線形微分方程式(4)	前週に続けて,演習問題を解いて,初期条件まで含まれた問題に関する完全解も求める。
5	1回目試験(90分)	1～4週分までの講義,演習の内容の試験を行う。
6	試験返却,その他2階微分方程式	試験の解説,その他振動などを表す2階微分方程式の解説を行う。
7	その他2階微分方程式(2)	前週に続けて,演習問題を解いて,初期条件まで含まれた問題に関する完全解も求める。
8	中間試験	1～4週までと67週までの6回分の内容の試験を行う
9	中間試験解説,ラプラス変換の導入,公式の紹介	中間試験について解説する.ラプラス変換についてその必要性,用途を説明する.覚えるべき公式を紹介する。
10	ラプラス変換,逆変換の演習	公式を使用しながら,ラプラス変換の演習をする.初期条件を含めた微分要素も含める.また,比較的簡単な逆変換の演習もする。
11	ラプラス逆変換	部分分数展開を必要とするラプラス逆変換を学び,演習を行う。
12	ラプラス変換の微分方程式への応用(1)	ラプラス変換を微分方程式の解法に応用する事を学び,演習を行う。
13	3回目試験	9週から12週までの範囲の試験を行う。
14	試験返却,ラプラス変換の微分方程式への応用(2)	試験の解説,ラプラス変換を微分方程式の解法に応用する事を学び,演習を行う。
15	ラプラス変換の微分方程式への応用(3)	ラプラス変換を微分方程式の解法に応用する事を学び,演習を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	後期中間試験および後期定期試験を実施する.授業中(5週目と13週目)に90分試験を行う。	

科 目	情報処理II (Information Processing II)			
担当教員	赤松 浩 准教授			
対象学年等	電気工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A3(100%)			
授業の概要と方針	2年次の情報処理Iで学んだC言語の基礎を発展させた内容を講義する。関数およびファイル操作を学習し、応用的なプログラムの作成を行う。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A3】関数の構造を理解し、これを用いたコードが書ける。			関数の構造を理解し、これを用いたコードが書ける。かを前期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A3】構造体の構成を理解し、これを用いたコードが書ける。			構造体の構成を理解し、これを用いたコードが書けるかを前期中間試験およびレポートで評価する。
3	【A3】ファイルに対する操作をプログラミングでき、ファイルから自在にデータを読み込んだり書き込んだりできる。			ファイルに対する操作をプログラミングでき、ファイルから自在にデータを読み込んだり書き込んだりできるかを前期定期試験およびレポートで評価する。
4	【A3】これまで学んだ構文を利用し、応用的なプログラムが作成できる。			これまで学んだ構文を利用し、応用的なプログラムが作成できるかを前期定期試験およびレポートで評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。総合評価を100点満点として、60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	E1:情報基礎,E2:情報処理I			
履修上の注意事項				

授業計画(情報処理II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	基礎C言語プログラムの復習	2年次に学習したC言語プログラムの基礎を復習し,基礎的なプログラムが作成できること。
2	関数1	関数の基礎を理解し,関数を作成するコードが書けるようになる。
3	関数2	戻り値とは何かを理解し,戻り値をもつ関数についてのコードが書けるようになる。
4	演習	これまでの演習を行う。
5	構造体1	構造体の基礎を理解し,これを用いたコードが書けるようになる。
6	構造体2	構造体を用いた応用的なコードが書けるようになる。
7	演習	これまでの演習を行う。
8	中間試験	授業計画1〜7までの試験を行う。
9	試験の解答	試験の解答を行う。
10	ファイルの処理1	ファイル操作についてのコードが書けるようになる。
11	ファイルの処理2	前回に引き続き,ファイル操作についてのコードが書けるようになる。
12	演習	これまでの演習を行う。
13	C言語プログラミングの応用1	これまで学習したプログラミング技法を利用し,専門的な課題をC言語で解決できるようになる。
14	C言語プログラミングの応用2	前回に引き続き,専門的な課題をC言語で解決できるようになる。
15	演習	これまでの演習を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	電気磁気学I (Electromagnetics I)			
担当教員	赤松 浩 准教授			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	電気磁気学において,静電界におけるクーロンの法則やガウスの定理などの電氣的現象を講義する.			
	到 達 目 標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】点電荷間のクーロン力,点電荷による電界および電位を計算することができる.			点電荷間のクーロン力,点電荷による電界および電位を計算することができるか,前期中間試験および小テストにより評価する.
2	【A2】ガウスの法則を利用して帯電体による電界および電位が計算することができる.			ガウスの法則を利用して帯電体による電界および電位が計算することができるか,前期中間試験および小テストにより評価する.
3	【A2】電界から電位,電位から電界を計算することができる.			電界から電位,電位から電界を計算することができるか,前期定期試験および小テストにより評価する.
4	【A2】電気双極子,電気二重層による電位および電界が計算できる.			電気双極子,電気二重層による電位および電界が計算できるか,前期定期試験および小テストにより評価する.
5	【A2】導体系の静電容量を計算することができる.			導体系の静電容量を計算することができるか,後期中間試験および小テストにより評価する.
6	【A2】導体が蓄えるエネルギーおよび導体に働く力が計算できる.			導体が蓄えるエネルギーおよび導体に働く力が計算できるか,後期中間試験および小テストにより評価する.
7	【A2】コンデンサ回路において,静電容量,電荷,電位,およびエネルギーが計算できる.			コンデンサ回路において,静電容量,電荷,電位,およびエネルギーが計算できるか,後期中間試験および小テストにより評価する.
8	【A2】誘電体内の分極,電界,電束密度,および電位が計算できる.			誘電体内の分極,電界,電束密度,および電位が計算できるか,後期定期試験および小テストにより評価する.
9	【A2】誘電体境界面に働く力が計算できる.			誘電体境界面に働く力が計算できるか,後期定期試験および小テストにより評価する.
10	【A2】電界の特殊解法として,電気映像法による導体-点電荷の問題を計算できる			電界の特殊解法として,電気映像法による導体-点電荷の問題を計算できるか,後期定期試験および小テストにより評価する.
総合評価	成績は,試験85% 小テスト15% として評価する.総合評価を100点満点として,60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	基礎電気工学,電気回路I,II,応用物理I,応用物理II,電気磁気学II,電気磁気学III,電気材料			
履修上の注意事項	試験は教科書,ノート,プリント,および電卓の持ち込みは禁止である.			

授業計画(電気磁気学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電荷とクーロンの法則	点電荷によるクーロン力が計算できるようになる。
2	電界	点電荷が作る電界の大きさを計算でき、電界の方向を説明できるようになる。
3	演習	これまで学習した内容の演習を行う。
4	電気力線とガウスの法則	電気力線の定義およびガウスの法則を説明できるようになる。
5	ガウスの法則を利用した電界の計算1	ガウスの法則を利用し、いくつかの電荷分布における電界を計算できるようになる。
6	ガウスの法則を利用した電界の計算2	ガウスの法則を利用し、いくつかの電荷分布における電界を計算できるようになる。
7	演習	これまで学習した内容の演習を行う。
8	中間試験	授業計画1～7に関する中間試験を行う。
9	試験の解答	前期中間試験の解答を行う。
10	導体と静電誘導	導体の性質を説明でき、静電誘導現象を説明できるようになる。
11	電界と電位・静電ポテンシャル	電荷を運ぶ仕事が計算でき、電界中の電位を計算できるようになる。
12	電位と電界	電位と電界の関係を説明でき、電位から電界を計算できるようになる。
13	電気双極子	電気双極子の性質を説明でき、これによる電位および電界が計算できるようになる。
14	電気二重層	電気二重層の性質を説明でき、これによる電位が計算できるようになる。
15	演習	これまで学習した内容の演習を行う。
16	電荷系の静電エネルギー	点電荷による電荷系における静電エネルギーを計算できるようになる。
17	導体系の静電エネルギー	導体系における静電エネルギーを計算できるようになる。
18	コンデンサと静電容量	複数の導体系による静電容量を計算できるようになる。
19	コンデンサの接続	コンデンサの並列接続および直列接続を計算できるようになる。
20	仮想変位法	仮想変位法により導体に働く力を計算できるようになる。
21	マクスウェルの静電応力	マクスウェルの静電応力により導体に働く力を計算できるようになる。
22	演習	これまで学習した内容の演習を行う。
23	中間試験	授業計画16-22に関する演習を行う。
24	試験の解答	後期中間試験の解答を行う。
25	誘電体中の静電界	誘電体とは何かを説明でき、分極の大きさと電界との関係を計算できるようになる。
26	電束	電束とは何かを説明でき、誘電体内の電束密度、電界、および電位を計算できるようになる。
27	境界条件	誘電体境界で電界および電束が満たすべき条件を説明できるようになる。
28	誘電体に働く力	静電応力により、誘電体境界面に働く力を計算できるようになる。
29	電気映像法	電気映像法を説明でき、これを用いて導体・点電荷に関する計算ができるようになる。
30	演習	これまで学習した内容の演習を行う。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目		電気計測 (Electrical Measurement)			
担当教員		南 政孝 准教授、道平 雅一 教授、茂木 進一 教授			
対象学年等		電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		A4-E3(100%)			
授業の概要と方針		我々が何かを計測しようとする場合、電気電子技術を用いることが多い。計測を正しく、効率的に行うには、信号の性質や測定器の原理を理解することが重要である。電気計測では、計測の基礎として電氣的な量の計測法について学び、さらに代表的な電気電子関連の計測器の動作原理を理解する。			
		到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1		【A4-E3】計測と測定について違いを理解し、測定の基本原則を説明できるようになる。電気計測に含まれる誤差について説明でき、測定値から最小二乗法による近似値を求めることができる。			計測と測定と誤差と近似について理解したかを、前期中間試験により評価する。60点以上で到達目標を達成したという基準にする。
2		【A4-E3】信号源回路の等価回路をテブナンの定理を用いて計算できる。雑音の種類とその特徴を理解し、さらに雑音の対策を説明できる。			信号と雑音について理解したかを、前期定期試験により評価する。60点以上で到達目標を達成したという基準にする。
3		【A4-E3】電圧、電流、電力の指示計器について、その原理と特徴を説明できる。			電圧、電流、電力の指示計器について理解したかを、後期中間試験により評価する。60点以上で到達目標を達成したという基準にする。
4		【A4-E3】抵抗、特に低抵抗や高抵抗の測定において必要な知識を修得する。インピーダンス測定に使用されるブリッジ回路の理論を理解し、説明できる。			インピーダンスの測定について理解したかを、後期定期試験により評価する。60点以上で到達目標を達成したという基準にする。
5		【 】			
6		【 】			
7		【 】			
8		【 】			
9		【 】			
10		【 】			
総合評価		成績は、試験100% として評価する。試験評価は4回の試験の単純平均とする。ただし、必要に応じて再試験を行なう場合がある。100点満点で60点以上を合格とする。別途、電験3種「理論」合格で60点以上の評価をする。			
テキスト					
参考書					
関連科目		電子工学：電気計測のセンサーの一部、表示装置の一部が関連する。電気工学実験実習：電気計測で学ぶ計測装置を実際に使用する。			
履修上の注意事項		特になし。			

授業計画(電気計測)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	計測と測定	計測と測定とは何か,どう違うのかを解説する。
2	測定にあたっての基本原則	一般的に測定をうまく行うために重要な項目を概説する。
3	測定方法	測定方法には大きく分けてどのような方法があるか解説する。
4	単位系と電気標準	測定には単位が重要である。単位の種類と分類を解説する。また電気標準とトレーサビリティに関しても解説する。
5	誤差と近似1	電気計測に含まれる誤差について解説する。
6	誤差と近似2	誤差を表すパラメータについて解説する。
7	誤差と近似3	基本的な近似方法として用いられる最小二乗法を解説する。
8	中間試験(前期)	1週から7週の内容に関して試験を行う。
9	信号源	計測における種々の信号源に関して解説する。
10	テブナンの定理	信号源の等価回路を表すテブナンの定理について解説する。
11	信号波形	電気計測における信号波形の種類と分類について解説する。
12	雑音の種類と対策(1)	測定にとって雑音対策は重要である。ここでは雑音の種類して熱雑音等を解説する
13	雑音の種類と対策(2)	種々の雑音について解説する。
14	雑音の種類と対策(3)	雑音を表すパラメータについて解説する。
15	雑音の種類と対策(4)	雑音対策としての逆接続,信号源インピーダンス変換,シールドとアースについて解説する。
16	信号の伝達	測定器の入力インピーダンスの影響と測定範囲の拡大方法について解説する。
17	電圧,電流,電力の測定1(指示計器1)	指示計器の種類を紹介し,最も基本的な可動コイル形計器について解説する。
18	電圧,電流,電力の測定2(指示計器2)	整流形計器,可動鉄片形計器を解説する。
19	電圧,電流,電力の測定3(指示計器3)	電流計形計器,静電形計器を解説する。
20	電圧,電流,電力の測定4(指示計器4)	熱電形計器,誘導形計器を解説する。
21	電圧,電流の測定5(電位差計)	電位差計の原理,測定方法,特徴等を解説する。
22	電圧,電流,電力の測定(非接触)	線路計(クランプメータ)について解説する。
23	中間試験(後期)	第16週から22週の内容に関して試験を行う。
24	抵抗,インピーダンスの測定1	電圧・電流法,ホイートストンブリッジを解説する。
25	抵抗,インピーダンスの測定2	低抵抗の測定方法を解説する。
26	抵抗,インピーダンスの測定3	高抵抗の測定方法を解説する。
27	抵抗,インピーダンスの測定4	インピーダンスの基本的な測定方法等を解説する。
28	抵抗,インピーダンスの測定5	インダクタンスの測定方法を解説する。
29	抵抗,インピーダンスの測定6	容量の測定方法を解説する。
30	周波数・時間の測定	デジタルカウンタ等について解説する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電子工学 (Electronics)			
担当教員	井上 靖朗 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A4-E2(100%)			
授業の概要と方針	電子工学はめざましい発展を遂げている。本講義ではまず真空中および固体中における電子の運動に関する基礎的な事象と定量的扱いを講義し、電子デバイスにどのように利用されているかを説明する。さらに電子工学応用デバイス等に関してその原理等を解説する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E2】電子工学の基本となる原子の構造と電子のエネルギー準位等に関する内容を説明できる。			電子工学の基本となる原子の構造とエネルギー準位等に関する内容を正しく説明できることを前期中間試験により評価する。
2	【A4-E2】基本的な電子管の動作原理を電子のふるまいの観点から説明できる。			基本的な電子管の動作原理を電子のふるまいの観点から説明できることを前期定期試験により評価する。
3	【A4-E2】真空中の電子の運動に関する基本的な計算、光電効果に関する基本的な計算ができる。			真空中の電子の運動に関する基本的な計算、光電効果に関する基本的な計算ができることを前期定期試験により評価する。
4	【A4-E2】ダイオード、トランジスタ等基本的な半導体デバイスの動作原理を電子のふるまいの観点から説明できる。			ダイオード、トランジスタ等基本的な半導体デバイスの動作原理を電子のふるまいの観点から説明できることを後期中間試験により評価する。
5	【A4-E2】電子回路で学ぶ増幅、整流作用等の原理が、電子回路やセンサーにどのように利用されているかを説明できる。			電子工学で学ぶ原理が、電子回路やセンサーにどのように利用されているかを説明できることを後期定期試験により評価する。
6	【A4-E2】発光素子などの光起電力素子や集積回路の特徴について説明できる			発光素子などの光起電力素子や集積回路の特徴について説明できることを後期定期試験により評価する。
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験100% として評価する。試験成績は100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	基礎電気工学, 物理および数学			
履修上の注意事項	電子の振舞いに関して量子論的な扱いも導入するので、量子論の入門書等で予習をしておくことが望ましい。			

授業計画(電子工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電子工学とは何か	電子工学で学ぶ内容全体を概説する。
2	電子工学の歴史1	トムソン,ミリカンなど電子の発見の過程を解説する。
3	電子工学の歴史2	ボーアなど原子の構造の発見の過程を解説する。
4	電子の性質	電子の性質を概説する。電界中における電子の運動についても解説する。
5	エネルギーの放出と吸収	原子中における電子のエネルギーの放出と吸収について解説する。
6	エネルギー準位	原子中における電子のエネルギー準位について解説する。
7	電子放出	熱電子放出について解説する。
8	前期中間試験	1週から7週の内容について試験を行う。
9	前期中間試験の解答	中間テストの解答を行う
10	2極管と3極管と増幅作用	真空管の中で2極管と3極管について解説する。また増幅作用についても言及する。
11	光電子放出	光電子放出とそれが起こるための条件について解説する。
12	光電管,光電子増倍管	光電管,光電子増倍管の動作原理,特徴などを解説する。
13	液晶ディスプレイ,プラズマディスプレイの原理	液晶ディスプレイ,プラズマディスプレイについて解説する。
14	電界,磁界中における電子の運動	電界,磁界中における電子の運動について解説する。
15	復習	前期に学んだ内容に関して復習を行う。
16	導体,絶縁体,半導体	導体,絶縁体,半導体の構造の違い等を解説する。
17	バンド構造	固体中の電子のバンド構造を解説する。
18	正孔とキャリア	半導体における電子と正孔,すなわちキャリアについて解説する。
19	真性半導体	真性半導体の構造,特徴等について解説する。
20	不純物半導体	不純物半導体の構造,特徴等について解説する。
21	p-n接合	p-n接合半導体ダイオードと整流作用を解説する。
22	半導体ダイオードと整流作用	半導体ダイオードについて解説しさらに,整流作用についても言及する。
23	後期中間試験	16週から21週の内容について試験を行う。
24	後期中間試験の解答	後期中間試験の問題について解答を行う。
25	バイポーラトランジスタの動作原理	バイポーラトランジスタの動作原理について解説する。
26	電子回路部品としてのトランジスタの増幅作用	トランジスタの増幅作用について解説する。またユニポーラトランジスタの動作原理について解説する。
27	センサー部品としての半導体光電変換素子	フォトダイオード,APDなどの半導体光電変換素子について解説する。これらはセンサーとして用いられる。
28	半導体発光素子	LED,EL素子などの半導体発光素子について解説する。
29	光起電力素子	太陽電池や半導体フォトダイオードなどの光起電力素子について説明する
30	集積回路の特徴	集積回路の特徴や半導体ICなどについて学習する
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	工業英語I (ESP, Engineering I)		
担当教員	佐藤 徹哉 教授		
対象学年等	電気工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B4(100%)		
授業の概要と方針	英語の基本的な単語や文法は理解されていることを前提に,論文・特許・規格書等の技術文書や,身近な商品に関する例文など,実社会で用いられている例文に多く触れることにより,国際社会で活動する技術者(特に電気電子系の技術者)に必要なとされる英語力を養成する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【B4】英語の基本的な単語と文法を利用して,比較的平易な英文を理解できる。		英語で書かれた比較的平易な英文が理解できるか中間試験および定期試験で評価する。
2	【B4】電気電子(エレクトロニクス)分野で使用されることが多い専門用語や表現を理解できる。		電気電子(エレクトロニクス)分野で使用されることが多い専門用語や表現を理解できるか中間試験および定期試験で評価する。
3	【B4】多様な英文の速読に慣れて,すばやく大意をつかむ。		多様な英文の速読に慣れて,理解できることを中間試験および定期試験で評価する。
4	【B4】電気電子(エレクトロニクス)分野で使用されることが多い英文文書のスタイルや特徴に慣れて,すばやく大意をつかむ。		電気電子(エレクトロニクス)分野で使用されることが多い英文文書のスタイルや特徴に慣れて,理解できることを中間試験および定期試験で評価する。
5	【B4】工業英語分野における基礎から応用に渡る知識を身につける。		工業英語の小テストで評価するが,工業英検試験結果での代替も可とする。(3級不合格A:15点/不合格B:12点,4級合格10点/不合格A:8点/不合格B:6点,不合格C代替不可)
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% 小テスト15% として評価する。小テストは工業英語に関する試験を行い評価するが,工業英検試験結果での代替(到達目標5の評価基準参照)も可とする。別途,2級合格で100点,準2級で90点以上,3級で80点以上,3級不合格Aで60点以上の評価をする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	英語,英語演習,工業英語II		
履修上の注意事項	国際技術者が実際に扱う本物の英文素材を用いるため,英語としても扱う技術内容としても高度であり,十分な予習・復習が必須です。また,工業英検4級合格は必達とし,3級合格を推奨します。		

授業計画(工業英語I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	授業全般説明,種々の英語を学ぶ1(論文)	授業全般説明の後,英文論文の基本形式および英文論文で使用される英語を学ぶ
2	種々の英語を学ぶ2(国際学会)	国際学会で使用される英語を学ぶ
3	種々の英語を学ぶ3(数式やプログラム)	数式やプログラムなど,エレクトロニクス分野で用いられる英語を学ぶ
4	種々の英語を学ぶ4(技術ミーティング)Part1	海外企業との技術打ち合わせで使用される英語を学ぶ
5	種々の英語を学ぶ4(技術ミーティング)Part2	海外企業との技術打ち合わせで使用される英語を学ぶ
6	種々の英語を学ぶ5(英文議事録)Part1	英文議事録の書き方,および議事録で使用される英語を学ぶ
7	種々の英語を学ぶ5(英文議事録)Part2	英文議事録の書き方,および議事録で使用される英語を学ぶ
8	中間試験	第1回から第7回の授業内容に関する試験を行う
9	種々の英語を学ぶ6(共同開発実務)	英文機密保持契約書やライセンス契約書を例として,海外企業との共同開発で使用される英語を学ぶ
10	種々の英語を学ぶ7(米国特許)	米国特許公報の基本形式および米国特許公報で使用される英語を学ぶ
11	種々の英語を学ぶ8(エレクトロニクス製品カタログ)	身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ,商品特長の訴求方法などのカタログで使用される英語を学ぶ
12	種々の英語を学ぶ9(エレクトロニクス製品マニュアル)	身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ,操作方法の説明など,取扱説明書(ユーザマニュアル)で使用される英語を学ぶ
13	種々の英語を学ぶ10(エレクトロニクス製品保証書)	身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ,保証適用期間や対象,条件など,保証書で使用される英語を学ぶ
14	種々の英語を学ぶ11(規格書)Part1	身近な規格としてデジタルカメラの画像ファイルとして広く普及しているExif規格を例として,規格書で使用される英語を学ぶ
15	種々の英語を学ぶ11(規格書)Part2	身近な規格としてデジタルカメラの画像ファイルとして広く普及しているExif規格を例として,規格書で使用される英語を学ぶ
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	電気回路II (Electric Circuit II)				
担当教員	茂木 進一 教授				
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A4-E1(100%)				
授業の概要と方針	直流回路解析について簡単に復習した後,フェーザを用いた交流回路の記号解析法を学び,演習を通して単相交流回路および多相交流回路の解析に習熟する.後半では,グラフ理論に基づく回路網解析(閉路電流法,節点電位法)ならびに回路網に関する諸定理について学び,最後に二端子対回路網の取り扱いについて学習する.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】種々の直流回路について回路方程式をたて,それを解くことができる.				キルヒホッフの電圧・電流法則を用いて種々の抵抗回路が解析できることをレポートと前期中間試験で評価する.
2	【A4-E1】交流電圧・電流の表現法,交流回路における各種回路素子の働きがわかる.				正弦波交流における,抵抗,コイル,コンデンサなどの働きを理解し,種々の回路が解析できることをレポートと前期中間試験で評価する.
3	【A4-E1】フェーザを用いた記号法によって交流回路を解析することができる.				RLCからなる種々の回路を記号法によって解くことができ,複素インピーダンスのベクトル軌跡がわかることをレポートと前期定期試験で評価する.
4	【A4-E1】平衡および不平衡三相交流回路における電流,電圧,電力を解析することができる.				種々の三相交流回路において,電源や負荷にY-Δ等価変換を施して回路解析ができること,対称座標法および回転磁界が説明できることをレポートと前期定期試験で評価する.
5	【A4-E1】交流回路におけるグラフの概念がわかり,必要に応じて回路網における諸定理を用いて一般線形回路が解析できる.				閉路電流法,節点電位法に基づいて回路方程式を立てて回路解析ができること,重ね合わせの理,テブナンの定理,補償定理などを用いて回路解析ができることをレポートと後期中間試験で評価する.
6	【A4-E1】受動二端子対回路網の取り扱いを理解し,回路解析ができる.				種々の二端子対回路網および回路網の接続においてインピーダンス行列,アドミタンス行列,縦続行列などを求めて回路網の解析ができることをレポートと後期定期試験で評価する.
7	【 】				
8	【 】				
9	【 】				
10	【 】				
総合評価	成績は,試験70% レポート15% 小テスト15% として評価する.上記に関わらず,後期定期試験で100点満点で60点以上の成績を収めたものは60点以上の評価とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	「基礎電気工学」,「電気回路I」,「電気数学」				
履修上の注意事項	1年生の「基礎電気工学」,2年生の「電気回路I」,「電気数学」と関連付けて講義するのでそれらの内容を十分理解しておくことが要求される.				

授業計画(電気回路II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	直流・交流回路の基礎	抵抗,コイル,コンデンサの動作,回路の接続法,電源の等価変換,キルヒホッフの電圧・電流法則,電力などについて復習する。
2	フェーザ	正弦波交流電圧・電流の複素表現および正弦波交流回路の記号解析法について説明する。
3	複素インピーダンス	記号解析法に基づく複素インピーダンスの計算法とベクトル軌跡について説明する。
4	記号解析法に基づく回路解析	フェーザおよび複素インピーダンスの概念に基づいて種々の実用的回路を解析する。
5	共振回路および相互誘導回路	直・並列共振回路について説明するとともに,相互誘導素子の回路表現および相互誘導素子を含む回路の解析法について説明する。
6	逆回路および定抵抗回路	逆回路の概念,および周波数に依存しない一定の抵抗値をもつ回路について説明する。
7	演習	1～6週目の内容についての演習を行う。
8	前期中間試験	1～7週目の内容,ならびにその関連問題から出題し,到達度を確認する。
9	中間試験の解説	前期中間試験の解答を解説し,到達度の低かった項目について復習する。
10	回路網における諸定理	重ね合わせの理,テブナンの定理,ノートンの定理,補償定理など,回路におけるいくつかの重要な定理について説明する。
11	演習	10週目の内容についての演習を行う。
12	回路網におけるグラフの概念	一般線形回路の解析におけるグラフ理論の基礎について説明する。
13	閉路電流法	回路網において閉路電流を未知数として回路方程式をたて,それを解く方法について説明する。
14	節点電位法	回路網において節点電位を未知数として回路方程式をたて,それを解く方法について説明する。
15	演習	12～14週目の内容についての演習を行う。
16	前期定期試験の解説	前期定期試験について解説し,理解不足の部分を補強する。
17	二端子対回路網(1)	二端子対回路網を表現するための各種行列について説明する。
18	二端子対回路網(2)	各種二端子対回路網の解析法について説明する。
19	演習	17～18週目の内容についての演習を行う。
20	二端子対回路網(3)	二端子対回路網における直列接続,並列接続,縦続接続について説明する。
21	二端子対回路網(4)	映像パラメータ・反復パラメータに基づいて,二端子対網の伝送特性を説明する。
22	演習	20～21週目の内容についての演習を行う。
23	後期中間試験	主に17～22週目の内容,およびその関連問題から出題し,到達度を確認する。
24	中間試験の解説	後期中間試験の解答を解説し,到達度の低かった項目について復習する。
25	三相交流(1)	三相交流における電源の結線方式および負荷の接続方法について説明する。
26	三相交流(2)	Δ -Y等価変換を用いた平衡三相交流回路の解析法および電力について説明する。
27	三相交流(3)	不平衡三相交流回路の解析法および電力について説明する。
28	三相交流(4)	対称座標法について説明する。
29	演習	25～29週目の内容についての演習を行う。
30	小テスト	主に25～29週目の内容,およびその関連問題から出題し,到達度を確認する。
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	計算機工学 (Computer Architecture)				
担当教員	松田 忠重 非常勤講師				
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A4-E3(100%)				
授業の概要と方針	マイクロコンピュータ技術の基礎を2部に分け,1部をデジタル基礎,2部をマイクロコンピュータ基礎として学ぶ.マイクロコンピュータはパーソナルコンピュータとして広く使われているが,メカトロニクスの頭脳でもあるので,どちらかといえばメカトロニクスの応用を念頭において学ぶ.CPUの基本は機種に依存しないように説明するが,後期から電気工学実験でPICを使うのでPICのハードウェア,ソフトウェアを中心に説明する.				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E3】デジタルとアナログの性質を説明できる.			デジタルとアナログの性質を説明できることを前期中間試験で60%以上正解を合格として評価する.	
2	【A4-E3】ビットの意味,2進数コード,特に文字,整数型数値,実数型数値のコードを説明できる.整数型数値,実数型数値のコードで簡単な計算ができる.			ビットの意味,各種2進数コードを説明できることと,数値コードで簡単な計算ができること,を前期中間試験と前期定期試験で60%以上正解を合格として評価する.	
3	【A4-E3】基本的論理回路の説明ができる.基本的論理回路の組み合わせによる簡単な論理回路構成ができ,その説明ができる.			基本的論理回路の説明ができること,基本的論理回路の組み合わせによる簡単な論理回路構成ができること,を前期定期試験とレポートで60%以上正解を合格として評価する.	
4	【A4-E3】マイクロコンピュータのハードウェア,ソフトウェア構成を説明できる.簡単なインタフェースを構成できる.			マイクロコンピュータのハードウェア,ソフトウェア構成を説明できることを後期中間試験とレポートで60%以上正解を合格として評価する.	
5	【A4-E3】マイクロプロセッサが処理できる基本命令を説明できる.			マイクロプロセッサが処理できる基本命令を説明できることを後期中間試験で60%以上正解を合格として評価する.	
6	【A4-E3】マイクロプロセッサの行うプログラム処理の方法を説明できる.			マイクロプロセッサの行うプログラム処理の方法を説明できることを後期定期試験で60%以上正解を合格として評価する.	
7	【A4-E3】アセンブリ言語でサブプログラム,および割り込みプログラムを書く場合の基本的な約束事が説明できる.			アセンブリ言語でサブプログラム,および割り込みプログラムを書く場合の基本的な約束事が説明できることを後期定期試験で60%以上正解を合格として評価する.	
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.試験成績は,中間試験と定期試験の平均点とする.試験成績85点とレポート評価点15点の100点満点で60点以上を合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	デジタル電子回路,情報処理,電子回路II				
履修上の注意事項	電卓で2進数表示の方法程度は知っていてほしい.計算機におけるハードウェア,ソフトウェア開発の基礎の一部であるのでよく理解して学んでほしい.				

授業計画(計算機工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	デジタルとアナログ	デジタルとは何か、アナログとは何か、それぞれどのような性質があるかを学ぶ。デジタル計算機で扱う対象すべては、数値にされなければならないことを理解する。
2	コード化	各種のコードを例にコードとは何か学ぶ。デジタル計算機で扱う対象はどのようなデジタルコードにされているか、いくつかの分りやすい例、音楽、マシンコード、ASCIIなどで学ぶ。
3	ビット	デジタル計算機内部で扱う2進数の位取り、情報の測り方を学ぶ。
4	2進数による数値表現1	2進数による数値表現、ストレート2進数、オフセット2進数、BCDの数値表現を学ぶ。
5	2進数による数値表現2	2の補数形(整数形)2進数の数値表現を学ぶ。また、ここで2の補数形2進数、16進数、10進数との関係、手計算変換方法、電卓を使った変換方法を学ぶ。演習でこれらの変換が手計算でできるようにする。
6	2進数による浮動小数点数の数値表現	2進数による浮動小数点数(実数形)の数値表現を学ぶ。整数形と実数形の特徴と注意点を学ぶ。
7	演習	演習で、2進数による浮動小数点数と10進数との変換が手計算でできるようにする。整数形2進数の数値計算を行う。実数形2進数の数値計算を行う。
8	中間試験	1週目から7週目までが試験範囲。
9	中間試験解答解説、AD変換	中間試験の解答を解説する。物理現象を電圧値で表し、それをデジタルコード(オフセット2進数または2の補数形2進数)にする方法を学ぶ。AD変換の基本的な特性の一つである分解能を学ぶ。
10	サンプリング定理と量子化誤差	標本化する場合の基本定理を学ぶ。AD変換する場合、それによって避けられない誤差があることを学ぶ。
11	ブール代数	論理とは何かを学び、それで算術演算も記憶もできることを学ぶ(復習する)。計算機は人間の行うような論理も算術演算も記憶もできる。
12	いろいろな入出力方式正論理回路、負論理回路	ある種のデジタル回路の出力はハイレベル、ローレベルを出す他に遮断状態になることもできることを学ぶ。また信号の認識の方法にレベル、エッジ、レベルでヒステリシス特性を使う入力があることを学ぶ。デジタル回路では正論理回路だけでなく、負論理回路が使われる。
13	マイクロコンピュータの基本構成1	マイクロコンピュータのハードウェア基本構成装置(MPU、メモリ、IOインタフェース、バス)を学ぶ。また、メカトロニクス基本構成装置も学ぶ。
14	マイクロコンピュータの基本構成2	マイクロコンピュータのソフトウェア基本構成(プログラム、データ又はOS、アプリケーション)を学ぶ。また、メモリ内のソフトウェア基本構成(プログラム、データ(変数、定数)、スタック)を学ぶ。
15	マイクロコンピュータの処理方式	マイクロコンピュータのハードウェアを使って、どのようにプログラム処理するか、基本方式(ノイマン方式)を学ぶ。
16	前期定期試験解答解説。	前期定期試験の解答を解説する。
17	MPUのハードウェア1	MPUハードウェア構成要素(MPU内部構成要素と各種バス)の機能を学ぶ。
18	MPUのハードウェア2	ハーバード方式を学ぶ。PIC紹介。
19	MPUの命令セットとハードウェア	MPUはどのような命令セットを持っているかを学ぶ。
20	汎用レジスタ	MPUはどのような分類のレジスタを持っているか説明し、その中の汎用レジスタを説明する。
21	専用レジスタ1	専用レジスタとしてステータスレジスタ、プログラムカウンタ、スタックポインタ、インデックスレジスタがあるが、ここでは始めの2つの機能を簡単な命令を使って学ぶ。
22	専用レジスタ2	専用レジスタとしてステータスレジスタ、プログラムカウンタ、スタックポインタ、インデックスレジスタがあるが、ここではスタックポインタの機能を簡単な命令を使って学ぶ。
23	中間試験	16週目から22週目までが試験範囲。
24	中間試験解答解説、PICのファイル・レジスタ	中間試験の解答を解説する。PICのファイル・レジス(内蔵メモリ、IO)などのハードウェア構成を説明する。
25	スタック	スタック方式:後入れ先出し方式を学ぶ。スタックはサブプログラム、割り込みプログラムにおいてなくてはならないメモリであることを学ぶ。
26	アセンブラ言語	アセンブラ言語と他のコンピュータ言語の関係、アセンブラ言語とマシン語との関係、アセンブラ言語の構文を学ぶ。
27	命令セットの構成	アセンブラ言語の命令部の構成を学ぶ。PICの命令セット(オペコードの種類1(データ転送)、2(演算などデータ加工)、3(分岐やコール)、4(MPU制御)を学ぶ。
28	命令セットの構成と疑似命令1	疑似命令の文法(ラベル、オペコード、オペランド、コメント)を学ぶ。PICのデータ転送命令の文法(ラベル、オペコード、オペランド、コメント)を学ぶ。
29	命令セットの構成と疑似命令2	PICの演算などデータ加工命令、分岐命令の文法(ラベル、オペコード、オペランド、コメント)を学ぶ。
30	プログラム構成	アセンブラ言語によるプログラム構成(メイン、サブ、割り込みプログラム)を学ぶ。アセンブラ言語によるメインとサブプログラムの書き方の基本を学ぶ。アセンブラ言語による割り込みプログラムの書き方の基本を学ぶ。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電力工学I (Electric Power Engineering I)				
担当教員	津吉 彰 教授				
対象学年等	電気工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)				
学習・教育目標	A4-E4(100%)				
授業の概要と方針	水力,火力,原子力発電,新エネルギーの原理を学ぶ事により,力学,熱力学などの物理の基本原理を応用できる能力を養成する.また,送電配電の基本となる電気回路の理論を学び,多数の演習を行うことにより,諸問題を理解解決する能力を身につけさせる.また発電,送電,変電,配電の各設備の概要を学ばせる.				
	到達目標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E4】水力学の基礎理論および各種水力発電所の構成と設備を理解し,水力発電に関する知識と計算問題が解ける能力を身につける.				授業中の小テスト,レポートおよび試験で,水力学および水力発電に関する理解度を評価する.
2	【A4-E4】熱力学の基礎理論および汽力発電,ガスタービン発電,内燃力発電所の構成と設備を理解し,火力発電に関する知識と計算問題が解ける能力を身につける.				授業中の小テスト,レポートおよび試験で,熱力学および火力発電に関する理解度を評価する.
3	【A4-E4】原子核物理の基礎理論および各種原子力発電所の構成と設備を理解し,原子力発電に関する知識と計算問題が解ける能力を身につける.				授業中の小テスト,レポートおよび試験で,原子核物理および原子力発電に関する理解度を評価する.
4	【A4-E4】変電所の役割とその構成機器と運用方法を理解して説明できる能力を身につける				小テストおよび試験で,変電設備に関する理解度を評価する.
5	【A4-E4】送電の原理を理解するために必要な電気回路の理論を習得する.				小テストおよび試験で関係する電気回路に関する理解度を評価する.
6	【A4-E4】送電,変電,配電の設備の概要を理解する.				小テストおよび試験で関係する電気回路に関する理解度を評価する.
7	【 】				
8	【 】				
9	【 】				
10	【 】				
総合評価	成績は,試験85% 小テスト15% として評価する.試験は前期中間1 前期定期1.25,後期中間1.25 後期定期1.5の重み付けで評価する.試験,小テストの総合評価を行い,100点法で60点以上を合格とする.後期定期試験で60%以上の評価であった場合,それまでの成績によらず合格とする.				
テキスト					
参考書					
関連科目	応用物理I,II,電気機器I,II,III,電力工学II				
履修上の注意事項	電気回路I,物理(特に力学)の内容の習得が必要.				

授業計画(電工学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	発電総論.エネルギー変換論.我が国の電気事業概説.	エネルギー変換としての発電工学の位置づけを説明し,我が国の電気事業の歴史および現状を述べる.電気エネルギーが低炭素化社会実現に配慮されていることを学ぶ.KEMSに関して説明する.
2	水力発電の基礎理論.水力発電設備.	水の位置エネルギーから落差,流量の定義および理論出力を導く.落差の取り方による各種水力発電方式を紹介し,ダム,導水路等の水力発電所の土木設備と門扉等その付随設備を解説する.
3	各種水車の構造と特徴.水車発電機.水力発電所の諸設備.	水力発電で使用される水車の構造と特徴および付帯設備を説明する.水力発電所で使用される発電機の特徴を説明し,その他発電所に設置される設備を紹介する.
4	水力発電所の管理.揚水発電.水力問題演習.	水力発電所の運転制御法を解説する.揚水発電の方式,潮力発電を説明し,水力発電全般の演習後,小テストを実施する.
5	火力発電の基礎理論.熱力学.各種燃料の特徴	熱力学とランキンサイクルを説明し,火力発電におけるエネルギー変換,エネルギーの流れを解説する.火力発電で使用される固体,液体,気体燃料の特徴と燃焼方法
6	火力発電の発電設備	各種蒸気タービンの構造と動作原理,発電設備の概要を解説する.
7	火力発電の熱サイクル	ランキンサイクルや再熱,再生サイクルを理解する.ガスコンバインドサイクルについて理解する.
8	前期中間試験	1-7週目の内容の理解を確認する.
9	前期中間試験の解説と復習	水力発電,火力発電の内容について復習する
10	原子力発電の基礎理論.原子核物理.原子力発電の各反応と燃料サイクル	原子核分裂による質量欠損と結合エネルギーの放出について説明する.原子力発電で利用される反応と燃料サイクルについて学ぶ
11	原子力発電所の構造	原子力発電所の構造を学ぶ.PWR,BWRの違いをよく理解する.
12	原子力発電の復習	演習を通じ,原子力発電の構造,特徴をよく理解させる.
13	水力発電,火力発電,原子力発電全般の復習	発電に関する共通項を学びながら,全般を復習する.
14	水力発電,火力発電,原子力発電全般の復習	演習を通じ,発電に関する共通項を学びながら,各発電方式の理解を深める.
15	演習	水力発電,火力発電,原子力発電全般の復習と小テストを行う.
16	試験返却と復習	試験問題の確認により,水力発電,火力発電,原子力発電全般の復習を行う.
17	変電所を学ぶ	変電所の役割,構成,変圧器について学ぶ.
18	変電所の設備について学ぶ1	変圧器の平衡運転,力率改善設備について学ぶ
19	変電所の設備について学ぶ2	遮断器の仕組み,短絡容量の計算などについて学ぶ
20	変電所の設備について学ぶ3	避雷器,架空地線の役割,計器用変成器,保護継電器の役割を学ぶ
21	送配電の基礎	交流による電力伝送の基礎理論を学ぶ
22	復習	中間試験に備え,これまでの内容を復習する.
23	配電方式の違い,送配電設備	高圧と低圧の配電方式を理解し,送配電設備の構成を知る
24	送配電の計算	需要率,負荷率,不等率など各種計算を学ぶ
25	配電線路の電圧調整を学ぶ1	配電線路での電圧降下の計算を学ぶ.変圧器のタップ切替を理解する.
26	配電線路の電圧調整を学ぶ2	力率改善の方法,計算について解説する.
27	電線路の保護装置を学ぶ1	中性点の設置方式,誘導障害などについて学ぶ
28	電線路の保護装置を学ぶ2	異常電圧の発生とその防護.地絡,短絡の特性とその計算.
29	電気材料を学ぶ	導電材料,絶縁材料などを学ぶ
30	全般の復習	全般について演習し,小テストなどで達成度を確認する.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.後期定期試験の60%以上の評価で合格とすることがある.	

科 目		電気工学実験実習 (Laboratory Work in Electrical Engineering)			
担当教員		南 政孝 准教授、茂木 進一 教授、松田 忠重 非常勤講師、徳田 将敏 非常勤講師			
対象学年等		電気工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		A4-E1(30%), B1(10%), B2(10%), C4(30%), D1(20%)			
授業の概要と方針		電気工学における基礎的事項に関する諸現象を実験的に確認することと,実験における基本的な技法および測定機器の取り扱いに習熟する.また,実験データを適切に処理して実験結果をまとめ,考察を加えて報告書を作成する能力を身につける.適時設定される工場見学を通して技術の現場を見聞し,工学および技術者の社会的役割を認識する.			
	到 達 目 標		達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C4】班のメンバーと協力して実験を行い,期限内に報告書を提出することができる.				テーマ毎の実験実施状況および報告書の提出状況で評価する.
2	【B1】測定データを適切に表す図・表を書くことができる.				テーマ毎の報告書の内容で評価する.
3	【B2】実験の目的・方法を班内で議論し,全員の意思統一を図ることができる.				テーマ毎の実験実施状況,ならびに実験中の質疑応答で評価する.
4	【D1】使用実験機器類の取り扱いに注意し,安全に留意して実験に取り組むことができる.				安全に実験が行われているか,実験中の取り組みでテーマ毎に評価する.
5	【A4-E1】実験結果を適切に処理し,考察を加えて報告書を作成することができる.				テーマ毎の報告書の内容で評価する.
6	【】				
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価		成績は,レポート50% 準備実施状況50% として評価する.レポートの提出期限は原則として実験終了後1週間とする.期限に遅れたレポートは,50点満点換算で1日当り3.3点の割合で減点する.未提出レポートがある学生は総合評価の対象としない.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト					
参考書					
関連科目		各実験テーマに関連する専門科目			
履修上の注意事項		講義科目のなかで特に各実験テーマに関連する,基礎電気工学,電気回路I,電磁気学I,電気計測等の授業内容をよく理解しておくことが必要である.テーマによっては,実験の内容が講義科目の授業に先行する場合もある.			

授業計画(電気工学実験実習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	前期実験計画,実験テーマの説明(1)	前期の実験計画,班編成,レポートの提出方法等,実験全般について説明する.個別のテーマについて,各担当者が試料を配布し,実験原理,方法等を説明する.
2	前期実験テーマの説明(2)	個別のテーマについて,各担当者が資料を配布し,実験原理,方法等を説明する.
3	固体光電素子の実験	フォトダイオード,光導電素子,太陽電池について,その照度,電圧,電流の特性を測定する.
4	MOSFETの静特性測定	静特性を測定し,それらから定数を求めるとともに,その働きを理解する.
5	接地抵抗の測定	接地電極付近の電位分布および電極の打ち込み深さによる接地抵抗の変化を測定し,接地について理解する.
6	二電力法による三相電力の測定	交流における有効電力の意味を理解するとともに,負荷装置の絶縁抵抗を測定することによって絶縁抵抗についての理解を深める.
7	PICマイコン(16F628A)の実験(1)	アセンブラによりプログラムを作成し,テスト回路を用いて入力ポートの設定・基本的な入出力処理を行い,命令・レジスタの機能について学習する.
8	PICマイコン(16F628A)の実験(2)	CCP機能を用いたPWM制御により,DCモータの速度制御などについて学習する.
9	演算増幅器の基礎(1)	演算増幅器による反転増幅器,非反転増幅器をブレッドボード上に作製し検証する.
10	演算増幅器の基礎(2)	演算増幅器による加算器,減算器,比較器をブレッドボード上に作製し検証する.
11	トランジスタの静特性	各種接地回路を組んで,それぞれの入出力特性を測定する.それによって,増幅特性や飽和特性など,トランジスタの基本的な働きを理解する.
12	トランジスタの基礎回路	静特性のデータに基づいて基礎的回路設計を練習する.実際に回路を組むことによって設計値が正しいかどうかの検討を行う.また,負性特性やトランジスタの定格についても理解する.
13	工場見学	電気工学に関係する工場,施設を見学し,工学技術の応用例と現場での仕事を理解する.
14	レポートの返却と講評(1)	前期に提出した実験レポートを返却し,内容の講評を行う.
15	レポートの返却と講評(2)	前期に提出した実験レポートを返却し,内容の講評を行う.
16	後期実験計画,実験テーマの説明(1)	後期の実験計画,班編成,レポートの提出方法等,実験全般について説明する.個別のテーマについて,各担当者が試料を配布し,実験原理,方法等を説明する.
17	後期実験テーマの説明(2)	個別のテーマについて,各担当者が資料を配布し,実験原理,方法等を説明する.
18	オシロスコープの実験	オシロスコープを用いて整流回路の波形観測,リサージュ図形による位相差と未知周波数の測定を行い,オシロスコープの基本的な取り扱い方法を習得する.
19	電圧増幅回路	トランジスタ増幅回路を設計し,その周波数特性を測定することによって電子回路に親しみ,電圧増幅回路に関する知識を深める.
20	共振回路の実験	直列および並列共振回路の動作を理解し,実験によって確認する.
21	過渡現象の測定	R-C回路において抵抗およびコンデンサの値を変えてその過渡応答を測定し,過渡現象およびその時定数に対する理解を深める.
22	TTLの基礎特性(1)	AND,OR,NOT,その他の回路の動作を確認し,それらの組み合わせによる論理回路の基本的な構成を理解する.
23	TTLの基礎特性(2)	各種論理回路を構成して信号を入力し,その出力を確認することによって論理回路の応用に関する理解を深める.
24	タンサーボークとソフトウェア(6週1テーマ)の解説	実験で使用するロボットであるタンサーボークおよびプログラムをフローチャートで作るためのソフトであるロボットワークス2の使い方を説明する.
25	ロボットワークス2によるプログラム作成(1)	ロボットワークス2を用いて,決められたコースを1周するプログラムをフローチャート形式で作成する.
26	ロボットワークス2によるプログラム作成(2)	前回作成したプログラムを改良し,周回に必要な時間を短縮するプログラムを作成する.
27	C言語によるプログラムの作成	前回作成したフローチャートによるプログラムをC言語で記述し,決められたコースを周回できるようにする.
28	各種センサを使ったプログラムの作成(1)	前4回目までは走行のみするプログラムを作成しているが,今回と次回では各種センサを使って,与えられた物体のある決められた位置から別の位置に移動するプログラムをC言語で作成する.
29	各種センサを使ったプログラムの作成(2)	前回の課題を引き続き行い,プログラムを完成させる.
30	レポートの返却と講評	後期に提出した実験レポートを返却し,内容の講評を行う.
備考	中間試験および定期試験は実施しない.前期はクラスを10班に分けて,各班それぞれ全10テーマを履修する.後期は5班毎に分け,一方の5班は1週1テーマで6テーマを,もう一方の5班は6週で1テーマを履修し,その後交代する.詳細は各期1週目に説明する.	

科 目	応用数学I (Applied Mathematics I)			
担当教員	南 政孝 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A1(100%)			
授業の概要と方針	応用数学Iでは、電磁気学、電気回路、制御工学などの専門科目を数学的に深く理解することを念頭に置いて、主に、ベクトル解析および複素関数論について講義する。理解度を高めるために演習を重視した講義とし、前述の科目に関連する課題をできるだけ多く取り入れて授業を進める。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A1】ベクトルの四則演算、微分、積分、線積分、面積分ができる。			ベクトルの四則演算、微分、積分、線積分、面積分は、主に前期中間試験とレポートで評価する。
2	【A1】ベクトル場の発散、回転の定義を理解し、その演算ができる。ガウスの発散定理、ストークスの定理に関する応用問題を解くことができる。			ベクトル場の発散、回転の演算ができ、ガウスの発散定理、ストークスの定理に関する応用問題が解けることは、主に前期定期試験とレポートで評価する。
3	【A1】複素数の四則演算、微分、積分ができる。テーラー展開、ローラン展開ができる。			複素数の四則演算、微分、積分の計算、テーラー展開、ローラン展開ができることは、主に後期中間試験とレポートにより評価する。
4	【A1】コーシーの積分公式およびグールサの公式を用いた積分ができる。			コーシーおよびグールサの公式を用いた積分ができることは、主に後期中間試験とレポートで評価する。
5	【A1】留数の計算ができる。留数による複素積分、実関数の定積分、逆ラプラス変換ができる。			留数の計算、ならびに留数による複素積分、実関数の定積分、逆ラプラス変換ができることは、主に後期定期試験とレポートにより評価する。
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート14% 一般科数学理解度確認試験1% として評価する。試験の成績は中間試験と定期試験の平均で、レポートの成績は課題全体で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。ただし、必要に応じて再試験を行なう場合がある。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電磁気学、電気回路、制御工学、数値解析			
履修上の注意事項	本科目は専門科目を理解するための基礎科目です。本科目を理解するためには、空間ベクトル、複素数、微分、積分の知識が必要です。したがって、3年までの数学I,II,ならびに電気数学の内容を十分に理解していることが重要です。年度最初の授業において、一般科で履修した数学の内容に関して理解度確認試験を実施しますので春休み中にしっかりと復習しておくこと。			

授業計画(応用数学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	一般科数学理解度確認試験,ガイダンス	一般科数学に関する理解度確認試験の後,1年間の授業計画の説明,授業に関する諸注意を行う。
2	空間ベクトル	空間ベクトルの内積,外積など,ベクトルの基本演算を復習し,その演習を行う。
3	ベクトル関数とその導関数	ベクトル関数とその導関数について講義し,その演習を行う。
4	曲線および曲面	ベクトル関数によって表現される曲線および曲面について講義し,その演習を行う。
5	スカラー場の勾配	スカラー場の勾配ならびに保存場について講義し,その演習を行う。
6	ベクトル場の発散と回転	ベクトル場の発散と回転,渦あり場と渦なし場について講義し,その演習を行う。
7	ベクトル関数の線積分	ベクトル関数の線積分について講義し,その演習を行う。
8	前期中間試験	1)から7)の内容について試験を行う。
9	中間試験の解答,ベクトル関数の面積分	前期中間試験の解答を解説し,これまでのまとめを行う。また,ベクトル関数の面積分について講義し,その演習を行う。
10	ガウスの発散定理	ガウスの発散定理について講義し,その演習を行う。
11	ストークスの定理	ストークスの定理について講義し,その演習を行う。
12	マックスウェルの電磁方程式(1)	ガウスの法則,アンペアの法則,ファラデーの法則について講義する。
13	マックスウェルの電磁方程式(2)	マックスウェル方程式に関する種々の演習を行う。
14	複素数の取り扱い	複素数の基本的な演算について講義し,その演習を行う。
15	正則関数	正則関数について講義し,その演習を行う。
16	前期定期試験の解答とまとめ,初等関数(1)	前期定期試験の解答を解説し,これまでのまとめを行う。また,複素数を変数とする指数関数,三角関数,双曲線関数について講義する。
17	初等関数(2)	複素三角関数,複素双曲線関数の性質,導関数,逆関数について講義し,その演習を行う。
18	コーシーの積分定理	コーシーの積分定理について講義し,その応用について種々の演習を行う。
19	コーシーの積分公式とグールサの定理(1)	コーシーの積分公式とグールサの定理について講義し,その応用について種々の演習を行う。
20	コーシーの積分公式とグールサの定理(2)	コーシーの積分公式とグールサの定理の応用について種々の演習を行う。
21	テーラー展開	テーラー展開について講義し,その演習を行う。
22	ローラン展開	ローラン展開について講義し,その演習を行う。
23	後期中間試験	16)から22)の内容について試験を行う。
24	中間試験の解答とまとめ,特異点と分岐	後期中間試験の解答を解説し,これまでのまとめを行う。また,特異点,分岐,極について講義し,その演習を行う。
25	留数定理,留数	留数定理について講義し,留数応用について種々の演習を行う。
26	留数定理による複素積分	留数定理を用いた複素積分について講義し,その応用について種々の演習を行う。
27	留数定理による逆ラプラス変換(1)	留数定理を用いた逆ラプラス変換について講義し,逆ラプラス変換に関する演習を行う。
28	留数定理による逆ラプラス変換(2)	電気回路や制御理論で取り扱われる種々の関数の逆ラプラス変換について演習を行う。
29	複素積分の実積分への応用(1)	複素積分の実積分への応用について講義し,その演習を行う。
30	複素積分の実積分への応用(2)	複素積分の実積分への応用について種々の演習を行う。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目		応用数学II (Applied Mathematics II)			
担当教員		中村 佳敬 准教授			
対象学年等		電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標		A1(100%)			
授業の概要と方針		応用数学IIは電磁気学,電気回路,制御工学などを学習するための基礎となる数学であることを念頭に置いて授業を行う。理解を深めるため,演習を重視した内容とする。			
		到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A1】単純な波形のラプラス変換が計算できる,ラプラス変換の基本的性質を説明できる。				単純な波形のラプラス変換が計算できる,ラプラス変換の基本的性質を説明できることを応用数学基礎力試験と前期中間試験,レポートで60%正解を合格として評価する。
2	【A1】簡単なたたみこみ計算ができる。				簡単なたたみこみ計算ができることを前期定期試験やレポートで60%正解を合格として評価する。
3	【A1】ラプラス変換を使って簡単な常微分方程式が解け,ラプラス変換を使って簡単な系の伝達関数の説明ができる。				ラプラス変換を使って簡単な常微分方程式が解け,ラプラス変換を使って簡単な系の伝達関数の説明ができることを前期定期試験やレポートで60%正解を合格として評価する。
4	【A1】単純な波形をフーリエ級数にすることができ,フーリエ級数の基本的性質が説明できる。				単純な波形をフーリエ級数に展開でき,フーリエ級数の基本的性質が説明できることを後期中間試験とレポートで60%正解を合格として評価する。
5	【A1】フーリエ級数展開を活用して偏微分方程式の解を求めることができる。				フーリエ級数展開を活用して偏微分方程式を解くことができることを後期定期試験とレポートで60%正解を合格として評価する。
6	【A1】単純な波形のフーリエ変換ができる,フーリエ変換の基本的性質を説明できる。				単純な波形のフーリエ変換ができる,フーリエ変換の基本的性質を説明できることを,後期定期試験とレポートで60%正解を合格として評価する。
7	【】				
8	【】				
9	【】				
10	【】				
総合評価		成績は,試験85% レポート10% 応用数学基礎力試験5% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均値を採用する。試験成績85点,応用数学基礎力試験5点とレポート評価点10点の100点満点で評価し60点以上で合格とする。			
テキスト					
参考書					
関連科目		電磁気学,電気回路,制御工学,数値解析			
履修上の注意事項		本科目は専門科目の基礎科目である。本科目の受講には特に,三角関数,微分,積分そして微分方程式の知識が必要となる。よって3年までの数学I,II,また電気数学を十分に理解していることが求められる。			

授業計画(応用数学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンスと応用数学基礎力試験	1年間の授業計画の説明,授業に対する諸注意.応用数学履修に必要な数学的基礎力を試験で評価する.
2	ラプラス変換の定義,ラプラス変換の例	変換とはどのようなものか,次にラプラス変換とはどのようなものかなどの定義を学ぶ.ラプラス変換をいくつかの例で実際行う.学生は,部分積分の計算,極限における計算ができる必要がある(この時点では複素微分,複素積分をまだ学んでいない)ことに注意.
3	基本的性質,例題問題1	ラプラス変換に関する線形性,原関数の原点移動のラプラス変換に関する性質を学ぶ.それに関する例題問題を解く.
4	基本的性質,例題問題2	像関数の原点移動の性質を学ぶ.原関数の微分積分のラプラス変換に関する性質を学ぶ.例として簡単なR,Cの電気回路の微分方程式のラプラス変換を行う.ラプラス変換を行う問題のレポート課題をだす.
5	演習	ラプラス変換の基本的性質の内容を演習で行う.
6	たたみこみ,例題問題	たたみこみとは何か学ぶ,たたみこみの定義とそのラプラス変換を学ぶ.例題問題を解く.
7	演習	たたみこみ計算とたたみこみのラプラス変換に関して演習する.
8	中間試験	1回から7回目までが試験範囲.どのような方法を用いてもよいので,簡単な関数のラプラス変換ができることを評価する.基本的なラプラス変換の性質が理解できていることを評価する.
9	中間試験問題解説,逆ラプラス変換	中間試験問題解説する.ラプラス像関数から原関数を求める(変換表の像関数にあるような部分分数にして原関数を求める)方法を学ぶ.
10	逆ラプラス変換,例題問題	例題,問題で逆ラプラス変換を行う.たたみこみをその定義の積分から求める方法とラプラス変換,逆変換で求める方法を学ぶ.
11	演習	学生は演習で次を行う.ラプラス像関数から原関数を求める.たたみこみをその定義の積分から求める方法とラプラス変換,逆変換で求める.
12	常微分方程式解法への応用,例題問題	常微分方程式をラプラス変換すると未知関数の像関数は代数で求まることを学ぶ.未知関数は,その結果を逆ラプラス変換することより求まることを学ぶ.
13	演習	教科書の常微分方程式の問題をラプラス変換を用いて解く.
14	デルタ関数と系の伝達関数,例題問題	デルタ関数について学ぶ.インパルス応答と伝達関数を学ぶ.
15	演習	教科書内外の常微分方程式の問題をラプラス変換またはたたみこみを用いて解く.系の伝達関数を求める.
16	フーリエ級数の定義	フーリエ級数とはどのようなものか学ぶ,フーリエ級数の定義を学ぶ.
17	フーリエ級数展開の例	簡単な例でフーリエ係数を求め,それでフーリエ合成を近似して黒板にグラフ表示して見せる.また,原関数が不連続関数であった場合について,そのフーリエ級数について説明する.
18	フーリエ級数の性質	レポート課題解説する.原関数が偶関数の場合,奇関数の場合のフーリエ級数,原関数の導関数のフーリエ級数を学ぶ.例を用いてそのフーリエ級数を求める
19	例題問題,演習	その他の簡単な例でフーリエ係数を求める.
20	フーリエ級数の性質	一般的な周期関数のフーリエ係数を学ぶ.フーリエ級数の収束について紹介する.ある種の級数が原関数とフーリエ級数の関係から求まることを学ぶ.パーセバルの定理を学ぶ.線スペクトルを学ぶ.
21	複素フーリエ級数	複素フーリエ級数の定義を学ぶ.簡単な例を複素フーリエ級数に展開する.
22	演習	ここまでのフーリエ級数の内容で演習をする.
23	中間試験	16回目から22回目までが試験範囲.簡単な関数のフーリエ級数を求めることができるか,またある種の級数が原関数とフーリエ級数の関係から求めることができるか試験で評価する.
24	中間試験問題解説,偏微分方程式解法への応用	中間試験問題解説をする.フーリエ級数を用いた偏微分方程式の解法を学ぶ.
25	例題問題解説	手本として典型的な偏微分方程式を例に解説を行う.
26	演習	偏微分方程式に関する演習を行う.
27	フーリエ変換,フーリエ変換の例	フーリエ変換定義を学び,逆フーリエ変換が成立することを紹介する.
28	フーリエ変換の性質	いくつかの簡単な例でフーリエ変換を行う,2,3のフーリエ変換の性質(移動則,微分則)について学ぶ.
29	フーリエ変換の性質	パーセバルの定理を学ぶ.連続スペクトラムとは何か学ぶ.
30	演習	教科書内外の問題でフーリエ変換を行う.
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である.前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	応用物理 (Applied Physics)			
担当教員	大多喜 重明 教授			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	自然科学の基礎となっている力学を学習する。ニュートンの運動方程式から出発して種々の物体の運動が求まることを理解する。運動と座標、質点の運動、保存則、質点系の運動、剛体の運動を数学の知識を活用して考える力を身につける。また、例題を解きながら理解を深める。多くの課題を与えるので、レポートにして提出する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】速度・加速度およびニュートンの運動の法則を理解し、慣性系における基本的な質点の運動を運動方程式をたてて求めることができる。			速度、加速度、位置、軌道の式の計算、および力として重力、復元力、束縛力等が働くときの慣性系における質点の運動を、運動方程式をたてて求められるかを前期中間試験とレポートにより評価する。
2	【A2】質点に種々の力が働くとき、慣性系と非慣性系における質点の運動を運動方程式をたてて求めることができる。			慣性系における質点の運動に加え、慣性系に対して等速直線運動、加速度運動、回転運動する座標系における質点の運動を、運動方程式をたてて求められるかを前期定期試験とレポートにより評価する。
3	【A2】物理学における基本的な保存則を理解し、これらを用いて質点および質点系の運動を求めることができる。			仕事とポテンシャルエネルギーの計算、質点系の重心の計算、および保存則を用いた運動の求め方を後期中間試験とレポートにより評価する。
4	【A2】剛体の運動方程式を理解し、基本的な剛体の運動を求めることができる。			剛体のつり合い条件の求め方、慣性モーメントの計算、剛体の固定軸のまわりの回転運動と平面運動の求め方を後期定期試験とレポートにより評価する。
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	物理(本科1年), 数学(本科1,2,3年)			
履修上の注意事項	微分, 積分, 微分方程式とその解, およびベクトルの知識が必要となるので復習しておくこと。			

授業計画(応用物理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	ガイダンス,座標系と力・速度・加速度	授業の進め方,到達目標と評価方法などを説明する.物体の位置を表す座標系,力の成分,物体の位置の時間的変化を表す速度と加速度を理解する.
2	軌道と加速度の接線成分・法線成分	加速度を軌道の接線成分と法線成分に分けて表す接線加速度と法線加速度の意味を理解する.
3	ニュートンの運動の3法則,重力だけが働くときの質点の運動	ニュートンの運動の3法則を確認する.力として重力だけが働くときの質点の運動について,座標系を決め,運動方程式をたて,初期条件のもとに運動方程式を解くと質点の運動が求まることを理解する.
4	重力と速度に比例する抵抗力が働くときの質点の運動	重力に加え速度に比例する抵抗力が働くときの質点の運動について,運動方程式の立て方とその解き方を理解する.また,終速度を理解する.
5	束縛運動	物体の運動が特定の線または面上に限定される束縛運動について,そのときに働く束縛力(垂直抗力,摩擦力等)を理解する.そして,束縛力が働くときの運動を求める.
6	単振動	単振動の意味を理解する.距離に比例する復元力が働くときの質点の運動,系に結ばれた質点の微小振動(単振り子)が単振動になることを運動方程式とその解より理解する.
7	演習	復習と演習により理解を深める.
8	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う.出題方針は試験前に通知する.
9	中間試験解答,抵抗力・強制力が働くときの運動方程式	中間試験の結果を確認する.また,復元力に加え,速さに比例する抵抗力および強制力が働くときの運動方程式の立て方を理解する.
10	ばねに結ばれた質点の運動	種々の形態のばねに結ばれた質点の運動を考える.質点に働く力,運動方程式の立て方,平衡位置の求め方,振動の周期等を理解する.
11	万有引力	ニュートンの万有引力の法則を確認する.重力は万有引力であることを理解する.惑星の運動,静止衛星,振り子時計の周期等を考える.
12	ガリレイの相対性原理	慣性系に対して等速直線運動する座標系は慣性系であることを理解する.ガリレイ変換による運動方程式とその解を求める.
13	慣性系に対して加速度運動する座標系での質点の運動	慣性系に対して加速度運動している座標系では,実際の力とともに加速度によるみかけの力を考えると,慣性系と同じように運動方程式が立てられることを理解する.慣性系と加速度系で運動方程式を立て,その解を比較する.
14	慣性系に対して回転する座標系での質点の運動	慣性系に対して一定の角速度で回転する座標系では,コリオリの力と遠心力を考えれば,慣性系と同じように運動方程式が成り立つことを理解する.
15	演習	復習と演習により理解を深める.
16	定期試験解答,運動量保存則,角運動量保存則(1)	定期試験の結果を確認する.運動量と力積の関係および運動量保存則を理解する.また,力のモーメントと角運動量の意味を理解する.
17	角運動量保存則(2),仕事と運動エネルギー	力のモーメントと角運動量の関係および角運動量保存則を理解する.また,仕事と運動エネルギーの関係,仕事の計算方法を理解し,具体例に対して仕事を計算する.
18	ポテンシャルエネルギーと力学的エネルギー保存則	仕事が経路によらず座標だけで決まる保存力を理解し,保存力に対するポテンシャルエネルギー(位置エネルギー)を求める.運動エネルギーとポテンシャルエネルギーの和である力学的エネルギーについて,その保存則を理解する.
19	質点系の重心	多くの質点からなる質点系における重心(質量中心)の意味を理解する.具体例に対して重心を求める.
20	質点系の運動方程式と保存則	質点系に外力と内力が働くときの運動方程式を理解する.質点系の重心は全質量が重心に集中し,外力もすべて重心に働いているときの1つの質点と同じ運動をすることを理解する.また,質点系の保存則を理解する.
21	衝突	質点の衝突の問題を考える.弾性衝突と非弾性衝突,跳ね返り係数(反発係数),およびこれらと運動エネルギーの関係を理解する.
22	演習	復習と演習により理解を深める.
23	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う.出題方針は試験前に通知する.
24	中間試験解答,剛体の運動方程式	中間試験の結果を確認する.剛体の運動を重心運動とそのまわりの回転運動にわけて考えるときの運動方程式の考え方を理解する.
25	剛体のつり合い	剛体のつり合い条件を理解し,具体例に対してつり合い条件を求める.
26	固定軸のまわりの剛体の運動	固定軸のまわりに回転する剛体の運動方程式を回転角を用いて表す.質点の並進運動と剛体の回転運動における運動方程式を含む物理量の対比関係を理解する.
27	慣性モーメント	回転運動に対する慣性を表す慣性モーメントを理解する.基本となる形状の慣性モーメントを計算する.
28	剛体の回転運動	慣性モーメントに関する定理を理解し,それを用いて慣性モーメントを求める.そして,具体的な剛体の回転運動に対して運動方程式を立て,それを解くことにより剛体の回転運動を求める.
29	剛体の平面運動	剛体が平面内で並進運動と回転運動する平面運動に対して,運動方程式を立て,それを解くことにより剛体の平面運動を求める.
30	演習	復習と演習により理解を深める.
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である.前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科 目	電気磁気学II (Electromagnetics II)			
担当教員	森田 二郎 教授			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	電気磁気学のうち,磁性体,電磁界分野を担当し,講義および演習を行う.この分野では,電流による場と静電界,電流によって作られる磁界発生の現象(アンペアの法則,ビオサバールの法則),電磁誘導現象を理解させることがメインとなる.理解を深めるためにレポート,小テスト(授業中の演習も含む)をできるだけ行う.			
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A2】電流の場と静電界の類似性から接地抵抗の求め方を理解できる.			損失のある媒質に関して,誘電率と導電率さらに静電容量を求めることにより接地抵抗が求まることを講義し,4タイプの演習問題を解くことによって理解を深める.前期中間試験での設問で評価する.
2	【A2】磁束密度と磁化の関係,透磁率と磁化率の関係を理解できる.磁気におけるガウスの法則が理解できる.			磁束密度と磁化の関係,透磁率と磁化率の理解の程度確認のために演習回答方式によるプレゼンテーション(小テスト含む)と前期中間試験での設問で評価する.
3	【A2】ビオ・サバールの法則が理解できる.有限長の電線電流,ループ状電流によって作られる磁束密度(B)が理解できる.			ビオ・サバールの法則の理解程度,有限長の電線電流,ループ状電流によって作られるBの理解程度のいずれも課題レポートと前期中間試験の設問によって評価する.
4	【A2】アンペアの法則が理解できる.無限長の電線電流によって作られる磁束密度(B)の計算,円環ソレノイドの磁束密度(B)が理解できる.			アンペアの法則の理解程度,無限長の電線電流によって作られるBの計算,円環ソレノイドのBの理解の程度のいずれも課題レポートと前期定期試験の設問によって評価する.
5	【A2】磁気回路への変換理論が理解できる.またヒステリシス特性をもった磁性体の磁束密度(B)と磁界(H)の関係が理解できる.磁界中の電流に作用する力が理解できる.電磁誘導現象が理解できる.			試験の基本問磁気回路への変換理論の理解の程度,ヒステリシス特性をもった磁性体のBとHの関係が理解程度のいずれも課題レポートと前期定期試験の設問によって評価する.
6	【A2】ベクトルポテンシャルによる磁束密度Bの求め方が理解できる			ベクトルポテンシャルに関する演習問題を解き,後期中間試験の設問によって評価する.
7	【A2】電磁誘導の法則を理解できる			磁束の時間変化による誘導起電力の発生に関して,演習問題を解いて,後期中間試験の設問によって評価する.
8	【A2】自己インダクタンス,相互インダクタンスの求め方が理解できる			演習問題を解いて,後期定期試験の設問によって評価する.
9	【A2】変位電流を理解できる			変位電流の概念について,演習問題を解いて,後期定期試験の設問によって評価する.
10	【A2】波動方程式とベクトルポテンシャル			マクスウェルの方程式から波動方程式への導出へのレポート課題を課して,理解度は,後期定期試験の設問によって評価する.
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.レポート評価の中には小テスト,プレゼンテーションも含む.総合評価100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気磁気学I,III,電気回路I,II,電気計測			
履修上の注意事項	電気磁気学の静電気を扱う電気磁気学I(3年)の続きとして,電界と磁界とが混同しないよう注意が必要.5年生での電磁波,境界値問題を扱う電気磁気学IIIはIとIIの物理現象の理解が必要.2,3年生の電気回路I,IIとも電流を扱う時の説明で必要.3年生の電気計測はさぐりコイルによる漏れ磁束計測の測定の部分での磁束密度で扱う.			

授業計画(電気磁気学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電流の場と静電界	電流の場と静電界には類似性がある。この類似性の解説と静電容量から接地抵抗を求める方法を解説し、演習問題を解く。
2	磁気現象とビオ・サバルの法則	電流が流れることによって、磁場(磁束密度B)が発生し、磁針が触れたり、磁場の吸引力、反発力が発生したりする。このような磁気現象の定性的な解説とビオ・サバルの法則の解説を行う
3	ビオ・サバルの法則による有限長電線電流の磁場、ループ状電流の磁場	ビオ・サバルの法則によるベクトル公式から、有限長直線電流によるBの導出、ループ状電流のBの導出を行う。さらにサイクロモデルによる任意の点のBの求め方の演習問題を行う。
4	ビオ・サバルの法則の演習問題	前週に引き続き、ビオ・サバルの法則に関する演習問題を解説する、円形ループ状コイルを2つ並べたヘルムホルツコイルの解説および関係する演習問題を行う。
5	ローレンツ力と磁束密度B	一様な磁束密度B中に質量m、電荷qの点電荷が初速度vで入射したときの電荷の軌跡がサイクロトン運動となることを解説する。一様な静電界E中の点電荷軌跡が放物運動となることも解説する。
6	静電偏向型、電磁偏向型ブラウン管	先週に引き続き、ローレンツ力から円運動、放物運動となることの応用として、静電偏向型、電磁偏向型のブラウン管の仕組みについて解説を行う。
7	ベクトルポテンシャルによるBの導出	ベクトルポテンシャルの定義の解説、さらにベクトルポテンシャルによる磁束密度Bの導出方法の解説および演習問題を行う。
8	中間試験	中間試験
9	前期中間試験の解説およびアンペアの周回積分の法則	前期中間試験の解説を行う。さらに、アンペアの周回積分の法則の解説を行う。
10	アンペアの周回積分の法則を使った演習(1)	無限長直線電線電流によるBの算出方法の解説。同軸ケーブルの場合のBの算出方法、円環ソレノイドの場合のBの算出方法の解説と演習
11	アンペアの周回積分の法則を使った演習(2)強磁性体を含めたアンペアの法則の展開	大地境界がある場合のモデルでのBの算出方法、多角形の辺に流れた場合の中心のBの算出方法、平行電流に働く力の算出方法と演習問題。
12	平等磁界中のコイル、ピンチ効果、ホール効果	平等磁界中のコイルの回転に関する解説、Bに關してのピンチ効果、ホール効果を行う。空隙をもった環状ソレノイドを例にあげ、アンペアの法則を適用したとき、
13	磁性体、磁化率、強磁性体、BH曲線、ヒステリシス損	強磁性体では、磁束密度と磁界とは比例関係とはならない。一般にヒステリシス特性をもち、磁界を高くしても磁束密度は飽和するような関係となる。このような関係のなかでのアンペアの法則を適用した場合の例をあげて解説する。
14	磁気回路	電気回路からの類推によって構成される磁気回路の構成を解説と演習問題を行う。
15	強磁性体を含めた磁気回路、電磁石	強磁性体(磁石)を含めた磁性体でのBH特性の解説および演習問題、電磁石の空隙部分での電磁力の算出方法の解説および演習問題を行う。
16	前期定期試験の解説	前期定期試験の解説を行う。
17	電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の発見の説明、誘導起電力の解説
18	電磁誘導の法則の演習(1)	磁束の時間変化による誘起起電力、ヒステリシス特性をもった磁性体にのこぎり派状周期電流を流したときのBおよび誘起起電力の問題
19	電磁誘導の法則演習(2)	単極誘導に誘起起電力の発生の解説、うず電流損、IHクッキングヒータの原理解説
20	電磁誘導の法則演習(3)	一様な磁束密度中に平行導線レールを置き、片方を閉じて、もう片方を移動可能な導体棒を置いた場合の運動モデルの解説と関連した演習問題
21	電磁誘導の法則演習(4)	表皮効果、表皮厚さの解説と電磁誘導現象に関する演習問題の総復習
22	後期中間試験	中間試験
23	後期中間試験の解説	後期中間試験の解説
24	インダクタンスの定義と接続方法	インダクタンスの定義と直列および並列接続方法の解説
25	インダクタンスの算出(1)	円環ソレノイドにおいて、内径と厚みとの比によって、平均磁路長から求めたLと解析的に求めた厳密なLとの違いの解説。
26	インダクタンスの算出(2)	同軸円筒ケーブルにおける自己インダクタンスの算出方法の解説。
27	インダクタンスの算出(3)	平行導線における自己インダクタンスの算出方法の解説。
28	インダクタンスの算出(4)	長岡係数を使った自己インダクタンスと相互インダクタンスの算出問題の解説と演習。
29	変位電流とマクスウエルの方程式	変位電流の解説とマクスウエルの方程式から波動方程式の導出の解説
30	電磁波とポインティングベクトル	電磁波の波形とポインティングベクトルの解説。
備考	本科目の修得には、60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。電験3種の理論に合格した場合は、中間・定期試験のいずれかの1つだけ試験成績を最低80点にする。	

科 目	半導体工学 (Semiconductor Engineering)			
担当教員	井上 靖朗 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	これまで学習した半導体デバイスの基礎知識に降伏や劣化などを含め,より深い知識を身につける.さらに,その半導体デバイス作製に用いられる成膜装置やプロセスの基礎についても学ぶ.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】エネルギーバンド構造を書くことができ,基板の不純物量からフェルミレベルのエネルギーを計算により算出できる.			エネルギーバンドとP-N接合の特性について前期中間試験で評価する.
2	【A2】P-N接合のI-V特性について降伏やトンネルダイオードについて説明でき,金属と半導体の接触を定性的に理解する.			バイポーラトランジスタや金属と半導体の接触について前期定期試験で評価する.
3	【A2】酸化膜内の欠陥について理解し,欠陥が及ぼすデバイスへの影響と欠陥低減技術を理解する.			MOSキャパシタのC-V特性や酸化膜内の欠陥が及ぼす影響について後期中間試験で評価する.
4	【A2】MOSFETの基本原理や特性評価の方法について説明することができる.			MOSFETの基本原理や特性評価の方法について後期定期試験で評価する.
5	【A2】MOSデバイスの基本的作製工程や成膜装置について説明することができる.			MOSFETの作製方法やその特性について後期定期試験で評価する.
6	【A2】フラッシュメモリやSOIなどのMOSFETに類似したデバイスについて説明できる.			フラッシュメモリやSOIなどのMOSFETに類似したデバイスについて後期定期試験で評価する.
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験100% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気材料,応用物理,電子工学			
履修上の注意事項	3年生の電子工学で修得した半導体デバイスの基本的動作原理に,界面準位などの欠陥や降伏などの劣化を含め,エネルギーバンドを用いてより深い知識を習得する.また,5年生の電気材料とも関連が深いため十分に理解して欲しい.			

授業計画(半導体工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	半導体について	半導体の性質と,半導体に主として用いられる単結晶Si基板の作製方法について学習する。
2	Si基板中でのキャリアの振る舞い	Si基板中を流れるキャリアが起こす,ドリフト電流,フォノン散乱,有効質量などについて学習する。
3	シュレーディンガー方程式の概要	半導体の基本となるシュレーディンガー方程式について説明する。
4	局在準位の発生と種類	局在準位の発生や深い準位,浅い準位,界面準位について説明する。
5	Shockley-Readモデル	Shockley-Readモデルを用いてキャリアの生成メカニズムについて説明する。
6	P-N接合の作製方法	電圧印加前のP-N接合の空乏層,内部電位発生機構を含めた基本特性と,その作製の方法について説明する。
7	P-NダイオードのI-V特性	順バイアス,逆バイアス印加後のP-Nダイオードの基本的な特性について説明する。
8	中間試験	1回～7回までの内容について中間試験を行なう。
9	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
10	P-Nダイオードの降伏機構	P-Nダイオードの降伏の機構について説明する。
11	トンネルダイオード	トンネルダイオードの電流電圧特性について説明する。
12	バイポーラトランジスタの作製方法と増幅機構	バイポーラトランジスタの作製方法と増幅機構について学習する。
13	金属-半導体の接合I	金属-半導体接合の特性に関与する,電子親和力や仕事関数や金属蒸着装置について説明する。
14	金属-半導体の接合II	仕事関数と電子親和力によって,オーミック接触やショットキー接触になることを説明する。
15	復習	10回～14回までの内容について復習を行なう。
16	ショットキーダイオード	ショットキーダイオードの基本特性について説明する。
17	理想MOSダイオードの電気特性と酸化膜作製方法について	理想MOSダイオードの電気特性である蓄積,空乏,反転について説明し,SiO ₂ の作製方法を例に,熱酸化法,CVD法について説明する。
18	MOSダイオードのC-V特性	C-V特性の周波数依存性や,しきい値電圧のシフトなどからの評価について説明する。
19	実際のMOSダイオード	界面準位を含んだ実際のMOSダイオードでの理想MOSダイオードとの特性の違いを説明する。
20	酸化膜内に存在する欠陥の種類	固定電荷や界面準位や可動イオンについて説明し,クリーンルームのクリーン度の定義について学習する。
21	酸化膜内に存在する欠陥がデバイスに与える影響	欠陥が存在する場合のC-V特性の変化などについて説明する。また界面準位等の欠陥低減技術を学習する。
22	LSI技術	LSI(集積回路)について学習し,MOSFETが中心的役割を担っていることを学習する。
23	中間試験	17回～22回までの内容について中間試験を行なう。
24	中間試験の解説	中間試験の解説を行う。
25	MOSFETの作製方法	MOSFETの作製方法について学習する。
26	MOSFETの基本動作	入力特性,出力特性やエンハンスメント型,ディプレッション型について説明する。
27	界面準位の影響	界面準位がトランジスタの動作にどのような影響を及ぼすか学習する。
28	MOSFETの特性解析	入力特性からしきい値電圧,相互コンダクタンスなどの特性の解析方法について学習する。
29	フラッシュメモリの原理	フラッシュメモリの原理について説明する。
30	SOI技術	次世代FETのSOI-FET技術について説明する。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電気回路III (Electric Circuit III)		
担当教員	津吉 彰 教授		
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-E1(100%)		
授業の概要と方針	本科目では1-3年で学んだ電気回路の復讐を行うとともに、交流回路、直流回路にわたる瞬時値解析(過渡解析)について学ぶ。そのために必要な回路の定理、回路素子の特性を理解させ、回路の方程式を導く事ができるようにさせる。通常の数学的な微分方程式を理解させた上で、ラプラス変換を導入し、回路の微分方程式の解法を学ばせる。また、回路の解析のために必要な式の導出過程を整理するために状態方程式の概念を導入する。回路網関数を利用した回路の表現を理解させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】回路解析に必要な微分方程式が解ける。		回路解析に必要な微分方程式として1階、2階の微分方程式の問題を解ける事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
2	【A4-E1】KVL,KCLを用いて回路の過渡解析に必要な式が導出できる。		具体的な回路について、KVL,KCLを用いて回路の過渡解析に必要な式が導出できる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
3	【A4-E1】標準状態方程式の導出ができる。		複雑でない回路について標準状態方程式の導出ができる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
4	【A4-E1】回路網関数の導出ができる。		複雑でない回路について回路網関数の導出ができる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
5	【A4-E1】回路の定理を駆使し、回路の簡単化ができる。		やや複雑な回路をより単純な回路へ、回路の簡単化ができる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
6	【A4-E1】回路方程式の導入のためのグラフ理論を理解し、簡単な回路を解析できる。		回路方程式の導入のためのグラフ理論を理解し、簡単な回路を解析できる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
7	【A4-E1】ラプラス変換を利用して回路が解析できる。		具体的な問題についてラプラス変換を利用して回路が解析できる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
8	【A4-E1】過渡解析に必要な定常解が求められる。		具体的な問題について過渡解析に必要な定常解が求められる事を小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
9	【A4-E1】交流回路の定常解析ができる。		交流回路の問題について小テストならびに試験で確認する。基本的な問題のおおよそ70%正答を基準とする。
10	【】		
総合評価	成績は、試験85% 小テスト15% として評価する。100点満点で60点以上の評価で合格とする。前期中間試験20%、前期定期試験、後期中間試験25%、後期定期試験30%の比率で試験の成績とする。上記に関わらず、後期定期試験で100点満点で60点以上の成績を収めたものは60点以上の評価とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	電気回路I,II,電力工学I,II		
履修上の注意事項	回路解析で使用する微分方程式の解法について熟知しておく必要がある。ノートは試験の持ち込み資料として認める場合があるので、きちんと保管しておく事。		

授業計画(電気回路III)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	交流回路の基礎とフェーザ法(第2章)	第2章の基礎事項を学び,交流回路の計算を復習する。
2	交流回路の基礎とフェーザ法(第2章)	1回目の内容の小テストを行う。交流電力の計算,ベクトル軌跡を学ぶ。
3	過渡解析 微分方程式(R-L回路)(第6章)	R-L回路について,KVLから微分方程式を導出し,解く。
4	過渡解析 微分方程式(R-C回路)(第6章)	R-C回路について,KVLから微分方程式を導出し,解く。
5	微分方程式(RLC回路)(第6章)	RLC回路について,KVLから微分方程式を導出し,解く。
6	回路の方程式の導出練習	学生に黒板に回路を描かせ,その回路についてその場で回路の方程式を導かせる演習を行う。
7	演習,小テスト	これまでの内容に対し簡単な演習,小テストを行い,到達度を確認する。
8	中間試験	交流回路の計算,基本的な回路の過渡応答について,微分方程式であらわされた回路方程式を導き,解けるか試験で確認する。
9	復習	試験の結果を見て,弱点を復習する。
10	回路方程式,初期条件の導出(第6章-4)	電荷保存則,磁束保存則による初期条件の導出を学ぶ。
11	ラプラス変換を用いた解析演習(第7章-1)	回路方程式を導出し,ラプラス変換を用いて,微分方程式を解く練習をする。
12	演習,小テスト	ラプラス変換の演習,小テストを行い,微分方程式がとけるかどうか確認する。
13	ラプラス変換を用いた回路解析(第7章-2)	微分方程式の導出を必要としないラプラス変換による解析法について学ぶ。
14	演習	過渡解析全般に対し,演習を行う,結果に対してグラフを書くなど回路の過渡現象を実感するような演習に力をいれる。
15	これまでの復習	過渡解析全般に対し,演習を行う。
16	前期未定期試験の解説,復習	試験の結果を見て,弱点を復習する。
17	ラプラス変換を用いた過渡解析の演習	ラプラス変換を用いた過渡解析の演習をし,習熟度を確認するため小テストを実施する。
18	インパルス,インディシャル応答	ラプラス変換による回路解析において,インパルス,インディシャル応答の意義を学ぶ。
19	任意の波形の応答(第7章-2)	複雑な波形に対する応答の解析方法について学ぶ。
20	回路網関数(第8章-3)	電圧伝達関数を中心とした回路網関数を学び,演習問題を解く。
21	演習,小テスト	電圧伝達関数を中心とした回路網関数の演習をし,小テストを行う。
22	状態方程式の導出(第9章)	状態微分方程式の導出方法について学び,その意義を知る。
23	演習,小テスト	状態微分方程式の導出について演習を行う。
24	中間試験	これまでに講義した過渡解析全般や伝達関数,電気回路IIの内容について試験を実施し,習熟度を確認する。
25	試験解説,3年の電気回路IIの復習(第5章)	試験の解説を行い弱点復習,特に3年の電気回路IIの復習を行う。
26	分布定数回路の意味,解析方法,2端子対回路網について学ぶ。(第8章-4)	分布定数回路,2端子対回路網の解析のため,伝送行列などについて学ぶ。
27	電気回路I,IIの復習(回路の定理)(第3章)	回路の定理など電気回路の復習を行う。
28	電気回路I,IIの復習(交流回路の応用)(第4章)	交流回路の応用を復習する。
29	電気回路I,IIの復習	各種練習問題を取り上げ演習させる。
30	全範囲復習	試験を控え,全範囲を復習する。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期中間試験50点,前期定期試験,後期中間試験75点,後期定期試験100点の比重で成績を評価する。後期定期試験で60点以上の成績を収めたものは,それまでの成績に関わらず合格とする。レポートは評価に含めないが提出状況が不良であれば再試験の受験を許可しない。	

科 目	電子回路I (Electronic Circuit I)		
担当教員	佐藤 徹哉 教授		
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-E1(100%)		
授業の概要と方針	アナログ電子回路設計技術として、電子回路の基礎となるダイオードおよびトランジスタの基礎特性、作図法および等価回路によるトランジスタ増幅回路の解析方法、それらを活かした各種増幅回路(広帯域増幅回路、電力増幅回路、帰還増幅回路、直流増幅回路、演算増幅回路)の解析について、英文プリントを参照しながらノート講義形式で授業を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】ダイオードおよびトランジスタの基礎動作を説明できる。		ダイオードの順方向・逆方向バイアスにおける動作、バイポーラトランジスタの増幅動作、およびFETの増幅動作が理解できているかを前期中間試験及びレポートで評価する。
2	【A4-E1】トランジスタ増幅回路のバイアス回路が設計できる。		バイポーラトランジスタおよびFET増幅回路におけるバイアス回路の種類が判別でき、回路を設計できるかを前期中間試験及びレポートで評価する。
3	【A4-E1】トランジスタ増幅回路の小信号等価回路による解析が行える。		hパラメータおよびYパラメータ等価回路を用いたトランジスタ増幅回路の増幅度が計算できるかを前期定期試験及びレポートで評価する。
4	【A4-E1】広帯域増幅回路の増幅度の周波数特性が説明できる。		広帯域増幅回路において、周波数の帯域における増幅度の特性、低域および高域における遮断周波数が計算できるかを前期定期試験及びレポートで評価する。
5	【A4-E1】電力増幅回路の動作が説明できる。		A級およびB級電力増幅回路の直流入力電力および交流出力電力が計算でき、電源効率が計算できるかを後期中間試験及びレポートで評価する。
6	【A4-E1】帰還増幅回路の動作が説明できる。		負帰還増幅回路の種類が判別でき、負帰還があるときの増幅回路の増幅度が計算できるかを後期中間試験及びレポートで評価する。
7	【A4-E1】直流増幅回路の動作が説明できる。		直流増幅回路の問題点が把握でき、その解決方法としてのレベルシフト回路および差動増幅回路の解析が行えるかを後期定期試験及びレポートで評価する。
8	【A4-E1】演算増幅回路の動作が説明できる。		演算増幅器を用いた線形・非線形応用回路の動作が理解できているかを後期定期試験及びレポートで評価する。
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験は4回の平均点を指し、レポート点はノートと別途指示するものを合わせて評価するが未提出があるとゼロ点とする。これらを85:15としたものを総合評価とし、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	電気回路, 電子工学, 電子回路II		
履修上の注意事項	オリジナルテキストとして、A4縦の英文プリントを配布するので、全ての英文は授業前に読んで理解しておくこと。授業はそれらを参照しながらノート講義形式で行うので、A4綴りノート(ルーズリーフ不可)に講義内容を記録すること。演習問題も同ノートに解答し、講義内容の記録と併せてレポート点として評価するので、試験日に毎回提出すること。		

授業計画(電子回路I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電子回路の基礎ーダイオードー	ダイオードは、アナログ電子回路における非線形素子の基本素子である。pn接合ダイオードの順方向および逆方向バイアスにおける動作を説明する。
2	電子回路の基礎ーバイポーラトランジスター	バイポーラトランジスタは、エミッタ、ベース、およびコレクタの3つの端子を持つ電流増幅素子である。このバイポーラトランジスタの基本構造を説明し、基本増幅回路を解説する。
3	電子回路の基礎ーFETー	電界効果トランジスタFETは電圧増幅素子である。このFETの動作を説明し、基本増幅回路を解説する。
4	増幅回路の基礎ーバイアス回路1ー	トランジスタ増幅回路では、回路に直流バイアスを行うことで動作を最適に行う。バイポーラトランジスタを利用した増幅回路のバイアス回路の解説を行う。
5	増幅回路の基礎ーバイアス回路2ー	前回のバイポーラトランジスタのバイアス回路に引き続き、FETを用いた増幅回路のバイアス回路の解説を行う。
6	増幅回路の基礎ー作図法による解析1ー	トランジスタ増幅回路の解析に必要な、直流および交流負荷線と動作点についての解説を行い、作図による増幅回路の解析方法を説明する。
7	増幅回路の基礎ー作図法による解析2ー	FET増幅回路を作図法によって解析する。
8	中間試験	1-7回目の内容を試験する。
9	中間試験解答および復習	試験の解答を行い、本範囲の復習を行う。
10	増幅回路の基礎ー小信号等価回路 1ー	バイポーラトランジスタ増幅回路の増幅度をhパラメータによる小信号等価回路を用いて解析する。
11	増幅回路の基礎ー小信号等価回路 2ー	FET増幅回路の増幅度をYパラメータによる小信号等価回路を用いて解析する。
12	デシベル	増幅回路の増幅度をデシベルで表示する方法およびその利点について解説する。
13	広帯域増幅回路ー中域周波数領域ー	CR結合トランジスタ増幅回路を説明し、信号の周波数が中域領域における2段増幅回路の増幅度を求める方法を解説する。
14	広帯域増幅回路ー低域周波数領域ー	信号の周波数が低域領域における2段増幅回路の増幅度の計算および低域遮断周波数の計算方法を解説する。
15	広帯域増幅回路ー高域周波数領域ー	信号の周波数が高域領域における2段増幅回路の増幅度の計算および高域遮断周波数の計算方法を解説する。
16	定期試験解答および復習	試験の解答を行い、本範囲の復習を行う。
17	電力増幅回路ーA級電力増幅回路ー	A級電力増幅回路は、動作点を交流負荷線の中心に設定した電力増幅回路である。A級電力増幅回路の動作点を作図法から求め、電力効率を求める方法を解説する。
18	電力増幅回路ーB級電力増幅回路ー	B級電力増幅回路は、動作点を交流負荷線の原点に設定した電力増幅回路である。B級電力増幅回路の動作点を作図法から求め、電力効率を求める方法を解説する。
19	帰還増幅回路ー帰還の基礎ー	出力信号の一部あるいは全部を入力に戻して増幅する回路を帰還増幅回路という。ここでは、帰還の基礎および利点について解説を行う。
20	帰還増幅回路ー各種の負帰還増幅回路ー	負帰還増幅回路にはいくつかの構成方法がある。ここでは、各構成回路における入出力インピーダンスの特徴を解説する。
21	帰還増幅回路ーバイポーラトランジスタを用いた負帰還増幅回路ー	バイポーラトランジスタを用いた負帰還増幅回路の解析を行い、負帰還の有無によって増幅度および周波数特性がどのように異なるかを説明する。
22	帰還増幅回路ーFETを用いた負帰還増幅回路ー	FETを用いた負帰還増幅回路の解析を行い、負帰還の有無によって増幅度および周波数特性がどのように異なるかを説明する。
23	中間試験	17-22回目の内容を試験する。
24	中間試験解答および復習	試験の解答を行い、本範囲の復習を行う。
25	直流増幅回路ーレベルシフト回路ー	直流増幅回路は、直流信号を増幅することができる。ここでは、直流増幅回路の問題点を説明し、解決方法としてダイオードやトランジスタを用いたレベルシフト回路についての解説を行う。
26	直流増幅回路ー差動増幅回路ー	直流増幅回路の種類として、差動増幅回路の解説を行う。差動増幅回路には、差動利得と同相利得があり、この違いに重点をおいた解説を行う。
27	演算増幅回路ー演算増幅回路の特徴ー	演算増幅回路オペアンプは、アナログICの一つである。ここでは、オペアンプの特性として、同相信号除去比、スルーレート、オフセット、および位相補償についての解説を行う。
28	演算増幅回路ー反転・非反転増幅回路ー	オペアンプを利用した基本演算回路として、反転および非反転増幅回路の閉ループ利得および入力インピーダンスの解析についての解説を行う。
29	演算増幅回路ー線形・非形応用回路ー	オペアンプを利用した線形応用回路として、加算、減算、微分、および積分回路の構成と動作を解説する。また、非線形応用回路として、対数および逆対数回路の解説も行う。
30	演算増幅回路ーアクティブフィルター	オペアンプを利用した非線形応用回路として、アクティブフィルタの解説を行う。
備考	本科目の修得には、60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。試験問題も英文で出題するが、専門用語、専門表現は必要に応じて英語だけでなく日本語での理解も問うことがある。日本語での理解を問う問題は電験2種・3種『理論』の電子回路問題程度とする。	

科 目		制御工学 (Control Engineering)		
担当教員		道平 雅一 教授、茂木 進一 教授、南 政孝 准教授		
対象学年等		電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標		A4-E3(100%)		
授業の概要と方針		フィードバック制御系の基礎的事項の考え方やそれら相互間の理論的な一貫性を明らかにし、古典制御理論の体系を理解させる。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E3】与えられた条件から状態方程式を求め、伝達関数を求めることができる。			状態方程式から伝達関数が求められることができるかを前期中間試験で評価する。
2	【A4-E3】伝達関数からブロック線図が示せ、これらから制御系の特徴を理解することができる。また、ブロック線図を簡略化することができる。			ブロック線図に関する理解度を前期中間試験で評価する。
3	【A4-E3】制御系の時間応答を理解し、その特徴が理解できる。			時間応答に関する理解度を前期定期試験で評価する。また、減衰係数による2次遅れ系の時間応答の違いに関する課題を与え、レポートを提出させその理解度を評価する。
4	【A4-E3】ボード線図を描くことができ、周波数応答やゲイン余裕等を求めることができる。また、ボード線図から伝達関数を求めることができる。			ボード線図に関する理解度を前期定期試験で評価する。
5	【A4-E3】各種安定判別法の違いを理解し、制御系の安定判別ができる。			各種安定判別法に関する理解度を後期中間試験で評価する。
6	【A4-E3】根軌跡を描くことができ、最適なゲインを決定することができる。また、補償法による効果を定量的に評価できる。			根軌跡に関する理解度をレポート及び後期定期試験で評価する。
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価		成績は、試験85% レポート15% として評価する。中間、定期試験の4回の平均の85%(85点)とレポート15点の合計100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト				
参考書				
関連科目		応用数学,電気回路,電気機器		
履修上の注意事項		3年までの電気回路や物理,微分積分などの知識を必要とする場合があるので復習しておくこと。また,ラプラス変換の知識は重要であるのでしっかりと修得しておくこと。		

授業計画(制御工学)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	制御工学の概要	制御工学の古典制御理論と現代制御理論の体系を理解する。また、専門学科を問わず適用される制御工学の特徴を理解する。
2	ラプラス変換	伝達関数は、ラプラス変換された関数で議論されることのメリット等を理解する。また、微分方程式等で与えられる状態方程式をラプラス変換し伝達関数を求めることができる。
3	基本的要素と伝達関数1	一次遅れ系などの基本要素の伝達関数を求めることができる。
4	基本的要素と伝達関数2	複数の基本的要素が接続された場合においても、全体の伝達関数を求めることができる。
5	基本的要素と伝達関数3	与えられた条件から、状態方程式をたて伝達関数を求めることができる。
6	ブロック線図	ブロック線図の特徴を理解し、伝達関数からブロック線図を求めることができる。
7	ブロック線図の合成	各要素毎に示されているブロック線図を簡略化させ、全体の伝達関数を求めることができる。
8	中間試験	7回までの内容に対して中間試験を行なう。
9	中間試験解説	中間試験の解答を行なう。また、理解度によっては確認テストを実施する場合もある。
10	時間領域における応答1	制御系の応答には、時間応答と周波数応答の2つがあることを説明する。また、2次遅れ系の時間応答波形と伝達関数にどのような関係があるかを理解するとともに応答時間の定義についても理解する。
11	時間領域における応答2	2次遅れ系の伝達関数を逆ラプラス変換することにより時間応答の式を導出できる。減衰係数の違いによる応答の違いについてはレポートで提出する。
12	周波数領域における応答	周波数応答の考え方と周波数伝達関数と伝達関数の関連について説明する。周波数応答には、ベクトル軌跡とボード線図が代表的であることを理解する。
13	ベクトル軌跡	周波数伝達関数からベクトル軌跡を書くことができる。特に、1次遅れ系のベクトル軌跡と周波数伝達関数の関連を理解する。
14	ボード線図	ボード線図の特徴について説明する。また、1次遅れ系や1次進み系などの基本的な要素のボード線図を書くことができる。
15	ボード線図の合成	複数のボード線図が合成できることを説明する。ボード線図の合成ができるとともに、合成されたボード線図からその伝達関数を求めることができる。
16	不安定現象と特性方程式	制御系のパラメータの設定等においては、不安定な状態を招くことがあること、特性方程式から不安定状態をある程度推察できることを説明する。
17	ラウスの安定判別	ラウスの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からラウスの安定判別法で安定判別ができる。
18	フルビッツの安定判別	フルビッツの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からフルビッツの安定判別法で安定判別ができる。
19	ナイキストの安定判別1	ナイキストの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からナイキストの安定判別法で安定判別ができる。
20	ナイキストの安定判別2	ナイキストの安定判別では、ゲイン余裕を求めることができることを説明する。実際に安定判別と同時にゲイン余裕を求めることができる。
21	ゲイン余裕と位相余裕	ボード線図からも安定判別ができることを説明する。ボード線図を用いて安定判別でき、ゲイン余裕、位相余裕を求めることができる。
22	制御系と定常偏差	フィードバック制御系の偏差について説明する。これらを理解するとともにオフセットや定常速度偏差を求めることができる。
23	中間試験	16回から22回までの範囲について中間試験を行なう。
24	中間試験解説	中間試験の解答を行なう。
25	過渡特性の評価	定常特性以外にも過渡特性の評価が必要であることを説明する。行き過ぎ時間などがどのような数値になっているべきかを理解する。
26	制御系の評価と評価関数	制御系の評価には評価関数と呼ばれるものがあることを説明する。様々な評価関数を知り、それらの特徴を理解する。
27	制御系の設計とその基本量	速応性や安定性はトレードオフの関係にあることを説明し、この両立の重要性について説明する。速応性や安定性を決定するパラメータを理解し、その基本的な設定数値を理解する。
28	根軌跡法1	ゲインKの決定方法に根軌跡があることを説明する。与えられた伝達関数から根軌跡が書ける。
29	根軌跡法2	描いた根軌跡から、条件に適合する最適なゲインを求めることができる。
30	直列補償	位相進み補償や位相遅れ補償などについて説明する。位相補償によってどのような効果が得られるかを定量的に評価できる。
備考	本科目の修得には、60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	数値解析 (Numerical Analysis)			
担当教員	山浦 剛 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A2(20%), A3(80%)			
授業の概要と方針	情報技術の著しい発展によって、あらゆる分野で誰でもが手軽にコンピュータを活用することができる状況になってきた。電気工学の分野では、各種機器やシステムの設計、評価、環境への影響などが頻繁に数値解析される。数値解析によって数学的思考法に対するより深い洞察が得られることが多く、この講義では、電気工学において重要と思われる、種々の数学的主題に対する数値解析の基本的な手法と技術の習得を目的としている。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】数値を2進数で表す方法、丸め誤差、有効数字について説明できる。			数値を2進数で表す方法、丸め誤差、有効数字について説明できることをレポートと前期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
2	【A3】1変数方程式の数値的解法を説明できる。			1変数方程式の数値的解法を説明できることを、レポートと前期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
3	【A3】関数の数値的な補間法、合成法を説明できる。			関数の数値的な補間法、合成法を説明できることを前期中間試験と定期試験で60%以上正解を合格として評価する。
4	【A3】関数の数値的積分法を説明できる。			関数の数値的積分法を説明できることを後期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
5	【A3】関数の数値的微分法を説明できる。			関数の数値的微分法を説明できることを後期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
6	【A3】常微分方程式の数値的解法を説明できる。			常微分方程式の数値的解法を説明できることをレポートと後期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
7	【A3】連立1次方程式の数値的解法を説明できる。			連立1次方程式の数値的解法を説明できることを後期中間試験と定期試験で60%以上正解を合格として評価する。
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。試験成績85点とレポート評価点15点の100点満点で60点以上を合格とする。不合格の場合は試験で評価する。			
テキスト				
参考書				
関連科目	数学I, II, 情報基礎, 情報処理I, II, 電気数学, 応用数学, 電気回路I, II, III, 電気磁気学I, II			
履修上の注意事項	数学I, IIの理解が前提である。			

授業計画(数値解析)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	数値解析への案内	シラバスに基づいて1年間の授業計画を説明する。また、アルゴリズム、プログラム、計算量、数値表現、有効数字、丸め誤差、打ち切り誤差について学習する。
2	方程式の根(2分法、ニュートン法)	方程式の解法である2分法、ニュートン法について学習する。
3	演習	2回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
4	曲線の推定(ラグランジュ補間)	多項式による補間法であるラグランジュ補間について学習する。
5	曲線の推定(スプライン補間)	多項式による補間法であるスプライン補間について学習する。
6	演習	4回目、5回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
7	中間試験	1回目から6回目の内容に関する試験を実施。
8	試験返却	中間試験の返却と解説。
9	曲線の推定(最小二乗法)	与えられた離散データから近似曲線を推定する最小二乗法について学習する。
10	演習	9回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
11	関数の合成(テイラー級数)	与えられた関数をテイラー級数で数値的に合成する方法について学習する。
12	関数の合成(フーリエ級数)	与えられた関数をフーリエ級数で数値的に合成する方法について学習する。
13	関数の合成(離散フーリエ変換, 複素フーリエ級数)	与えられた離散データに対して離散フーリエ変換, 複素フーリエ級数を用いて近似関数を数値的に合成する方法について学習する。
14	演習	12回目、13回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
15	数値積分(台形則, シンプソン則)	数値積分法である台形則, シンプソン則について学習する。
16	演習	15回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
17	数値積分(モンテカルロ法)	数値積分法であるモンテカルロ法について学習し, 計算機を用いた演習を行う。
18	微分係数の差分近似	微分係数の近似法である差分法について学習する。
19	微分方程式(オイラー法)	微分方程式の数値解法であるオイラー法について学習する。
20	微分方程式(ルンゲ-クッタ法)	微分方程式の数値解法であるルンゲ-クッタ法について学習する。
21	演習	19回目、20回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
22	中間試験	15回目から21回目の内容に関する試験を実施。
23	試験返却	中間試験の返却と解説。
24	偏微分方程式	偏微分方程式とその数値解法について学習を行う。
25	演習	24回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
26	連立1次方程式の解法(ガウスの消去法)	連立1次方程式の解法であるガウスの消去法について学習を行う。
27	連立1次方程式の解法(LU分解)	連立1次方程式の効率的な解法に用いられるLU分解の手法について学習を行う。
28	演習	26回目、27回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
29	連立1次方程式の解法(ヤコビの反復法)	連立1次方程式の解法であるヤコビの反復法について学習を行う。
30	演習	29回目の内容について計算機を用いた演習を行う。
備考	本科目の修得には, 60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電気機器I (Electrical Machinery I)			
担当教員	加藤 真嗣 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・前期・必修・1単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E4(100%)			
授業の概要と方針	電気機器を学ぶためには、電気磁気学の知識が必要不可欠である。まず始めに、電気磁気学を復習する。そして発電機や電動機の回転機械系の現象を理解するために、その系の過渡現象やトルクについて説明する。次に、電気機器のうちの静止器であり電圧を昇降させることができる変圧器について説明し、動作原理や特性などを理解する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】電気機器の動作原理を説明するために必要な電気、磁気および回転機械系の計算問題を解ける。また、電気機器の特性の表現する方法を修得する。			フレミングの左手及び右手の法則、ファラデーの電磁誘導の法則などを理解できているか、また、各電気機器の特性を適切に表現できるか、レポートおよび前期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
2	【A4-E4】変圧器の動作原理を理解し説明できる。また、等価回路による特性計算やベクトル図が作図できる。			変圧器の動作原理、等価回路による特性計算、負荷を接続した場合のベクトル図が作図できるか、レポートおよび前期定期試験で60%以上正解を合格として評価する。
3	【 】			
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。なお、試験成績は前期中間試験と前期定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気磁気学I(3年), 電気回路I(2年), 電気回路II(3年)			
履修上の注意事項	電気機器は電気磁気学のうちの磁気分野と電気回路に特に関連が深いので、よく理解しておくこと。電気機器IIおよびIIIでは電気機器Iの知識が必要となるため、4年で学んだことを理解し修得しておくこと。			

授業計画(電気機器I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電気機器の分類と構成要素	電気機器には回転機と静止器があり,それらの分類と構成要素について説明する。
2	電磁現象の法則と概要	電気機器は電磁現象を利用しているので,必要な電磁現象を復習する。
3	回転機械系の方程式と特性の表記方法	回転機のトルクと電気機器の特性を表記する方法について説明する。
4	演習	電気機器の基礎分野の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
5	理想変圧器	電気機器の静止器である変圧器の理想的な場合の動作原理について説明する。
6	変圧器の構造	変圧器の鉄心および巻線の構造と冷却方法について説明する。
7	実際の変圧器と等価回路	実際の変圧器とその等価回路について説明する。
8	中間試験	中間試験を実施する。
9	中間試験の解答と復習	中間試験の問題について解答・解説を行う。さらに,中間試験範囲を復習する。
10	変圧器の特性	変圧器の特性の算定法と変圧器回路の定数測定法について説明する。
11	変圧器の結線	変圧器の極性と三相結線の種類について説明する。
12	変圧器の並行運転	変圧器を2台以上並行運転する場合の方法について説明する。
13	特殊変圧器	単巻変圧器と計測用変成器について説明する。
14	演習	変圧器の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
15	2種類の磁界	交番磁界と回転磁界について説明する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 15 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	電気機器II (Electrical Machinery II)			
担当教員	加藤 真嗣 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・後期・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E4(100%)			
授業の概要と方針	機械エネルギーを電気エネルギーに変換する交流機と直流機の動作原理や構造を説明し,特性, 運転方法,速度制御法などを理解する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】三相及び単相誘導電動機の動作原理を理解し説明できる.また,等価回路による特性計算や速度制御法の説明ができる.			三相及び単相誘導機の動作原理,一相当りの等価回路を用いた特性計算,比例推移などの速度制御法が理解できているか,レポートおよび後期 中間試験で60%以上正解を合格として評価する.
2	【A4-E4】同期機の動作原理を理解し説明できる.また,電機子反作用の影響や並行運転方法が説明できる.			同期機の動作原理,電機子反作用の影響,並行運転する際の注意点を理解できているか,レポートおよび後期定期試験で60%以上正解を合格として評価する.
3	【 】			
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.なお,試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.1 00点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気磁気学I(3年),電気回路I(2年),電気回路II(3年),電気機器I(4年)			
履修上の注意事項	電気機器は電気磁気学のうちの磁気分野と電気回路に特に関連が深いので,よく理解しておくこと.電気機器IIは電気機器Iの内容を引き続いて行うので,学んだことを理解し修得しておくこと.			

授業計画(電気機器II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	定期試験の解答と復習	定期試験の問題について解答・解説を行う。さらに,定期試験範囲を復習する。
2	三相誘導電動機の理論(1)	三相誘導電動機の回転原理と構造について説明する。
3	三相誘導電動機の理論(2)	回転磁界によって誘導される起電力,電流,トルクについて説明する。
4	三相誘導電動機の等価回路(1)	等価回路の導出過程を変圧器の等価回路と対比させながら説明する。
5	三相誘導電動機の等価回路(2)	等価回路定数の決定方法について説明する。
6	三相誘導電動機の特性算定式	等価回路から特性算定式を導出過程を説明する。
7	三相誘導電動機の特性(1)	すべりに対するトルクや機械的出力の特性について説明する。
8	三相誘導電動機の特性(2)	三相誘導電動機の手速度特性,出力特性,比例推移について説明する。
9	三相誘導電動機の始動法	三相誘導電動機を安全に始動させる方法について説明する。
10	三相誘導電動機の手速度制御法	三相誘導電動機の手速度を制御する方法について説明する。
11	特殊かご形誘導電動機	かご形誘導電動機の手始動特性を改善した特殊かご形について説明する。
12	単相誘導電動機	単相交流で駆動できる単相誘導電動機について説明する。
13	演習	誘導電動機の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
14	同期機の原理	誘導機と同期機の違い,誘導起電力と周波数の関係について説明する。
15	中間試験	中間試験を実施する。
16	中間試験の解答と復習	中間試験の問題について解答・解説を行う。さらに,中間試験のテスト範囲の内容について復習する。
17	同期機の分類と構造	同期機の分類と構造について説明する。
18	同期機の誘導起電力とその波形	誘導起電力を正弦波に近づけるための巻線方法について説明する。
19	同期機の電機子反作用	電機子電流による電機子反作用について説明する。
20	同期機の手基本特性(1)	フェーザ図を用いて電機子反作用について説明する。
21	同期機の手基本特性(2)	無負荷飽和特性曲線と短絡特性曲線について説明する。
22	同期発電機の手並行運転と過渡特性(1)	複数台の同期発電機を手並行運転する方法について説明する。
23	同期発電機の手並行運転と過渡特性(2)	同期発電機の手安定度について説明する。
24	同期電動機	同期電動機の種類と運転および始動の特性について説明する。
25	同期機の試験法と励磁方式	同期機の回路定数の測定法と同期機の励磁方式について説明する。
26	演習	同期機の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
27	直流機の原理と構造	直流機の回転原理と構造について説明する。
28	直流機の理論	誘導起電力とトルクを導出する方法について説明する。
29	直流電動機の手特性	直流電動機の手速度特性とトルク特性について説明する。
30	直流電動機の手始動・制動および手速度制御法	直流電動機を手始動あるいは制動する方法と手速度制御法について説明する。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。直流機の内容の一部については電気機器IIで講義するが,残りは電気機器IIIで講義するので,直流機の手到達度は電気機器IIIの中間試験で評価する。	

科 目		電気工学実験実習 (Laboratory Work in Electrical Engineering)			
担当教員		茂木 進一 教授,中村 佳敬 准教授,森田 二郎 教授,津吉 彰 教授,佐藤 徹哉 教授,道平 雅一 教授,赤松 浩 准教授,加藤 真嗣 准教授,南 政孝 准教授			
対象学年等		電気工学科・4年・通年・必修・4単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		A4-E1(5%), A4-E2(5%), A4-E3(5%), A4-E4(5%), B1(10%), B2(10%), C1(30%), C4(20%), D1(10%)			
授業の概要と方針		座学で学んだ理論を実験で確かめ理解を深めさせる.また,各種制御機器等の取り扱い方法や応用を学び,社会で役立つ技術の習得を目指す.報告書作成方法を学び,提出期限内に報告する習慣を身に付ける.また後期には卒業研究のため各研究室に仮配属させ,卒業研究に着手させる.			
		到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】実験テーマ数値解析の演習において回路の数値解析ができるようになる.				実験ならびにレポートにより確認する.
2	【A4-E2】各種電気機器の実験においてその原理と実際を理解する.				実験ならびにレポートにより確認する.
3	【A4-E3】マイコンの実験においてその動作原理を理解する.				実験ならびにレポートにより評価する.
4	【A4-E4】電気設備に用いられるシーケンス制御について理論を理解する.				実験ならびにレポートにより確認する.
5	【B1】卒業研究について中間報告をまとめることができ,口頭発表し,質問に対し適切に回答できる.				報告書と発表,質疑応答それぞれ10点満点で評価する.合計12点以上で合格とする.
6	【B2】発表などでの確かな質疑応答ができる.				発表での確かな質疑応答ができることを教員が分担して確認する.
7	【C1】各種制御機器,計測機器の特徴を理解し,取り扱うことができる.また,座学で学んだ理論と実験結果の違いの要因が何であるか説明できる.				実験時に10点満点で評価する.6点以上で合格とする.
8	【C4】研究テーマの背景と目標を的確に把握し十分な準備活動を行い,指導教官と連携しながら自主的に研究を遂行できる.				研究への取り組み,達成度ならびに報告書で評価する.
9	【C4】計画を立て,グループで効率の良い実験を行い,期日内に報告書を提出できる.報告書には,目的,原理,実験方法,使用器具,実験結果を正確に記述し,適切な考察ができる.				実験中の作業を30点満点で,レポートを40点満点で評価する.期日内に報告書を提出できたかを評価する.すべてのレポートの期日内提出と実験,レポートの総合評価で70満点の42点以上の評価で合格とする.
10	【D1】担当の卒業研究テーマの社会的意義をよく理解する.				ポスター発表ならびに報告書の研究目的,背景で評価する.
総合評価		成績は,レポート40% 実験への取り組み40% 卒研(後期)20% として評価する.レポートの提出期限は,実験終了後1週間以内とする.各到達目標の評価基準の合計値を総合評価とする.未提出レポートがあれば,評価は最大29点となる.すべての基準を満たした場合合格となる.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト					
参考書					
関連科目		制御工学,電子回路,数値解析,電子工学,電気機器,計算機工学,応用数学			
履修上の注意事項		関連科目の講義を学習しておくこと.			

授業計画(電気工学実験実習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	前期実験テーマの説明1	前期に行われる各テーマの解説を行う。また、レポート作成に必要な知識(図表の書き方, 使用器具, 参考文献, 考察等)を説明する。
2	前期実験テーマの説明2	1回目と同様。
3	数値解析の演習1	掃きだし法, ニュートン法, 台形法の演習を行う。
4	数値解析の演習2	第3回の結果の確認とオイラー法, 修正オイラー法の演習を行う。
5	演算増幅器の実験(1)	演算増幅器を用いた反転増幅器, 非反転増幅器, 加算器などの動作を確認する。
6	演算増幅器の実験(1)	演算増幅器を用いた絶対値回路, 三角波・矩形波発振器, 各種フィルタなどの動作を確認する。
7	シーケンス制御の実験1	シーケンスの基本的操作法, 基本命令を理解し, 基本問題のプログラミングと確認を行う。
8	シーケンス制御の実験2	シーケンスの応用命令の理解とともに, 応用問題のプログラミングと確認を行う。
9	誘導電動機の実験	簡易等価回路の定数を測定し円線図より求めた特性と実負荷試験による特性とを比較する。
10	単相変圧器の実験	巻線抵抗測定, 短絡試験等により規約効率, %Zなどを求め, 実負荷試験による特性とを比較する。
11	マイコンの実験1	マイクロコンピュータ実験装置でIO装置のスイッチやLEDを使ってステッピングモータを制御する実験。この実験を通してアセンブラ言語によるサブプログラム, 割り込みプログラムを学ぶ。MPUの働き, IO装置の使い方, ステッピングモータの特性を学ぶ。
12	マイコンの実験2	第11回の続きを行う。
13	工場見学等	工場見学を行う。
14	前期レポートの返却, 手直し	前期のレポートを返却し, 修正を行う。
15	前期レポートの返却, 手直し	第14回と同様。
16	卒業研究の見学	希望する研究室を見学する。
17	卒業研究の見学	希望する研究室を見学する。
18	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	5年生の中間発表を聴講し, 配属を最終決定する。
19	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
20	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
21	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
22	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
23	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
24	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
25	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
26	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
27	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組む。
28	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)の報告の準備	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組んだ結果を発表用にまとめる。
29	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)の報告	各研究室で卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)に取り組んだ中間結果を発表する。
30	卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)まとめ	質疑を踏まえ, 後期で行った卒業研究(エンジニアリングデザイン演習)をレポートにまとめる。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科 目	放電現象 (Phenomena of Electric Discharge)			
担当教員	赤松 浩 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・後期・選択・2単位 (学修単位II)			
学習・教育目標	A4-E1(100%)			
授業の概要と方針	気体中における荷電粒子の運動を解説し,気体,液体,固体および複合絶縁体における絶縁破壊現象の基礎を講義する。			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E1】気体の状態方程式を説明できる。			気体の状態方程式を利用し,圧力,温度,密度,速度などを計算できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-E1】気体中における荷電粒子の運動を説明できる。			気体中における荷電粒子(正イオン,電子)の運動として,平均自由行程や衝突頻度などを計算できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
3	【A4-E1】気体の電離における原子分子過程を説明できる。			気体中における励起,電離,再結合,付着,移動度を説明できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
4	【A4-E1】気体の絶縁破壊におけるタウンゼント放電を説明できる。			気体の絶縁破壊を説明する α 作用および γ 作用を数式を用いて説明できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
5	【A4-E1】ストリーマ放電,リーダ放電,雷害対策について説明できる。			ストリーマ放電,リーダ放電,雷害対策について説明できるかを後期中間試験およびレポートで評価する。
6	【A4-E1】液体の絶縁破壊現象を説明できる。			液体の絶縁破壊現象における気泡および不純物の影響とその対策について説明できるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
7	【A4-E1】固体の絶縁破壊現象を説明できる。			固体の絶縁破壊現象における破壊過程について説明できるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
8	【A4-E1】複合系の絶縁破壊を説明できる。			複数の誘電体が存在する複合誘電体における絶縁破壊として,沿面放電および劣化現象が説明できるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
9	【A4-E1】プラズマの基礎を説明できる。			プラズマのデバイ長,プラズマ振動を数式で表すことができるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
10	【A4-E1】放電プラズマの生成方法を説明できる。			低気圧および高気圧放電プラズマの生成方法が説明できるかを後期定期試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.総合評価を100点満点として,60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	E3:電気磁気学I,E3:電子工学			
履修上の注意事項				

授業計画(放電現象)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	気体の性質	気体の性質として,気体の状態方程式,気体分子の熱運動,衝突断面積,および平均自由行程について説明できるようになる。
2	荷電粒子の振舞いⅠ	荷電粒子の振るいとして,励起および電離について説明できるようになる。
3	荷電粒子の振舞いⅡ	荷電粒子の振るいとして,再結合,付着,移動度,および拡散について説明できるようになる。
4	気体の絶縁破壊Ⅰ	初期電子の発生からタウンゼント放電までの現象を数式を用いて説明できるようになる。
5	気体の絶縁破壊Ⅱ	パッシェンの法則を導出でき,各種気体に対する火花電圧の違いについて説明できる。
6	気体の絶縁破壊Ⅲ	ストリーマ放電およびリーダ放電を説明できるようになる。
7	気体の絶縁破壊Ⅳ	雷害対策について説明できるようになる。
8	中間試験	授業計画1～7までの範囲の試験を行う
9	試験返却	試験の解答を行う。
10	液体の絶縁破壊	液体の絶縁破壊について説明でき,絶縁破壊に対する気泡および不純物の影響について説明できるようになる。
11	固体の絶縁破壊	固体絶縁物中の電気伝導が説明でき,絶縁破壊における過程を説明できるようになる。
12	複合系の絶縁破壊	複合誘電体における絶縁破壊として,沿面放電および劣化現象について説明できるようになること。
13	プラズマの性質と生成Ⅰ	プラズマとは何かを説明でき,プラズマの温度と密度,デバイ長,およびプラズマ振動について説明できるようになる。
14	プラズマの性質と生成Ⅱ	プラズマの状態と特徴として,ミクロ的な取扱いおよびマクロ的な取扱いについて説明できるようになる。
15	放電プラズマの生成	低気圧気体中での放電プラズマの生成および高気圧気体中における放電プラズマの生成方法を説明できるようになる。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	電気法規及び電気施設管理 (Laws and Regulations on Electricity and Facilities Management)				
担当教員	森田 二郎 教授				
対象学年等	電気工学科・4年・前期・選択・2単位 (学修単位II)				
学習・教育目標	A4-E4(100%)				
授業の概要と方針	電気事業法をはじめとする電気関係法規の体系及び電気施設の運用管理の概要について学習する。次に、電力を供給する電気事業者への事業規制と保安規制,電気工作物の種類とその保安規制,又,電気に起因する感電,漏電火災,電気工作物の損壊損傷,熱的損傷などの防止と安全確保のために必要な法令並びに電気設備技術基準について学習する。電気施設管理に関する基礎の計算法について学習する。				
	到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】電気事業法をはじめとする電気関係法規の体系(法律,政令,省令,告示など)の概要について理解できる。			電気関係法規(法律,政令,省令)の体系の概要,電気事業規制,保安規制の必要性などについて小テスト及び中間試験で評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。	
2	【A4-E4】電力自由化による電気事業の種類と電気供給内容について理解できる。			電気事業の定義,目的,種類,許認可,届出,特質などの概要及び電力自由化による各電気事業者の電力供給システムについて小テスト及び中間試験で評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。	
3	【A4-E4】電気事業の規制内容(許認可・届出・官庁手続き・電気供給約款など)の概要が理解できる。			各電気事業者の許認可・届出の内容,電気供給約款,各電気事業者の供給規制内容及び一般電気事業者と他の電気事業者間の各種供給約款などについて小テスト及び中間試験で評価する。基本問題80%正解を合格とする。	
4	【A4-E4】電気工作物の定義 及び 分類について理解できる。			電気工作物の定義及び事業用電気工作物と一般用電気工作物の内容について小テスト及び中間試験で評価する。復習を兼ねた小課題を課して課題の完成度で評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。	
5	【A4-E4】事業用電気工作物の保安体系(自主保安管理,国の直接関与する内容),保安規定の内容,電気主任技術者の選任義務,免状と監督できる範囲などについて理解できる。			事業用電気工作物について,自主保安体制と国の直接関与する内容及び保安規定の内容,主任技術者の選任義務,電気主任技術者の免状と監督できる範囲について小テスト及び中間試験で評価する。80%正解を合格とする。	
6	【A4-E4】一般用電気工作物の保安規制と事業用電気工作物の保安規制の相違について理解できる。			一般用電気工作物の保安体制の内容について小テスト及び定期試験で評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。	
7	【A4-E4】電気用品安全法,電気工事士法及び電気工事業法の概要について理解できる。			電気用品安全法,電気工事士法及び電気工事業法の目的と定義について小テスト及び定期試験で評価する。基本問題の80%の正解を合格の目安とする。	
8	【A4-E4】電気施設管理の概要と,基礎としての負荷曲線,負荷率,需要率,不等率,力率改善用コンデンサ容量の計算法が理解できる。			電気施設管理の概要と電気施設管理に関する基礎として,負荷曲線,負荷率,需要率,不等率,力率改善用コンデンサ容量設計の計算法について小課題,小テスト,定期試験で評価する。基本問題の80%を合格の目安とする。	
9	【A4-E4】全ての電気工作物の計画・工事・保安・維持・管理するためには,電気設備技術基準の適合が最重要であることが理解できる。			電気設備技術基準の全体像,用語の定義,電圧の種類,感電事故,漏電火災,電気工作物の損壊,熱的損傷などを起こす恐れのある条項の内容について小テスト及び定期試験で評価する。基本問題80%正解を合格とする。	
10	【】				
総合評価	到達目標1～9の試験85%,復習を兼ねた課題レポート5%と小テスト10%で総合評価する。中間試験,定期試験は100点満点で実施し,その平均点を試験成績とする。電験3種法規に合格したものは,中間・定期試験のいずれかの試験成績を最低80点とする。				
テキスト					
参考書					
関連科目	送配電工学,発変電工学,高電圧工学,電気機器I,II				
履修上の注意事項	法規は送配電工学,発変電工学,高電圧工学,電気機器などで学ぶ電気工作物の取り扱い,設置の規格・基準などを定めたものである。履修される学生は,それら電気工作物の知識,及び電気工事の計画,設計,設置施行,検査,維持管理など,広範多岐に亘る知識が必要となることを認識しておく事。				

授業計画(電気法規及び電気施設管理)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電気施設管理および電気関係法規の概要	電気関係法令(法律,政令,省令,通達等)の体系の概要と,法律(事業規制と保安規制)の必要性など,電気事業法による基礎的な事業規制,保安規制について解説する。また,電気施設管理の概要並びに管理に関する基礎的な計算法(負荷曲線,負荷率,需要率,不等率)について解説する。
2	電気事業の概要(定義・種類)と電力供給	1回目の内容に関しての小テスト,電気事業の種類と電気供給条件(許認可,届出,電気供給約款など)の概要及び各電気事業者の電力供給システムについて解説する。その他,電気の自己託送サービスを含めた電力販売(電力自由化)の電気の流れについて解説する。
3	電気事業法の目的,電気工作物の種類	2回目の内容に関しての小テスト,電気事業法の目的 及び 電気工作物の定義と種類(事業用電気工作物と一般用電気工作物)について解説する。特に,一般用電気工作物の小出力発電設備の内容について解説する。
4	電気事業規制(許認可・届出など)	3回目の内容に関しての小テスト,電気事業法に基づく,電気事業の事業規制,(許認可・届出申請手続,許可基準内容,電気事業の開始の届出など)について解説する。又,特定電気事業と特定供給の相違などについて解説する。
5	電気事業規制(各種電気供給約款)	4回目の内容に関しての小テスト,一般電気事業者の電気供給約款,一般電気事業者と他の電気事業者(卸,特定及び特定規模電気事業者)間の契約に関する約款の内容について解説する。高圧契約料金の力率割引・割増料金制度に関する解説と,力率改善用コンデンサの設計法について解説する。
6	電気事業規制(広域運営・電気使用制限など)	5回目の内容に関しての小テスト,電気事業者間の広域的運営における電気事業者相互の協調,電気事業者の供給計画(需給計画) 及び 電気の需給調整のための電気の使用制限等規則などについて解説する。又,計量法,電源三法の概要について解説する。
7	事業用電気工作物の保安規制(主任技術者の任務・保安規定作成,届出など)	6回目の内容に関しての小テスト,一般用電気工作物の保安規制の概要,事業用電気工作物の設置者に対する保安上の義務・規制(技術基準の維持義務,保安規定の作成・遵守義務,主任技術者の選任義務による自主保安規制),電気主任技術者の免状と監督できる範囲などについて解説する。
8	中間試験あるいは事業用電気工作物の保安規制	1回目から7回目の内容について試験を実施する。あるいは,事業用電気工作物の使用前検査と使用前自主検査,工事計画の認可,事前届出,認可基準と届出の審査基準などについて解説する。
9	中間試験解答および事業用電気工作物の保安規制	8回目の内容に関して小テスト,事業用電気工作物の使用前検査と使用前自主検査,工事計画の認可,事前届出,認可基準と届出の審査基準などについて解説する。また,需要設備を新設する場合の電気事業法に基づく諸手続について具体的に解説する。
10	事業用電気工作物の保安規制(電気事故報告,その他の報告)	9回目の内容に関しての小テスト,電気事故報告の必要性,報告が義務付けられている電気事故の内容(感電死傷事故,火災事故,感電以外の死傷事故,電気工作物の損壊など)と,発生した場合の具体的な報告方法について解説する。
11	一般用電気工作物の保安規制および電気用品安全法	10回目の内容に関しての小テスト,一般用電気工作物の保安規制(電気供給者による補完措置と電気用品安全法,電気工事士法,電気工事業法の3つの法律による規制)方法と,電気用品安全法の定義,目的 及び同法と一般用電気工作物の保安規制との関連について解説する。
12	電気工作物の保安規制(電気工事士法及び電気工事業法の規制)	11回目の内容に関しての小テスト,電気工事士法及び電気工事業法の定義,目的について解説する。また,電気工事士の免状の資格と電気工作物の関係,電気工事業者の種類と定義,届出先,義務及び業務規制内容などについて解説する。
13	電気設備技術基準及び同解釈(その1)	12回目の内容に関しての小テスト,電気工作物を維持するための,電気事業法と技術基準,電気工事士法と技術基準との関連(技術基準に適合した計画,工事,維持などを行うこと)について解説する。特に,電気設備技術基準による障害を防止するための条項について重点的に解説する。
14	電気設備技術基準及び同解釈(その2)	13回目の内容に関しての小テスト,用語の定義,絶縁耐力試験に使用する電圧に関する用語,電圧の種別,電線の接続方法,低圧電路の絶縁抵抗値・絶縁性能,高圧及び特別高圧の絶縁耐力試験,接地工事の目的とを理解し,接地抵抗値の算定法などについて解説する。
15	電気設備技術基準及び同解釈(その3)	14回目の内容に関しての小テスト,接地工事を実施した低圧機器の漏電時における対地電圧の算定法(D種接地抵抗値とB種接地抵抗値との協調),低圧電路中の過電流遮断装置の保護協調,常時監視をしない発電所(又は変電所)の施設,避雷器の施設の関連条項について解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	学外実習 (Practical Training in Factory)			
担当教員	赤松 浩 准教授			
対象学年等	電気工学科・4年・通年・選択・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	C2(50%), D1(50%)			
授業の概要と方針	夏季休業中等の5日間ないしは10日間程度の間に,企業または大学研究室,その他の受け入れ機関で業務の一部を実際に体験する.			
	到達目標	達成度		到達目標別の評価方法と基準
1	【C2】実習機関の業務内容を理解し,実習先での具体的な到達目標を達成する.			実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習報告書で評価する.
2	【D1】実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める.			実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告会で評価する.
3	【 】			
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,実習報告書50% 実習報告会での発表50% として評価する.100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	なし			
履修上の注意事項	実習機関に受け入れを依頼して実施する科目なので,受け入れ先に失礼のないように節度を持って行動するとともに,健康管理,安全管理に留意して真剣に取り組むこと.			

授業計画(学外実習)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

下記の流れを留意の上で取り組むこと。

1) インターンシップ(学外実習)説明会(4月)

・担当教員よりインターンシップの意義, 目的, 内容および実習先の希望方法, 学内調整要領, その後の手続きの概要の説明を行う。

2) 実習先の希望, 調整, 辞退に関して(4月～7月)

・実習先企業は, 自ら業界研究を行った上で希望する進路(キャリアプラン)も踏まえた上で有意義な実習となるように希望すること。

・希望者数が募集数を超えた実習先については調整を行う。(調整は担当教員に従う。)

・学内調整で希望が認められた学生は, 直ちに実習先所定の応募書類を作成して提出する

・学内調整で希望が認められなかった学生, および実習先での選考により実習が認められなかった学生は, 他の実習先の中から再度希望を提出する。

(原則として, 受入先がなくなるまで希望することとするが, 止むを得ない状況となった場合には本校所定の「選択科目受講辞退願書」で辞退を願い出る)

3) 学外実習届, 保険料, その他の必要書類(5月～7月)

・実習先が決定した後, 本校所定の「学外実習届」を担当教員へ提出し, 所定の保険料を納付する。

・併せて実習先からの指示により, 履歴書, 誓約書, 入寮申請書, ユニフォーム貸与申請書等の他の必要書類がある場合も, 担当教員に提出する。

4) 学外実習の実施(8月～9月)

・実習期間は原則として夏季休業期間中とする。ただし, 必要に応じて9月末までは公欠として参加を認めることがある。

・実習期間は5日以上で総実習時間30時間以上とする。

5) 学外実習報告書の提出および報告会の実施(10月)

・インターンシップ終了後, 本校所定の「学外実習報告書」を丁寧に作成し, 十分なチェックの後に担当教員に提出する。また, 学科毎に報告会を実施する。

・「学外実習報告書」は担当教員から実習先へ提出し, 学科の全教職員が評価するだけでなく, 後輩学生が参考のために閲覧するので, 丁寧な記載を心がけるとともに, 守秘すべき事柄を書くことの無いように留意すること。(守秘事項の遵守は報告会も同様である)

備考

中間試験および定期試験は実施しない。

科 目	電子回路II (Electronic Circuit II)			
担当教員	佐藤 徹哉 教授			
対象学年等	電気工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E1(100%)			
授業の概要と方針	デジタル電子回路の基礎を取り扱う。まず、各種類のデジタル回路の基礎知識を講義した後、加算回路・減算回路などの演算回路について学習する。次に各種のフリップフロップの理解を深める。また、カウンタを習熟したのち、方形波を用いたパルス回路とアナログーデジタル変換、デジタルーアナログ変換について学習する。英文プリントを参照しながらノート講義形式で授業を行う。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E1】各種類のデジタル回路の基礎を習熟後、加算回路・減算回路などの算術演算回路が説明できる。			加算回路、減算回路、RS-FF, JK-FF, D-FFなどが理解できているかを前期中間試験で評価する。
2	【A4-E1】それぞれ2つの入出力を持つフリップフロップ(RS-FF, JK-FF, D-FF, T-FF)が説明できる。また、図記号から特性表、特性方程式を求めることが出来る。			T-FF, アップ(ダウン)カウンタ、非同期式n進カウンタ、同期式と非同期式カウンタとの違いが理解できているかを前期定期試験で評価する。
3	【A4-E1】非同期式2n進カウンタやn進カウンタ等の非同期式カウンタが説明できる。また同期式カウンタとの違いが説明できる。			リングカウンタ、ジョンソンカウンタ、パルス回路が理解できているかどうかを後期中間試験で評価する。
4	【A4-E1】短時間で急激な変化をする信号を扱うパルス回路と、アナログーデジタル変換(A-Dコンバータ)、デジタルーアナログ変換(D-Aコンバータ)が説明できる。			アナログーデジタル変換、設計演習について理解できているかを後期定期試験で評価する。
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% 自己学習評価15% として評価する。			
テキスト				
参考書				
関連科目	デジタル電子回路, 計算機工学, 電子回路I			
履修上の注意事項	オリジナルテキストとして、A4縦の英文プリントを配布するので、全ての英文は授業前に読んで理解しておくこと。授業はそれらを参照しながらノート講義形式で行うので、A4綴りノート(ルーズリーフ不可)に講義内容を記録すること。演習問題も同ノートに解答すること。別途指示するレポートと合わせて自己学習評価点として評価する。			

授業計画(電子回路II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	加算回路I	半加算器は、2個の1ビットデータを加算する装置である。全加算器は、上位ビットへの桁上がり情報と、下位ビットからもたらされる桁上がり情報を受け取り加算する機能をもつ装置であることを学習する。
2	加算回路II	ノイマンの全加算器:実用されている全加算器を紹介する。並列加算器・直列加算器は、複数ビットどうしの加算を行う方法であることを学習する。
3	減算回路	半減算器は、2個の1ビットデータの減算をする装置である。全減算器は、上位ビットへ借り情報と、下位ビットからもたらされる借り情報を受け取り減算する機能をもつ装置である。加減算回路:加算器を使用して減算を行うことを学習する。
4	フリップフロップの基礎	フリップフロップ(FF)の基本的な説明、RS-FFの特性方程式を理解する。RS-FFの動作確認をする。RS-FFの応用例を示す。これらを学習する。
5	RS-FF	クロック入力端子を持つ型とそのタイミングを学習する。
6	JK-FF	JK-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
7	D-FF	D-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
8	中間試験	前期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
9	中間試験の復習	中間試験の解答および復習を行う。
10	T-FF	T-FFの特性表、特性方程式とその回路を学習する。
11	カウンタI	非同期式2 ⁿ 進カウンタを学習する。
12	カウンタII	カウントを増加していくアップカウンタと、カウントを減少していくダウンカウンタを学習する。
13	カウンタIII	非同期式n進カウンタを学習する。
14	カウンタIV	カウンタの誤動作の例(リセットのタイミング、ハザード、クリティカルレース)を3つ学習する。
15	カウンタV	カスケード接続したすべてのFFが一斉に動作する同期式カウンタを学び、非同期式カウンタとの違いを理解する。
16	定期試験の解答とカウンタVI	リングカウンタの構成例、特性表、タイムチャートを理解する。
17	カウンタVII	ジョンソンカウンタの構成例、特性表、タイムチャートを理解する。
18	パルス回路の基礎	パルス応答の基礎(微分応答・積分応答)を学ぶ。
19	種々のパルス回路1	非安定マルチバイブレータ学ぶ。
20	種々のパルス回路2	トランジスタを用いた単安定マルチバイブレータを学ぶ。
21	種々のパルス回路3	ゲートICを用いた単安定マルチバイブレータを学ぶ。
22	波形整形回路	入力波形を整形する波形整形回路を学ぶ。ヒステリシス特性を持ったシュミットトリガ回路について学ぶ。
23	中間試験	後期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
24	中間試験の復習	中間試験の解答と復習を行う。
25	アナログ-デジタル変換	アナログ-デジタル変換の基礎学ぶ。
26	D-AコンバータI	電流加算方式D-Aコンバータの基礎学ぶ。
27	D-AコンバータII	はしご型D-Aコンバータの基礎学ぶ。
28	A-DコンバータI	2重積分方式A-Dコンバータの基礎学ぶ。
29	A-DコンバータII	逐次比較方式、並列比較方式A-Dコンバータの基礎を学ぶ。
30	設計演習	デジタル電子回路の知識を用いて、応用回路の設計演習を学習する。
備考	本科目の修得には、60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。原則として試験問題も英文で出題するが、専門用語、専門表現は必要に応じて英語だけでなく日本語での理解も問うことがある。	

科 目	電気材料 (Electric Materials)			
担当教員	松田 忠重 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E2(100%)			
授業の概要と方針	一般的な各種電気材料について学習する。さまざまな電気材料の特性について理解し、用途によって適した材料が用いられていることを学ぶ。さらに今後発展が期待される、磁性材料、超伝導材料、光ファイバー材料などの材料についても学習し、先端材料についても理解する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E2】 金属の導電現象,抵抗材料,元素半導体と化合物半導体,誘電体および絶縁体の電氣的性質,強誘電体材料などの基礎について理解している。			金属の導電現象,抵抗材料,元素半導体と化合物半導体,誘電体および絶縁体の電氣的性質,強誘電体材料などの基礎が理解できているかを評価する。
2	【A4-E2】 圧電体と焦電体,磁性材料の性質,超伝導材料の基本的性質などの基礎について理解している。			圧電体と焦電体,磁性材料の性質,超伝導材料の基本的性質などの基礎について理解できているかを評価する。
3	【A4-E2】レーザー材料,発光ダイオード材料,LED材料,EL材料,光導電材料などの基礎について理解している。			レーザー材料,発光ダイオード材料,LED材料,EL材料,光導電材料などの基礎について理解できているかを後期中間試験で評価する。
4	【A4-E2】 光ディスク材料,炭素材料の特徴,カーボンファイバー,単結晶,非晶質,多結晶,材料評価技術,電氣的特性評価などの基礎について理解している。			光ディスク材料,炭素材料の特徴,カーボンファイバー,単結晶,非晶質,多結晶,材料評価技術,電氣的特性評価などの基礎について理解できているかを後期定期試験で評価する。
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電子工学,半導体工学			
履修上の注意事項				

授業計画(電気材料)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	原子構造	ボーア原子や原子の殻構造を水素原子を例に学ぶ。
2	電子の波動性・原子の結合	光子と電子,イオン結合,共有結合の重要な特徴を学ぶ。
3	原子の結合	金属結合,ファンデアワールス結合,水素結合を学ぶ。
4	結晶	結晶構造がどのように規則正しく配置されているかを学習する。単結晶や多結晶として成長する結晶成長を学ぶ。
5	結晶	格子配列の乱れである格子欠陥,エネルギーバンドの基礎を学ぶ。
6	非結晶	非結晶が原子配列に規則性がなく,短距離秩序と言われていることを学習する。また液体固有のガラス転移点についてを学ぶ。
7	アモルファス	非結晶には格子が存在せず,格子欠陥も存在しないアモルファスの性質を学ぶ。
8	中間試験	前期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
9	中間試験の復習	中間試験の解答と復習を行う。金属の電気伝導について学ぶ。
10	導電現象	金属の電気伝導,電子の散乱と電気抵抗について学ぶ。金属の熱伝導について学ぶ。
11	導電材料	導電材料概説,導電用金属材料を学ぶ。
12	導電材料	電線およびケーブル,電極材料を学ぶ。
13	導電材料／抵抗材料	接点材料,抵抗材料概説,金属抵抗材料を学ぶ。
14	抵抗材料	非金属抵抗材料を学ぶ。
15	発熱材料	発熱材料概説,金属・非金属発熱材料を学ぶ。
16	半導体材料の基礎	半導体材料の基本的性質を学ぶ。
17	半導体材料の基礎	半導体や化合物半導体材料の種類を学ぶ。
18	半導体物性の基礎	真性半導体の導電機構を学ぶ。
19	半導体物性の基礎	不純物半導体の導電機構,半導体の電気伝導を学ぶ。
20	PN接合の基本的性質	pn接合とエネルギー準位図を学ぶ。
21	PN接合の基本的性質	pn接合の動作原理,電気特性を学ぶ。
22	PN接合の機能とデバイス	pn接合の光学的特性,pn接合デバイスを学ぶ。
23	中間試験	後期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。
24	トランジスタ材料とデバイス	接合トランジスタについてを学ぶ。
25	トランジスタ材料とデバイス	接合型電界効果トランジスタを学ぶ。
26	トランジスタ材料とデバイス／光半導体材料	MOS-FET,発光デバイス材料を学ぶ。
27	光半導体材料	受光デバイス材料,太陽電池材料を学ぶ。
28	半導体抵抗材料／磁気抵抗効果と材料	サーミスタ,バリスタについてを学ぶ。
29	半導体の圧電材料と熱電材料／半導体材料の基礎製造プロセス	半導体の圧電材料と熱電材料を学ぶ。単結晶の成長と精製を学ぶ。
30	半導体材料の基礎製造プロセス	半導体デバイスの基礎技術等を学ぶ。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科 目	電気機器III (Electrical Machinery III)			
担当教員	加藤 真嗣 准教授			
対象学年等	電気工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E4(100%)			
授業の概要と方針	4年に引き続き、電気機器について講義する。本講義では、直流機と小形機について学ぶ。直流機については、主に直流発電機の特性について説明する。小形機については、身近な所に使われているモータ(サーボモータ、ユニバーサルモータ、ステッピングモータ、ブラシレスDCモータ、サーボモータ、永久磁石同期モータ)などの構造、駆動原理、特性などについて説明する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】直流機の動作原理を理解し説明できる。また、励磁方式による特性の違いを説明できる。			フレミングの左手の法則および右手の法則を使って、直流電動機と直流発電機の動作原理を説明できるか、また励磁方式による特性の違いを区別できるか、レポートおよび前期中間試験で60%以上正解を合格として評価する。
2	【A4-E4】各種小形モータの特徴、動作原理、駆動方法などを理解した上で、用途に合わせて適切なモータを選定できる。			各種小形モータの特徴、動作原理、駆動方法などを理解しているか、レポートおよび前期定期試験で60%以上正解を合格として評価する。
3	【A4-E4】電気機器I,II,IIIを通して、第三種電気主任技術者の機械に関する問題を解ける。			これまで学んできた知識を用いて、第三種電気主任技術者の機械に関する問題が解ける力が身に付いているか、レポートおよび前期定期試験で60%以上正解を合格として評価する。
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気機器I(4年), 電気機器II(4年), 電気磁気学I(3年), 電気磁気学II(4年), 電気回路I(2年), 電気回路II(3年), 電気回路III(4年)			
履修上の注意事項	電気機器は電磁気学のうちの磁気分野と電気回路に特に関連が深いので、よく理解しておくこと。4年で学んだ電気機器Iおよび電気機器IIについて、よく復習しておくこと。			

授業計画(電気機器Ⅲ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	直流機の回路定数	直流機の回路定数の測定法について説明する。
2	直流発電機の特徴	直流発電機の無負荷特性と外部特性について説明する。
3	演習	直流機の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
4	小形DCモータ	身の回りの多くの製品に用いられている小形DCモータの種類と特性について説明する。
5	小形ACモータ(1)	小形誘導モータについて説明する。
6	小形ACモータ(2)	小形同期モータについて説明する。
7	ユニバーサルモータと小形モータの制御	ユニバーサルモータと小形モータにおける位置・速度・トルクの制御法について説明する。
8	中間試験	中間試験を実施する。
9	ステッピングモータ(1)	中間試験の答案返却後,ステッピングモータの構造と原理について説明する。
10	ステッピングモータ(2)	ステッピングモータの励磁方式のよる位置決め制御について説明する。
11	ブラシレスDCモータ	DCモータからブラシと整流子を取り除いたブラシレスDCモータの構造と磁極位置検出方式について説明する。
12	サーボモータと小形発電機	DC・ACサーボモータの制御法と小形発電機の構造と原理について説明する。
13	演習	小形機の問題を演習することにより,さらに理解を深める。
14	総合演習(1)	電気機器I,II,IIIで学習したことを総復習するために第三種電気主任技術者の機械の問題を演習する。
15	総合演習(2)	電気機器I,II,IIIで学習したことを総復習するために第三種電気主任技術者の機械の問題を演習する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 15 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。直流機については,4年次に学んだ範囲も試験範囲となるので,注意すること。	

科 目	電力量工学II (Electric Power Engineering II)			
担当教員	(前期) 田所 通博 非常勤講師、(後期) 津吉 彰 教授			
対象学年等	電力量工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)			
学習・教育目標	A4-E4(100%)			
授業の概要と方針	本科目は電力量工学Iの内容をさらに高度に学ばせる。発電、変電、送電、配電という電力量工学の各要素を学ぶことにより電力の供給に必要な基本的な技術を理論的、体系的に習得させる。電力を利用する産業、市民活動が地球に与える影響を知り、エネルギーの効率的な利用を目指す技術者教育の柱として、単に理論にとらわれず電力利用の動向についても自ら学ばせる。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】送電システムを理解し、第2種電気技術者試験相当の問題を解けるようにする。			送電システムを理解していることを試験ならびにレポート、小テストで評価する。総合で60%以上の達成度を合格とする。
2	【A4-E4】配電システムを理解し、第2種電気技術者試験相当の問題を解けるようにする。			配電システムを理解していることを試験ならびにレポート、小テストで評価する。総合で60%以上の達成度を合格とする。
3	【A4-E4】電気事業における発電の原理を理解し、第2種電気技術者試験相当の問題を解けるようにする。			電気事業における発電の原理を理解していることを試験ならびにレポート、小テストで評価する。総合で60%以上の達成度を合格とする。
4	【A4-E4】変電システムを理解し、第2種電気技術者試験相当の問題を解けるようにする。			変電システムを理解していることを試験ならびにレポート、小テストで評価する。総合で60%以上の達成度を合格とする。
5	【A4-E4】電力の利用が地球環境に与える影響を理解し、説明することができる。			電力の利用が地球環境に与える影響、エネルギーの有効利用について理論的に説明できる事をレポートで評価する。
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験80% レポート10% 小テスト10% として評価する。総合評価で100点満点で60点以上を合格とする。ただし、各試験の成績によらず、後期定期試験で60%以上の評価により合格とする場合がある。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電力量工学I			
履修上の注意事項	前期は非常勤講師による授業を実施する。本科目に限らず5年生の空きコマには補講が実施される場合があるので注意されたい。			

授業計画(電力工学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	電力輸送する送電・変電・配電設備(1,7章)	発電所から電力を消費地点迄輸送する送電・変電・配電及び需要家屋内設備を説明し,機能と及び具備性能と高電圧化して来た送電・配電電圧の歴史的経過と考え方,及び系統構成や電気方式を理解する。
2	交流回路と電力計算に必要な電圧降下や電力輸送可能電力計算(7章)	電力計算に必要な電圧・電流・インピーダンスを複素数で表示してフェーザ図による電圧降下,フェランチ現象や電力相差角曲線を理解する。対称三相回路のベクトルオペレーターや相電圧と線間電圧,Y/Δ結線など電気計算に必要な電気数学を適宜復習しマスターする。
3	架空送電設備の構成機材,四端子回路解析や弛度計算(8章)	特別高圧電圧の架空送電設備を構成する部材と機能を説明し,具備性能を理解する。送電線の電気定数は分布定数であり,四端子回路の理解と計算解析手法の習得する。また,弛度計算式を誘導してカタナリー曲線,及び電線振動現象を理解する。
4	電力ケーブルの種類別構造や施設方法と電気定数(10章)	過密地域での特別高圧電力ケーブルによる系統構成と適応する種類別の構造や施設方法,並びにジョイント工法や冷却方式を概説して電力ケーブルを理解する。また,ケーブル特有の誘電体損等の電気定数を理解する。
5	変電所の構成と主要機器,変圧器の結線方式・中性点接地方式(11章)	変電所に施設される主要機器とその役割と具備すべき性能要件を説明する。変圧器の結線方式と中性点接地方式の特質,及び単位法による基本式を理解する。電力潮流制御に必要なタップ電圧,調相設備の絶縁方式,避雷機器等性能要件を理解する。
6	変電所の変圧器構成と母線方式(11章)	変電所の機器構成を学ばせ,中性線接地方式や変電所の各機器の役割を理解する。
7	変電所や送電線の異常電圧を概説(9章)	電力機器に発生する異常電圧の種類と規模を概説して,架空送電系統・ケーブル系統・変電所の異常電圧対策を理解する。避けられない異常電圧に対する絶縁協調の考え方を理解し,ギャップレスアレスターの適応実態を習得する。
8	保護継電器(12章)	送変配電設備は過酷な自然環境下に施設され,故障発生に対して早期遮断による事故波及抑制,設備・機器保護及び健全設備からの迅速復電するため,事業者要求性能に対応した保護制御システムを開発し施設している。その種類や機能・特性を理解する。
9	中間試験	8回までの内容に基づき中間試験を実施する。
10	故障計算と対象座標法 1. 設備故障の実態,対称座標法導入(13章)	電力設備に発生する故障の形態と規模を説明し,三相交流回路では事故相以外の健全相にも影響が波及することを故障計算に利用される対象座標法を用いて理解する。1.では対象座標法による発電機の基本式や等価回路を作図して故障計算手法をマスターする。
11	故障計算と対象座標法 2. 実際の故障計算,対称座標法応用(13章)	2.では,1.で学習した対象座標法を用いて,一線地絡故障や二線地絡故障時の地絡電流や健全相電圧を演算実践して理解する。特に,演習問題を活用して理解深化に資する。
12	高圧配電設備の系統構成,機材(14章)	我が国の太宗の高圧配電電圧は6kVであり被覆高圧電線を適用している等,独自の技術開発による設備機材を適応している。その系統構成や機材を説明し,接地方式と密接に関連する保護方式との関連も併せてを理解する。
13	低圧配電設備の系統構成,機材。(14章)	我が国低圧電圧は100/200vであり変圧することなく負荷機器に直接接続供給される。低圧系統単相100v/3相200vを効率的に設備構成する3相4線式が一般的であり,これらの低圧配電設備や結線方式を説明して,保護方式との関連も併せて理解する。
14	需要家受電設備や屋内配線	我が国は,需要家電気設備規模の通増に対応して系統電力からの受電電圧は高電圧化する仕組みである。特別高圧・高圧受電設備例を基に需要家屋内設備の構成やその保安装置等を説明し屋内電力設備と併せて保安確保を図る設備面・態勢面の対策を理解する。
15	送変配電に関する総括,今後の電力発生と輸送の課題(15章)	太陽光等再エネの普及は電力自由化とも相まって電力潮流を双方向化し,機器短絡強度不足問題を惹起する等の課題があるが,スマートメーター適用は新たなロードマネジメントを誘引してビジネスを創起する。電力系統の将来課題を展望し対策の考え方を考察する。
16	発電総論,エネルギー変換論,我が国の電気事業概説(1章)	エネルギー変換としての発電工学の位置づけを説明し,我が国の電気事業の歴史および現状を述べる。電気エネルギーが低炭素化社会実現に配慮されていることを学ぶ。KEMSに関して説明する。
17	水力発電の基礎(5章)	水の位置エネルギーから落差,流量の定義および理論出力を導く,またベルヌーイの定理および連続の式より水力学の基本公式を説明する。落差の取り方による各種水力発電方式を紹介し,ダム,導水路等の水力発電所の土木設備と門扉等その付随設備を解説する。
18	各種水車の構造と特徴。水車発電機,水力発電所の諸設備(5章)	水力発電で使用される水車の構造と特徴および付帯設備,発電機の特徴を説明し,その他発電所に設置される設備を紹介する。
19	水力発電所の管理,揚水発電,水力問題演習(5章)	水力発電所の運転制御法を解説する。揚水発電の方式,潮力発電を説明し,水力発電全般の演習後,小テストを実施する。
20	火力発電の基礎理論,熱力学,各種燃料の特徴,ボイラおよび蒸気タービン(3章)	熱力学とランキンサイクルを説明し,火力発電におけるエネルギー変換,エネルギーの流れを解説する。火力発電で使用される固体,液体,気体燃料の特徴と燃焼方法,ボイラ内に設置される熱吸収機器の配置を説明する。次に,各種蒸気タービンの構造と動作原理を解説する。
21	給水ポンプ,復水器その他の設備,タービン発電機の特徴と制御(3章)	給水ポンプ,復水器,再熱器,給水加熱器,所内電力設備等の構造と特性,タービン発電機の特徴および並列運転条件を解説する。
22	火力発電所の排煙処理設備およびその他の公害防止機器 火力発電所の管理と運用(3章)	電気集塵装置,排煙脱硫脱硝装置の構造と動作原理および温排水の影響を述べる。熱効率その他効率の定義および計算,最近の火力発電所運転制御を紹介する。
23	後期中間試験	後期中間試験を実施する。
24	後期中間試験の解説,ガスタービン発電,内燃力発電,火力発電問題演習	後期中間試験を解説する。各種ガスタービンの構造と特徴,ディーゼルおよびガソリン内燃力発電の特徴を述べる。
25	原子力発電の基礎理論,原子核物理,核分裂連鎖反応と中性子束分布,減速材,吸収材(4章)	原子核分裂による質量欠損と結合エネルギーの放出について説明する。熱中性子によるウラン235の分裂と高速中性子減速材,吸収材による制御について説明し,臨界状態の核分裂連鎖反応を維持する条件を示す。
26	各種原子炉と原子力発電所の構成,原子炉の制御理論(4章)	加圧水型および沸騰水型軽水炉の構造を説明する。また,ガス冷却炉,高速増殖炉の構造と特徴を紹介する。軽水炉について,加圧水型および沸騰水型の相違点を中心にその制御方法,自己制御性を説明する。
27	核燃料サイクル,原子力発電の今後	核燃料サイクルや将来的な原子力発電の要となる核融合発電の原理などについて外部講師による授業を行う。
28	原子力発電問題演習,地熱発電	地熱エネルギーとその発電設備を説明し,世界およびわが国の地熱発電所を紹介する。また原子力発電に関する演習後,小テストを実施する。
29	新しい発電方式,直接発電,太陽エネルギー,MHD発電,燃料電池,その他の自然エネルギー(6章)	太陽光発電などの特性や普及状況,自然エネルギーを取り巻く状況について学ぶ。またMHD発電など新発電や,普及が始まっている燃料電池などについて学ぶ。
30	発送配電の復習	電力工学II全般について復習,演習する。
備考	本科目の修得には,60 時間の授業の受講と 30 時間の自己学習が必要である。 前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する。後期定期試験の評価が60%でそれまでの成績によらず合格とすることがある。	

科 目	パワーエレクトロニクス (Power Electronics)			
担当教員	茂木 進一 教授、道平 雅一 教授、南 政孝 准教授			
対象学年等	電気工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	A4-E4(100%)			
授業の概要と方針	最新の電力用半導体デバイスとそれを用いた電力変換装置の基本回路について講義する。各種電力変換装置の動作や応用例について理解を深めるとともに、パワーエレクトロニクス技術が身近な技術であるということを理解する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E4】各種パワーエレクトロニクス回路の動作原理とその特徴を理解するとともに、電力、平均電圧、周波数スペクトル等の諸量の算出ができ、定量的に評価できる。			整流回路、チョップパ回路に関する算出は、中間試験で評価する。インバータについて定期試験で評価する。
2	【A4-E4】パワーエレクトロニクス機器を利用する際のメリット、デメリットを把握するとともに、どのような対策等が必要か、どのような適用が最適か、などを説明できる。			電力用半導体デバイスについては中間試験で評価し、パワーエレクトロニクス機器については定期試験で評価する。
3	【A4-E4】課題、資料の整理ができ、自らその特徴などを見いだすことができる。			レポートにより評価する。具体的には、電力用半導体デバイスの特徴と適用範囲についてと単相、三相方形波インバータの出力電圧波形に含まれる高調波についてまとめる。
4	【 】			
5	【 】			
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は、試験85% レポート15% として評価する。中間、定期試験の2回の平均の85%(85点)とレポート15点の合計100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	制御工学,半導体工学,電力工学,電気回路I,II,III			
履修上の注意事項	4年までの電気回路,応用数学(フーリエ解析)など過去に修得した知識を必要とする箇所もあるため,それらの確認を各自で行なっていること。			

授業計画(パワーエレクトロニクス)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	パワーエレクトロニクスの概要	パワーエレクトロニクス技術の重要性と現状,課題について理解する。
2	電力用半導体デバイス	パワーエレクトロニクス機器に用いられている様々な電力用半導体デバイスについて説明する.また,その詳細はレポートとしてまとめる。
3	整流回路(1)	半波整流回路,全波整流回路の動作を説明し,平均出力電圧などの諸量の導出ができる。
4	整流回路(2)	制御つき整流回路について説明する.その特徴を理解し,平均出力電圧の制御特性などを理解できる。
5	整流回路のフィルタとその特徴	チョークインプット,コンデンサインプット型フィルタの違いと特徴について説明する.出力波形のリプルや平均電圧などを算出することができる。
6	チョップパ回路(1)	チョップパ回路の概略と昇圧チョップパ回路について説明する.また,入出力電圧,電流の関係式を導出することができる。
7	チョップパ回路(2)	降圧チョップパ回路,昇降圧チョップパ回路について説明する.また,それぞれ入出力電圧,電流波形を導出することができる。
8	中間試験	7回までの授業内容について,諸量の算出,式の導出,説明などの問題で試験する。
9	中間試験解説,単相インバータ回路	ハーフブリッジインバータ,フルブリッジインバータの回路構成,動作原理について説明する.また,前半に中間試験の解答も行う。
10	単相インバータ回路の周波数特性	単相方形波インバータが原理的に生じる高調波について理解し,周波数解析を行うことができる。
11	インバータ回路の制御法(1)	パルス制御について説明する.この制御を行ったときの高調波の変化について定量的に理解できる。
12	インバータ回路の制御法(2)	PWM制御について説明する.この制御を行ったときの高調波の変化(サイドバンド)について理解できる。
13	三相インバータ回路	三相方形波インバータの動作について説明する.このとき,原理的に生じる高調波について導出できるとともにその特徴を理解できる。
14	三相インバータ回路と制御法	瞬時空間ベクトル理論を用いたベクトル制御について説明する.ベクトル制御の特徴を理解する。
15	パワーエレクトロニクスの応用例	これまでに解説してきたパワーエレクトロニクス機器の実際の応用例について紹介し,パワーエレクトロニクスが身近な技術であるということを理解する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目		電気工学実験実習 (Laboratory Work in Electrical Engineering)			
担当教員		津吉 彰 教授,道平 雅一 教授,赤松 浩 准教授,加藤 真嗣 准教授			
対象学年等		電気工学科・5年・前期・必修・2単位 (学修単位I)			
学習・教育目標		A4-E1(5%), A4-E2(5%), A4-E3(5%), A4-E4(5%), B1(10%), B2(10%), C1(30%), C4(20%), D1(10%)			
授業の概要と方針		実験は8名程度の小グループで行い,各テーマ3週,5テーマで行なう.各テーマは,第1,2週に実験を行い,第3週にレポート提出を行なう.その際,実験に対する理解度を確保するため口頭試問を行なう.これにより,簡潔で的確な作業報告が実務レベルで実践できるように訓練を行なう.実験の内容としては,自ら実験の目的や社会,技術における位置づけを理解し,問題解決のための分析力を養わせることを目指す.			
		到達目標		達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C1】各実験で行った作業,結果について,的確に解析し説明することができる				口頭試問からその理解度を評価する.
2	【C4】各実験テーマの内容が理解でき,実験を協調して実施できる.				実験中の取り組み姿勢から評価する.
3	【D1】報告書に記した内容について,その意義等を理解し正確に説明できる.				実験テーマがどのような社会的,環境的な問題を抱いているかを口頭試問からその理解度を評価する.
4	【B1】各実験で行った内容について,図や表を用いて報告書を作成することができる.				各実験で行った原理や結果などが論理的に記述されているかを報告書の内容,構成で評価する.
5	【B2】報告書の内容について説明できる.				報告書の内容について説明できるか,また,他者の説明に対して質問ができるかを口頭試問で評価する.
6	【A4-E1】各テーマにおける基礎原理を理解し,実験によりそれらを知識・技術として修得できる.				報告書の内容,口頭試問において評価する.
7	【A4-E2】各テーマにおける基礎原理を理解し,実験によりそれらを知識・技術として修得できる.				報告書の内容,口頭試問において評価する.
8	【A4-E3】各テーマにおける基礎原理を理解し,実験によりそれらを知識・技術として修得できる.				報告書の内容,口頭試問において評価する.
9	【A4-E4】各テーマにおける基礎原理を理解し,実験によりそれらを知識・技術として修得できる.				報告書の内容,口頭試問において評価する.
10	【】				
総合評価		成績は,レポート40% 実験中の取り組み30% 口頭試問30% として評価する.各テーマ20点満点(取り組み6点,レポート8点,口頭試問6点)で評価し,5テーマ合計100点満点で評価し,60点以上を合格とする.			
テキスト					
参考書					
関連科目		電気機器,送配電工学,計算機工学,放電現象			
履修上の注意事項		これまでに修得してきた電気機器,送配電工学,計算機工学,放電現象などをベースに実験テーマが決定されているので,これらの科目に対する復習をしっかりとしておくこと.レポートの提出期限は厳守するものとし,原則として期限を過ぎたレポートは受理しない.			

授業計画(電気工学実験実習)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	実験テーマの説明	5つのテーマについて説明するとともに,5年生で行う実験の意義,目的を理解する。
2	コンピュータシミュレーションによる電力系統の解析	同期発電機の電力系統における振る舞いを動揺方程式の数値解を求めることにより解析し,系統安定度を判断する.制動巻線によるダンピング効果について考察する。
3	色素増感太陽電池の試作	色素増感太陽電池の試作を行い,照明下での出力特性を測定する.また,レポートにおいて太陽電池の動向について調べる。
4	レポート提出と質疑応答	一人当たり10から15分程度でレポートに対する質疑を行う.シミュレーションに対する考察や,太陽電池による電力供給について調査結果を発表させる。
5	デジタル回路の機能分析と評価(1)	16進数を2進数に変換する命令変換モジュールの各部の信号をモニターすることで命令変換のプロセスを把握する。
6	デジタル回路の機能分析と評価(2)	4桁数字表示モジュールの各部の信号をモニターすることで16進数が表示される制御の流れを調べる。
7	レポート提出と質疑応答	一人当たり10から15分程度でレポートに対する質疑を行う.デジタル回路に対する考察などについて調査結果を発表させる。
8	放電現象の実験	針-平板,球-球電極等における絶縁破壊試験を実験する。
9	衝撃電圧の実験	50%フラッシュオーバー特性試験を行う。
10	レポート提出と質疑応答	一人当たり10から15分程度でレポートに対する質疑を行う.交流,直流高電圧や衝突電圧に対する考察などについて調査結果を発表させる。
11	誘導電動機	簡易等価回路の定数を測定し円線図より求めた特性と実負荷試験による特性とを比較する。
12	単相変圧器	巻線抵抗測定,短絡試験等により規約効率,%Zなどを求め,実負荷試験による特性とを比較する。
13	レポート提出と質疑応答	一人当たり10から15分程度でレポートに対する質疑を行う.電動機に対する考察などについて調査結果を発表させる。
14	同期発電機の特性	無負荷特性,負荷特性を解析し,基本特性を理解する。
15	同期電動機の特性	始動特性,位相特性,負荷特性などを解析し,その基本特性を理解する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	中間試験および定期試験は実施しない.実験テーマの最後の2テーマの質疑応答は,担当教官と随時時間調整し行う。	

科 目	卒業研究 (Graduation Thesis)			
担当教員	講義科目担当教員			
対象学年等	電気工学科・5年・通年・必修・9単位 (学修単位I)			
学習・教育目標	B1(20%), B2(10%), C2(70%)			
授業の概要と方針	特定のテーマを設定し、授業等で修得した知識と技術を総合して自主的かつ計画的に指導教官のもとで研究を行う。研究を通じて、問題への接近の方法を理解し、文献調査や実験、理論的な考察などの問題解決の手順を修得して、総合力およびデザイン能力を高める。また、研究成果を口頭で発表し論文にまとめることでコミュニケーション能力を身につける。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【C2】研究活動：研究テーマの背景と目標を的確に把握し十分な準備活動を行い、指導教官、共同研究者と連携しながら自主的に研究を遂行できる。			研究への取り組み、達成度と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
2	【C2】研究の発展性：得られた研究結果を深く考察し、今後の課題等を示し、研究の発展性を展望することができる。			研究活動の状況、研究成果と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
3	【B1】発表および報告書：研究の発表方法を工夫し、与えられた時間内に明瞭でわかりやすく発表できる。また、報告書が合理的な構成で研究全体が簡潔・的確にまとめることができる。			中間および最終発表会、報告書を評価シートで評価する。
4	【B2】質疑応答：質問の内容を把握し、質問者に的確に回答できる。			中間および最終発表会の質疑応答と質問回答書を評価シートで評価する。
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	研究活動(C-2)を30%,研究の発展性(C-2)を30%,卒業研究報告書の構成(B-1)を10%,卒業研究発表の内容(C-2)を10%,その発表(B-1)を10%,質疑応答(B-2)を10%として総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気工学実験実習			
履修上の注意事項	卒業研究は5年間の勉学の集大成である。また、1年間をこの研究活動を通してデザイン力、問題解決力を身につけるための科目である事を自覚して各研究テーマに取り組むこと。			

授業計画(卒業研究)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

卒業研究の進め方

教員の指導のもとに, 輪講・文献調査・実験・研究発表・討論などを行う。卒業研究は, 各学生の自主性を遵守して進められるので, 積極的・計画的に取り組むことが重要である。

年間スケジュール

3月中旬: 配属決定

10月中旬: 中間報告会

2月上旬: 卒業研究報告書の提出および最終報告会

研究テーマ一覧(以下に掲げるテーマを参考に選択し受講する。ただし研究室の割り当て人数は原則3～4名となる。)

- ・色素増感太陽電池用酸化亜鉛膜製造装置の開発
- ・半導体電力変換装置とその制御に関する研究
- ・高周波デバイスの設計
- ・プラズマ・パルスパワー技術の応用に関する研究
- ・次代を担う国際技術者養成のためのICT応用教育工学に関する研究
- ・高い信頼性を有する駆動および発電システムに関する研究
- ・センサを用いた簡易防犯システムの構築

備考

中間試験および定期試験は実施しない。

科 目	工業英語II (ESP, Engineering II)			
担当教員	木津 久美子 非常勤講師			
対象学年等	電気工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)			
学習・教育目標	B4(100%)			
授業の概要と方針	科学技術の革新的なアイデアを紹介するBBC Futureの記事を題材に,英語を理解し表現する力を養う.(1)英文記事を理解するのに必要な語彙力を身につける.(2)文構造を理解し意味を的確に掴む.(3)パラグラフ構造を理解し要約を考える.(4)英語の語順通りに理解する演習を行い速読力を養う.(5)記事に対する意見を述べる力を培う.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【B4】必要語彙を習得することができる.			必要語彙を習得できるかを中間試験,定期試験,発表及び小テストで評価する.
2	【B4】文構造を理解し意味を的確に捉えることができる.			文構造を理解し意味を的確に捉えることができるかを中間試験,定期試験,発表で評価する.
3	【B4】パラグラフ構造を理解し要約を考えることができる.			パラグラフ構造を理解し要約を考えることができるかを中間試験,定期試験,発表で評価する.
4	【B4】英語の語順通りに理解することができる.			英語の語順通りに理解することができるかを発表で評価する.
5	【B4】記事について意見を述べるができる.			記事について意見を述べるができるかを中間試験,定期試験,発表で評価する.
6	【 】			
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験70% 小テスト10% プレゼンテーション20% として評価する.試験70% 小テスト10% 発表20%として評価する.到達目標1~3, 5についての試験70%,到達目標1についての小テスト10%,到達目標1~5についての発表20%で総合的に評価する.100点満点で60点以上を合格とする.履修上の注意事項欄の【備考】に続く			
テキスト				
参考書				
関連科目	本科の英語科目			
履修上の注意事項	興味を持って記事を理解し,それに対する意見を積極的に英語で表現してみようという姿勢を望みます.なお,記載しているテキストのUNITは目安で有り,履修者の関心や授業の進行具合に応じて変更する可能性があります.【備考】成績評価については,別途,工業英検3級合格で70点以上,準2級不合格Aで80点以上,準2級合格で90点以上,2級合格で100点の評価をする.			

授業計画(工業英語II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	オリエンテーション→Unit 1	Unit 1を参照しながら、授業の臨み方・進め方及び評価方法について詳しく説明する。スラッシュ・リーディングやシャドーイングの方法を学ぶ。
2	Unit 1 Driving with the Terminator: Augmented...	Unit 1 Driving with the Terminator: Augmented Reality for Cars「自動車の拡張現実機能」、必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
3	Unit 1「自動車の拡張現実機能」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する(ペアワーク、グループワーク)。
4	Unit 2 Artificial Human Beings: Intelligent Robots	記事についての意見を発表する・提出する(Unit 1)。必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
5	Unit 2「知的ロボット」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する(ペアワーク、グループワーク)。
6	Unit 3 Electricity with a Kick: Soccer Ball Power	記事についての意見を発表する・提出する(Unit 2)。必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
7	Unit 3「サッカーボールによる発電」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する。
8	中間試験	Unit 1～3について行う。
9	Unit 9 Space Travel on Earth: The 4,000 km/h Train	基本語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
10	Unit 9「時速4千キロメートルの電車」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する(ペアワーク、グループワーク)。
11	Unit 10 Bringing Buildings to Life: Smart Houses	記事についての意見を発表する・提出する(Unit 8)。必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
12	Unit 10「スマートハウス」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する(ペアワーク、グループワーク)。
13	Unit 14 A Connected World: A Rise of Bluetooth	記事についての意見を発表する・提出する(Unit 10)。必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
14	Unit 14「ブルートゥースの高まり」	単語小テストを行う。パラグラフ構造を理解し要約を考える。語順通りに理解する演習を行う(スラッシュ・リーディング、シャドーイング)。記事について意見を交換する(ペアワーク、グループワーク)。
15	Unit 15 Will We Still Need Gasoline?: The Future..	Unit 15 Will We Still Need Gasoline?: The Future of Cars「車の未来」、記事についての意見を発表する・提出する(Unit 14)。必要語彙を学ぶ。文構造を理解し、意味を的確に掴む。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	通信工学I (Telecommunication Engineering I)		
担当教員	中村 佳敬 准教授		
対象学年等	電気工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-E3(100%)		
授業の概要と方針	「電磁気学」・「電気回路」・「電子回路」で学んだ諸原理を実際の無線通信システムに応用するためには、伝送工学・アンテナ工学の理解が必要となる。本科目では、伝送線路の特性やアンテナ工学の基礎を解説するとともに、その応用技術としてのレーダシステム、ならびに電波航法に代表される電波利用システムや、電子機器(電気機器や医療機器)の電磁的両立性(EMC)などについて学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【A4-E3】無線通信の分類,方式,最近のシステムについて理解している。		無線通信の分類,方式,最近のシステムについて理解しているかを中間試験で評価し,60%以上の正解を合格とする。
2	【A4-E3】アナログ変調,ディジタル変調における変調方式を理解し,各種変調器の構成がわかる。		アナログ変調,ディジタル変調における変調理論および各種変調器に関する理解度を中間試験で評価し,60%以上の正解を合格とする。
3	【A4-E3】マイクロ波伝送線路における基本特性を理解している。		マイクロ波伝送線路の基本特性を理解しているかを中間試験で評価し,60%以上の正解を合格とする。
4	【A4-E3】電磁波の放射原理がわかり,実用アンテナの特性を理解している。		電磁波の放射原理がわかり,実用アンテナの特性を理解しているかをレポートと定期試験で評価し,60%以上の正解を合格とする。
5	【A4-E3】レーダシステムや電波航法など電波利用システムの実用例や,電子機器(電気機器や医療機器)の電磁的両立性を理解している。		レーダシステムや電波航法など電波利用システムの実用例や,電子機器(電気機器や医療機器)の電磁的両立性を理解しているかをレポートと定期試験で評価し,60%以上の正解を合格とする。
6	【】		
7	【】		
8	【】		
9	【】		
10	【】		
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する。到達目標1,2,3,4,5に関して,試験の成績を85%の重みで,レポートの成績を15%の重みで評価する。試験の成績は,中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト			
参考書			
関連科目	電気磁気学,電子回路,電気計測,電気回路		
履修上の注意事項	本科目を学習するには,電気磁気学をはじめ数学,物理,その他多くの専門科目を理解していることが前提となる。本科目は成長産業技術者教育プログラムのうち航空宇宙分野・医療福祉分野の認定に必要な科目である。		

授業計画(通信工学I)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	マイクロ波中継システム・移動体無線技術の原理および構成	電磁波による情報通信技術の仕組みを概説し、マイクロ波を用いた固定無線通信システム・移動体無線技術の原理と構成について解説する。
2	変調理論および変調回路	搬送波通信方式における、アナログ変調およびデジタル変調に関する基礎理論を説明し、具体的な変調回路について解説する。
3	復調理論および復調回路	マイクロ波通信システムの受信端における、復調技術の基礎理論について説明し、具体的な復調回路について解説する。
4	マイクロ波伝送線路の基礎	マイクロ波伝送線路に沿って伝搬する、電磁波の基本的な伝搬特性を回路論的な立場から説明する。
5	マイクロ波伝送線路における定在波分布	マイクロ波伝送線路における負荷条件、および、それにもなう電圧・電流の定在波分布について説明する。さらに、実用回路において重要な整合技術について解説する。
6	マイクロ波給電回路	アンテナシステムの給電回路として重要な、4分の1波長整合回路、バラン回路、共用回路の動作原理、ならびにその構成について解説する。
7	中間試験	1回目から6回目までの内容を試験。
8	中間試験の解説、ならびに電磁波の放射現象	中間試験の解答について解説する。さらに、微小ダイポールの放射特性を解析し、電磁波の放射現象に関する基礎を説明する。
9	アンテナパラメータ	線状アンテナの代表例として半波長アンテナを取り上げ、アンテナの送信性能の評価において重要な種々のアンテナパラメータを解説する。
10	アンテナの受信特性	受信アンテナの受信電力、利得、実効面積など、アンテナの受信性能の評価において重要な種々のアンテナパラメータについて解説する。
11	アンテナの特性改善および各種の実用アンテナ	アレイによるアンテナ特性の改善法を説明するとともに、各種実用アンテナについて、その構造と特長を解説する。
12	レーダの基本原理	レーダの概念から、レーダシステムの基本構成、ならびにその原理までを解説する。
13	レーダの機能	レーダに関する各種実用システムの構成、およびその動作について解説する。
14	電波利用システムの実例	測位、測距、電波航法などに代表される電波利用システムについて解説する。
15	電子機器の電磁的両立性	電子機器(電気機器や医療機器)の電磁的両立性(EMC)と電波防護について解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。	

科 目	通信工学II (Telecommunication Engineering II)			
担当教員	中村 佳敬 准教授			
対象学年等	電気工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)			
学習・教育目標	A4-E3(100%)			
授業の概要と方針	インターネットに代表される情報通信ネットワークに関して,TCP/IPプロトコルを中心に学習し,ネットワーク構築,管理,運営に必要な基本知識や技術を習得する。			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A4-E3】コンピュータネットワークの概念を理解する。			コンピュータネットワークの種類や構造について,中間試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
2	【A4-E3】TCP/IP通信に関する基礎用語やTCP/IP通信のしくみが説明できる。			TCP/IP通信に関する基礎用語の説明ができるか,そしてLANにおけるデータ伝送のしくみについて,中間試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
3	【A4-E3】リピータハブ,スイッチングハブ,ルータの役割が説明できる。			ルータ等ネットワークで使用される機器の役割について説明ができるか中間試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
4	【A4-E3】IPアドレスのクラス分けとサブネットの作成ができる。			IPアドレスのクラス分けとサブネットの作成ができるか中間試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
5	【A4-E3】ファイル転送のしくみが説明できる。			トランスポート層における端末間でのファイル転送のしくみを理解しているか定期試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
6	【A4-E3】セッション層・アプリケーション層における各種プロトコルやサーバの説明ができる。			電子メールやウェブの閲覧に用いられるプロトコルやサーバを理解しているか定期試験・レポートで60%以上正解を合格として評価する。
7	【 】			
8	【 】			
9	【 】			
10	【 】			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する。試験85点,レポート15点の総合成績100点満点で60点以上を合格とする。試験評価は中間試験と定期試験の算術平均とする。			
テキスト				
参考書				
関連科目	情報基礎,情報処理,電子回路			
履修上の注意事項	通信工学を学習するにあたり,数学,物理,電気磁気学をはじめその他多くの専門基礎の理解が必要である。また,TCP/IP通信における物理層の理解を深める教科として電子回路などを履修しておくことが望ましい。			

授業計画(通信工学II)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	通信とネットワークの構造	通信の歴史やネットワークの構造,OSI参照モデルについて解説する。
2	ネットワークの種類	アナログとデジタルのネットワークやネットワークにおける交換方式,規模や形状によるネットワークの分類について解説する。
3	イーサネットにおけるネットワークの構成	イーサネット,レイヤ構造での通信処理,ビットレートについて解説する。
4	最小ネットワーク構成によるLAN	最小構成のLANについて解説し,スイッチングハブの役割について説明する。
5	ルータによるネットワーク	IPアドレスについて説明し,ルータとIPについて解説する。
6	ネットワーク層の機能	IPアドレスとサブネットマスク,IPのルーティング,pingコマンドについて解説する。
7	TCPとUDP	トランスポート層でファイル転送で使用されるTCPとUDPの動作について解説を行う。
8	中間試験	1回目から7回目までの内容を試験。
9	DNSとDHCP・中間試験問題解説	中間試験の解答について解説する。ドメイン名の使用方法や階層的な命名法について紹介し,DNSとDHCPの役割と動作について解説する。
10	プライベートネットワーク	プライベートネットワークとゲートウェイについて解説する。
11	リモートアクセスとFTP	TelnetやSSHなどのリモートアクセスについて紹介し,FTPを用いたファイル転送について,その挙動も含めて解説する。
12	電子メール	電子メールの概要とメール送受信で使用するプロトコルについて解説する。
13	World Wide Web	WWWを実現するためのHTMLについて紹介し,HTTPによる通信の仕組みとwebサーバの構築するための技術を解説する。
14	待ち行列	Webサーバにかかる負荷の評価など,ネットワークの性能評価技術の基礎となるモデル化手法の考え方を解説する。
15	ネットワークの安全管理.	ファイアウォール,暗号技術などについて解説する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 後期中間試験および後期定期試験を実施する。	

科 目	電気磁気学III (Electromagnetics III)			
担当教員	森田 二郎 教授			
対象学年等	電気工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)			
学習・教育目標	A2(100%)			
授業の概要と方針	3年,4年で履修した電気磁気学IおよびIIに関して,最初の4週で総復習を行う.その後は電気主任技術者の理論分野での電磁気学の問題,大学編入試験の電磁気学の問題,第2種大学院入試問題での電気磁気学の問題の解説を毎回3問程度行う.問題の解説と演習問題を解くことで,電界,電束密度,磁界,磁束密度,電流,電磁波,静電容量,インダクタンス等の物理量と電気磁気学現象との関わりを完全なものとして理解する.			
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準	
1	【A2】電磁気学全分野の法則について理解できること.			ガウスの法則,磁界に関するガウスの法則,変位電流も含めたアンペアの法則,ファラデーの法則などの積分形を微分形に変形できるかどうかを中間試験の設問で確認する.
2	【A2】電気主任技術者試験理論分野での電磁気問題が理解できる			過去10年の電気主任技術者試験理論分野での電磁気問題に関して,類似問題を作成し,中間試験で評価する.
3	【A2】大学編入試験問題での電気磁気学問題が理解できる			様々な大学での公表されている編入試験問題での電磁気学問題に関して,類似問題を作成し,中間試験および定期試験で評価する.
4	【A2】大学院入試問題での電気磁気学問題が理解できる			様々な大学院で公表されている大学院入試問題での電磁気学問題に関して,類似問題を作成し,中間試験および定期試験で評価する.
5	【】			
6	【】			
7	【】			
8	【】			
9	【】			
10	【】			
総合評価	成績は,試験90% レポート10% として評価する.第2種電験の理論分野に合格した場合は,中間・定期試験の試験成績の低い方を最低90点に置き換える.第3種電験の理論分野に合格した場合は,中間・定期試験の試験成績の低い方を最低70点に置き換える.総合評価100点満点で60点以上を合格とする.			
テキスト				
参考書				
関連科目	電気磁気学I,電気磁気学II,電気材料			
履修上の注意事項	3年4年:電気磁気学IおよびIIの継続科目,5年:電気材料の分極問題の時に電気磁気学の知識が必須.			

授業計画(電気磁気学Ⅲ)		
	テーマ	内容(目標・準備など)
1	第3学年で習った電磁気学の現象論(1)	第3学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
2	第3学年で習った電磁気学の現象論(2)	前回に引き続き,第3学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
3	第4学年で習った電磁気学の現象論(1)	第4学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
4	第4学年で習った電磁気学の現象論(2)	前週に引き続き,第4学年で習った電磁気学の現象論の復習の講義を行う。
5	電気主任技術者試験問題(1)	第3種電気主任技術者理論分野での電気磁気学の問題の解説を行う。
6	電気主任技術者試験問題(2)	前回に引き続き,第3種電気主任技術者理論分野での電気磁気学の問題の解説を行う。
7	電気主任技術者試験問題(3)	前回に引き続き,第3種電気主任技術者理論分野での電気磁気学の問題の解説を行う。
8	中間試験	中間試験
9	中間試験解説	中間試験の解説を行う。
10	電気主任技術者試験問題(4)	前回に引き続き,第2種電気主任技術者理論分野での電気磁気学の問題の解説を行う。
11	電気主任技術者試験問題(5)	前回に引き続き,第2種電気主任技術者理論分野での電気磁気学の問題の解説を行う。
12	編入試験問題(1)	公開されている大学編入試験問題での電磁気分野の問題の解説を行う。
13	編入試験問題(2)	前回に引き続き,公開されている大学編入試験問題での電磁気分野の問題の解説を行う。
14	大学院入試問題(1)	公開されている大学院入試問題での電気磁気分野の問題の解説を行う。
15	大学院入試問題(2)	前回に引き続き,公開されている大学院入試問題での電気磁気分野の問題の解説を行う。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	本科目の修得には,30 時間の授業の受講と 60 時間の自己学習が必要である。 前期中間試験および前期定期試験を実施する。第2種電気主任技術者試験の理論分野に合格した場合は,中間試験あるいは定期試験の試験成績を最低90点に置き換える。第3種電気主任技術者試験の理論分野に合格した場合は,中間試験あるいは定期試験の試験成績を最低70点に置き換える。	